

依り歳入納付ノ手續ヲ爲スヘシ
第十八條 第十六條ニ規定スルモノヲ除クノ外保管金ニシテ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ歳入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

第七章 雜則

第十九條 保管金ヲ提出シタル者其ノ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ取扱官廳ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得
 取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケ其ノ理由アリト認メタルトキハ之カ證明ヲ爲スヘシ
第二十條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱手續ニ關スル規定ハ保管金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス
第二十一條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第二十二條 保管物取扱規程及明治三十六年大藏省令第九號ハ之ヲ廢止ス
第二十三條 本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管金ハ本令ニ依リ大藏省預金部ニ預入レタルモノト看做ス
 前項ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ當該金庫ノ國庫金出納ノ事務ヲ引繼キタル日本銀行ヲ其ノ預金取扱店ト爲スヘシ
第二十四條 前條ノ保管金ノ拂渡、他店拂、保管替、歳入納付、特殊資金ニ組入又ハ満期失効年月日ノ變更ニ關スル通知ノ手續ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ金庫ニ於テ領收證書ヲ發行シタル保管金ニ付テハ第七條、第八條、

第十二條乃至第十五條及第十八條ノ手續ヲ爲スモノトス
 前項但書ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ其ノ振出ス小切手ニ金庫ノ發行シタル領收證書ノ年月日及番號ヲ附記スヘシ
 (様式別冊 三三)

預金部預金取扱規程

大正十一年二月一日 大藏省令第六號

(改正) 大正一四年第五號、一五年第九號、昭和五年第一七號、六年第三二號、七年第三二號、十年第五號

預金部預金取扱規程左ノ通定ム

第一章 總則
第一條 預金部預金及預金購入有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂ヲ爲スヘシ
第二條 預金人ハ左ノ者ヲ擔當者ト爲シ其ノ資格氏名及住所ヲ日本銀行(本店、支店又ハ代理店)ヲ謂フ以下同シ)
 一 官廳ニ係ルモノハ當該官廳ニ於ケル取扱主任官
 二 法人ニ係ルモノハ其ノ理事者
第三條 預金部預金及購入有價證券ノ受拂ニ關シ預金人ヨリ提出スル書類ニハ擔當者之ニ記名捺印スヘシ
第三條 前條ノ擔當者ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ
第二章 預金ノ種類
第三條 一 預金部預金中預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第二百一十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノモノハ之ヲ普通預金及定期預金ノ二種トス
第三條 二 普通預金ハ預金人ノ請求アルトキハ何時ニテ

モ之カ拂戻ヲ爲スモノトス
 定期預金ハ預入ノ日ヨリ六月以上ノ約定期間内之カ拂戻ヲ爲ササルモノトス但シ約定期間内ト雖預金人ノ要求アルトキハ事情ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得

第三章 預金ノ拂込

第四條 預金人預金ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ定期預金ニ在リテハ第一號書式ノ預金部預金拂込書ヲ、其ノ他ノ預金ニ在リテハ第一號ノ二書式ノ預金部預金拂込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ拂込ミ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受ケヘシ
 定期預金以外ノ預金ノ預金人ハ預金ノ拂戻ニ使用スル小切手用紙ノ交付ヲ受ケヘシ
 預金人ハ必要アル場合ニ於テハ預金部預金帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
第五條 預金人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テハ保管金ヲ提出スヘキ者ヲシテ第二號書式ノ保管金振込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ於ケル預金人ノ預金ニ振込マシムルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ振込ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ振込人ヲシテ日本銀行ヨリ預金部預金振込済通知書ノ交付ヲ受ケシムヘシ
第六條 削除
第七條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預金人ハ其ノ預金ヲ以テ購入保管ニ係ル有價證券ノ利子支拂期到來シタルモノアルトキハ第三號書式ノ有價證券利子預金組入請求書ニ、其ノ償還ヲ受ケヘキモノアルトキハ第四號書式ノ有價證券償還預金組入請求書ニ受領ノ旨ヲ記

預金部預金取扱規程

入シ當該有價證券ノ記番號内譯表ヲ添附シテ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金組入金額ノ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受ケヘシ
第八條 預金人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ日本銀行政府有價證券取扱規程第十二條ノ規定ニ依リ遺失物法ニ依ル政府保管有價證券ノ元利金受入ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ受領ノ旨ヲ記入シテ日本銀行ニ提出シ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受ケヘシ
第八條 二 預金人定期預金ノ更新ヲ爲サムトスルトキハ其ノ期限到來ノ日迄ニ第四號ノ二書式ノ預金部定期預金更新通知書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ
 預金人前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ定期預金ノ期限到來ノ日ヨリ普通預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做ス

第四章 預金ノ拂戻

第九條 預金人預金ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ定期預金ニ在リテハ第五號書式ノ預金部預金拂戻請求書ヲ日本銀行ニ提出シ其ノ他ノ預金ニ在リテハ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スヘシ
第十條 削除
第十一條 預金人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ保管替ヲ爲サムトスルトキハ第六號書式ノ預金部預金預入替請求書ヲ添ヘ保管替ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トセル小切手ヲ日本銀行ニ交付スヘシ
第十二條 預金人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第八條又ハ供託物取扱規則第八條ノ規定ニ依リ日本銀行ヲシテ保管金又ハ供託金ノ他店拂ヲ爲サシメムトスルトキハ他店拂ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トシ

額トセル小切手ノ裏面ニ保管金又ハ供託金ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ氏名、住所及支拂店名ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ交付スヘシ

第五章 預金ノ利息

第十二條ノ二 普通預金及定期預金ニ對シテハ拂込ノ翌日ヨリ拂戻ノ日迄日割計算ヲ以テ左ノ區分ニ依リ利息ヲ付スヘシ但シ一圓未満ノ端數ニ對シテハ利息ヲ付セス

一 普通預金 年一分五厘
但シ公共團體以外ノ法人ノ預金ハ年一分

二 定期預金 年三分
但シ法律勅令ニ依リ現金ノ預入ヲ預金部ノミニ限定セラレタル資金ニ屬スル預金ハ年三分五厘

第三條ノ三 第二項但書ノ規定ニ依リ拂戻ヲ爲シタル定期預金ノ額ニ對シテハ利息ヲ付セス但シ事情ニ依リ普通預金ニ付スヘキ利息ト同額以下ノ利息ヲ付スルコトヲ得

第十三條 普通預金ノ利息ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモトス但シ預金金額ノ拂戻ニ係ル利息ハ預金ノ拂戻ヲ爲ストキ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモトス

第十三條ノ二 預ケ人定期預金ノ利息ヲ支拂フ受ケムトスルトキハ定期預金期限到來ノ日ニ於テ第六號ノ二書式ノ預金部預金利息支拂請求書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第十四條 預ケ人前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ前項ノ利息ハ期限到來ノ日ニ普通預金トシテ拂込マレタルモト看做ス

第十四條 預ケ人毎年四月日本銀行ヨリ預金利息元加通知書ヲ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ承認ノ旨ヲ記入シ日本銀行ニ提出スヘシ

第十三條但書及前項ノ場合ニ於テ預ケ人ハ日本銀行ニ對シテ元加利子額ニ相當スル金額ノ預金部預金領收證書ヲ請求スルコトヲ得

第十四條ノ二 預ケ人日本銀行ヨリ預金部預金利息組入通知書ヲ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ承認ノ旨ヲ記入シ日本銀行ニ提出スヘシ

第十五條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人郵便貯金規則第二十四條ノ規定ニ依リ郵便貯金ニ對スル利息ノ元加ヲ要スルトキハ第七號書式ノ預金部預金利息元加請求書ヲ郵便貯金規則第七十九條ノ規定ニ依リ隨時郵便貯金ニ對スル利息ノ支拂ヲ要スルモノアルトキハ第八號書式ノ預金部預金利息支拂請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第十六條 大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ調査ノ上元加又ハ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ該請求書ニ記入シ之ヲ日本銀行本店ニ送付シ利息元加又ハ支拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十七條 預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金又ハ供託金ノ利息ヲ受取ル權利ヲ有スル者ニ對シテ利息ノ支拂ヲ要スルトキハ第九號書式ノ預金部預金利息支拂請求書ニ依リ其ノ利息額ニ相當スル預金部預金ノ支拂ヲ日本銀行ニ請求スヘシ但シ保管金又ハ供託金ノ利息ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ提出シタル利息請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利息支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第十八條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人預金ヲ以テ有價證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ第十號書式ノ有價證券購入請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第十九條 大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ該請求書ニ記載ノ購入日附ニ於ケル時價ヲ以テ日本銀行本店ヲシテ指定ノ有價證券ヲ購入セシムヘシ

第二十條 削除

第二十一條 大藏省預金部日本銀行本店ヨリ購入有價證券ノ額面金額及購入代價ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十一號書式ノ有價證券購入濟通知書ヲ日本銀行ヨリ經テ預ケ人ニ送付スヘシ

第二十二條 預ケ人前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ該通知書ノ裏面ニ有價證券購入代價ニ相當スル金額ノ預金ヲ領收セル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券保管通知書ヲ交付ヲ受クヘシ

第二十三條 預ケ人預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ第十二號書式ノ預金購入有價證券拂戻請求書ニ當該有價證券ノ記番號内譯表ヲ添附シ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二十四條 預ケ人日本銀行ヨリ預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ第十三號書式ノ預金購入有價證券受領證書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第七章 證明

第二十五條 預ケ人官廳ナル場合ニ於テ日本銀行統轄店又ハ取扱代理店ヨリ預金部預金ノ受入及支拂ノ請求書並支拂小切手ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添へ預金部預金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ

預金部預金取扱規程

五七三

五七二

五七二

五七二

五七二

五七二

五七二

五七二

五七二

五七二

ハ日本銀行ヨリ預金購入有價證券保管帳ノ交付ヲ受ケ隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券ノ受拂額ノ記入ヲ受ケヘシ

附則

- 第三十一條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第三十二條 預金取扱規程ハ之ヲ廢止ス
- 第三十三條 本令施行前大藏省預金部ニ預入ヲ爲シタル預金ハ從前ノ規定ニ依ル總代人、擔當者又ハ取扱主任官ヲ以テ本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス
- 保管金取扱規程第二十三條ノ規定ニ依ル預金部預金ノ預金人ハ保管物取扱規程ニ依ル取扱主任官ヲ以テ本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス
- 第三十四條 本令施行前預金人カ金庫ヨリ交付ヲ受ケタル預金通帳ハ本令ニ依リ日本銀行ヨリ交付ヲ受ケタル預金部預金帳ト看做ス

附則

(大正十五年大藏省令第九號)
 本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第二百一十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノ預金ニシテ本令施行前預入ニ係ルモノニ付テハ其ノ預金人ハ本令施行後一月内ニ預金ノ種類ヲ定メ之ヲ日本銀行ニ通知スルコトヲ要ス
 預金人前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ本令施行ノ日ニ於テ當該預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做シ其ノ通知ヲ爲ササルトキハ本令施行ノ日ニ於テ普通預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做ス
 大正九年九月大藏省告示第六十五號ハ之ヲ廢止ス
 附則 (昭和五年大藏省令第十七號)
 本令ハ昭和五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ預入シタル定期預金ニ付テハ該預金ノ期限到來ノ日迄從前ノ利率ニ依ル

附則

(昭和六年大藏省令第三十一號)
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前ニ預入シタル定期預金ニ付テハ該預金ノ期限到來ノ日迄從前ノ利率ニ依ル
 附則 (昭和七年大藏省令第二十二號)
 本令ハ昭和七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前ニ預入シタル定期預金ニ付テハ該預金ノ期限到來ノ日迄從前ノ利率ニ依ル
 (書式略)

出納官吏事務規程

大正十一年一月十一日 大藏省令第二號

(改正) 大正一五年三月大藏省令第七號、昭和元年一二月第二號、九年三月第八號

出納官吏事務規程

- 第一章 總則
- 第一條 出納官吏ハ本令ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ處理スヘシ
- 第二條 出納官吏法令ノ規定ニ依リ現金ニ代ヘ證券ヲ受領シタルトキハ現金ニ準シ之カ取扱ヲ爲スヘシ
- 第三條 出納官吏其ノ手許ニ保管スル現金ハ之ヲ堅牢ナル容器中ニ藏置スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ郵便局若ハ確實ナル銀行ニ預入シ又ハ資産信用アル者ニ其ノ保管ヲ託シ其ノ他適當ノ方法ニ依リ之ヲ保管スルコトヲ得

第四條 出納官吏其ノ取扱ニ係ル現金ハ私金ト混同スルコトヲ得ス

第五條 出納官吏他ノ公金ノ出納保管ヲ兼掌スル場合ニ於テハ其ノ現金ハ官金ト區分シ同一容器中ニ之ヲ保管スルコトヲ得

第六條 出納官吏本令ノ定ムル所ニ依リ振出す小切手ハ本令申別段ノ定アル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式持參人拂ト爲スヘシ

第七條 官廳、出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トシテ振出す小切手ハ之ヲ記名式トシ之ニ裏書禁止ノ旨ヲ記載スヘシ

第八條 前項ノ小切手金額ニシテ振替拂込ヲ要スルモノナルトキハ表面餘白ニ「要振替」ノ印ヲ捺捺スヘシ

第九條 現金出納簿ハ一人一冊トシ出納官吏ハ職務及所管廳ノ如何ヲ問ハス其ノ取扱ニ係ル現金ノ出納ヲ總テ之ニ記入スヘシ

第十條 外國ニ於ケル出納官吏ノ事務取扱ニシテ本令ニ依リ難キモノニ付テハ特例ヲ設ケルコトヲ得

第十一條 各省大臣ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外其ノ所屬出納官吏ノ事務取扱ニ付大藏大臣ト協議シ之カ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 本令中各省大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第二章 收入官吏

出納官吏事務規程

第一節 收入金ノ領收

- 第十三條 收入官吏納人ヨリ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ニ添ヘ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ收納シ領收證書ヲ納人ニ交付シ其ノ報告書ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ
- 第十四條 收入官吏納人ヨリ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添附セスシテ現金ノ納付ヲ受ケタルトキ又ハ歲入徵收官ノ口頭告知ニ依リ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ收納シ領收證書ヲ納人ニ交付シ其ノ報告書ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ
- 第十五條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ邦貨ヲ基礎トスル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ收納セムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ算出シタル金額ノ外國貨幣ヲ收納スヘシ
- 第十六條 前項ノ場合ニ於テハ歲入徵收官ニ送付スル報告書ニ記載スヘキ邦貨額ニ外國貨幣額及外國貨幣換算價格ヲ傍記スヘシ
- 第十七條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ外國貨幣ヲ基礎トスル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ收納セムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨額ヲ歲入徵收官ニ送付スル報告書ニ記載シ其ノ收納シタル外國貨幣額ヲ傍記スヘシ

第二節 收入金ノ拂込

第十八條 日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)所在地ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第一號書式ノ現金拂込書ヲ添ヘ現金額收ノ日又ハ其ノ翌日日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ領收金額百圓未満ナルトキハ毎十日分ヲ取纏メ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得

第十九條 日本銀行所在地外ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ左記期限内ニ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ第二號乃至第四號ノ場合ニ於テハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 領收金高百圓未満ナルトキハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日内
- 二 領收金高百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ十日内
- 三 領收金高五百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ五日内
- 四 領收金高千圓以上ニ達シタルトキハ其ノ翌日限

第二十條 收入官吏其ノ在勤地外ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第十八條ノ規定ニ準シテ拂込ヲ爲シ得ル場合ヲ除ク

第二十一條 運輸交通ノ不便ナル地方ニ在勤スル收入官吏ニシテ第十九條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ之カ特例ヲ設クルコトヲ得

第二十二條 收入官吏外國ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ前四條ノ規定ニ準シ之カ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ外國貨幣ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ

シ當時小口ノ現金支拂ヲ要スル場合ニ於テ支出官ノ定ムル所要金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 日本銀行所在地外ニ在勤スル資金前渡官吏ハ其ノ在勤地又ハ出張地最寄ノ日本銀行ニ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ預託スルコトヲ得日本銀行所在地ニ在勤スル資金前渡官吏在勤地外ニ於テ現金ヲ保管スルトキ亦同シ

第二十九條 資金前渡官吏前二條ノ規定ニ依リ其ノ現金ヲ日本銀行ニ預託セムトスルトキハ之ニ第三號書式ノ預託金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ミ預託金領收證書及小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ

第三十條 資金前渡官吏日本銀行ニ預託シタル現金ヲ引出サムトスルトキハ自己ヲ受取人トスル小切手ヲ振出スヘシ

第三節 支拂

第三十一條 資金前渡官吏債主ヨリ支拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ請求ハ正當ナルカ、資金交付ヲ受ケタル目的ニ違フコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲シ領收證書ヲ徴スヘシ

第三十二條 資金前渡官吏恩給法上ノ公務員(軍人ニ在リテハ下士官以上ノ軍人ニ限ル)ノ俸給又ハ給料ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ俸給又ハ給料額ヨリ國庫納金額ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ徴スヘシ

第三十三條 民法ノ規定ニ依リ政府ト私人トノ債務ノ相殺

出納官吏事務規程

現金拂込書ニ邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額ヲ傍記スヘシ

第二十三條 收入官吏外國ニ於テ領收シタル現金ニシテ前條ノ規定ニ依リ拂込ヲ爲スコト能ハサルモノニ付テハ別段ノ定アル場合ヲ除ク外一月分ヲ取纏メ之ヲ爲替券ニ換ヘ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行本店ニ拂込ムヘシ

第三節 現金拂込報告

第二十四條 收入官吏ハ現金出納簿ニ依リ毎月第二號書式ノ現金拂込仕譯書ヲ調製シ翌月五日迄ニ之ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ

第三章 資金前渡官吏

第一節 總則

第二十五條 資金前渡官吏日本銀行ニ資金ヲ預託スル場合ニ於テハ該資金前渡官吏ヲ任命シタル者豫メ其ノ資格氏名ヲ當該日本銀行ニ通知スヘシ

第二十六條 資金前渡官吏ハ前條ノ場合ニ於テ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ニ官職氏名ヲ記載シ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二十七條 本章ノ規定ニ依リ資金前渡官吏ノ振出ス小切手ニハ其ノ表面餘白ニ「預託金」ノ印ヲ捺捺スヘシ

第二十八條 日本銀行所在地ニ在勤スル資金前渡官吏ハ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ其ノ地ノ日本銀行ニ預託スヘシ但

アリタルトキハ資金前渡官吏ハ相殺額ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ徴スヘシ

第三十四條 資金前渡官吏日本銀行預託金中ヨリ支拂ヲ爲サムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ該預託金ニ對スル小切手ヲ振出スヘシ但シ受取人ニ於テ特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 資金前渡官吏ハ其ノ振出シタル小切手ニシテ振出日附後一年ヲ經過シ日本銀行ニ於テ未ダ支拂ヲ了セサルモノニ付テハ其ノ金額、年度、科目及債主名ヲ支出官ヲ經由シテ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第三十六條 資金前渡官吏前條ノ金額ニ付歳入徴收官ヨリ納入ノ告知ヲ受ケタルトキハ該金額ヲ券面金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ該告知書ニ添ヘ日本銀行ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條 前任出納官吏何某振出ニ係ル分「下記載スヘシ」前項ノ規定ニ依リ納入ノ告知ニシテ前任出納官吏ノ小切手振出ニ係ルモノナルトキハ前項ノ小切手表面餘白ニ

第三十八條 前二條ノ場合ニ於テ資金前渡官吏交替シタルトキハ後任官吏ニ於テ之カ手續ヲ爲スヘシ但シ後任官吏ナキ場合ニ於テハ其ノ殘務ヲ引繼キタル官吏其ノ手續ヲ爲スモノトス

第三十九條 資金前渡官吏資金ヲ隔地ノ出納官吏ニ送付ス

ル必要アル場合ニ於テハ日本銀行ニ之カ送金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 資金前渡官吏前條ノ送金ヲ請求セムトスルトキハ送金額ヲ券面金額トシ日本銀行ヲ受取人トスル小切手ヲ振出し其ノ裏面ニ受取人ノ資格氏名、支拂店名及送金ヲ要スル旨ヲ記載シ之ヲ預託金ヲ取扱フ日本銀行ニ交付シ領收證書ヲ徴スヘシ

前項ノ場合ニ於テ資金前渡官吏ハ第四號書式ノ預託金支拂通知書ヲ受取人ニ送付スヘシ
第一項ノ場合ニ於テ資金前渡官吏電信送金ヲ要スルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ其ノ旨ヲ記入スルト共ニ前項ノ通知書ニ代ヘ電信ヲ以テ受取人ニ通知スヘシ

第四十一條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書所載ノ支拂場所ノ變更ニ關スル規定ハ前條ノ預託金支拂通知書ノ支拂店變更ニ付之ヲ準用ス
第四十二條 毎年度ニ屬スル歳出金ノ支拂ヲ爲シ得ルハ翌年度四月三十日限トス

第四十三條 資金前渡官吏第三十二條ノ手續ヲ爲シタルトキハ國庫納金額ニ相當スル現金ニ第五號書式ノ國庫納金額表ヲ添ヘ歳入徴收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領收證書ヲ交付ヲ受クヘシ
第四十三條ノ二 前條ノ規定ハ資金前渡官吏第三十二條ノ二ノ手續ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ健康保険料被保險者負擔金表ハ第五號ノ二書式ニ依ル

第四十四條 資金前渡官吏第三十三條ノ手續ヲ爲シタルトキハ相殺金額ニ相當スル現金ニ第六號書式ノ相殺額表ヲ添ヘ歳入徴收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領收證書ヲ添ヘ歳入徴收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領收證書

ノ交付ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於テ政府ノ債權者資金前渡官吏所屬廳以外ノ官廳ニ對スル債務ヲ以テ相殺シタルトキハ該官廳ノ歳入徴收官ヨリ納入告知書ヲ受ケ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十五條 政府ノ收納スヘキ金額カ相殺額ト同額ナルトキハ之ヲ超過スル場合ニ於テハ資金前渡官吏相殺金額ニ付前條ノ手續ヲ爲スヘシ
前項ノ場合ニ於テ收納金額ノ相殺額ヲ超過シタルモノニ付テハ資金前渡官吏ハ相殺額ヲ超過シタル金額及相殺ノ相手方ノ氏名ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第四十六條 資金前渡官吏其ノ前渡ヲ受ケタル資金ニ付支拂出官又ハ歳入徴收官ヨリ返納又ハ納入ノ告知書ヲ受ケタルトキハ現金ニ該告知書ヲ添ヘ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ
第四十七條 資金前渡官吏ハ前五條ノ場合ニ於テ日本銀行ニ預託シタル金額中ヨリ拂込ヲ爲サムトスルトキハ拂込金額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スヘシ

第四十八條 前條ノ規定ニ依リ振出ス小切手ハ當該官廳ヲ受取人トシ表面餘白ニ第四十三條ノ場合ニ於テハ「國庫納金」第四十三條ノ二ノ場合ニ於テハ「健康保険料被保險者負擔金」ノ印第四十四條及第四十五條ノ場合ニ於テハ「相殺額」ノ印ヲ捺捺スヘシ

第五節 證明
第四十九條 資金前渡官吏日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ヨリ預託金拂込書並支拂濟小切手ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ預託金月計突合表ヲ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日以内ニ之ヲ統轄店又ハ特扱代理店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テハ小切手ノ支拂店ヲ經由スヘシ

第四十條 歳入歳出外現金出納官吏領收シタルトキハ領收證書ヲ交付シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五十一條 歳入歳出外現金出納官吏ノ領收シタル現金ヲ大藏省預金部預金ニ拂込ヲ爲ス場合ニ於テハ保管金取扱規程及預金部預金取扱規程ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第五十二條 歳入歳出外現金出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ拂渡シタルトキハ受取人ヨリ領收證書ヲ徴シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五十三條 本令ニ於テ繰替拂出納官吏ト稱スルハ會計規則第六十三條ノ規定ニ依リ其ノ取扱ニ係ル現金ノ繰替使

第五十四條 繰替拂出納官吏ハ其ノ取扱ニ係ル歳入金、歳出金及歳入歳出外現金ニ付交互振替及繰替計算ヲ以テ之カ受拂ヲ爲シ其ノ現金ハ之ヲ一團トシテ取扱フヘシ

第五十五條 繰替拂出納官吏ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ保管ニ係ル現金ヲ日本銀行ニ預託スヘシ

第五十六條 第三十九條乃至第四十一條ノ規定ハ帝國鐵道官署ニ於ケル繰替拂出納官吏隔地ノ債主又ハ出納官吏ニ送金ヲ爲スノ必要アル場合ニ付之ヲ準用ス但シ豫託金支拂通知書ハ第七號書式ニ依ルモノトス

出納官吏事務規程

ニ送付スヘシ
第五十七條 第十三條乃至第十七條、第二十五條、第二十六條、第二十六條ノ二、第二十九條、第三十條、第三十四條乃至第三十八條、第四十二條、第四十九條、第五十條及第五十二條ノ規定ハ繰替拂出納官吏ニ之ヲ準用ス

第六十四條 前任出納官吏死亡又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引繼テ爲スコト能ハサルトキハ會計規則第四百六條ノ規定ニ依リ計算書ノ調製ヲ命セラレタル官吏本章ノ定ムル所ニ依リ之カ手續ヲ爲スヘシ

第七章 總則

第六十五條 出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ亡失シタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ所屬官廳ニ報告スヘシ

第六十六條 出納官吏領收簿報告書、現金拂込書又ハ預託金拂込書ノ記載事項中誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ歳入徵收官又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ

第六十七條 出納官吏預託金支拂通知書ノ記載事項中金額以外ノモノニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ受取人ヲシテ該預託金支拂通知書ヲ提出セシメ之カ訂正ヲ爲シ其ノ事由ヲ記入シ之ヲ受取人ニ返付スヘシ

第六十八條 出納官吏第四十條及第五十六條ニ規定スル小切手ノ裏面記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ

第六十九條 出納官吏現金拂込ニ係ル領收證書又ハ預託金領收證書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ日本銀行ヨリ其ノ拂込濟ノ證明ヲ受クヘシ

第七十條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱ニ關スル規定ハ第四十條第二項及第五十六條第一項ニ規定スル預託金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱ニ付之ヲ準用ス

第七十一條 出納官吏預託金月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ特取扱代理

店ニ送付スヘシ
前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ小切手ノ支拂店ヲ經由スヘシ

第七十二條 出納官吏第三十九條又ハ第五十六條ノ規定ニ依リ送金ヲ依頼シタル後其ノ必要ナキニ至リタルトキハ支拂未了ナル場合ニ限リ日本銀行ニ對シ預託金ニ戻入ヲ請求スヘシ其ノ小切手振出日附後一年ヲ經過シ仍支拂ヲ了セサルモノニ付亦同シ

附則

第七十三條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十四條 左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス
出納官吏現金取扱規則
明治三十年大藏省令第一號
帝國鐵道會計所屬出納官吏雜部保管金取扱手續
艦隊經費ヲ取扱フ出納官吏雜部保管金取扱手續

第七十五條 本令施行前金庫ニ寄託ヲ爲シタル現金ハ本令ニ依リ日本銀行ニ預託シタルモノト看做ス

第七十六條 本令施行前發行シタル保管金引出切符又ハ雜部保管金仕拂通知書ハ本令ニ依リ發行シタル小切手又ハ預託金支拂通知書ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ

(附表別冊 三四)

政府保管有價證券取扱規程

大正十一年二月一日
大藏省令第八號

(改正) 大正一五年第二號、昭和六年第九號
政府保管有價證券取扱規程左ノ通定ム
政府保管有價證券取扱規程

第一章 總則

第一條 政府ノ保管ニ係ル有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第二條 取扱官廳ハ政府保管有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ又其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ寄託スヘシ但シ數日內ニ拂渡ヲ爲ス必要アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 取扱官廳ハ取扱主任官ノ職務及氏名ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第四條 前項ノ取扱主任官ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第五條 本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第二章 保管有價證券ノ提出及寄託

第五條 保管有價證券ヲ提出スル者ハ第一號書式ノ政府保管有價證券提出書及其ノ印鑑ヲ添ヘ有價證券ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

第六條 取扱官廳前項ノ提出書ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第七條 取扱官廳ハ保管有價證券ヲ提出スル者ヲシテ豫メ有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行又其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ於ケル取扱官廳ノ保管有價證券口座ニ振込シムルコトヲ得

第八條 取扱官廳ハ其ノ保管有價證券口座ニ振込ム爲前項以外ノ日本銀行本店又ハ支店ニ豫メ有價證券ヲ提出セシムルコト

政府保管有價證券取扱規程

トヲ得此ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ第三條ノ手續ヲ爲スノ外有價證券ヲ提出シタル日本銀行ニ取扱主任官ノ印鑑ヲ添ヘ其ノ職務及氏名ヲ通知スヘシ

第七條 保管有價證券ヲ提出スル者前條第一項ノ振込ヲ爲サルトスルトキハ第二號書式ノ政府保管有價證券振込書ヲ、第二項ノ振込ヲ爲サルトスルトキハ第二號ノ二書式ノ政府保管有價證券他店振込書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ提出シ政府保管有價證券振込濟通知書ノ交付ヲ受クヘシ

第八條 保管有價證券ヲ提出スル者前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ交付ヲ受ケタル政府保管有價證券振込濟通知書及其ノ印鑑ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

第九條 取扱官廳第五條又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ有價證券又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ提出ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ政府保管有價證券受領證書ヲ提出者ニ交付スヘシ

第十條 取扱官廳第五條ノ規定ニ依リ提出ヲ受ケタル政府保管有價證券ヲ日本銀行ニ寄託セムトスルトキハ政府保管有價證券提出書ヲ添ヘ之ヲ日本銀行ニ送付シ政府保管有價證券受託證書ノ交付ヲ受クヘシ但シ第五條第二項ノ規定ニ依リ政府保管有價證券提出書ヲ省略セシメタルモノニ付テハ第四號書式ノ政府保管有價證券内課書ヲ添付スルモノトス

第十一條 取扱官廳ハ遺失物法ノ規定ニ依リ保管スル有價證券ヲ寄託セムトスルトキハ前條ノ手續ヲ爲スノ外其ノ旨ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第十二條 保管有價證券附屬利札ノ交付ヲ受ケル權利ヲ有スル者ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ第五條ノ場合ニ

於テハ取扱官廳ヲ經テ日本銀行ニ、第七條第一項ノ場合ニ於テハ政府保管有價證券振込書ニ添ヘ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第三章 保管有價證券ノ拂渡

第十二條 保管有價證券ノ拂渡ヲ受ケル權利ヲ有スル者ハ第五號書式ノ政府保管有價證券拂渡請求書又ハ第八條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル政府保管有價證券受領證書ヲ取扱官廳ニ提出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘシ

第十三條 取扱官廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込通知書ニ拂渡ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ請求者ニ交付スヘシ

第十四條 取扱官廳第十二條ノ請求ヲ受ケタルトキ第二條但書ノ規定ニ依リ有價證券ヲ保管スル場合ニ於テハ之ヲ請求者ニ拂渡スヘシ

第十五條 保管有價證券附屬利札ノ交付ヲ受ケル權利ヲ有スル者其ノ支拂期到來シタルモノノ交付ヲ請求セムトスルトキハ第七號書式ノ政府保管有價證券利札請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之ヲ交付ヲ受ケクヘシ

第十六條 但書ノ規定ニ依リ取扱官廳ニ於テ有價證券ヲ保管スル場合ニ於テハ前項ノ權利者ハ前項ノ請求書ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

第十七條 甲官廳前條ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該有價證券ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絕シ、日本銀行ニ寄託セルモノニシテ保管替ノ理由アリト認めタルトキハ政府保管有價證券保管替請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ之ヲ乙官廳ニ送付シ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込通知書ニ寄託替ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第十八條 乙官廳前條ノ請求書ノ送付及日本銀行ヨリ政府保管有價證券受託證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ政府保管有價證券受領證書ヲ保管替請求者ニ交付スヘシ

第十九條 政府保管有價證券ニシテ法令ノ規定又ハ契約ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ報告スヘシ主務官廳前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ

第二十條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管有價證券ハ當該金庫ノ政府有價證券取扱ノ事務ヲ引繼キタル日本銀行ニ寄託シタルモノト看做ス

第二十二條 本令施行前規定ニ依リ之ヲ力受拂保管ヲ爲スヘシ

第二十三條 本令施行前規定ニ依リ之ヲ力受拂保管ヲ爲スヘシ

第二十四條 本令施行前規定ニ依リ之ヲ力受拂保管ヲ爲スヘシ

第二十五條 本令施行前規定ニ依リ之ヲ力受拂保管ヲ爲スヘシ

第七章 雜則

第二十二條 取扱官廳政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之ヲ證明ヲ請求スルコトヲ得第七條第一項ノ振込人政府保管有價證券振込通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ亦同シ

第二十三條 政府保管有價證券ノ拂渡ヲ受ケル權利ヲ有スル者政府保管有價證券受託證書、政府保管有價證券振込通知書又ハ政府保管有價證券一部拂渡書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ取扱官廳ニ提出シ之ヲ證明ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケ其ノ理由アリト認めタルトキハ之ヲ證明ヲ爲シ其ノ旨ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第二十五條 取扱官廳政府保管有價證券月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタルト

工作物ノ新營修繕ニ關スル費途區分標準ノ件

廳ニ提出スヘシ

第四章 保管有價證券ノ保管替

第十六條 取扱官廳日本銀行ヨリ日本銀行政府有價證券取扱規程第十二條ノ規定ニ依リ遺失物法ニ依ル政府保管有價證券元利金受入ノ通知ヲ受ケタルトキハ保管金トシテ之ヲ整理ヲ爲スヘシ

第十七條 甲官廳ニ保管替ヲ請求セムトスルトキハ第八號書式ノ政府保管有價證券保管替請求書二通ヲ甲官廳ニ提出スヘシ

第十八條 甲官廳前條ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該有價證券ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絕シ、日本銀行ニ寄託セルモノニシテ保管替ノ理由アリト認めタルトキハ政府保管有價證券保管替請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ之ヲ乙官廳ニ送付シ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込通知書ニ寄託替ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第十九條 乙官廳前條ノ請求書ノ送付及日本銀行ヨリ政府保管有價證券受託證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ政府保管有價證券受領證書ヲ保管替請求者ニ交付スヘシ

第二十條 政府保管有價證券ニシテ法令ノ規定又ハ契約ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ報告スヘシ主務官廳前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ

第二十一條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管有價證券ハ當該金庫ノ政府有價證券取扱ノ事務ヲ引繼キタル日本銀行ニ寄託シタルモノト看做ス

第二十三條 本令施行前規定ニ依リ之ヲ力受拂保管ヲ爲スヘシ

第二十四條 本令施行前規定ニ依リ之ヲ力受拂保管ヲ爲スヘシ

第二十五條 本令施行前規定ニ依リ之ヲ力受拂保管ヲ爲スヘシ

第二十六條 本令施行前規定ニ依リ之ヲ力受拂保管ヲ爲スヘシ

第二十七條 本令施行前規定ニ依リ之ヲ力受拂保管ヲ爲スヘシ

第二十八條 本令施行前規定ニ依リ之ヲ力受拂保管ヲ爲スヘシ

第二十九條 本令施行前規定ニ依リ之ヲ力受拂保管ヲ爲スヘシ

工作物ノ新營修繕ニ關スル費途區分標準ノ件

工作物ノ新營修繕ニ關スル費途區分標準別紙ノ通大藏省ヨリ通牒有之候ニ付此段及通牒候也

(別紙)

(明治三十五年五月原甲第二九號大藏大臣ヨリ本省大臣ヘ通知)

今般工作物ノ新築増築改築其他ノ工事及其費途ノ區分ニ關シ別紙ノ通省議決定致候條明治三十六年度ヨリ右標準ニ依リ御處理相成候様致度此段及御通牒候也

工作物ノ新營修繕ニ關スル費途區分標準ノ件

會計

- 一 新築トハ新ニ工作物ヲ築造スルヲ云フ
 - 二 増築トハ工作物ノ面積、容積若ハ延長ヲ増加スルノ目的ヲ以テ之ニ工作ヲ加フルヲ云フ
 - 三 改築トハ工作物ノ全部若ハ一部ヲ取毀テ主トシテ其ノ材料ヲ使用シ更ニ現在ノ位置ニ工作物ヲ築造スルヲ云フ
 - 四 移築トハ工作物ノ位置ヲ變更スルノ目的ヲ以テ之ヲ取毀テ異リタル位置ニ於テ改築ヲ施スヲ云フ
 - 五 移轉トハ工作物ノ大體ノ現形ヲ維持シテ其位置ヲ變更スルヲ云フ
 - 六 模様替トハ工作物ノ面積、容積若ハ延長ヲ増加セシテ其ノ一部ニ變更ヲ加フルヲ云フ
 - 七 修繕トハ工作物ノ位置及現形ヲ變セス若ハ差少ノ變更ヲ加フルモノニシテ其ノ一部若ハ全部ニ修理ヲ加フルヲ云フ
- 右第一、第二、第三、第四ノ工事ニ要スル費途ハ新營費ヲ以テ支辨シ第五、第六及第七ハ修繕費ヲ以テ支辨スルモノトス但シ前記各項ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テ其ノ一カ他ニ對シテ避クヘカラサル附屬工事ト認ムヘキモノナルトキハ其ノ主タルモノニ依リテ區分スルコトヲ得

營林署及林業試驗場職員月手當支給細則

大正十年七月
林第一六九八號達

- (改正) 昭和十年十二月林第五〇九六號
- 第一條 大正九年勅令第四百五號ニ依ル手當ハ別表ノ區別ニ從ヒ之ヲ支給ス
 - 第二條 手當ハ任地ニ到達シタル日ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス

但シ在勤スヘキ地ニ於テ任命セラレタル者ニ對シテハ命令到達ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス

轉任、轉勤ノ場合ニ於テハ手當ハ舊任地出發ノ前日迄之ヲ支給ス、但シ命令到達ノ日ヨリ八日ヲ超ユルコトヲ得ス

特別ノ命令ニ依リ又ハ已ムコトヲ得サル事故ノ爲出發スルコト能ハサル場合ニ於テハ前項但書ノ規定ニ拘ラス其ノ間仍手當ヲ支給ス

- 第三條 退官、休職、退職又ハ死亡ノ場合ニ於テハ當月分ノ手當ハ其ノ全額ヲ支給ス
- 事務引繼、殘務調理ノ爲公務ニ從事スルトキハ其ノ事務終了ノ日迄仍手當ヲ支給ス
- 第四條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユルトキ又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルトキハ手當ノ半額ヲ減ス、但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受ケルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 歸省、轉地療養其ノ他私事ノ爲任地ヲ離レタルトキハ其ノ間手當ヲ支給セス
- 第六條 兼務ノ者ニハ手當ヲ支給セス
- 第七條 手當ハ毎月俸給支給日ニ於テ之ヲ支給ス但シ新任、轉任、轉勤、退官、休職、退職又ハ死亡等ノ場合ニ於テハ支給日ニ拘ラス之ヲ支給ス
- 第八條 手當ノ額ニ増減ヲ生シタルトキハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス
- 第九條 手當ノ日割計算ニ付テハ其ノ月ノ現日數ニ依ル
- 第十條 營林局長又ハ林業試驗場長別表一號地乃至三號地ノ場所ヲ變更スルノ必要アリト認ムルトキハ其ノ旨稟申スヘシ

附則
本達ハ大正十年六月分ヨリ之ヲ適用ス但シ小笠原島ニ在勤スル者ニ付テハ大正十年五月分ヨリ之ヲ適用ス

林區署職員月手當給與細則ハ之ヲ廢止ス
林區署旅費規則第三條第三項ハ之ヲ削除ス

場	所	金		判		任		雇	員
		奏	任	一	二	等	以下		
東	下	二	十	一	八	十	十	十	圓
京	小笠原島		圓						
沖繩	下								
一	左記箇所別ノ通	七	圓	五	圓	三	五	二	圓
二									
三									

縣	郡	市町	村	大字	字	勤務所	官舎
青森	上北	法奥	井澤	奧長	休屋	十和田	擔當區官舎
宮城	北	佐野	首長	牛瀧	和瀧	田	
秋田	北	鬼首	田	寒子	北子	鬼首	
同	同	同	同	砂子	砂子	第一	
同	同	同	同	萩	萩	第二	
同	同	同	同	同	同	同	
山形	同	同	同	同	同	同	
福島	同	同	同	同	同	同	
長野	同	同	同	同	同	同	

營林署及林業試驗場職員月手當支給細則

- 明治三十年勅令第二百四十六號
- 明治三十一年勅令第三百五十八號
- 明治三十二年勅令第二百十八號
- 明治三十三年勅令第七十七號
- 明治三十四年勅令第六十四號
- 明治三十五年勅令第五十三號
- 明治四十年勅令第二百二十號
- 明治四十一年勅令第二百一十一號
- 明治四十二年勅令第二百一十六號
- 明治四十三年勅令第三百六十六號
- 明治四十四年勅令第三百八十八號
- 明治四十五年勅令第七十六號
- 大正元年勅令第二十號

宿直及徹夜者食料支給規則

明治四十二年十月十六日 農商務省訓令第三十八號

(改正) 大正七年八月農商務省訓令第一五號、九年八月第六號、昭和(一〇)年五月農林省訓令第七號

營林局 署 國有林產物販賣所

明治三十年九月農商務省訓令第二十四號宿直及徹夜者食料支給方左ノ通改正シ明治四十二年十一月一日ヨリ施行ス

第一條 宿直及徹夜者食料支給規則
宿直及徹夜者ノ食料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス
判任官、雇員及巡視 宿直ニ依リ、徹夜ニ依リ各金三十五錢
給仕、小使其ノ他ノ傭人 宿直ニ依リ、徹夜ニ依リ各金三十錢

第二條 營林署内ニ居住ノ者ニハ前條ノ食料ヲ支給セズ
第三條 第一條ノ食料ハ翌月五日以内ニ支給スヘシ

營林局署現業員勤勉手当支給規程

大正十四年十二月二十五日 農林省訓令第七號

營林局署現業員勤勉手当支給規程左ノ通定メ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
營林局署 署

- 第一條 營林局署現業員勤勉手当支給規程
及職工營林局署長ノ指定ニ依リ職務時間外一時間以上左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ現業ニ從事シ勤勉ナル者ニハ勤勉手当ヲ支給ス
一 伐木、造材、運材、製材、貯材及林產製造並收穫豫定案ノ編成
二 造林及土木
三 施業案ノ編成及檢訂
四 境界査定及周圍測量
五 處分調査
第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ勤勉手当ヲ支給ス
一 普通旅費ノ支給ヲ受クルトキ
二 職務時間外ノ服務ニ對シ増給ヲ受クルトキ
第三條 勤勉手当ハ日數ニ應シ一日ニ付俸給、給料又ハ手当ノ月額(以テ給料ノ額トス以下同シ)ノ三分ノ一ヲ以テ標準トス

ヲ施行ス

森林主事被服費補給規程

- 第一條 森林主事ニシテ小林區署ニ在勤スル者ニハ毎年度金二十二圓五十錢ノ被服費ヲ補給ス
第二條 補給金ハ一年度ヲ二期ニ區分シ前期分ハ十月十日以内ニ後期分ハ四月十日以内ニ之ヲ支給ス但シ第一條ニ該當セサルニ至リタルトキハ其ノ際之ヲ支給ス
第三條 新任又ハ轉勤等ニ依リ第一條ニ該當スルトキハ其ノ翌日ヨリ轉任又ハ退官等ニ依リ第一條ニ該當セサルニ至リタルトキハ其ノ日迄ノ分ヲ補給ス
第四條 前條ノ場合ニ於テハ月數ニ對シテハ月割額ヲ以テ支給シ日數ニ對シテハ月割額ニ依リ其ノ月ノ現日數ニ應シ日割計算ヲ以テ支給ス

會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件

大正十一年四月一日 大藏省令第三十三號

森林主事被服費補給規程

明治四十四年四月 森林第一一三一號

營林局長ハ管内ノ事情ニ因リ貯木場及土場、簡易製板場詰員ニ對シ時間數ニ應シ一時間ニ付俸給、給料又ハ手当ノ月額ノ四百八十分ノ一ヲ標準トシ勤勉手当ヲ給與スルコトヲ得
前二項ノ勤勉手当ハ業務ノ繁閑、難易、勤務成績ノ良否等ヲ斟酌シ之ヲ増減スルコトヲ得但シ増給スル場合ニ於テモ各其ノ支給標準ノ五割ヲ超過スルコトヲ得ス
勤勉手当ノ年額ハ賞與金ト合シテ俸給、給料又ハ手当ノ月額ノ七割分ヲ超ユルコトヲ得ス
第四條 忌引又ハ亡父母ノ祭日若ハ公務ニ基ク傷痕、疾病等ニ依ル場合ヲ除ク外私事ニ依ル缺勤一箇月ニ三日ヲ超エ又ハ二十四時間ヲ超エタル者ニハ勤務ノ狀況ニ依リ勤勉手当ノ金額ヲ減シ又ハ之ヲ支給セサルコトヲ得
第五條 營林局長ハ八月、十二月及四月ノ三期ニ於テ各其ノ前月分迄ノ勤勉手当ヲ支給スヘシ但シ轉勤、休職、廢官、退官、解免、病氣危篤等ノ場合ニ於テハ其ノ際之ヲ支給スヘシ
第六條 前各條ノ規定ハ休職、廢官、退官者等カ事務引繼又ハ殘務調理ノ命ヲ受ケ現業ニ從事スル場合ニ付之ヲ準用ス

(改正) 大正九年八月林第二五七號

森林主事被服費補給規程左ノ通定メ明治四十四年度ヨリ之

營林局署現業員勤勉手当支給規程 森林主事被服費補給規程 會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件

會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件

會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件

ニ在リテハ其ノ會社ヲ代表スル取締役ノ一人、組合ニ在リテハ其ノ業務ヲ執行スル組合員ノ一人一年以來其ノ工務、製造又ハ物品供給ノ業務ニ從事スルコトヲ證明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

工事、製造又ハ物品ノ供給ヲ營ム合名會社、合資會社及株式合資會社ノ業務執行社員、株式會社ヲ代表スル取締役又ハ組合ノ業務ヲ執行スル組合員タリシ者ニ付テハ其ノ在任期間中當該工事、製造又ハ物品ノ供給ニ從事シタルモノト看做ス

第二條 工事、製造又ハ物品供給ノ一般競争ニ加ラムトスル者ハ前條ニ規定スルモノノ外左ノ事項ヲ證明スヘシ

一 個人ニ在リテハ二年以來其ノ毎年納メタル地租、第三種所得稅、營業收益稅及乙種資本利子稅ノ合算額見積入札金額千分ノ一ヲ下ラサルコト

二 法人又ハ組合ニ在リテハ出資額又ハ拂込資本金額見積入札金額ヲ下ラサルコト但シ法人ニシテ二年以來其ノ毎年納メタル地租、第一種所得稅及營業收益稅ノ合算額見積入札金額千分ノ二ヲ下ラサルコトヲ證明シタルトキ又ハ合名會社、合資會社及株式合資會社ニシテ其ノ無限責任社員ノ一人、組合ニシテ其ノ組合員ノ一人前號ニ當當スルコトヲ證明シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 工事、製造又ハ物品ノ供給ニ關スル營業ヲ承繼シタル場合ニ於テハ前營業者ノ當該營業ニ從事シタル期間及納付シタル稅額ハ承繼人ノ從事スル期間及納付シタル稅額ニ之ヲ通算ス

第四條 本令ノ規定ニ依リ證明ヲ要スル事項ハ當該官公署ノ認證アル書面ヲ以テ之ヲ立證スヘシ

第五條 公共團體ニ於テ工事、製造又ハ物品供給ノ一般競争ニ加ラムトスルトキハ本令ニ定ムル資格ヲ有スルコトヲ要セス

第六條 各省大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ一般ノ競争ニ加ラムトスル者ノ資格ニ付大藏大臣ト協議シテ本令ノ規定ニ特例ヲ設クルコトヲ得

第七條 朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋羣島又ハ外國ニ於テ工事、製造又ハ物品供給ノ一般競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ朝鮮總督府所屬ノ經費ニ付テハ朝鮮總督、臺灣總督府所屬ノ經費ニ付テハ臺灣總督、樺太廳所屬ノ經費ニ付テハ樺太廳長官、關東廳所屬ノ經費ニ付テハ關東廳長官、南洋廳所屬ノ經費ニ付テハ南洋廳長官、各省所屬ノ經費ニ付テハ所管大臣ノ定ムル所ニ依ル

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前一般ノ競争ニ付スヘキコトヲ公告シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

**營林財產ノ目的ヲ廢シタル建物
又ハ工作物ノ賣拂ニ方リ隨意契
約ニ關スル件**

大正十二年八月九日
林第二〇五四號山林局長通牒

營林財產ノ目的ヲ廢シタル建物又ハ工作物ノ賣拂ニ方リ會計規則第百十四條第一項第二十號ニ依リ隨意契約ニ依ルコトヲ得ヘキ件ニ關シ左記ノ通大藏省ト協定候條此段及通知候也

一、公署公會堂學校公立病院慈善病院並ニ之等ノ附屬工作物ノ建設ノ用ニ供スル爲直接ニ公共團體又ハ企業者ニ賣拂フ時

內國旅費規則

明治四十三年六月十八日
勅令第二百七十四號

(改正)

明治四十二年九月勅令第三九一號、四十四年六月第一九二號、大正九年五月第一七六號、一三年二月第三〇六號、昭和五年三月第五六號

第一條 官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條 旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、赴任手當、移轉料及家族移轉料ノ九種トス

鐵道賃及船賃ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ實際ノ料金ニ依リ、車馬賃日當宿泊料食卓料及移轉料ハ別表ニ掲グル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス

旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

第三條 鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、陸路旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス

鐵道又ハ水路ニ依ラサル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス

第四條 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シテ之ヲ支給ス

水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス但シ官用ノ船舶ニ依リテ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄フ爲ササルトキハ食卓料ヲ支給ス

營林財產ノ目的ヲ廢シタル建物又ハ工作物ノ賣拂ニ方リ隨意契約ニ關スル件

第五條 旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ出張地ニ於ケル滞在日數及途中已ムヲ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ三百三十料、水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

第六條 赴任ノ場合ニ於テハ別ニ日當五分宿泊料五夜分ニ相當スル赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給ス

家族移轉料ハ家族一人毎ニ舊任地又ハ本人ノ居住地ヨリ新任地ニ至ル本人相當ノ鐵道賃船賃車馬賃日當宿泊料食卓料ノ全額及赴任手當ノ三分ノ二ニ相當スル金額トス但シ十二歳未滿ノ家族ニ付テハ其ノ半額トス

第七條 家族移轉料ハ前項ノ規定ニ依リ給額ノ半額トス

赴任者赴任後一年内ニ其ノ家族故ナクシテ新任地ニ移轉セサルトキハ家族移轉料ヲ支給セス

第七條 官用ノ船、車、馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス

第八條 陸路六里未滿、鐵道七十八料未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外其ノ支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス

一 旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ互ルトキハ鐵道ハ十料、水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス

第九條 在勤廳所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ遠距離ニ涉ルトキハ定額半額以内ノ日當ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ別ニ必要ナル費用ヲ支給スルコトヲ得

第九條ノ二 前條第二項ノ規定ハ在勤廳所在地ノ市町村内

ノ出張ニシテ遠距離ニ渉ラサル場合又ハ在勤廳所在地外ノ市町村内ヲ旅行シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 私事ノ爲任地又ハ居住地以外ニ滞在スル者轉任ヲ命セラレ又ハ新任用セラレ滞在地ヨリ赴任スル場合ニ於テハ滞在在地ヨリ新任地ニ至ル旅費額カ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費ヲ支給ス

前項ノ規定ハ私事ノ爲任地以外ニ滞在スル者滞在地ヨリ旅行スル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 新任用スル爲召喚セラレタル者ニハ官吏赴任ノ例ニ準シ新任用スル旅費ヲ支給ス

第十二條 特別ノ事情ニ依リ定額ノ車馬賃ヲ以テ其ノ實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得

第十三條 車馬賃ハ其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ通算ス

通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

第十四條 年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シ計算ス

第十五條 旅行中退官、退職、休職又ハ非職ト爲リタル者ニハ舊任地ニ至ル前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リテ失官シ又ハ免官セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ第五條ニ定メタル旅程ノ割合ヲ以テ計算シタル日數ニ依リ旅費ヲ支給ス

旅行中死亡シタル場合ニ於テハ第二項ノ規定ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第十六條 事務引繼義務調理等ノ爲退官者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十七條 所管大臣ハ測量土木工事等ノ爲現場ヲ巡廻スル官吏又ハ常時旅行ヲ要スル官吏ニ關シ特ニ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

所管大臣ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十七條ノ二 日當及宿泊料ハ同一地ニ滞在十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ一割、三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割、百日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ四割ヲ減ス

同一地ニ滞在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第十八條 武官、陸海軍文官、鐵道事務ニ従事スル官吏及警察官ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ別ニ之ヲ定ム

第十九條 雇員其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ本令ニ準シテ之ヲ定ム

第二十條 當分ノ内朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國內ノ旅行ニ限リ所管大臣大藏大臣ト協議シテ旅費ノ定額ヲ增加スルコトヲ得

第二十一條 當分ノ内朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國在勤二年以上ニシテ退官、退職、休職又ハ非職ト爲リ三十日以内ニ同地出發歸郷スル者ニハ前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官算セス

シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官若ハ退職シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

在職中死亡シタルトキハ第一項ノ例ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給スルコトヲ得

第二十二條 樺太ニ赴任スル者、千島國幌延島以北ニ赴任若ハ出張スル者、朝鮮ニ赴任スル者ニシテ江原道平安南道平安北道咸鏡南道咸鏡北道ニ赴ク者又ハ十一月ヨリ翌年二月ニ至ル期間内ニ樺太ニ出張スル者ニハ當分ノ内支度料ヲ支給スルコトヲ得其ノ額ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前轉任ヲ命セラレ、新任用セラレ若ハ新任用スル爲召喚セラレタル場合又ハ退官、退職、休職、非職ト爲リ若ハ死亡シタル場合ニ關シテハ舊令ニ依ル

附則 (大正十三年勅令第三百六號)

本令ハ大正十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ同一地ニ滞在スル者ニ對スル第十七條ノ二ノ規定ノ適用ニ關シテハ本令施行前ノ日數ハ之ヲ通算セス

(別表)

旅費額

官階	區分		車馬賃 一里ニ付	日當一日ニ付		宿泊料一夜ニ付		食卓料 一夜ニ付	移轉料
	親任官	勅任官		甲地方	乙地方	甲地方	乙地方		
親任官	任	官	一圓五十錢	十二圓	十圓	十八圓	十五圓	四圓	三百圓以内
勅任官	任	官	一圓二十錢	八圓	七圓	十二圓	十圓	三圓五十錢	二百二十圓以内
奏任官	五等以上		九十錢	六圓	五圓	八圓	七圓	二圓五十錢	百五十圓以内
	六等以下		九十錢	五圓	四圓	七圓	六圓	二圓五十錢	百五十圓以内
判任官	五級俸以上		七十五錢	三圓	二圓五十錢	五圓五十錢	五圓	二圓	百圓以内

備考

- 一 甲地方トハ大藏大臣ノ指定スル地域、乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ
- 二 一日中甲地方及乙地方ニ互ル旅行ニ付テハ出發地、用務地又ハ到着地カ甲地方ノ場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依リ其ノ他ノ場合ニ於テハ乙地方ノ定額ニ依ル
- 三 鐵道旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額、宿泊料ハ乙地方ノ定額ニ依リ水路旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依リ之ヲ計算ス
- 四 赴任手當ハ甲地方ノ日當及宿泊料ノ定額ニ依リ之ヲ計算ス

內國旅費規則第二條ノ鐵道賃、船賃

大正九年五月三十一日 大藏省令第十六號

(改正) 大正十年一月大藏省令第一號、昭和五年三月第五號
 內國旅費規則第二條ニ依リ鐵道賃、船賃左ノ通相定メ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 鐵道賃ハ左ノ區別ニ從ヒ旅客運賃(通行稅)及急行料金ニ依リ之ヲ計算ス

- 一、高等官ニ在リテハ一等ノ運賃但シ一等車ノ連結ナキ線路ニ依ル旅行ニ在リテハ二等ノ運賃
- 二、判任官ニ在リテハ二等ノ運賃但シ特別ノ必要ニ依リ一等車ニ乗車シタル場合ニ於テハ一等ノ運賃
- 三、運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ高等官判任官共上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃
- 四、八十五斤以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金但シ急行料金ヲ徵セサル線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

六級俸以下	七十五錢	二圓五十錢	二圓二十錢	四圓五十錢	四	圓	二	圓	百圓以内
-------	------	-------	-------	-------	---	---	---	---	------

內國旅費規則別表ニ定ムル甲地方指定

大正十三年十二月十六日 大藏省令第二十八號

- (改正) 大正十四年四月大藏省令第二號、第一二號
 內國旅費規則別表ニ定ムル甲地方左ノ通指定シ大正十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 一 道府縣廳、師團司令部、鎮守府又ハ帝國大學所在ノ市町村
- 二 前號ノ外左ニ掲クル市町村
- 北海道函館市
 - 同 小樽市
 - 北海道室蘭市
 - 同 釧路市

內國旅費規則第九條ノ二ノ規定ニ依ル費用支給規程

在勤廳所在地ノ市町村内ニ出張ヲ命セラレ引續キ五時間以上公務ニ從事スルトキハ日當定額ノ三分ノ一ニ相當スル額ヲ引續キ八時間以上公務ニ從事スルトキハ日當定額ノ半額ニ相當スル額ヲ支給スルコトヲ得但シ官用ノ船馬車ニ依リ出張スル場合ニ於テハ之ニ支給スヘキ日當ニ相當スル額ハ更ニ其ノ半額トス

內國旅費規則第九條ノ二ノ規定ニ依ル費用支給規程

明治四十三年六月三十日 達會第二九〇號

(改正) 明治四十四年一月二十五日 農會第五五五號
 大正十四年十一月二十五日 農會第五五五號

- 省中一般 農事試驗場 農業試驗場 生絲検査所
- 茶葉試驗場 園藝試驗場 營林局 林業試驗場
- 水産講習所 畜産試驗場 獸疫調査所 種羊場
- 種馬牧場 種馬育成所 種馬所

內國旅費規則第九條ノ二ノ規定ニ依ル費用支給規程

- 北海道常呂郡野付牛町 三重縣宇治山田市
- 京都府紀伊郡伏見町 愛知縣豐橋市
- 同 加佐郡新舞鶴町 靜岡縣濱松市
- 同 同 中舞鶴町 同 沼津市
- 大阪府堺市 山口縣下關市
- 神奈川縣鎌倉郡鎌倉町 福岡縣門司市
- 神奈川縣三浦郡葉山村 同 小倉市
- 兵庫縣尼崎市 同 八幡市
- 同 西宮市 同 戶畑市
- 群馬縣高崎市 同 若松市
- 栃木縣上都賀郡日光町 同 大牟田市
- 三 前二號ニ定ムルモノノ外左ノ區域内ニ在ル町村 神奈川縣足柄下郡 兵庫縣武庫郡
- 東京府南葛飾郡 同
- 同 南足立郡 同
- 同 北豐島郡 同
- 同 豐多摩郡 同
- 同 荏原郡 同

內國旅費規則別表ニ定ムル甲地方指定 內國旅費規則第九條ノ二ノ規定ニ依ル費用支給規程 內國旅費規則第九條ノ二ノ規定ニ依ル費用支給規程左ノ通相定ム

會計

功五級ノ者ハ内國旅費規則ニ依リ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額ヲ支給ス

第三條 月額百十圓以上ノ雇員及囑託員並當時一定ノ手当ヲ給セサル囑託員ニシテ正七位、從七位、勳七等、功六級ノ者ハ内國旅費規則ニ依リ判任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額ヲ支給ス

第四條 判任待遇者、月額五十五圓以上ノ雇員及囑託員並當時一定ノ手当ヲ給セサル囑託員ニシテ正八位以下、勳八等、功七級ノ者ハ内國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額ヲ支給ス

第五條 月額五十五圓未滿ノ雇員及囑託員並當時一定ノ手当ヲ給セサル囑託員ニシテ位、勳、功級ヲ有セサル者、各種練習生、生徒及傭人ハ別表第一號ノ旅費額ヲ支給ス但シ日給ノ者ハ三十分分ヲ以テ月額ト看做ス

第六條 測量、土木、工事等ノ爲現場ヲ巡廻スル官吏又ハ平常旅行ヲ要スル官吏及其ノ他ノ者ハ別表第二號ノ日額

旅費ヲ支給ス

第七條 朝鮮、臺灣又ハ樺太内ノ旅行ニ限リ別表第三號ノ旅費ヲ支給ス

第八條 朝鮮、臺灣及樺太ニ旅行スル者ハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ最初ノ著船地迄ヲ内地旅行トシ朝鮮、臺灣又ハ樺太ヨリ内地ニ旅行スル者ハ朝鮮、臺灣又ハ樺太最後ノ發船地迄ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太内旅行トシテ各其ノ旅費ヲ支給ス

但シ内地ヨリ朝鮮、臺灣又ハ樺太へ著船當日ハ朝鮮、臺灣又ハ樺太旅費ノ日當ヲ、朝鮮、臺灣又ハ樺太ヨリ内地へ乗船當日ハ内地ノ日當ヲ支給ス

第九條 十一月ヨリ翌年二月ニ至ル期間内ニ樺太ニ出張スル者ニハ別表第三號ノ支度料ヲ支給ス

第十條 本規程定額旅費支給方法ハ内國旅費規則ニ準據ス

附則
本規程ハ大正十四年二月一日ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

區	別	鐵道賃		船賃		車馬賃	日當	宿泊料	食卓料	移轉料	支度料	
		一里ニ付	甲地方	乙地方	甲地方							乙地方
月額五十五圓未滿ノ傭人	各生種練習徒	三等定價 (通稅、船稅、船賃、棧橋賃及普通運賃ノ外別ニ食費ニ於テハ夕食及朝食ニ對スル所定料金ヲ含ム)	六十錢	六十錢	六十錢	一里ニ付	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方
			四十五錢	四十五錢	四十五錢	一里ニ付	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方
月額五十五圓未滿ノ傭人	各生種練習徒	三等定價 (通稅、船稅、船賃、棧橋賃及普通運賃ノ外別ニ食費ニ於テハ夕食及朝食ニ對スル所定料金ヲ含ム)	六十錢	六十錢	六十錢	一里ニ付	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方
			四十五錢	四十五錢	四十五錢	一里ニ付	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方

一、鐵道五十哩水路五十海里以上ノ旅行ニ在リテハ急行料金ヲ支給ス但シ急行料金ヲ徴セサル線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二號

名稱	日額	甲地方		乙地方		名稱	日額	甲地方		乙地方	
		甲地方	乙地方	甲地方	乙地方			甲地方	乙地方		
奏任官五等以上ノ旅費額ヲ受クル者	十四圓	十二圓	十二圓	十圓	十圓	判任官五級俸以上ノ旅費額ヲ受クル者	八圓五十錢	七圓五十錢	七圓	六圓二十錢	
奏任官六等以下ノ旅費額ヲ受クル者	十四圓	十二圓	十二圓	十圓	十圓	判任官六級俸以下ノ旅費額ヲ受クル者	八圓五十錢	七圓五十錢	七圓	六圓二十錢	
月額五十五圓未滿ノ雇員及囑託員並當時一定ノ手当ヲ給セサル囑託員ニシテ位、勳、功級ヲ有セサル者、月額五十五圓以上ノ傭人(日給ノ者ハ三十分分ヲ以テ月額ト看做ス以下同シ)	十四圓	十二圓	十二圓	十圓	十圓	各種練習生、生徒	八圓五十錢	七圓五十錢	七圓	六圓二十錢	
月額五十五圓未滿ノ傭人	十四圓	十二圓	十二圓	十圓	十圓	月額五十五圓未滿ノ傭人	八圓五十錢	七圓五十錢	七圓	六圓二十錢	

第三號

一、本日額ハ各定額以内ニ於テ用務地到着ノ翌日ヨリ用務終了出發ノ前日迄之ヲ支給スルモノトス

二、内國旅費規則第十七條ノ二ノ規定ハ本日額ノ支給ニ付之ヲ準用ス

區	別	車馬賃		日當		宿泊料		食卓料		移轉料		支度料	
		一里ニ付	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	一夜ニ付	甲地方	乙地方	三百圓以內	三百圓以內
親任官ノ旅費額ヲ受クル者	親任官ノ旅費額ヲ受クル者	二圓五十錢	十三圓	十二圓	二十二圓	十八圓	四圓	三圓五十錢	二百二十圓以內	二百圓以內	二百圓以內	二百圓以內	二百圓以內
勅任官ノ旅費額ヲ受クル者	勅任官ノ旅費額ヲ受クル者	二圓	九圓	八圓	十五圓	十二圓	四圓	三圓五十錢	二百二十圓以內	二百圓以內	二百圓以內	二百圓以內	二百圓以內
奏任官五等以上ノ旅費額ヲ受クル者	奏任官五等以上ノ旅費額ヲ受クル者	一圓五十錢	七圓	六圓	十圓	八圓	二圓五十錢	二百五十圓以內	一百五十圓以內	一百五十圓以內	一百五十圓以內	一百五十圓以內	一百五十圓以內

内國旅費規則ニ依ル特定及協定旅費

奉任官六等以下ノ旅費額ヲ受クル者	一圓五十	六	五	九	七	二圓五十	百五十圓以內	百五十圓以內
奉任官五級俸以上ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十	四	三	七	五圓五十	二	百圓以內	七十五圓以內
奉任官六級俸以下ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十	三圓五十	二圓五十	六	四圓五十	二	百圓以內	七十五圓以內
月額五十圓未滿ノ雇員及嘱託員並當時一定ノ手當ヲ給セサル嘱託員ニシテ位、勳、功級ヲ有セサル者、月額五十圓以上ノ傭人、日給ノ者ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス以下同シ)	九十錢	二圓五十	二	四圓五十	三圓五十	一圓二十	五十圓以內	三十五圓以內
各種練習生、生徒	七十錢	二	一圓五十	三圓五十	二圓八十	八十錢	三十五圓以內	二十圓以內
月額五十圓未滿ノ傭人	七十錢	二	一圓五十	三圓五十	二圓八十	八十錢	三十五圓以內	二十圓以內

一、鐵道賃、船賃ハ大正九年大藏省令第十六號又ハ本規程第一條乃至第五條ニ依リ之ヲ支給ス

二、甲地方トハ左ニ掲クル地域、乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ

一、朝鮮ニ於ケル道廳所在ノ府又ハ面

二、前號ノ外左ニ掲クル府又ハ面

- 京畿道仁川府
- 全羅北道群山府
- 全羅南道木浦府
- 慶尙南道釜山府
- 慶尙南道鎭海府
- 同 昌原郡鎭海面
- 同 東萊郡東萊面
- 平安南道鎭南浦府
- 咸鏡南道元山府

咸鏡北道清津府

三、臺灣ニ於ケル州廳所在ノ市又ハ街

四、前號ノ外左ニ掲クル街

- 臺北州基隆郡基隆街
- 同 宜蘭郡宜蘭街
- 臺中州南投郡南投街
- 臺南州嘉義郡嘉義街
- 高雄州澎湖郡馬公街
- 同 屏東郡屏東街
- 臺東廳臺東街
- 花蓮港廳花蓮港街
- 花蓮港廳花蓮港街
- 五、樺太ニ於ケル左ノ地方
- 豐原郡豐原町大字豐原
- 大泊郡大泊町大字大泊
- 真岡郡真岡町大字真岡

旅費支給上陸路里程計算方

大正十五年六月十八日
會第七一〇號

旅費支給上陸路里程ハ大正十五年六月十五日以降ノ旅行ヨリ通信省藏版大正十五年一月改正郵便線路圖ニ依リ計算ス

旅費支給上陸路里程計算方 旅費減額ニ關スル件

旅費減額ニ關スル件

昭和五年七月八日
會第一〇〇二號達

當省所管業務ノ爲旅行スル者ニ支給スル旅費ニ關シテハ當分ノ内内國旅費規則外國旅費規則其ノ他ニ定ムル車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、支度料及移轉料ノ定額ヲ別ニ定ムルモノノ外別表ニ掲クル定額ニ減額支給ス

前項ニ依ル減額支給ハ昭和五年七月十五日以降ノ旅行ニ付

六〇三

之ヲ施行ス但シ外國(關東州及南滿洲ヲ含マズ)又ハ南洋群島ニ在ル者ニ付テハ昭和五年八月一日以降ノ旅行ニ付之

ヲ施行ス 昭和五年七月八日

農林大臣

區別	車馬賃		日當一日二付		宿泊料一夜二付		食卓料		移轉料		日額	
	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方
親任官ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢
勅任官ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢
奏任官五等以上ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢
奏任官六等以下ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢
判任官五級俸以上ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢
判任官六級俸以下ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢
月額五十五圓未満ノ雇員及囑託員並當時一定ノ手當ヲ給セサル囑託員ニシテ位、勳、功級ヲ有セサル者、月額五十五圓以上ノ雇員(日給者ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス以下同シ)各種練習生、生徒	三十八錢	三十八錢	三十八錢	三十八錢	三十八錢	三十八錢	三十八錢	三十八錢	三十八錢	三十八錢	三十八錢	三十八錢

朝鮮臺灣樺太內國旅費

區別	車馬賃		日當一日二付		宿泊料一夜二付		食卓料		移轉料		支度料	
	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方
親任官ノ旅費額ヲ受クル者	二圓十錢	二圓十錢	二圓十錢	二圓十錢	二圓十錢	二圓十錢	二圓十錢	二圓十錢	二圓十錢	二圓十錢	二圓十錢	二圓十錢
勅任官ノ旅費額ヲ受クル者	一圓七十錢	一圓七十錢	一圓七十錢	一圓七十錢	一圓七十錢	一圓七十錢	一圓七十錢	一圓七十錢	一圓七十錢	一圓七十錢	一圓七十錢	一圓七十錢
奏任官五等以上ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢
奏任官六等以下ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢
判任官五級俸以上ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢
判任官六級俸以下ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓二十錢
月額五十五圓未満ノ雇員及囑託員並當時一定ノ手當ヲ給セサル囑託員ニシテ位、勳、功級ヲ有セサル者、月額五十五圓以上ノ雇員(日給者ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス以下同シ)各種練習生、生徒	六十錢	六十錢	六十錢	六十錢	六十錢	六十錢	六十錢	六十錢	六十錢	六十錢	六十錢	六十錢

旅費減額ニ關スル件

區別	車馬賃	日當	宿泊料	食卓料	支度料	移轉料
勅任官ノ旅費額ヲ受クル者	十二圓七	四十二圓	三十五圓	十八圓七	六圓三十	八百十圓
奏任官五等以上ノ旅費額ヲ受クル者	八圓五十	二十七圓	二十圓四	四圓五十	六圓三十	六百三十圓
奏任官六等以下ノ旅費額ヲ受クル者	六圓八十	二十五圓	十八圓七	四圓五十	六圓三十	六百三十圓
判任官ノ旅費額ヲ受クル者	五圓十錢	二十圓四	十三圓六	四圓五十	六圓三十	六百三十圓
囑託員ニシテ前各項ニ該當セサル者、月額五十五圓未滿ノ	三圓四十	十五圓三	十一圓九	八圓五十	二圓七十	三百十五圓
司廚長、職工長、組長及之ニ準スル者又ハ給料日額二圓五十錢以上ノ者	三圓四十	十五圓三	十一圓九	八圓五十	二圓七十	三百十五圓
前項以外ノ傭人	二圓五十	十二圓七	八圓五十	五圓九十一	一圓八十	二百二十圓
親任官ノ旅費額ヲ受クル者	三圓四十	十五圓三十	二十二圓九十	五圓四十	七圓二十圓	三百十五圓
勅任官ノ旅費額ヲ受クル者	二圓五十	十一圓五	七	四圓五十	五圓四十圓	二百二十五圓
奏任官五等以上ノ旅費額ヲ受クル者	一圓七十	七圓六十五	十二圓七十五	三圓六十	四百五圓	四百五圓
奏任官六等以下ノ旅費額ヲ受クル者	一圓七十	六圓八十	十一圓九十	三圓六十	四百五圓	四百五圓
判任官五級俸以上ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十五	五圓十	九圓三十五	二圓七十	二百二十五圓	二百二十五圓

南洋群島關東州南滿洲旅費

判任官六級俸以下ノ旅費額ヲ受クル者	一圓二十五錢	四圓二十五錢	八圓五十錢	二圓七十錢	二百二十五圓	百八圓
囑託員ニシテ前各項ニ該當セサル者、月額五十五圓未滿ノ	一	圓三圓四十	六圓八十	一圓八十	百五十三圓	七十六圓五十
其ノ他廳內取締ノ役務ニ服スル者、並運轉士、機關士、水夫長、司廚長、職工長、組長及之ニ準スル者又ハ給料日額二圓五十錢以上ノ者	一	圓三圓四十	六圓八十	一圓八十	百五十三圓	七十六圓五十
前項以外ノ傭人	八十五錢	二圓五十五錢	五圓十錢	二圓三十五錢	百八圓	六十三圓

營林局署及國有林產物販賣所 旅費規則
 大正十四年十一月二十五日
 農林省訓令第五號

(改正) 昭和五年五月農林省訓令第五號、一〇年五月第四號

營林局署 國有林產物販賣所

營林局署及國有林產物販賣所旅費規則左ノ通改正シ大正十四年十一月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 營林局署及國有林產物販賣所旅費規則左ノ各號ノ一ニ該當スル用務ニ依リ營林局員其ノ管内ヲ旅行シ又ハ營林署員其ノ管外ヲ旅行スルトキハ甲號表ノ日額ヲ支給ス但シ沖繩及小笠原營林署管内ノ旅行在勤廳所在市町村間ノ旅行若ハ用務地市町村間ノ旅行ニシテ陸路三里以上、鐵道二十六料以上、水路十海里以上ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營林局署及國有林產物販賣所旅費規則

一 存廢區別又ハ處分調査
 二 測量又ハ境界査定
 三 施業案ノ編成又ハ檢訂
 四 土木ノ事業又ハ其ノ設計
 五 公有林野官行造林候補地ノ實査
 六 造林、斫伐又ハ收穫豫定案ノ編成又ハ實行
 七 開墾適地ノ調査

第二條 營林署員其ノ管内ヲ旅行シ其ノ行程二里以上ニ至ルトキ又ハ行程二里未滿ナルモ其ノ行程一里以上ノ地ニ宿泊ヲ要スルトキハ甲號表ノ日額ヲ支給ス但シ鐵道、軌道法ニ依ル軌道又ハ水路ノ旅行ヲ爲シタルトキハ國內旅費規則ニ準シ乘車賃、船賃ヲ、營林局長必要アリト認ムルトキハ車馬賃ノ實費ヲ増給ス

營林署員ノ旅行ニシテ前項ニ該當セサル場合ニ在リテハ國內旅費規則第九條ノ二ノ規定ニ依ル費用支給規程ヲ準用スルトコトヲ得

前二項ノ規定ハ擔當區詰員ノ旅行ヲ除クノ外沖繩及小笠

會計

第一 營林局管内ノ旅行ニ付テハ特ニ必要ヲ認メタル場合ヲ除クノ外車馬賃ハ左ノ通減額支給ス

勅任官	一里ニ付	九十五錢
奏任官	同	七十錢
同局長	同	八十錢
同判任官	同	六十錢
同雇員	同	五十錢
同傭人	同	三十五錢
第二 森林鐵道運轉ニ從事スル雇員及傭人ノ日額ハ左ノ通減額支給ス(森林鐵道アル者ニ適用)	宿泊セサルトキ	七十五錢
雇員	宿泊シタルトキ	一圓五十錢

備人 宿泊セサルトキ 六十錢
宿泊シタルトキ 一圓二十錢

第三 斫伐事業場詰營林署囑託員及雇員ノ日額ハ左ノ通減額支給ス
囑託員ニシテ手當月額五 宿泊セサルトキ 一圓二十五錢
十五圓以上ノ者 宿泊セサルトキ 二圓五十錢
囑託員ニシテ手當月額五 宿泊セサルトキ 七十五錢
十五圓未満ノ者及雇員 宿泊シタルトキ 一圓五十錢
第四 管内ノ用務ニ依リ出張ノ際其ノ必要上管内ニ出張又ハ宿泊シタルトキハ管内旅行ト看做シ旅費ヲ支給ス
第五 營林局署管内赴任又ハ在勤地内移轉ノ場合ニ於ケル赴任手當、移轉料及家族移轉料ハ左ノ額ヲ支給ス

營林署管内赴任又ハ在勤地内移轉

區分	營林局管内赴任	額
赴任手當	定額	額
移轉料	定額	但シ家族移轉料ヲ給セサルモノニ在リテハ其ノ二分ノ一
家族移轉料	定額	額

備考 一、在勤地内移轉ノ場合ニ於テハ行程ニ依リ里程ヲ計算ス
二、赴任手當及移轉料計算上陸路、鐵道、水路ニ互ル場合ハ鐵道ハ十六哩、水路ハ八哩ヲ以テ陸路一里ト看做シ計算ス

第六 營林署詰森林主事ノ日額ヲ擔當區詰員ノ額ニ減額支給スルコトヲ得
備考 施行期日ハ左ノ通 青森、秋田、東京及大阪ノ各營林局ハ大正十五年七月一日ヨリ施行

高知營林局ハ大正十五年八月一日ヨリ施行
熊本營林局ハ大正十五年七月十日ヨリ施行

旅費減額ニ關スル件

昭和五年七月十七日
林發第二八八九號山林局長依命通牒
内國旅費規則外國旅費規則其ノ他ノ規定ニ依ル定額ノ減額支給ニ關シテハ別途令達セラレ候處尙營林局署旅費規則及同支給特別ニ依ル旅費額ニ付テモ當分ノ内別紙ノ通減額支給相成度依命此段及通牒候也
一、營林局署旅費規則及同支給特別ニ依ル旅費支給額ノ通ニ減額支給ス

等級	日額 (宿泊セサルトキ)
一 等	二・七〇〇
二 等	二・一六〇
三 等	二・〇三〇
四 等	一・八〇〇
五 等	一・一三〇
六 等	一・四四〇
七 等	〇・九九〇
八 等	〇・六八〇

二、同上乙號表ノ移轉料ヲ次ノ通ニ減額支給ス
旅費減額ニ關スル件

旅行行程	勅任官	奏任官	判任官	雇員
一日	一三五	九〇	六三	二七
二日	一六二	一〇八	七二	三六
三日以上	一九八	一三五	九〇	四五

三、營林局署員旅費支給特別第一項ノ車馬賃ヲ次ノ通ニ減額支給ス
勅任官 八十五錢
奏任官 六十錢
同局長 七十錢
判任官 五十五錢
雇員 四十五錢
四、同上第二項ノ日額ヲ次ノ通ニ減額支給ス
雇員 宿泊セサルトキ 六十八錢
傭人 同 五十四錢
五、同上第三項ノ日額ヲ次ノ通ニ減額支給ス
囑託員(手當月額 五十五圓以上ノ者) 宿泊セサルトキ 一圓十三錢
囑託員(同 五十五圓未満ノ者) 同 六十八錢
雇員 同
六、同上第五項ノ移轉料其他ハ定額減少ニ伴ヒ當然減額支給スルモノトス
七、減額支給ハ本年七月十五日以降ノ旅行ニ付之ヲ適用ス但移轉料ニ付テハ赴任出發ノ日ヲ以テ區分スルモノトス

市町村內出張ノ場合ニ於ケル 鐵道賃等支給ノ件

昭和七年十二月二日
會第一三八一號農林省會計課長通牒

在勤廳所在地ノ市町村內ノ出張ニシテ遠距離ニ涉ル場合及
在勤廳所在地外ノ市町村內ヲ旅行スル場合ニ於ケル鐵道賃
船賃車馬賃等左記ニ依リ支給シ本年十月一日以降ノ出張ニ
付之ヲ適用可致候條御了知相成度依命此段及通牒候也

在勤廳所在地又ハ在勤廳所在地外ノ市町村內ニ於テ陸路三
里鐵道三十九軒水路十五海里以上ノ地ニ出張スルトキハ內
國旅費規則ニ依ル鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給スルコトヲ
得在勤廳所在地ノ市町村內ノ出張ニシテ其ノ行程二里以上
ニ涉リ公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要シタルトキハ宿泊料定額
以內ニ於テ其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

農林部內職員受託出張規則

昭和三年四月二十八日
農林省令第二號

農林部內職員受託出張規則左ノ通定ム

第一條 農林省又ハ其ノ所屬廳ノ所管事項ニ關シ調査、試
驗、分析、鑑定、講習、講話等ノ爲メ職員出張ノ申請ハ
別段ノ定アル場合ヲ除ク外本則ノ定ムル所ニ依ル
第二條 申請者ハ出張事項、出張地名及出張期間ヲ記載シ

タル申請書ヲ當該官廳ニ差出スベシ

第三條 申請者ハ職員ノ出張ニ關シ左ニ掲ケル費用ヲ負擔
スベシ但シ當該官廳ニ於テ其ノ必要ナシト認ムル場合ハ
此ノ限ニ在ラズ
一 內國旅費規則、外國旅費規則又ハ南洋群島關東州南
滿洲旅費規則ニ依ル旅費
二 器具機械費、通信費、通譯費、運搬費、人夫費其ノ
他必要ナル費用

第四條 出張ノ申請ヲ許可シタルトキハ前條ノ費用ノ概算
額ヲ納ムベシ但シ當該官廳ニ於テ其ノ必要ナシト認ムル
場合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ規定ニ依リ納メタル概算額ニ付精算ヲ爲シタル場
合ニ於テ不足額アルトキハ申請者ヲシテ之ヲ納メシメ過
剩額アルトキハ申請者ヲシテ拂戻請求書ヲ差出サシム

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

農商務部內職員受託出張規則ニ 關スル件

大正十年四月七日會第三六一號
各大林區署長宛農林省會計課長通牒

地方廳又ハ當業者ノ申請ニ依リ職員派遣ノ場合ニ於ケル旅
費ノ受拂ハ從來歲入歳出外現金出納官吏ヲシテ之レガ出納
ヲ掌ラシメラレ候處今回明治二十四年四月當省告示第四號
ヲ廢止シ更ニ農商務部內職員受託出張規則發令相成候ニ就
テハ之レカ取扱方ニ關シ左記ノ通御了知相成度此段及通牒
候也

記

- 一、職員出張ノ申請ヲ許可シタルトキハ第一豫備金支出請
求計算書様式ニ準據シタル受託調査費請求計算書ヲ提
出スルコト
- 一、申請者ヲシテ概算額ヲ納入セシムル場合ハ歳入徵收係
ヲシテ其ノ手續ヲ爲サシムルコト
- 一、歳入徵收官ハ申請者ニ對シ納入告知書ヲ發行シ、收入
官吏ヲシテ現金ヲ領收セシムル場合ハ收入官吏ニ之ヲ
通知スルコト
- 一、歳入科目ハ臨時部、雜收入ノ款受託調査收入ノ項目
職員出張終了後七日以內ニ費用及手數料ノ精算書ヲ調
製セシメ承認ノ上之ヲ歳入徵收係ニ送付スルコト
- 一、歳入徵收官ハ前項精算ノ結果納入シタル概算額ニ過剩
アリタルトキハ諸拂戻金仕拂上申書ニ拂戻請求書ヲ添
附シ提出スルコト
- 一、第一項受託調査費ハ必要ト認メタル場合ハ豫メ豫算ヲ
令達スルコトアルヘシ

計算證明規程

大正十一年三月十七日
會計檢査院達第一號

(改正) 大正十一年九月會計檢査院達第二號、一五年四月第一號、昭和二年四月第
一號、一〇月第二號、九年三月第一號
大正四年會計檢査院達第一號計算證明規程左ノ通改正ス

計算證明規程

第一章 總則

第二章 歳入

第一節 通則

第二節 租稅

農林部內職員受託出張規則 計算證明規程

第三章 租稅外歳入

第一節 歳出

第二節 支出

第三章 資金前渡官吏ノ出納

第四章 國庫金運用

第五章 國債

第六章 現金出納

第一節 通則

第二節 收入金

第三節 歳入歳出外現金

第四節 繰替拂現金

第七章 物品出納

第八章 國有財産

第九章 日本銀行

第十章 團體諸營造其ノ他ノ決算

附則

計算證明規程

第一章 總則

第一條 計算書ハ改描塗抹ヲ爲スヘカラス若誤記脱字等ニ
因リ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ畫シ之ヲ捺印スヘシ

第二條 證憑書類ハ原本ニ限ル若原本ヲ提出シ難キトキハ
當該主任者ノ保證アル謄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三條 外國文ヲ記載シタル證憑書類ニハ譯文ヲ附スヘシ但シ會
計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 外國貨幣ヲ基礎トシ又ハ外國貨幣ヲ以テ收支ヲ爲
シタルモノハ換算ニ關スル書類ヲ添附スヘシ但シ別ニ定
メアル外國貨幣換算價格ニ依リタルモノハ證憑書類ニ其

ノ換算價格ヲ附記シ本文ノ書類ヲ省略スルコトヲ得
第四條 證憑書類中既ニ他ノ計算證明上提出濟ノモノアル
トキハ其ノ旨計算書ノ備考ニ記載スヘシ

第二章 歳入

第一節 通則

第五條 歳入徵收官ハ第一號書式ニ依リ毎月歳入徵收額計
算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日限之ヲ提出スヘ
シ但シ會計検査院ニ於テ特ニ指定シタルモノ若ハ其ノ承
認ヲ經タルモノハ年一回又ハ數回ニ提出スルコトヲ得

第六條 左ノ事項ハ最終徵收額計算書ノ備考ニ記載スヘシ
但シ事ノ複雑ナルモノハ説明書ヲ添付スヘシ
一 年度、科目其ノ他ノ更正ヲ爲スヘキモノアルトキハ
其ノ金額事由
二 測定誤謬其ノ他ノ爲拂戻ヲ爲スヘキモノアルトキハ
其ノ金額事由

第七條 歳入徵收額計算書ニハ日本銀行月計突合表及別ニ
指定スル明細書ヲ添付スヘシ

第八條 證憑書類ノ編纂ハ左ノ區分ニ依リ
一 内國稅ニ在リテハ各目ニ區分シ尙準據シタル條項ノ
異ル毎ニ細分スヘシ
二 關稅、噸稅及稅關雜收入ニ在リテハ本關及各支署若
ハ出張所毎ニ各目ニ區分スヘシ
三 其ノ他ノ歳入ニ在リテハ各目ニ區分シ事ノ複雑ナル
モノハ尙適宜細分スヘシ

第九條 證憑書類ノ表紙ニハ其ノ紙數及金額ヲ記載スヘシ

第十條 證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ
課稅基本ノ決定及其ノ取消變更ニ關スル決議書、申

請書、檢査簿、査定簿等賦課徵收ノ基礎ヲ證明スヘ
キ一切ノ書類
二 課稅免除、徵收猶豫、延納許可ヲ爲シ若ハ之ヲ取消
變更ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類
三 滯納處分、擔保物件及收容貨物ノ處分ヲ爲シタルモ
ノアルトキハ之ニ關スル一切ノ書類
四 不納缺損ニ係ルモノアルトキハ其ノ事實ヲ證明スヘ
キ書類
五 賦課又ハ滯納處分ノ引繼引受ヲ爲シタルモノアルト
キハ其ノ關係書類
六 前各項ノ外賦課徵收上ノ處理ニ關スル書類
第十條 證憑書類ハ會計検査院ノ指定ニ從ヒ之ヲ提出スヘ
シ

第十一條 證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ
一 物件ノ賣拂、貸付、製造、修繕其ノ他收入ニ關スル
決議書、契約書、賣渡請求書等徵收ノ基礎ヲ證明ス
ヘキ一切ノ書類
二 延納ヲ許可シタルモノアルトキハ其ノ關係書類
三 滯納處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類
四 不納缺損ニ係ルモノアルトキハ其ノ事實ヲ證明スヘ
キ書類

第十二條 會計規則第八十七條第五號ニ依リ契約書ノ作成ヲ省略シ
タルモノハ其ノ事由ヲ證憑書類ニ附記スヘシ

第十三條 物件ノ賣拂、貸付其ノ他ノ契約ニ付一般競争ニ
付シタルモノハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
一 公告書案但シ公告ノ方法及公告期間ヲ短縮シタルモ
ノハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第十四條 資金前渡官吏ノ分任官ニシテ特ニ計算ヲ證明ス
ルトキハ主任官ヲ經由スヘシ

第十五條 證憑書類ハ各目ニ區分編纂シテ其ノ金額紙數ヲ
表紙ニ記載シ概算拂ニ係ルモノアルトキハ其ノ金額ヲ附
記スヘシ但シ各目ニ區分シ難キモノハ其ノ關係書類ト共
ニ各項ニ區分編纂シ各自仕譯書ヲ添付スヘシ
概算拂ニ對スル精算證書ハ別ニ之ヲ編纂シ各目ニ區分ス
ヘシ

第十六條 資金前渡官吏ノ支拂ニ關シ領收證書ノ未到達ニ係ルモノ
アルトキハ其ノ金額ヲ證憑書類ニ表紙ニ附記シ爾後到達ニ
從ヒ支拂ノ月ヲ以テ區分スヘシ
資金前渡官吏ノ分任官ノ取扱ニ係ル證憑書類ハ別ニ之ヲ編
纂シ其ノ各目、金額、紙數及官氏名ヲ表紙ニ記載スヘシ

第十七條 支拂ノ事項ハ支出計算書ノ備考ニ記載スヘシ但
シ事ノ複雑ナルモノハ説明書ヲ添付スヘシ
一 年度、科目其ノ他ノ更正若ハ定額戻入ヲ爲スヘキモ
ノアルトキハ其ノ金額事由
二 誤拂、過渡其ノ他ノ返納ニ依リ歳入ニ編入スヘキモ
ノアルトキハ其ノ金額事由

第十八條 受拂勘定ヲ爲スヘキ特別會計ニ屬スル最終支
出計算書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添付スヘシ其ノ他ノ特別

會計證明規程

一 豫定價格調書及其ノ算出ノ基礎ヲ示セル書類
二 豫定價格ヨリ五番札ニ至ル入札書
三 前項ノ規定ハ雜賣又ハ指名競争ニ依リタル契約ニ付之ヲ
準用ス

第十九條 競争ニ付スルモノ入札者ナク又ハ再度ノ入札ニ付
スルモ落札者ナク若ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ
更ニ競争ニ付シタルトキハ尙前回ノ競争ニ關スル書類若
ハ其ノ概要ヲ記載シタル調書ヲ添付スヘシ
前項ノ場合ニ於テ隨意契約ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ
證憑書類ニ附記シ尙競争ニ關スル書類ヲ添付スヘシ

第二十條 豫定代價千圓ヲ超ユル物件ノ賣拂、豫定賃賃料
年額又ハ總額五百圓ヲ超ユル物件ノ貸付及二千圓ヲ超ユ
ル其ノ他ノ契約ニシテ一般競争ニ付セサルモノハ其ノ適
用シタル法令ノ條項ヲ證憑書類ニ附記シ尙會計規則第百十
四條第一項第十九號乃至第二十一號ニ依リ隨意契約ヲ爲
シタルモノハ其ノ必要トセル事由ヲ證憑書類ニ附記スヘシ

第二十一條 國有財産ノ賣拂及貸付ニシテ隨意契約ニ依リタ
ルモノハ其ノ賣拂價格又ハ貸付料ノ評定調書ヲ提出スヘ
シ

第二十二條 物件ノ賣拂、貸付其ノ他ノ契約ニシテ變更解除
又ハ違約處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類ヲ
提出スヘシ

第二十三條 證憑書類ハ會計検査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以
テ代用シ又ハ之ヲ提出ヲ省略スルコトヲ得

第二十四條 歳出
第一節 通則

第二十五條 支出官ハ第二號書式ニ依リ毎月支出計算書ヲ資
金前渡官吏ハ第三號書式ニ依リ毎月前渡資金出納計算書

ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日限之ヲ提出スヘシ但
シ會計検査院ノ承認ヲ經タルモノハ年一回又ハ數回ニ提
出スルコトヲ得

資金前渡官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之ヲ證明ヲ爲
スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期
ヲ記載スヘシ

第二十九條 資金前渡官吏ノ分任官ニシテ特ニ計算ヲ證明ス
ルトキハ主任官ヲ經由スヘシ

第三十條 證憑書類ハ各目ニ區分編纂シテ其ノ金額紙數ヲ
表紙ニ記載シ概算拂ニ係ルモノアルトキハ其ノ金額ヲ附
記スヘシ但シ各目ニ區分シ難キモノハ其ノ關係書類ト共
ニ各項ニ區分編纂シ各自仕譯書ヲ添付スヘシ
概算拂ニ對スル精算證書ハ別ニ之ヲ編纂シ各目ニ區分ス
ヘシ

第三十一條 資金前渡官吏ノ支拂ニ關シ領收證書ノ未到達ニ係ルモノ
アルトキハ其ノ金額ヲ證憑書類ニ表紙ニ附記シ爾後到達ニ
從ヒ支拂ノ月ヲ以テ區分スヘシ
資金前渡官吏ノ分任官ノ取扱ニ係ル證憑書類ハ別ニ之ヲ編
纂シ其ノ各目、金額、紙數及官氏名ヲ表紙ニ記載スヘシ

第三十二條 支拂ノ事項ハ支出計算書ノ備考ニ記載スヘシ但
シ事ノ複雑ナルモノハ説明書ヲ添付スヘシ
一 年度、科目其ノ他ノ更正若ハ定額戻入ヲ爲スヘキモ
ノアルトキハ其ノ金額事由
二 誤拂、過渡其ノ他ノ返納ニ依リ歳入ニ編入スヘキモ
ノアルトキハ其ノ金額事由

第三十三條 受拂勘定ヲ爲スヘキ特別會計ニ屬スル最終支
出計算書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添付スヘシ其ノ他ノ特別

會計證明規程

一 豫定價格調書及其ノ算出ノ基礎ヲ示セル書類
二 豫定價格ヨリ五番札ニ至ル入札書
三 前項ノ規定ハ雜賣又ハ指名競争ニ依リタル契約ニ付之ヲ
準用ス

第三十四條 競争ニ付スルモノ入札者ナク又ハ再度ノ入札ニ付
スルモ落札者ナク若ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ
更ニ競争ニ付シタルトキハ尙前回ノ競争ニ關スル書類若
ハ其ノ概要ヲ記載シタル調書ヲ添付スヘシ
前項ノ場合ニ於テ隨意契約ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ
證憑書類ニ附記シ尙競争ニ關スル書類ヲ添付スヘシ

第三十五條 豫定代價千圓ヲ超ユル物件ノ賣拂、豫定賃賃料
年額又ハ總額五百圓ヲ超ユル物件ノ貸付及二千圓ヲ超ユ
ル其ノ他ノ契約ニシテ一般競争ニ付セサルモノハ其ノ適
用シタル法令ノ條項ヲ證憑書類ニ附記シ尙會計規則第百十
四條第一項第十九號乃至第二十一號ニ依リ隨意契約ヲ爲
シタルモノハ其ノ必要トセル事由ヲ證憑書類ニ附記スヘシ

第三十六條 國有財産ノ賣拂及貸付ニシテ隨意契約ニ依リタ
ルモノハ其ノ賣拂價格又ハ貸付料ノ評定調書ヲ提出スヘ
シ

第三十七條 物件ノ賣拂、貸付其ノ他ノ契約ニシテ變更解除
又ハ違約處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類ヲ
提出スヘシ

第三十八條 證憑書類ハ會計検査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以
テ代用シ又ハ之ヲ提出ヲ省略スルコトヲ得

第三十九條 歳出
第一節 通則

第四十條 支出官ハ第二號書式ニ依リ毎月支出計算書ヲ資
金前渡官吏ハ第三號書式ニ依リ毎月前渡資金出納計算書

ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日限之ヲ提出スヘシ但
シ會計検査院ノ承認ヲ經タルモノハ年一回又ハ數回ニ提
出スルコトヲ得

資金前渡官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之ヲ證明ヲ爲
スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期
ヲ記載スヘシ

第四十九條 資金前渡官吏ノ分任官ニシテ特ニ計算ヲ證明ス
ルトキハ主任官ヲ經由スヘシ

會計

- 一 會計ニ在リテハ別ニ之ヲ指定ス
- 二 受拂勘定表並物品會計官吏毎ニ區分シタル物品價格受拂仕譯書
- 三 年度末日計算表
- 四 固定資本價格増減表並其ノ評價書類
- 五 物品ノ價格ヲ評定シ又ハ改定シタルモノアルトキハ每件其ノ事由及計算ノ基礎ヲ示セル調書
- 六 支出未済ニシテ翌年度ニ繰越シタルモノアルトキハ每件其ノ金額事由調書
- 七 代價收入済ニシテ物品未済ニ係ルモノ又ハ代價支出済ニシテ物品未済ニ係ルモノアルトキハ每件其ノ金額事由調書
- 八 既往年度代價收入済ニ係ル物品ノ拂出ヲ爲シタルモノ又ハ既往年度代價支出済ニ係ル物品ノ受入ヲ爲シタルモノアルトキハ每件其ノ數量金額調書
- 九 賣渡代價確定未済ニシテ物品ノ拂出ヲ爲シタルモノアルトキハ每件其ノ數量金額事由調書
- 十 第二十三條 最終支出計算書提出ノ際概算拂、資金前渡ノ精算ニ至ラサルモノ、前金拂ニ係ル工事、製造又ハ物件ノ買入若ハ運送ニシテ完了ニ至ラサルモノ、年度、科目其ノ他ノ誤謬ニシテ處分未済ニ係ルモノアルトキハ其ノ事由及完結スヘキ期限ヲ記載シタル調書ヲ添付スヘシ
- 十一 最終支出計算書提出ノ後年度科目其ノ他ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ
- 十二 前各項ノ事項ハ完結ニ從ヒ其ノ證據書ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ
- 十三 第二十四條 證據書トシテ提出スヘキモノハ領收證書、請求書、契約書等支出ノ所由並計算ノ基ク所ヲ證明スヘキ

- 書類トス但シ事ノ簡明ナルモノニ付テハ會計検査院ノ承認ヲ經テ仕譯書、簿册又ハ證明書ヲ以テ代用スルコトヲ得
- 隔地者ニ支拂ノ爲日本銀行ニ資金ヲ交付シタル場合ニ在リテハ日本銀行ノ領收證書ヲ提出スヘシ
- 領收證書ヲ得難キ場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ提出スヘシ
- 領收證書ニハ小切手ノ番號ヲ附記スヘシ
- 會計規則第八十七條第五號ニ依リ契約書ノ作成ヲ省略シタルモノハ其ノ事由ヲ證據書ニ附記スヘシ
- 第二十五條 俸給其ノ他一定ノ給與ニシテ給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其ノ事由及年月日ヲ證據書ニ附記スヘシ
- 年金又ハ恩給ノ領收證書ニハ年額及受領者ノ資格ヲ示シ遺族ノ受領ニ係ルモノハ其ノ權利ノ起因ヲ附記スヘシ
- 第二十六條 旅費ノ領收證書若ハ精算證書ニハ其ノ用途及旅行ノ年月日、日數、路程、汽車船賃、宿泊地等ヲ記載シタル仕譯書ヲ添付スヘシ但シ領收證書又ハ精算證書ニ附記シテ仕譯書ヲ省略スルコトヲ得
- 旅行中迂路ヲ經過セシモノ病氣滞在其ノ他ノ事故ニ因リ特ニ日數ヲ要シタルモノ又ハ實費拂ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ事由ヲ記載スヘシ
- 第二十七條 渡切經費ニ付テハ最初支出證明ノ際其ノ領收證書ニ支給額決定ノ基礎ヲ明ニシタル仕譯書ヲ添付スヘシ爾後支給額ヲ増減シタルトキ亦同シ
- 會計検査院ノ承認ヲ經タルモノハ前項ノ仕譯書ヲ省略スルコトヲ得
- 第二十八條 工事、製造及物件ノ買入、借入其ノ他ノ契約

- 一 二付一般競争ニ付シタルモノハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
- 二 契約ニ關スル決議書類
- 三 公告書案但シ公告ノ方法及公告期間ヲ短縮シタルモノハ其ノ事由ヲ附記スヘシ
- 四 豫定價格調書及其ノ算出ノ基礎ヲ示セル書類
- 五 一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書
- 六 前項ノ規定ハ指名競争ニ付シタル契約ニ付之ヲ準用ス
- 七 第二十九條 競争ニ付スルモノ入札者ナク又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナク若ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ競争ニ付シタルトキハ尙前回ノ競争ニ關スル書類若ハ其ノ概要ヲ記載シタル調書ヲ添付スヘシ
- 八 前項ノ場合ニ於テ隨意契約ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ證據書ニ附記シ尙競争ニ關スル書類ヲ添付スヘシ
- 九 第三十條 五千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ三千圓ヲ超ユル財産ノ買入若ハ賃借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超ユル物件ノ借入及二千圓ヲ超ユル其ノ他ノ契約ニシテ一般競争ニ付セサルモノハ決議書類ヲ添付シ其ノ適用シタル法令ノ條項ヲ證據書ニ附記シ尙會計規則第一百四條第一項第十九號及第二十二號ニ依リ隨意契約ヲ爲シタルモノハ其ノ必要トセル事由ヲ證據書ニ附記スヘシ
- 十 第三十一條 豫定年額又ハ總額千圓ヲ超ユル物件ノ買入、運送及勞力供給ノ請負等ニ關シ單價契約ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ契約書類ヲ最初支出證明ノ際ニ提出シ爾後支出ヲ爲シタルトキハ領收證書ニ契約書類提出ノ年月ヲ附記スヘシ
- 十一 第三十二條 貳千圓ヲ超ユル工事、製造及物件ノ買入、借入其ノ他ノ契約ニシテ變更解除又ハ違約處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類ヲ提出スヘシ

計算證明規程

- 第三十三條 三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ關スル領收證書ニハ會計規則第九十二條第一項ニ依リ監督又ハ検査シタル官吏若ハ技術者ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ但シ物品ニ付テハ證據書ニ檢收済ノ年月日ヲ附記シ調書ヲ添付スルコトヲ得
- 工事製造ノ既済部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完済前又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ヒタルモノハ其ノ領收證書ニ會計規則第九十二條第二項ニ依リ検査官吏又ハ技術者ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ
- 前項ノ部分拂ニシテ第二回以降ノ支拂ニ係ルモノナルトキハ前支拂ノ年月ヲ附記スヘシ
- 前各項ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス
- 第三十四條 總額五千圓ヲ超ユル直營工事ニ付テハ最初支出證明ノ際起工ニ關スル決議書類、設計書、仕譯書、圖面及其ノ附屬書類ヲ提出シ設計ヲ變更シタルトキハ其ノ書類ヲ提出スヘシ
- 直營工事竣功シタルトキハ竣功報告書ヲ調製シ竣功後一箇月以内ニ提出スヘシ但シ二箇年度以上ニ亘ル工事ニ在リテハ當該年度内ニ於ケル既済ノ部分ニ付竣功報告書ヲ調製シ最終支出計算書ニ添付スヘシ
- 竣功報告書ヲ提出スヘキ工事及其ノ報告書ノ様式ハ別ニ之ヲ指定ス
- 第三十五條 直營ニ係ル製造其ノ他ノ作業ニ關シテハ會計検査院ノ指定ニ從ヒ事業成績書ヲ調製シ最終支出計算書ニ添付スヘシ
- 第三十六條 請負ニ付シタル工事、製造等ニ付材料ヲ官給シ又ハ代價ヲ支拂ハスシテ物件勞力ヲ使用シタルトキハ

其ノ種類、員數及價格ヲ記載シタル仕譯書ヲ證憑書ニ添
附スヘシ但シ證憑書ニ附記シテ仕譯書ヲ省略スルコトヲ
得

第三十七條 一工事ニシテ數廉ニ分チ起工スルモノニ在リ
テハ最初支出證明ノ際大體ニ關スル計畫書若ハ目論見書
ヲ提出スヘシ

第三十八條 國有財産ヲ取得シタルトキハ之ニ對スル支出
ノ證憑書ニ國有財産臺帳登錄簿ノ年月日、物品ヲ取得シ
タルトキ又ハ運送ヲ爲サシメタルトキハ之ニ對スル支出
ノ證憑書ニ物品出納簿登記簿又ハ運送簿ノ年月日ヲ記載
シ其ノ物品出納簿ニ登記シ難キモノハ受領簿ノ年月日ヲ
記載スヘシ但シ前金拂又ハ概算拂ニ係ルモノハ其ノ完結
スヘキ期限ヲ附記スヘシ

第三十九條 諸拂戻金、缺損、補填金、償還金ノ類ハ其ノ證
憑書ニ支出ヲ要スル事由及事實ノ生シタル年月日ヲ記載
スルノ外之カ支出ノ決定ヲ爲シタル年月日ヲ附記スヘシ

第三節 資金前渡官吏ノ出納

第四十條 左ノ事項ハ前渡資金出納計算書ノ備考ニ記載ス
ヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ説明ヲ添附スヘシ

- 一 年度、科目其ノ他ノ更正ヲ爲スヘキモノアルトキハ
其ノ金額事由
- 二 誤拂、過渡其ノ他ノ返納ニ付處分ヲ爲スヘキモノアル
トキハ其ノ金額事由
- 三 現金ヲ亡失シ又ハ缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキ
ハ其ノ金額事由
- 四 會計規則第三百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモ
ノアルトキハ其ノ金額事由
- 五 他ノ出納官吏ト現金ノ受授ヲ爲シタルモノアルトキ

ハ其ノ氏名及金額

第四十一條 最終前渡資金出納計算書提出ノ際既算拂ノ精
算ニ至ラサルモノノ前金拂ニ係ル工事、製造又ハ物件ノ
買入若ハ運送ニシテ完了ニ至ラサルモノ、領收證書ノ到
達セサルモノ、年度科目其ノ他ノ誤謬ニシテ處分未済ニ
係ルモノ、支拂殘額ノ返納ヲ了セサルモノアルトキハ其
ノ事由及完結スヘキ期限ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ
最終前渡資金出納計算書提出ノ際振出小切手ニ對シ日本
銀行ニ於テ支拂未済ノモノアルトキハ振出日附、番號、
科目、金額及債主名ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ
最終前渡資金出納計算書提出ノ後年度、科目其ノ他ノ誤
謬ヲ發見シタルトキハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ
前各項ノ事項ハ完結ニ從ヒ其ノ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ報告
スヘシ

第四十二條 前渡資金出納計算書ニハ會計規則第三百十八
條ニ依リ檢定書ヲ添附スヘシ

第四十三條 證憑書トシテ提出スヘキモノニ付テハ第二節
ノ規定ヲ準用ス

第四章 國庫金運用

第四十四條 國庫金ノ運用ヲ管掌スル官吏ハ第四號書式又
ハ第五號書式ニ依リ毎月運用計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ
添ヘ翌月末日限之ヲ提出スヘシ但シ會計檢査院ノ承認ヲ
經タルモノハ一年一回又ハ數回ニ提出スルコトヲ得

第四十五條 國庫金運用ノ計畫ヲ決定シタルトキハ當月分
ノ計算書ニ之カ決議書類ヲ添附スヘシ其ノ計畫ヲ變更シ
タルトキ亦同シ

第四十六條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一 證券類ノ應募、引受又ハ買入等ヲ爲シタルトキハ其
ノ決議書類

二 大藏省證券類ヲ發行シ又ハ一時借入ヲ爲シタルトキ
ハ其ノ必要ノ事由ヲ記載シタル決議書類

三 貸付又ハ用途指定ノ預入ヲ爲シタルトキハ其ノ決議
書及契約書類

四 證券類ヲ賣却シ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ之ヲ拂出シ
若ハ地金類ヲ賣買シタルトキハ其ノ關係書類

五 貨幣類ノ價格差増減其ノ他ノ損益ニ對シテハ算出ノ
基礎ヲ認ムヘキ書類

證憑書類ハ會計檢査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ
又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第五章 國債

第四十七條 國債事務ヲ管掌スル官吏ハ第六號書式ニ依リ
毎月國債増減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月末日限
之ヲ提出スヘシ

第四十八條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

- 一 證券ヲ發行シタルモノニ在リテハ監督官吏ノ調製シ
タル證券發行濟確認書但シ交付公債ニ在リテハ證券
ノ領收證書
- 二 借入金ヲ爲シタルモノニ在リテハ其ノ決議書及契約
書類
- 三 甲種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ監督官
吏ノ調製シタル登錄濟確認書
- 四 鐵道ノ買収其ノ他代價ノ爲公債ヲ發行シタルモノニ
在リテハ其ノ決議書類及發行額算定ノ基礎ヲ認ムヘ
キ一切ノ書類

證憑書類ハ會計檢査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ
計算證明規程

又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第四十九條 證憑書類ハ國債ノ種類毎ニ區分シテ之ヲ編纂
シ表紙ニ其ノ金額紙數ヲ記載スヘシ證憑書未到達ノモノ
アルトキハ其ノ旨ヲ表紙ニ記載シ爾後到達ニ從ヒ別ニ區
分編纂シテ之ヲ提出スヘシ

第六章 現金出納

第一節 通則

第五十條 收入官吏ハ第七號書式、歳入歳出外現金出納官
吏ハ第八號書式、繰替拂出納官吏ハ第九號書式ニ依リ現
金出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ左ノ期限ニ從ヒ之
ヲ提出スヘシ

一 月證明ニ屬スルモノハ翌月十五日限

二 年證明ニ屬スルモノハ年度經過後若ハ出納官吏及出
納員交替後三十日限

出納官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之カ證明ヲ爲スコ
トヲ得此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期ヲ記
載スヘシ

分任出納官吏及出納員ニシテ特ニ計算ヲ證明スルトキハ
主任出納官吏ヲ經由スヘシ

第五十一條 現金出納計算書ニハ會計規則第三百三十八條ニ
依リ檢定書ヲ添附スヘシ

第五十二條 證憑書類ハ所屬年度毎ニ受入拂出ニ大別シ適
宜區分編纂シテ其ノ金額紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ

第五十三條 收入官吏ノ調製スヘキ收入現金出納計算書
ハ毎年度之ヲ提出スヘシ

第五十四條 左ノ事項ハ收入現金出納計算書ノ備考ニ記
載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ説明書ヲ添附スヘシ

一 現金ヲ亡失シ又ハ缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由

二 會計規則第三百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

三 拂込未済ノモノ又ハ後任官吏ニ引繼キタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第五十五條 證憑書トシテ提出スヘキモノハ日本銀行又ハ他ノ出納官吏ノ領收證書トス

第三節 歳入歳出外現金

第五十六條 歳入歳出外現金出納官吏ノ調製スヘキ歳入歳出外現金出納計算書ハ毎年度之ヲ提出スヘシ

但シ會計検査院ニ於テ特ニ指定シタルモノハ毎月又ハ年數回ニ之ヲ提出スヘシ

第五十七條 左ノ事項ハ歳入歳出外現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ

一 但シ事ノ複雑ナルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

二 現金ヲ亡失シ又ハ現金ノ缺損ニ對シ補充ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由

三 會計規則第三百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第五十八條 振出小切手ニ對シ日本銀行ニ於テ支拂未済ノモノアルトキハ其ノ振出日附、番號、種別、金額、債主名ヲ歳入歳出外現金出納計算書ノ備考ニ記載シ完結ニ從ヒ之ヲ報告スヘシ

第五十九條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一 受入ニ對シテハ其ノ金額事由ヲ證明スルニ足ルヘキ他ノ官吏ノ保證書若ハ其ノ他ノ書類

二 拂出ニ對シテハ領收證書若ハ他ノ官吏ノ保證書若ハ其ノ他ノ書類ハ別ニ之ヲ指定ス

第四節 繰替拂現金

第六十條 繰替拂出納官吏ノ調製スヘキ繰替拂現金出納計算書ハ鐵道官署ニ在リテハ毎月、逓信官署ニ在リテハ毎年度之ヲ提出スヘシ

第六十一條 左ノ事項ハ繰替拂現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ

一 但シ事ノ複雑ナルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

二 現金ヲ亡失シ又ハ缺損、補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由

三 會計規則第三百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第六十二條 振出小切手ニ對シ日本銀行ニ於テ支拂未済ノモノアルトキハ其ノ振出日附、番號、種別、金額、債主名ヲ繰替拂現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ

但シ鐵道官署ニ在リテハ毎年度最終ノ繰替拂現金出納計算書ニ限リ之ヲ記載スヘシ

前項ノ事項ハ完結ニ從ヒ之ヲ報告スヘシ

第六十三條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一 受入ニ對シテハ其ノ金額事由ヲ證明スルニ足ルヘキ他ノ官吏ノ保證書若ハ其ノ他ノ書類

二 拂出ニ對シテハ領收證書若ハ他ノ官吏ノ保證書

第七節 物品出納

第六十四條 物品會計官吏ハ第十號書式ニ依リ毎年度又ハ會計官吏交替ノ際物品出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後又ハ會計官吏交替後二箇月限之ヲ提出スヘシ

物品會計官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之カ證明ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期ヲ記載スヘシ

主任物品會計官吏ハ計算書ニ分任物品會計官吏ヨリ提出シタル報告書ヲ添付スルトキハ其ノ出納計算書併算ヲ省クコトヲ得但シ該報告書ハ計算書ノ書式ヲ準用スヘシ

分任物品會計官吏ニシテ特ニ計算ヲ證明スルトキハ主任物品會計官吏ヨリ經由スヘシ

第六十五條 物品出納計算書ハ物品ノ種類若ハ所用ノ目的ニ依リ類別シテ毎品之ヲ列記スヘシ

國有財産ニ編入セラレタル動産ニシテ國有財産増減計算書ニ品名、數量ヲ掲記シタルモノニ在リテハ物品出納計算書各類別ノ備考ニ其ノ價額ヲ記載シ毎品ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第六十六條 左ノ事項ハ物品出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ

一 但シ事ノ複雑ナルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

二 前年度ヨリノ越高ニシテ前年度末現在高二比シ異動アルモノハ其ノ事由

三 物品會計官吏物品ノ亡失毀損ニ對シ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第六十七條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一 物品ノ出納ニ關スル命令書及領收證書但シ特ニ指定スルモノヲ除クノ外他ノ官吏ノ保證書ヲ以テ代用スルコトヲ得

二 亡失毀損拂ノ物品ニ對シテハ他ノ官吏ノ認定セル品目、數量、價格及其ノ亡失毀損ノ事實ヲ記載シタル證明書、辨償ニ係ルモノハ其ノ仕譯書

三 贈與拂等ノ物品ニ對シテハ其ノ價格事由ヲ記載シタル證明書又ハ決議書

四 作業、鐵道、海軍工廠資金及鐵道用品資金所屬其ノ他ノ事業用物品ニシテ不用品ニ組換ヘタルモノアルトキハ每件其ノ事由及原價又ハ見積價格ヲ記載シタル仕譯書若ハ決議書

五 現在高二對シテハ監督ノ任アル官吏ノ保證書

一 受入地金ニ對シテハ前項ノ外左ノ書類ヲ提出スヘシ

其ノ他受入ノ事實ヲ證明スヘキ書類

二 地金拂ニ對シテハ地金領收證書其ノ他拂渡ノ事實ヲ證明スヘキ書類

三 貨幣拂ニ對シテハ日本銀行ノ貨幣拂渡報告書又ハ貨幣領收證書

四 差増減ニ對シテハ當該上官ノ認定アル主任官吏ノ證明書

五 各種地金ノ殘高二對シテハ年度末地金貸借計算表

收入印紙及郵便切手類ニ對シテハ第一項ノ外左ノ書類ヲ提出スヘシ

一 交換渡ニ對シテハ其ノ事由並種類、員數ヲ記載シタル決議書又ハ當該上官ノ認定書

二 廢棄賣藥ニ係ル拂渡ニ對シテハ賣藥營業者ノ請求書及領收證書

三 燒却拂ニ對シテハ其ノ事由並種類、員數ヲ記載シタル當該上官ノ認定書及立會官吏ノ證明書

四 保管轉換及返納等ノ爲他ノ會計官吏トノ間ニ受拂ヲ爲シタルモノニ對シテハ其ノ科目及種類毎ニ官署名數量ヲ記載シタル明細書

第六十八條 證憑書類ハ受拂ニ大別シ物品出納計算書ニ掲クル區畫ニ從ヒ品目毎ニ區分編纂シ其ノ表紙ニ數量並價格ノ合計及證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但シ一品目ノ證憑書僅少ナルモノハ計算書ニ掲クル品目ノ順次ニ從ヒ合綴スルモ妨ナシ

一ノ證憑書中數種ノ品目ヲ混記セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其ノ表紙ニ品目ノ數量價格合計ヲ記載スヘシ

第八章 國有財產

第六十九條 各省大臣又ハ國有財產ニ關スル事務ヲ分掌スル部局長ハ第十一號書式ニ依リ毎三箇月間ニ於テ國有財產増減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月末日限之ヲ提出スヘシ但シ會計検査院ノ承認ヲ經タルモノハ一年一回又ハ二回ニ提出スルコトヲ得

第七十條 國有財產増減計算書ハ財產ノ種類ニ應シ其ノ用途又ハ目的ニ依リ類別シ種目毎ニ列記スヘシ

第七十一條 毎年度最終ノ國有財產増減計算書ニハ別ニ指定スル明細書ヲ添附スヘシ

第七十二條 證憑書類トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

- 一 國有財產ノ種類ヲ變更シタルモノアルトキハ其ノ事由ヲ明ニシタル關係書類
- 二 國有財產ノ減失シタルモノアルトキハ其ノ事由ヲ明ニシタル調書
- 三 無償ヲ以テ國有財產ヲ得喪シタルモノアルトキハ其ノ決議書、契約書其ノ他ノ關係書類
- 四 公債ノ發行ニ依リ國有財產ヲ取得シタルモノアルトキハ其ノ決議書及價格算定ノ基礎ヲ認ムヘキ一切ノ書類
- 五 交換ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ決議書、契約書

價格評定ニ關スル調書其ノ他ノ關係書類但シ價格評定調書ニハ相互ノ地位及隣接地ノ狀況ヲ明ニシタル圖書ヲ添附スヘシ

六 出資ノ目的ト爲シタルモノアルトキハ其ノ決議書類及出資額算定ノ基礎ヲ認ムヘキ一切ノ書類

七 無償ヲ以テ貸付、準貸付、保管、委託又ハ部分林ト爲ス等ノ契約ヲ締結シタルモノアルトキハ其ノ用途ヲ明ニシタル決議書類但シ決議書類ニハ其ノ適用シタル法令ノ條項ヲ附記スヘシ

八 賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ決議書、契約書其ノ他ノ關係書類

九 前各號中ノ契約ニシテ變更解除ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類

第七十三條 前條ノ證憑書類ハ會計検査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第九章 日本銀行

第七十四條 日本銀行ハ第十三號書式ニ依リ毎月國庫金出納及政府有價證券受拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月末日限之ヲ提出スヘシ

第七十五條 政府ノ爲ニ取扱フ現金又ハ有價證券ノ出納保管ニ關シ損害ヲ生シタルモノアルトキハ其ノ事實ヲ記載シタル報告書ヲ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ損害ニ對シ賠償又ハ其ノ他ノ處理ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ顛末ヲ報告スヘシ

第七十六條 毎月國庫金出納及政府有價證券受拂計算書ニハ左ニ掲クル明細書ヲ添附スヘシ

- 一 國債ノ發行ニ依リ收入金受拂明細書 第十四號書式

二 國債應募拂込金延滞ニ因リ失効高明細書 第十五號書式

三 國債元利拂資金受拂明細書 第十六號書式

前項第一號ノ明細書ニハ外國貨幣ヲ以テ領收シタルモノアルトキハ其ノ種類員額ヲ備考ニ記載スヘシ

第一項第三號ノ明細書ニハ年度、科目其ノ他ノ更正ヲ爲スヘキモノ、誤拂、過渡ニシテ其ノ處分ヲ爲スヘキモノ、時効ノ中斷又ハ停止アリタルモノニ對シ支拂ヲ爲シタルモノ及政府ニ對シ損害ノ賠償ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ金額事由ヲ備考ニ記載スヘシ

第七十七條 毎年度五月分國庫金出納及政府有價證券受拂計算書ニハ第十七號書式ニ依リ調製シタル前年度所屬歳入金歳出金出納明細書ニ添附スヘシ

前項ノ明細書提出ノ後年度、科目其ノ他ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ其ノ都度金額事由ヲ記載シタル報告書ヲ提出スヘシ

第七十八條 證憑書類トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

- 一 歳入金、歳出金、預託金ノ受拂及歳出支拂未済繰越金ノ支拂ニ對シテハ當該官吏ノ證明ヲ受ケタル月計突合表及受合表
- 二 預金部資金ノ受拂ニ對シテハ當該官吏又ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏ノ證明ヲ受ケタル月計突合表及受合表
- 三 隔地拂資金振替金ノ受拂ニ對シテハ債主ノ領收證書及統轄店又ハ取經郵便局ノ證明ヲ受ケタル突合表但シ領收證書ハ會計検査院ノ指定ニ從ヒ提出スヘシ
- 四 國債ノ發行ニ依リ收入金ノ出納ニ對シテハ大藏大臣命令ノ謄本、應募申込書及應募保證金還付ノ領收證書

計算證明規程

書但シ應募申込書及應募保證金還付ノ領收書ハ會計検査院ノ指定ニ從ヒ提出スヘシ

五 國債ノ應募額募集額ニ超過シタルモノアルトキハ其ノ割當方法決定ニ關スル書類

六 國債元利金ノ支拂ニ對シテハ大藏大臣令達ノ謄本、監督官廳ノ保證アル支拂濟證券調書、支拂濟利賦札調書又ハ領收證書

七 大藏大臣ノ令達ニ依リ受拂ヲ爲シタルモノニ對シテハ其ノ令達ノ謄本

八 前各號以外ノ國庫金ノ受拂ニ對シテハ命令書、通知書、領收證書其ノ他ノ關係書類

九 有價證券ノ受拂ニ對シテハ當該官吏又ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏ノ證明ヲ受ケタル月計突合表及受拂計算表

證憑書類ハ會計検査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第七十九條 證憑書類ハ分類編纂シ其ノ金額紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ

第十章 團體諸營造其ノ他ノ決算

第八十條 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ受クル團體及諸營造並法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタルモノクハ第十八號書式ニ依リ毎年度收支計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ公共團體ニ在リテハ出納閉鎖期經過後一箇月其ノ他ニ在リテハ決算期經過後三箇月限之ヲ提出スヘシ但シ會計検査院ノ承認ヲ經商法第百九十九條ニ依リ書類ヲ以テ計算書ニ代用スルコトヲ得

第八十一條 收支計算書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ但シ會計検査院ノ指定シタルモノハ別ニ之ヲ提出スヘシ

會計

- 一 補助金又ハ特約保證ニ關スル申請書、命令書及計畫書
 - 二 命令書ノ定ムル所ニ依リ特ニ政府ノ許可又ハ認可ヲ經テ更正セラレタルモノアルトキハ其ノ書類收支豫算書
 - 三 公共團體ニ在リテハ決算報告書會社ニ在リテハ商法第百九十九條ニ依ル書類其ノ他ニ在リテハ決算明細書及財產目錄
 - 四 補助又ハ特約保證ニ對シテハ前項ノ外各書類ヲ添附スヘシ
 - 一 災害土木費補助ニ在リテハ一位單價表及工事箇所別明細書
 - 二 關東州地方費ニ在リテハ水道電氣其ノ他之ニ類スル事業ノ損益仕譯書
 - 三 航路補助ニ在リテハ各航路別收支明細書
 - 四 南滿洲鐵道株式會社ニ在リテハ諸勘定内譯書
 - 五 鐵道補助ニアリテハ收支計算書附屬仕譯書
 - 六 第八十二條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ
 - 一 契約書、決議書其ノ他收支ノ事實ヲ證明スヘキ書類但シ會計検査院ノ指定ニ從ヒ之ヲ提出スヘシ
 - 二 工事ノ補助ニ在リテハ前號ノ外設計書、圖面、直營工事ニ係ル竣功報告書、竣功認定及殘餘金處分ニ關スル書類但シ竣功報告書ニ付テハ第三十四條ノ規定ヲ準用ス
- 本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正十一年三月以前ノ月證明並大正十年度以降ノ年證明ニ係ルモノハ從前ノ規程ニ依ル

(書式別冊 三六)

計算證明規程ノ改正ニ伴ヒ提出ヲ要スル明細書等ノ件

大正十一年五月三十一日
山第九二六號山林局長通牒

計算證明規程ノ改正ニ伴ヒ會計検査院ニ提出ヲ要スル明細書等別紙ノ通指定セラレタルニ付右ニ了知相成度此段及通牒候也

(別紙)

- 指定事項
- 一 計算證明規程ニ依リ計算書ニ添附スヘキ明細書及竣功報告書左記ノ通
 - 一 歳入徴收額計算書附屬明細書
 - 二 國有財産増減計算書附屬明細書
 - 三 建築工事竣功報告書(一廉一萬圓以上ノ工事)
 - 四 土木工事竣功報告書(同上)
- (別紙)
(大正十一年送第二八〇號會計検査院長ヨリ本省大臣宛指定)
計算證明規定ノ改正ニ伴ヒ提出ヲ要スル明細書等別紙ノ通指定ス
- 指定事項
- 一 計算證明規程ニ依リ計算書ニ添附スヘキ明細書事業成績書及竣功報告書左記ノ通

- 一 歳入徴收額計算書附屬明細書
 - 二 國有財産増減計算書附屬明細書
 - 三 官行研伐事業成績書
 - 四 製材事業成績書
 - 五 國有林野造林及公有林野官行造林事業成績書
 - 六 建築工事竣功報告書(一廉一萬圓以上ノ工事)
 - 七 土木工事竣功報告書(同上)
- (書式別冊 三七)

國有林野損害賠償取扱手續

明治四十一年六月
林第三九九三號本省内訓
大林區署

國有林野損害賠償手續左ノ通心得ヘシ
右内訓ス

- 第一條 國有林野ノ損害ニ就テハ直接加害者ニ對シ其賠償ヲ要求スヘシ加害者其要求ニ應セサルトキハ公訴附帶ノ私訴若クハ別ニ訴訟ヲ提起シテ權利ノ確定ヲ求メ債權行使ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二條 前條ノ損害ニ對スル債權ハ左記各號ノ一ニ該當シ辨濟ヲ得ル能ハサル場合ニ於テ他ニ影響ノ虞ナキトキハ經伺ノ上其ノ全部若クハ一部ヲ拋棄スルコトヲ得但債權額百圓ヲ超エサルモノニ在リテハ經伺ヲ要セス處分スヘシ
- 一 加害者ノ資力ヲ以テ債權ノ全部又ハ一部ヲ辨濟スルニ足ラス且他ニ助力者ナキトキ

計算證明規程ノ改正ニ伴ヒ提出ヲ要スル明細書等ノ件

(樣式別冊 三八)

- 二 加害者ノ財産ヲ以テ訴訟費用及執行費用ヲモ償フコト能ハスト認メタルトキ
- 前項ノ債權額三百圓ヲ超ユルモノニシテ債權ヲ證スル書類アルモノハ成ルヘク森林收入未納金整理手續ニ準シ之ヲ處理スヘシ
- 第三條 前條ニ依リ拋棄シタル債權ハ第一號樣式ノ帳簿ヲ設ケ之ニ記入シ毎會計年度末現在ヲ第二號樣式ニ依リ四月十五日限リ報告スヘシ

附則

本手續ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十六年六月戊第一〇四號内訓ハ本手續施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

國有林野損害賠償取扱手續

第六編
雜
纂

（此處為極淡之印文，內容難以辨識，可能為目錄或序言之殘留）

（此處為極淡之印文，內容難以辨識，可能為正文之殘留）

第六編 雜纂 目次

一 森林法

- 森林法……………(明治四、法四三)…六三三
- 沖繩縣ニ森林法施行ノ件……………(明治四、勅六)…六四二
- 森林法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件……………(大正二、勅六四)…六四三
- 森林法施行規則……………(明治四、農令三)…六四三
- 森林法施行手續……………(明治四、農訓三〇)…六四七
- 森林法施行規則第一條ニ依ル公園指定……………六五一
- 改正森林法施行ニ付取扱方ノ件……………(明治四、林三七三通牒)…六五二
- 御料地又ハ國有地ノ上ニ存在スル部分林ニ對シ
森林法適用ノ件……………(明治四、農令三)…六五二
- 國有林野中治水上重要ナル區域ヲ保安林編入ノ
件……………(大正三、林二四九通牒)…六五二
- 國有林ニ對スル森林法適用方ノ件……………(明治四、林三五四通牒)…六五三
- 國有林野經營ニ關シ治水上必要ナル事項注意ノ件……………(明治四、林三三三通牒)…六五三

- 擇伐法ニ關スル件……………(明治四、山八三三通牒)…六五三
- 國有林野經營上立木竹ヲ拂下タルモノハ森林所
有者ニアラサル件……………(明治四、林三三三三通牒)…六五三
- 不要存置林野ヲ保安林ニ編入取扱方ノ件……………(明治四、山五三三通牒)…六五四

二 營林指導獎勵

- 民有林營林ノ指導ニ關スル件……………(昭和七、林四三三三通牒)…六五五
- 造林用種子拂下規則……………(前掲)…一九二

三 農村工業

- 農村工業獎勵規則……………(昭和一〇、農令三〇)…六五七
- 農村工業獎勵金交付申請書並報告書添附書類ニ
關スル件……………(昭和一〇、更部一〇四四通牒)…六五八

四 森林警察

- 林野火入ニ關スル件……………(明治七、農訓一四)…六六一
- 林野火入取締ノ件……………(明治七、五三三三通牒)…六六一
- 林野火入許可取扱方ノ件……………(明治四、林四〇三三三通牒)…六六一
- 公有林野火入ノ件……………(明治四、林五八九三三三通牒)…六六一
- 森林法ニ於ケル火入ト放火トノ區別ノ件……………六六一

- 森林火災取締方ニ關スル件 (大正六、山三九回答) …… 六二二
- 失火ノ責任ニ關スル法律…………… (明治三三、法四〇) …… 六二二
- 司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件…………… (大正二、勅五二八) …… 六二二
- 司法警察職務規範…………… (大正二、刑事二〇九訓令) …… 六二五

五 狩 獵

- 狩獵法…………… (大正七、法三二) …… 六二八
- 狩獵法施行規則…………… (大正八、農令二八) …… 六二八
- 引拔銃身ノ空氣銃ニ關スル件…………… (昭和五、農令八) …… 六二八
- 狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證、禁獵區ノ木標又ハ制札、銃獵禁止區域ノ制札及獵區管理者又ハ巡守ノ携帶スヘキ證票雛形…………… (大正八、農告三〇) …… 六二八
- 狩獵法施行ニ關スル内訓ノ件 (大正八、農二〇三内訓) …… 六二九
- 皇族遊獵ノ件…………… (明治三三、丙三九内訓) …… 六二九
- 外國皇族狩獵ノ義ニ付内訓ノ件 (明治七、農二六内訓) …… 六二九
- 帝國ニ駐在スル外國ノ大使、公使、領事官等ニ關スル狩獵免許ノ件…………… (大正八、農二八六内訓) …… 六二九
- 密獵取締ニ關スル件…………… (明治四三、農發一四五通牒) …… 六二九
- 牛馬商免許、狩獵免狀ノ下付及家畜市場仲立業者ノ認可ニ關シ通牒ノ件…………… (大正元、農九六五通牒) …… 六二九
- 狩獵事務ヲ擔當スル技手任用ニ關スル件 (大正八、農二一〇通牒) …… 六二九
- 同 件…………… (大正一〇、農八三九七通牒) …… 六二九
- 同 件…………… (大正三、農一〇三〇通牒) …… 六二九
- 同 件…………… (昭和七、畜三九七通牒) …… 六二九
- 狩獵免狀及鳥獸捕獲許可證ノ亡失ニ關スル件 (大正一〇、農八七五通牒) …… 六二九
- 國有林野内ニ於ケル有害鳥獸驅除ニ關スル件 (大正一〇、農一六三七通牒) …… 六二九
- 有害鳥獸驅除ニ關スル件…………… (大正九、農一三九六通牒) …… 六二九
- 有害鳥獸驅除ニ關スル件…………… (昭和三、畜八〇五七通牒) …… 六二九
- 國設禁獵區内ニ於ケル有害鳥獸驅除ニ關スル件 (昭和三、畜三三九通牒) …… 六二九
- 狩獵法ト國立公園トノ關係ニ關スル件 (昭和九、畜二六五〇通牒) …… 六二九
- 狩獵法ト國立公園法トノ運用ニ關スル件 (昭和二〇、林三七四通牒) …… 六二九
- 鳥獸捕獲許可ニ關スル件…………… (昭和四、畜四八九通牒) …… 六二九
- 狩獵免許者ニ依ル鳥獸捕獲數調ノ件 (大正八、山二八四通牒) …… 七〇五
- 有害鳥獸ノ驅除取締方ニ關スル件 (大正八、山二八四通牒) …… 七〇五
- 有害鳥獸ノ種類認定方ニ關スル件 (大正八、山二八四通牒) …… 七〇五
- 國有林野有害鳥獸種類認定ノ件 (大正九、山九七通牒) …… 七〇六
- 國有林野有害鳥獸種類限定ノ件 (大正一〇、山一六七三通牒) …… 七〇六
- 府縣市町村等ガ獵區設定申請ノ場合協議方ノ件 (大正二、山九通牒) …… 七〇六
- 有害鳥獸捕獲報告ニ關スル件 (昭和五、山五八通牒) …… 七〇七
- 銃砲火藥類取締法…………… (明治四三、法五三) …… 七〇七
- 銃砲火藥類取締法施行規則…………… (明治四四、勅一六) …… 七〇九

- 狩獵法令違反及銃器使用ニ依ル狩獵ニ因リ生シタル過失殺傷調ノ件…………… (昭和二、畜四四照會) …… 六二七
- 狩獵統計報告ニ關スル件…………… (昭和六、畜六三〇通牒) …… 六二七
- 狩獵取締費ニ關スル件…………… (大正二、農九四三通牒) …… 六二八
- 狩獵取締費中雜費増額申請ニ關スル件 (昭和九、畜五七八通牒) …… 六二八
- 狩獵取締費豫算中雜費ノ支途等報告ニ關スル件 (昭和二、山四二通牒) …… 六二九
- 雉ノ人工蕃殖成績ニ關スル件 (昭和五、畜二六五七通牒) …… 七〇〇
- 狩獵鳥獸棲息概況ニ關スル件 (昭和五、畜五七〇通牒) …… 七〇〇
- 鳥獸愛護思想普及ニ關スル映畫貸付ノ件 (昭和六、畜五〇五〇通牒) …… 七〇〇
- 獵友會調査方ニ關スル件…………… (昭和三、畜四三三照會) …… 七〇一
- 狩獵免許稅徵收等ニ關スル件 (大正三、藏二三五回答) …… 七〇一
- 狩獵免狀下付ニ關スル件…………… (昭和二、畜四〇〇通牒) …… 七〇二
- 狩獵免許稅下戻ニ關スル件…………… (昭和四、畜四〇九回答) …… 七〇三
- 外國人ニ對スル狩獵免狀下付ニ關スル件 (大正二五、畜二八九回答) …… 七〇三

六 國立公園、史蹟名勝、天然紀念物

- 國立公園法…………… (昭和六、法三) …… 七二七
- 國立公園法施行令…………… (昭和六、勅二四二) …… 七二九

- 國立公園法施行規則……………(昭和六、內令三五)……七三〇
- 國立公園指定告示…………………………七三四
- 國立公園法ノ運用ニ關スル件……………(昭和六、林四三〇回答)……七六六
- 風景保護ニ關スル件……………(昭和七、林五七五通牒)……七六七
- 國立公園候補地内ニ於ケル國有林野ノ貸付使用……………(昭和八、山四三三通牒)……七六八
- 狩獵法ト國立公園法トノ運用ニ關スル件……………(前掲)……六九五
- 史蹟名勝天然紀念物保存法……………(大正八、法四四)……七六八
- 史蹟名勝天然紀念物保存法施行令……………(大正八、勅四九九)……七六九
- 史蹟名勝天然紀念物保存法施行規則……………(大正八、內令三七)……七七〇
- 史蹟名勝天然紀念物保存上林木ノ伐採ヲ要スル等ノ場合申報ニ關スル件……………(大正三、山三三四通牒)……七七〇
- 寺院佛堂境内官有地木竹管理規則……………(明治三六、內令二)……七七〇

七 道路、河川、砂防

- 道路法……………(大正八、法五〇)……七七三
- 道路法施行令……………(大正八、勅四六〇)……七七九
- 道路構造令……………(大正八、內令二四)……七八二

八 鑛業、電氣事業

- 鑛業法……………(明治三六、法四五)……七九九
- 砂鑛法……………(明治三三、法一三)……八〇九
- 鑛業法ニ依ル使用取扱方ノ件……………(明治三九、林三五五內訓)……八二一
- 鐵道財團、工場財團及鑛業財團ヲ組成スル爲國有林野ノ賃借人ヨリ其ノ承諾ヲ求メタル場合取扱方ノ件……………(前掲)……二一九

- 電氣事業法……………(昭和六、法六一)……八二二
- 電氣事業法施行令……………(昭和七、勅三五四)……八二六
- 發電水力事業ト國有林ニ關スル通牒……………(前掲)……二一九以下

九 牧野

- 牧野法……………(昭和六、法三七)……八二八
- 牧野法施行令……………(昭和六、勅二六五)……八三〇
- 牧野法施行規則……………(昭和六、農令二六)……八三二
- 牧野法施行並森林法施行規則改正ニ關スル件……………(昭和六、畜二四四二通牒)……八三四
- 國有林野中牧野改良事業ノ同意ニ關スル件……………(昭和六、山四九三六通牒)……八三五
- 牧野改良獎勵規則……………(昭和六、農令二八)……八三五
- 國有林野畜産供用地ニ關スル例規……………(前掲)……三二以下

十 耕地整理

- 耕地整理法……………(明治四三、法三〇)……八三八
- 耕地整理法施行規則……………(明治四三、農令三九)……八四六
- 耕地整理地取扱手續……………(明治四三、大藏訓三八)……八五九

十一 規格

- 木材規格……………(大正二五、商告三〇)……八六九
- 木炭規格……………(昭和四、商告一三)……八八〇
- 潤葉樹製材規格……………(前掲)……二〇七

十一 地租

○地租法……………(昭和六、法三六)……八八二
 ○地租法施行規則……………(昭和六、勅四七)……八九一

追 録

○營林局及營林署所屬船舶ノ旗章(昭和二〇、農告四〇八)……八九五
 ○勞働者災害扶助法施行令第三條第二項第六號ノ疾病(昭和二〇、內告五九九)……八九五
 ○國有林野造林臺帳規程……………(昭和二、農訓一)……八九五
 ○國有林野土木臺帳規程……………(昭和二、農訓二)……八九六
 ○營林局署所屬船舶乘組員旅費規則(昭和二、林七九達)……八九七

第六編 雜 纂

一 森林法

森林法

明治四十年四月二十三日
 法律第四十三號

(改正) 明治四十四年六月法律第七五號

第一章 總 則

第一條 森林ハ其ノ所有者ニ依リ之ヲ分チテ御料林、國有林、公有林、社寺有林及私有林トス
 前項ノ種別ニ依リ難キ森林ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ適用ス
第二條 森林ノ立木竹ヲ所有スル爲地上權、賃借權其ノ他土地ニ關シ使用又ハ收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ權利者ヲ以テ本法ニ依ル森林所有者ト看做ス
 前項ノ權利二箇以上同一ノ土地ノ上ニ存在スル場合ニ於テハ最後ニ設定セラレタル權利ヲ有スル者ヲ以テ前項ノ森林所有者トス
第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ
第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ權利義務ハ森林若ハ森林立木竹又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ權利ニ其ノ承繼人ニ移轉ス
第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲

森林法

シタル手續其ノ他ノ行爲ハ森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第六條 民法第二百五十六條ノ規定ハ共有ノ森林ニ之ヲ適用セス但シ各共有者持分ノ價格ニ從ヒ其ノ過半數ヲ以テ分割ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第七條 公園、社寺境内及命令ヲ以テ定ムル土地ニ付テハ本法ヲ適用セス但シ命令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ書類ヲ送付スヘキ場合ニ於テ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ官報又ハ行政廳慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ送付アリタルモノト看做ス

第二章 營林ノ監督
第九條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ公共團體又ハ社寺ノ代表者ヲシテ森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付施業案又ハ施業要領ヲ定メ其ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ施業案又ハ施業要領ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ地方長官ニ於テ施業ノ方法ヲ指定スルコトヲ得
 前項指定ノ方法ニ違反シ伐木ヲ爲シタル者ニハ地方長官其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十五條 第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 前條第二項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者造林ヲ怠リタルトキハ行政官廳ニ於テ自ラ義務者ノ爲スヘキ

六三三

行爲ヲ爲シ又ハ公共團體ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
前項造林ニ要シタル費用ハ行政官廳ニ於テ國稅徵收法ノ
例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十二條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ
造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林
シタル部分ニ限リ三十年以内地租ヲ免スルコトヲ得
前項ノ規定ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場
合ニ之ヲ準用ス

第十三條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニ付地方長官ハ土
地ノ狀況ニ依リ箇所及期間ヲ指定シ落葉、落枝、柴草、
土石、樹根、草根、切芝ノ採取若ハ採掘ニ關スル制限又
ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ左ニ掲グル場合ニ於テ森林ヲ保安林
ニ編入スルコトヲ得
一 土砂ノ壞崩、流出ノ防備ノ爲必要ナルトキ
二 飛砂ノ防備ノ爲必要ナルトキ
三 水害、風害、潮害ノ防備ノ爲必要ナルトキ
四 類雪又ハ墜石ニ因ル危險ノ防止ノ爲必要ナルトキ
五 水源涵養ノ爲必要ナルトキ
六 魚附ノ爲必要ナルトキ
七 航行ノ目標ノ爲必要ナルトキ
八 公衆ノ衛生ノ爲必要ナルトキ
九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ノ爲必要ナルトキ

第十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ保
安林トシテ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ保安林ヲ
解除スルコトヲ得

第十六條 保安林ノ編入解除ハ其ノ森林所在ノ府縣市町村
又ハ之ニ準スヘキ者其ノ他直接利害ノ關係ヲ有スル者ヨ
リ地方長官ヲ經由シ主務大臣ニ申請スルコトヲ得
前項ノ申請ニ係ル森林ニ付不編入又ハ不解除ノ處分アリ
タルトキハ實地ノ狀況ニ著シキ變更ヲ生シタル場合ニ非
サルハ同一理由ニ依リ再ヒ之ヲ申請スルコトヲ得ス

第十七條 保安林ノ編入解除ノ申請アリタル場合ニ於テ前
條第一項ノ條件ヲ具備セス又ハ同條第二項ノ規定ニ違反
シタルモノト認ムルトキハ地方長官ハ申請書ヲ却下スル
コトヲ得

第十八條 保安林ノ編入解除ヲ爲サムトスルトキ又ハ地方
長官其ノ申請ヲ受理シタルトキハ地方長官ニ於テ其ノ旨
ヲ森林所有者、土地所有者其ノ他土地ニ付登記シタル權
利ヲ有スル者ニ通知シ且慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ
森林所在ノ市町村役場ニ之ヲ揭示スヘシ

第十九條 地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十條 第十八條ノ告示ニシテ保安林編入ニ關スルモノ
ナルトキハ其ノ告示ノ日ヨリ第二十三條ノ告示ノ日迄其
ノ森林ニ於テ木竹ノ伐採、開墾又ハ土石、切芝、樹根、
草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但シ地方長
官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有
スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十八條ノ告示ノ
日ヨリ二十五日以内ニ意見書ヲ地方長官ニ提出スルコト
ヲ得

第二十二條 地方長官ハ保安林ノ編入解除ニ關スル地方森
林會ノ決議書其ノ他ノ關係書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ主務
大臣ニ差出スヘシ但シ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ委任
ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處
分ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシ
テ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場
ニ揭示セシムヘシ

第二十四條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有
スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ訴訟
ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタルトスル
トキハ前條告示ノ日ヨリ六十日以内ニ行政訴訟ヲ提起ス
ルコトヲ得

第二十五條 地方長官ニ於テ保安林ノ編入ニ關シ必要アリ
ト認ムルトキハ其ノ森林ニ於ケル木竹ノ伐採ヲ停止スル
コトヲ得但シ其ノ停止期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス
前項ニ依リ木竹ノ伐採ヲ停止セラレタル森林ト雖保育ノ
爲必要ナルトキ又ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ地
方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

第二十六條 保安林ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サ
レハ木竹ノ伐採、傷害、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草
根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲シ又ハ家畜ヲ放牧スルコト
ヲ得ス

第二十七條 主務大臣ハ保安林ノ所有者ニ對シ前條ノ外其
ノ使用收益ヲ制限若ハ禁止シ又ハ施業若ハ保護ノ方法ヲ
指定スルコトヲ得

第二十八條 木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル保安林ノ所有者
又ハ立木竹ノ所有者ハ之ニ因リテ生シタル直接ノ損害ニ
限リ其ノ補償ヲ求ムルコトヲ得
前項保安林ノ所有者カ前條ノ指定ニ依リ造林ヲ爲シタル
トキハ其ノ造林ノ費用ハ前項ノ損害ト看做ス

第二十九條 前條第三項ニ依リ政府ノ補償金額ニ付不服ア
ル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内
ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ第二十八條第一項
ニ依リ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ
拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第三十一條 國有地ノ上ニ存在スル森林ニシテ保安林ニ編
入セラレタルトキハ政府ハ其ノ借地料ヲ免ス

第三十二條 主務大臣國土保安上必要アリト認ムルトキハ
保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限
又ハ禁止スルコトヲ得

第三十三條 第二十六條ノ規定ニ違反シ、第二十七條又ハ
保安林トシテ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ保安林ヲ
解除スルコトヲ得

前條ノ制限、禁止若ハ指定ニ違反シタル者アルトキハ地方長官ハ造林其ノ他復舊ニ必要ナル行為ヲ命スルコトヲ得

第三十四條 第十一條ノ規定ハ前條ニ依リ造林ノ命令ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 保安林ノ編入解除ニ關スル調査及國土保安ニ關シ地方長官ノ行フ調査ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ北海道ニ於テハ北海道地方費、沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第三十六條 主務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ原野、山岳其ノ他ノ土地ニシテ第十四條第一號乃至第五號ノ場合ニ該當スルモノニ付本章ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第三十七條 第十八條第二項、第二十八條乃至第三十條ノ規定ハ御料林及國有林ニ之ヲ適用セス

第三十七條ノ二 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本章ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第四章 土地ノ使用及收用

第三十八條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第四十條第二項ニ依ル通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第三十九條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第四十條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ノ使用ニ係ルトキハ當該官廳ハ之ヲ地方長官ニ協議スヘシ

地方長官ハ前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議調ヒタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第一項ニ依リ土地ヲ使用セムトスル者ハ前項通知ノ後其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議スヘシ

第四十一條 前條第二項ノ通知後一箇年以内ニ同條第三項ノ協議ヲ爲ササルトキハ同條第一項ノ許可及協議ハ其ノ效力ヲ失フ第五十五條第一項ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求メサルトキ亦同シ

第四十二條 土地ノ使用三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十三條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十四條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十五條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十六條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ道路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十七條 第四十條第二項ノ通知後土地ノ形質ヲ變更シ、工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十八條 第四十條第二項ノ通知後同條第一項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十九條 土地所有者及關係人ハ土地ノ使用者若ハ收用者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得但シ土地ノ使用者若ハ收用者カ御料局、政府、府縣市町村及之ニ準スヘキモ及之ニ準スヘキモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 第五十五條第一項ノ裁決アリタルトキハ土地ノ使用者又ハ收用者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ用ウルコトヲ得但シ土地ノ使用者又ハ收用者カ御料局、政府、府縣市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ補償金ノ供託及擔保ノ提供ヲ要セス

第五十一條 前數條ニ依ル補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第五十二條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ收用者ノ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ使用ノ時期ニ於テ土地ノ使用者其ノ使用權ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ヲ妨ケサル範圍ニ制限セララルモノトス

第五十三條 土地ノ使用者其ノ使用ヲ終リタルトキハ土地ヲ原形ニ復シ又ハ原形ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第五十四條 第三十條ノ規定ハ本章ノ補償金ニ之ヲ準用ス

第五十五條 土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ヒサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ第四十條第二項ノ通知後一箇年以内ニ地方森林會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ關スルモノニ付不服アル者ハ主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ關スルモノニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 土地收用法第六十四條、第六十六條及第六十七條ノ規定ハ本章ニ依リ使用又ハ收用セラレタル土地ニ之ヲ準用ス

第五十七條 土地ノ使用、收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

第五十八條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ水流ニ於ケル他人ノ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府カ之ヲ行フトキハ地方長官ニ協議スヘシ

前項工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ因リテ損害ヲ生スヘキトキハ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十條第二項、第三項、第四十一條、第四十六條乃至第五十一條、第五十二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 流水竹ノ爲必要アル場合ニ於テハ沿岸ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ

第六十條 前數條ノ外流水竹ニ付土地又ハ水ノ使用ニ關ス

ル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第六十一條 森林又ハ森林ノ事業ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ
 第一項ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知スヘシ

第五章 森林組合

第六十二條 森林組合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ必要ナル事業ヲ爲ス爲一定ノ地區ヲ限リ之ヲ設立スルコトヲ得
 一 國土保安ノ爲又ハ森林ノ荒廢ヲ防止シ若ハ荒廢セル森林ヲ回復スル爲必要ナルトキ
 二 森林カ所有者ヲ異ニシ協同シテ施業ヲ爲スニ非サレハ其ノ利用ノ目的ヲ達スルニ困難ナルトキ
 三 森林產物ノ運搬ニ必要ナル工事ヲ爲シ又ハ之ヲ維持スル爲關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ
 四 森林ノ危害防止ニ付關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ
第六十三條 森林組合ハ營利ヲ目的トセサル社団法人トス
第六十四條 森林組合ヲ設立スルニハ定款ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
第六十五條 森林組合ノ組合員ハ其ノ地區内ニ於ケル森林ノ所有者ニ限ル
第六十六條 森林組合ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
 一 組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アリ

ルコト
 二 前號同意者ノ所有スル森林ノ面積カ地區内ニ於ケル森林ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト
第六十七條 森林組合成立シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ組合員トス但シ命令又ハ定款ニ於テ加入ノ義務ナシト定メタル者ハ此ノ限ニ在ラス
第六十八條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 目的及事業
 二 地區
 三 名稱
 四 事務所
 五 出資又ハ費用分擔ノ方法
 六 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

前項ノ外定款ニ定ムルコトヲ要スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第六十九條 森林組合ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第七十條 組合員ハ組合ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ新ニ地區内ノ森林又ハ森林產物ニ付組合ノ事業ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス
第七十一條 森林組合ハ主務大臣及地方長官之ヲ監督ス監督官廳ハ何時ニテモ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ徴シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十二條

總會ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法令、監督官廳ノ命令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ監督官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 一 決議ノ取消
 二 役員ノ解職
 三 組合ノ解散
第七十三條 森林組合ニ於テ本章又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ役員ヲ二圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス
 前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス
第七十四條 造林ノ用ニ供スル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス
第七十五條 本法ニ規定スルモノノ外森林組合ノ設立、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第六章 森林警察
第七十六條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ左ノ命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得
 一 森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ所轄警察官署ニ届出テシメ森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコト
 二 前號ニ依リ届出テタル記號印章ト同一又ハ類似ノ記號若ハ印章ノ使用ヲ禁止スルコト
 三 前二號ノ規定ニ違反シタル者ニ對シ森林產物ノ運搬ヲ停止スルコト
 四 森林產物ニ關スル營業者ヲシテ帳簿ヲ設ケ其ノ產物

第七十七條

ノ出所、種類、數量及仕向先ヲ記載セシムルコト
 五 前各號ノ外森林ノ危害防止ニ關スルコト
第七十七條 森林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森林產物又ハ森林產物ニ關スル營業者ノ手帳、帳簿及器具ニ付検査ヲ行フコトヲ得
第七十八條 森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ニ於テハ地方長官ニ於テ必要ト認メ主務大臣ノ認可ヲ得テ指定シタル場合ヲ除クノ外火ヲ爲スコトヲ得ス
 前項指定ノ場合ニ於テ火入ヲ爲サムトスルトキ又ハ前項以外ノ土地ニシテ森林ニ接近セル土地ニ火入ヲ爲サムトスルトキハ森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ受クヘシ
第七十九條 前條ノ火入ヲ爲サムトスルトキハ豫メ防火ノ設備ヲ爲シ且接近セル森林ノ所有者又ハ管理者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
第八十條 森林害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アル森林ノ所有者之ヲ驅除豫防スヘシ
第八十一條 森林害蟲蔓延シ又ハ蔓延ノ虞アル場合ニ於テ地方長官ハ森林害蟲ノ驅除又ハ豫防ノ爲必要ナル處置ヲ利害關係アル森林ノ所有者ニ命シ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得蟲類以外ノ動物又ハ微菌ヲ驅除豫防スルニ付主務大臣ノ認可ヲ得タル場合亦同シ
 前項驅除豫防ノ費用ハ其ノ利害關係アル土地ノ面積又ハ地價ヲ準率ト爲シ森林所有者ノ負擔トス但シ地方長官自

ヲ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ヲ除クノ外費用ノ負擔者ニ於テ別段ノ定メ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
地方長官第一項ニ依リ自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ニ於ケル費用ノ徵收ニ付テハ行政執行法第六條ノ規定ヲ準用ス
第八十二條 害蟲驅除豫防法第七條及第八條ノ規定ハ前二條ニ依ル驅除豫防ニ之ヲ準用ス

第七章 罰則

第八十三條 森林ニ於テ其ノ產物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ三年以下ノ重禁錮又ハ贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス其ノ產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ
第八十四條 森林竊盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年以下ノ重禁錮及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス

- 一 根株ヲ掘採、毀壞、燒燬若ハ隱蔽シ其ノ他罪跡ノ湮滅ヲ圖ルノ行爲アリタルトキ
- 二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ
- 三 贓物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取、精製若ハ石灰、煉瓦石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ
- 四 贓物ヲ運搬スル爲馬、牛、船舶、車輛若ハ橋ヲ使用シ又ハ運搬、造材ノ設備ヲ爲シタルトキ
- 五 保安林ニ於テ犯シタルトキ
- 六 森林產物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ犯シタルトキ
- 七 二人以上共同シ又ハ他人ヲ雇使シテ犯シタルトキ
- 八 森林保護ノ義務ヲ有スル者犯シタルトキ
- 九 差押ノ贓物ヲ隱匿、消費、滅却又ハ放棄シタルトキ
- 十 夜間犯シタルトキ

第八十五條 前條第二號ニ依リ製シタル物品ハ之ヲ森林竊盜ノ贓物ト看做ス
第八十六條 民法第九十六條ノ規定ハ森林竊盜ノ贓物ノ回復ニ之ヲ適用セス但シ善意ノ取得者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第八十七條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知リテ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス
第八十八條 第八十三條、第八十四條及前條ノ贓額ノ二倍カ二圓ニ滿タサルトキト雖其ノ罰金ハ二圓以下ニ下スコトヲ得ス
第八十九條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處ス因テ主產物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス
自己ノ森林ニ放火シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ノ主產物ヲ燒燬シタル者ハ五年以下ノ重禁錮ニ處ス
第九十條 第八十三條、第八十四條及前條第二項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第九十一條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第四百二十條ノ適用ヲ妨ケス
第九十二條 立木竹、木材又ハ根株ニ附シタル他人ノ記號印章ヲ變更又ハ消除シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十三條 他人ノ森林内ニ工作物ヲ設ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ
前項ノ犯罪ニシテ保安林、開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ六月以下ノ重禁錮及二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十四條 他人ノ森林内ニ於テ放牧シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十五條 第十三條ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十六條 第二十條ニ違反シ又ハ第二十五條第一項ノ停止ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十七條 第二十六條ニ違反シ又ハ第三十二條ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十八條 第二十七條ノ制限、禁止又ハ指定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十九條 前三條ノ場合ニ於テ木竹ヲ伐採又ハ傷害シタル者ニ對スル罰金ノ其ノ伐採又ハ傷害シタル木竹ノ價格ノ二倍ニ達セシムルコトヲ得
第一百條 第七十六條第二號又ハ第三號ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第一百一條 第七十七條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル
第一百二條 第七十八條又ハ第七十九條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林内ニ於テ焚火ヲ爲シタル者亦同シ
第一百三條 第七十六條第一號、第四號若ハ第五號又ハ第八十一條第一項ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
第一百四條 第三十六條ニ依ル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス
第八章 附則
第一百五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ム

第九十四條 他人ノ森林内ニ於テ放牧シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十五條 第十三條ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十六條 第二十條ニ違反シ又ハ第二十五條第一項ノ停止ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十七條 第二十六條ニ違反シ又ハ第三十二條ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十八條 第二十七條ノ制限、禁止又ハ指定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十九條 前三條ノ場合ニ於テ木竹ヲ伐採又ハ傷害シタル者ニ對スル罰金ノ其ノ伐採又ハ傷害シタル木竹ノ價格ノ二倍ニ達セシムルコトヲ得
第一百條 第七十六條第二號又ハ第三號ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第一百一條 第七十七條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル
第一百二條 第七十八條又ハ第七十九條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林内ニ於テ焚火ヲ爲シタル者亦同シ
第一百三條 第七十六條第一號、第四號若ハ第五號又ハ第八十一條第一項ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
第一百四條 第三十六條ニ依ル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス
第八章 附則
第一百五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ム

（明治四十年十二月勅令第三百四十六號）
（以テ明治四十一年一月一日ヨリ施行）
第九十六條 第二十條ニ違反シ又ハ第二十五條第一項ノ停止ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十七條 第二十六條ニ違反シ又ハ第三十二條ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十八條 第二十七條ノ制限、禁止又ハ指定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十九條 前三條ノ場合ニ於テ木竹ヲ伐採又ハ傷害シタル者ニ對スル罰金ノ其ノ伐採又ハ傷害シタル木竹ノ價格ノ二倍ニ達セシムルコトヲ得
第一百條 第七十六條第二號又ハ第三號ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第一百一條 第七十七條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル
第一百二條 第七十八條又ハ第七十九條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林内ニ於テ焚火ヲ爲シタル者亦同シ
第一百三條 第七十六條第一號、第四號若ハ第五號又ハ第八十一條第一項ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
第一百四條 第三十六條ニ依ル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス
第八章 附則
第一百五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ム

沖繩縣ニ森林法施行ノ件

明治四十四年二月十日
勅令第六號

(改正) 大正一〇年六月勅令第二九九號
第一條 森林法ハ沖繩縣ニ之ヲ施行ス

附則
本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年勅令第三百五十號ハ之ヲ廢止ス

森林法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件

大正十一年三月二十九日
勅令第六十四號

森林法第七十六條乃至第九十四條及第百二條ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附則
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

森林法施行規則

明治四十年十二月二十六日
農商務省令第二十一號

(改正)

明治四十四年七月農商務省令第二十七號、昭和六年九月農林省令第二四號、
一月第二十七號

第一條 國立公園及農林大臣ノ指定スル公園ハ森林法第七條ノ公園ヨリ之ヲ除ク

農林大臣前項ノ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第一條ノ二 公共團體又ハ社寺カ森林ヲ得喪シ又ハ廢止シ

タルトキハ其ノ代表者ハ遲滞ナク第一號様式ニ準シテ届書ヲ作リ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ
公共團體又ハ社寺ニ屬スル土地カ森林タルニ至リシトキハ其ノ代表者ハ遲滞ナク第二號様式ニ準シテ届書ヲ作リ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ牧野法第二條ノ規定ニ依ル管理方法ヲ定メテ
牧野ヲ除クノ外其ノ公共團體又ハ社寺ニ屬スル原野、山嶽、荒蕪地又ハ森林タリシモノニシテ現ニ荒蕪セルモノニ付森林トシテ管理スヘキモノト否トテ區分シ第三號様式ニ準シテ區分書ヲ作リ地方長官ノ定メタル期間内ニ之ヲ地方長官ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

地方長官ハ區分ヲ更正シテ前項ノ認可ヲ與フルコトヲ得前二項ニ依リ認可ヲ受ケタル區分ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
第三條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ其ノ公共團體又ハ社寺ニ屬スル森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付第四號又ハ第五號様式ニ準シテ管理ノ方法ヲ記載シタル届書ヲ作リ地方長官ノ定メタル期間内ニ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ但シ保安林及地方長官ニ於テ森林法第九條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケシムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス前項ニ依リ届出テタル方法ヲ變更シタルトキハ公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第四條 第十條ノ規定ハ森林法第十條ノ規定ニ依リ施業方法ヲ指定シ若ハ造林ヲ命ジタル者ニ之ヲ準用ス
第五條 森林法第十一條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ

第六條 森林法第十三條ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ハ慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ且之ヲ森林所有者ニ通知スヘシ

第七條 保安林編入解除ノ申請書ハ第六號様式ニ準シテ之ヲ作リ第七號又ハ第八號様式ニ準シテ作リタル圖面ヲ添附スヘシ但シ全部ノ解除ニ付テハ圖面ノ添附ヲ要セス

第八條 森林法第十七條ノ規定ニ依リ申請書ヲ却下スル場合ニ於テハ理由ヲ附シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第九條 保安林ノ編入解除ニ關スル處分ノ告示アリタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク森林法第二十三條ノ通知及揭示ヲ爲スヘシ但シ其ノ處分カ一筆中ノ一部ニ係ルトキハ通知書ニ其ノ區域ヲ明示シタル圖面ヲ添附スヘシ

第十條 保安林ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項發生シタルトキハ其ノ所有者ハ其ノ都度之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ森林法第十八條ノ規定ニ依ル告示アリタル森林ニ關シテモ亦同シ

一 森林所有者ノ變更

二 地番ノ分合

三 地形又ハ林相ノ異動但シ輕微ナルモノヲ除ク

前項第一號ノ届出ハ新ニ所有者トナリシ者ニ於テ之ヲ爲シ届書ニ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十一條 農商務大臣ニ於テ森林法第二十七條ノ規定ニ依リ制限、禁止又ハ指定ヲ爲ス場合ニ於テハ地方長官ヲシテ之ヲ保安林所有者ニ通告セシムヘシ

第十二條 森林法第二十八條ノ規定ニ依ル補償ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ行フヘシ

第十三條 森林法第二十八條第一項ノ規定ニ依リ補償スヘキ損害ハ其ノ伐採禁止ノ當時存在スル森林立木竹ヲ普通

森林法施行規則

森林法施行規則

森林法施行規則

森林法施行規則

保安林ノ立木竹トシテ價額ヲ見積リ其ノ價額ノ年利五厘ニ相當スル金額ヲ以テ毎年ノ直接損害額ト看做シ之ヲ算定スヘシ

前項損害ノ算定ニ付テハ其ノ既ニ伐期ニ達シタル森林ニ在リテハ伐採禁止ノ當時未タ伐期ニ達セザル森林ニ在リテハ其ノ伐期ニ達シタル當時ノ立木竹ノ時價ヨリ三割ヲ減シタルモノヲ以テ普通保安林ノ立木竹ノ價額ト看做ス但シ地方長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ時價ニ對スル割引ノ歩合ヲ増減スルコトヲ得

第十四條 伐期ニ達セザル森林ニ付テハ樹種、作業別及地方ノ慣行等ヲ斟酌シテ定メタル伐期ニ達シタル年ヨリ前條ノ補償ヲ爲スモノトス

第十五條 伐期ハ伐採禁止ノ際地方長官ニ於テ保安林所有者ニ通告スヘシ

第十六條 森林法第二十八條第二項ノ規定ニ依ル損害額ハ造林ニ要シタル實費額ニ依ルモノトス

第十七條 森林法第二十八條第一項ノ規定ニ依ル損害ノ補償請求期間ハ其ノ既ニ伐期ニ達シタル森林ニ在リテハ伐採禁止ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ九十日、其ノ未タ伐期ニ達セザル森林ニ在リテハ第十四條第二項ノ規定ニ依リ定マリタル伐期ニ達シタル年ノ初日ヨリ末日迄トス

第十八條 森林法第二十八條第二項ノ規定ニ依ル損害ノ補償請求期間ハ各年分ニ付翌年三月三十一日迄トス

第十九條 森林法第二十八條ノ規定ニ依ル補償ヲ請求セムトスル者ハ請求書ニ損害算定書ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十條 前項ノ請求者ニシテ立木竹ノミノ所有者ナルトキハ其ノ所有ヲ證スヘキ書面ヲ請求書ニ添附スヘシ

第十八條 森林法第二十八條第三項但書ノ規定ニ依ル負擔ノ要否及其ノ金額ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ決定スヘシ

第十九條 森林法第三十二條ノ處分アリタルトキハ地方長官ハ地方慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ且土地所在ノ市町村役場ニ揭示スヘシ

第二十條 森林法第四十條ノ規定ニ依リ土地使用ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ事業計劃書及圖面ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 使用スヘキ土地ノ所在、地番、種目、所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所
- 二 使用面積
- 三 使用ノ時期及期間
- 四 使用ノ目的

第二十一條 使用スヘキ土地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調書及圖面ヲ前條ノ申請書ニ添附スヘシ

- 一 御料墓地及御料地
- 二 國有地
- 三 現ニ公用ニ供スル土地
- 四 社寺壇内地
- 五 名所、舊跡及古墳墓

第二十二條 前二條ノ規定ハ森林法第四十條第一項但書ノ規定ニ依リ協議ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 森林法第四十條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ得又ハ協議調ヒタル後同條同項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ但シ帝室林野管理局又ハ政府ニ在リテハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ届書又ハ通知書ヲ受ケタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 森林法第五十五條ノ規定ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求メムトスル者ハ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出スヘシ

- 一 申請人及相手方ノ氏名、名稱、住所
- 二 使用又ハ收用スヘキ土地ノ所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所
- 三 申請ノ目的及理由
- 四 立證方法

第二十五條 森林法第五十六條ノ規定ニ依リ土地收用法第六十七條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ爲ス公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十六條 第二十五條ノ規定ハ森林法第五十七條ノ規定ニ依ル水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

第二十七條 森林法第五十八條ノ規定ニ依リ工作物ノ使用、變更又ハ除却ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ事業計劃書及必要ノ圖面ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 使用、變更又ハ除却スヘキ工作物ノ種類、所在、位置等

- 二 使用、變更又ハ除却スヘキ工作物ノ所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所
- 三 使用、變更又ハ除却ノ時期及期間
- 四 使用、變更又ハ除却ノ目的
- 五 其ノ他工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ關スル重要ノ事項

第二十八條 前條ノ規定ハ森林法第五十八條第一項但書ノ規定ニ依リ協議ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 第二十三條ノ規定ハ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ廢止シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 第二十四條ノ規定ハ森林法第五十八條第三項ノ規定ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求ムル場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 地方森林會ノ裁決ハ會長ニ於テ其ノ騰本ヲ當事者ニ交付スヘシ

第三十二條 森林法第六十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採セムトスル者ハ地方長官ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第三十三條 森林法第六十七條但書ノ規定ニ基キ森林組合ニ加入ノ義務ナシト定メタル者ノ員數及其ノ所有ニ係ル森林面積ハ之ヲ同法第六十六條各號ノ計算ニ加ヘス

第三十四條 森林組合設立ノ同意ヲ求ムル場合ニ於テハ定款ヲ組合員タル資格ヲ有スル者ニ示シ期間ヲ指定シテ意見ヲ申出シムヘシ

森林組合設立ノ際第三十六條第二項ノ規定ニ依リ加入義務ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ期間内ニ地方長官ニ申請スヘシ

第三十五條 森林組合設立ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款及前條第一項ノ規定ニ依ル意見書其ノ他森林法

第六十六條ニ定メタル條件ヲ具備スルコトヲ證スル書面ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三十六條 御料林又ハ國有林ニ付テハ帝室林野管理局又ハ政府ハ獨立シテ經營スルヲ不便ナリトスル場合ヲ除クノ外森林組合ニ加入スルノ義務ナキモノトス

前項以外ノ森林ニシテ試驗、演習等特種ノ目的ニ供セラレ若ハ面積廣大ニシテ獨立經營ノ方法確定シ其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テ地方長官之ヲ協同經營ニ屬セシムルノ必要ナシト認メタルモノニ付テハ其ノ森林所有者ハ森林組合ニ加入スルノ義務ナキモノトス

第三十七條 森林法第九條、第十條、第二十七條又ハ第七條ノ規定ニ依リ處分ヲ受ケタル森林力森林組合ノ經營ニ屬シタル場合ニ於テ其ノ處分ノ變更又ハ解除ヲ要スルモノアルトキハ森林組合ハ其ノ處分ヲ爲シタル官廳ニ對シ其ノ變更、解除ヲ申請スルコトヲ得

第三十八條 森林組合ニ於テ森林ノ施業案若ハ施業要領、造林計劃、林道若ハ河川ニ關スル工事、其ノ他事業ノ計劃設計ヲ定メムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ前項認可申請書ニハ其ノ費用及其ノ收支ニ關スル豫定ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第三十九條 森林組合ニ於テ總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款中ニ總代ノ選任解任ノ方法、員數及任期ニ關スル事項ヲ規定スヘシ

第四十條 森林組合合併ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ理由書、總會ノ決議錄、財産目錄、貸借對照表、合併契約書及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

森林組合解散ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ理由

書及總會ノ決議録ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ
第四十一條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ森林組合ハ遲滞ナク
 一 定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規定ヲ設ケ又ハ之ヲ改
 廢シタルトキ
 二 理事、監事ノ選任若ハ解任アリタルトキ又ハ其ノ缺
 欠タルトキ
 三 森林組合令第十六條第一號、第二號又ハ第五號ノ事
 項ヲ定メタルトキ
 四 森林組合令第二十三條第二項ノ書類ニ付總會ノ調査
 ヲ經タルトキ
第四十二條 森林組合ヨリ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキ
 ハ地方長官ヲ經由スヘシ
第四十三條 森林法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ火入ノ
 許可ヲ受ケムトスル者ハ帝室林野管理局所管地ニ付テハ
 同局森林官吏、林區署所管地ニ付テハ同署森林官吏、其
 ノ他ノ土地ニ付テハ警察官吏ニ申請スヘシ
 火入ヲ爲サムトスル土地力他人ノ所有若ハ占有ニ屬スル
 トキハ所有者又ハ占有者ノ承諾ヲ證スル書面ヲ申請書ニ
 添附スヘシ但シ帝室林野管理局所管地及林區署所管地ニ
 付テハ此ノ限ニ在ラス
第四十四條 前條ノ申請ヲ許可シタルトキハ第九號様式ニ
 準シテ許可證ヲ作り之ヲ申請人ニ交付スヘシ
第四十五條 火入ニ付延燒其ノ他危害ノ虞アルトキハ森林
 官吏又ハ警察官吏ハ何時ニテモ火入ノ差止又ハ火入ノ方
 法若ハ期日ノ變更其ノ他相當ノ處置ヲ命スルコトヲ得
第四十六條 火入ヲ爲シタル者ハ火氣消滅シタル後ニ非サ

レハ其ノ場所ヲ立去ルコトヲ得ス
第四十七條 第十條ノ規定ハ森林法第七條ノ規定ニ依リ
 造林ヲ命シタルモノニ之ヲ準用ス
第四十八條 第四十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
 又ハ許可ヲ得タル期日ニ違ヒテ火入ヲ爲シタル者ハ二十
 五圓以下ノ罰金ニ處ス第四十六條ニ違反シタル者亦同シ
第四十九條 第四條、第十條、第二十三條第一項、第二十
 六條、第二十九條、第四十七條及第五十條ノ規定ニ違反
 シテ届出ヲ怠リタル者又ハ第四十四條第二項ニ違反シタ
 ル者ハ科料ニ處ス
 附則
第五十條 本則施行ノ際現ニ森林法第二條ノ規定ニ依リ保
 安林所有者タル者ハ本則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ
 土地ニ關スル權利ヲ證スル書類ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ
 届出ツヘシ
第五十一條 地方長官前條ノ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ
 其ノ保安林カ舊森林法ノ規定ニ基キ土地所有者ニ對シ施
 業法要領ヲ通達シタルモノナルトキハ遲滞ナク更ニ森林
 所有者ニ對シ之ヲ通達スヘシ
 其ノ届出前前條ノ保安林所有者アルコトヲ知りタルトキ
 亦同シ
第五十二條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ本則施行ノ際現
 ニ存在スル公有林又ハ社寺有林ニ付第十號様式ニ準シテ
 届書ヲ作り本則施行後遲滞ナク之ヲ地方長官ニ差出スヘ
 シ
第五十三條 本則施行前第三條若ハ前條ノ届出ニ相當スル
 届出ヲ爲シ又ハ第二條ノ認可ニ相當スル認可ヲ受ケタル
 モノアルトキハ其ノ届出又ハ認可ハ本則ニ依リタルモノ

下看做ス
第五十四條 本則ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(森林
 法ハ明治四十一年一月一日ヨリ施行)
 (様式 略)

森林法施行手續

明治四十年十二月二十六日
 農商務省訓令第三十號

第一條 森林法第十條第一項ノ規定ニ依リ施業方法ヲ指定
 セムトスルトキハ第一號様式及第二號様式ニ準シ施業方
 法書及圖面ヲ作成シ其ノ處分書ニ之ヲ添附スヘシ
第二條 地方長官森林法施行規則第六條ノ規定ニ依リ告示
 ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ森林所有者ニ通知スヘシ
第三條 地方長官ハ保安林ノ編入解除及森林法第三十二條
 ノ處分ニ關スル調査ヲ行フヘシ
 前項ノ調査ハ利害關係顯著ナルモノヨリ逐次之ニ著手ス
 ヘシ但シ保安林ノ編入解除ニ付申請アリタルトキ又ハ官
 廳ノ通知アリタルトキハ速ニ其ノ箇所ノ調査ヲ行フヘシ
第四條 保安林編入ニ關スル調査ハ其ノ編入ノ目的ニ依リ
 左ノ十二種ニ區分シテ之ヲ行フヘシ
 一 土砂打止林
 二 飛砂防止林
 三 水害防備林
 四 防風林
 五 潮害防備林
 六 類雪防止林
 七 墜石防止林

森林法施行手續

八 水源涵養林
 九 魚附林
 十 目標林
 十一 衛生林
 十二 風致林
 前項ノ場合ニ於テ編入ノ目的ニ依リ前項ノ區分ヲ爲スヘシ
第五條 保安林編入解除ニ關スル調査ニ付テハ左ノ書類ヲ
 作成スヘシ
 一 保安林編入調査書 第三號様式及第四號様式
 二 保安林調査地圖 第五號様式
 三 保安林解除調査書 第六號様式
 四 保安林解除地圖 (全部解除ノ) 第七號様式
 前項ノ外必要ニ應シ編入解除ノ區域、其ノ附近ノ地形並
 地物配置ノ狀態ヲ明ニシタル概況圖ヲ作成スヘシ
第六條 保安林編入解除ノ關係ニ府縣以上ニ跨ル場合ニ在
 リテハ關係地方長官協議ノ上保安林調査ヲ爲スヘシ
第七條 地方長官ニ於テ保安林ノ解除ヲ必要ト認メ又ハ保
 安林解除ノ申請若ハ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ府縣以
 上ノ利害ニ關係アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ關係地方長官ニ
 通知シ意見ヲ求ムヘシ
第八條 森林法第二十一條ノ規定ニ依ル意見書ハ之ヲ地方
 森林會ニ送附スヘシ
第九條 森林法第十八條ノ通知及告示ヲ爲シタル日、地方
 森林會ノ開會及閉會ヲ爲シタル日ハ之ヲ森林法第二十二
 條ノ規定ニ依リ差出スヘキ關係書類ニ於テ明瞭ナラシム
 ヘシ
第十條 保安林ノ伐採ハ擇伐法ニ依ルヘシ但シ其ノ保安林

ノ目的ヲ害セサル程度ニ於テ林種ノ改良其ノ他必要ナル目的ノ爲皆伐ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 保安林ハ一箇所(編入調書ノ一筆)毎ニ施業ヲ爲サシムヘシ但シ其ノ保安林ノ目的ヲ害セスト認ムルトキハ二箇所以上ヲ併合シテ一施業ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 保安林一箇年間ノ伐採面積ハ輪伐齡ヲ以テ立木地全面積ヲ除シタル商以內トシ隔年作業ニ在リテハ其ノ商ニ隔年ノ年數ヲ乘シタル積ヨリ大ナラシムルヲ得ス但シ伐採區域ハ擇伐ニ在リテハ伐採面積三倍以上ナルヲ要ス

保育ノ爲爲ス木竹ノ伐採又ハ枯木竹、損木竹、危險木竹若ハ支障木竹ノ伐採ハ木竹伐採ノ禁止又ハ施業方法ノ指定ニ拘ラス之ヲ行ハシムルコトヲ得但シ其ノ保安林ノ目的ヲ害スル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 散生地、無立木地又ハ荒地廢地タル保安林ハ可成速ニ造林セシムヘシ

第十四條 農商務大臣ニ於テ森林法第二十七條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ地方長官ニ之ヲ通知スヘシ

第十五條 森林法施行規則第十二條ニ依リ認可ノ申請書ニハ損害算定書ヲ添附シ同規則第十八條ニ依リ認可ノ申請書ニハ森林法第二十八條第三項但書ノ規定ニ依リ負擔ノ要否及其ノ金額ニ付意見ヲ具スヘシ

第十六條 地方長官ハ保安林ニ付開墾許可ノ申請アリタル場合ニ於テ其ノ開墾ノ爲森林タルヲ失ハサルモノノ外之ヲ許可スルヲ得ス

第十七條 森林法第三十二條ノ規定ニ依ル處分ニ關スル調査ニ付テハ左ノ書類ヲ作成スヘシ

一 開墾制限(禁止)調書 第八號様式及第九號様式

二 開墾制限(禁止)地圖 第十號様式

三 開墾制限(禁止)解除調書 第十一號様式及第十二號様式

四 開墾制限(禁止)解除地圖(全部解除ノ場合ヲ除ク) 第十三號様式及第十四號様式

第十八條 第六條及第七條ノ規定ハ森林法第三十二條ノ規定ニ依ル處分ニ之ヲ準用ス

第十九條 森林法施行規則第十九條ノ告示アリタルトキハ地方長官ハ之ヲ利害關係者ニ知ラシムル爲便宜ノ方法ヲ執ルヘシ

第二十條 森林法第四十條、第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘ又ハ協議ニ應セムトスル場合ニ於テ官廳ノ管理ニ屬スル物件又ハ現ニ公用ニ供スル物件ニ係ルモノアルトキハ豫メ其ノ物件ヲ管理スル官廳又ハ管理若シテ協議ヲ爲スヘシ

第二十一條 森林法第七十二條ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ組合ノ解散ヲ命セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 森林法第七十六條ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ依リ警察官署ニ於テ森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ノ届出ヲ受理シタルトキハ之ヲ所轄區域內又ハ其ノ附近ニ在ル小林区署又ハ帝室林野管理局支廳出張所ニ通知セシムヘシ其ノ届出ニ係ル記號、印章ノ變更又ハ其ノ使用廢止ノ届出ヲ受理シタルトキ亦同シ

第二十三條 森林法第八十一條第一項ノ規定ニ依リ蟲類以外ノ動物又ハ微菌ノ驅除豫防ニ關シ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ各號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一 動物又ハ微菌ノ名稱、其ノ方言

二 主ナル被害產物ノ種類並被害ノ狀況

三 驅除豫防ノ方法

第二十四條 森林害蟲等ノ蔓延鄰接府縣ニ及ハムトスルノ虞アルトキハ其ノ旨ヲ關係府縣ニ急報スヘシ

第二十五條 二府縣以上ニ涉リ害蟲等蔓延シタルトキハ關係地方長官協定シテ驅除豫防ヲ行フヘシ

第二十六條 森林法第七條ノ規定ニ依リ造林ヲ命セムトスルトキハ第十五號様式及第十六號様式ニ準シ造林方法書及圖面ヲ作成シ其ノ處分書ニ添附スヘシ

第二十七條 森林法第七條ノ規定ニ依リ命スル造林ノ完了年限ハ可成速成ノ見込ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 森林法第八條ニ該當スル保安林ハ明治四十四年度末迄ニ之ヲ調査スヘシ

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

一 森林法第二十七條ノ規定ニ依リ制限、禁止若ハ指定ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキ

二 此ノ場合ニ於テハ第三號様式及第四號様式ニ準シテ作成シタル調書ヲ添附スヘシ

三 同法第三十二條ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキ

此ノ場合ニ於テハ第八號様式及第九號様式ニ準シテ作成シタル調書及第十號様式ニ準シテ作成シタル圖面ヲ添附スヘシ

三 第一號及第二號ノ制限、禁止又ハ指定ヲ變更、解除スルノ必要アリト認ムルトキ

第三十條 地方長官ニ於テ森林法第十一條第一項、第三十條

四條又ハ第七條第二項ノ規定ニ依リ造林ヲ行ハムトスルトキハ其ノ理由及左ニ掲クル事項ヲ具シタル認可申請書ニ第十七號様式ニ準シテ作成シタル造林事業豫算書ヲ添附シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 造林費ノ徵收ニ關スル事項

二 義務者ノ資力ニ關スル事項

第三十一條 左ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ具シ農商務大臣ニ報告スヘシ

一 森林法第九條第一項ノ規定ニ依リ府縣令ヲ發シタルトキ

二 森林法施行規則第六條ノ規定ニ依リ告示ヲ爲シタルトキ

三 森林法第六十條ノ規定ニ基キテ府縣令ヲ發シタルトキ

四 同法第七十一條第二項ノ規定ニ基キテ府縣令ヲ發シタルトキ

五 同法第七十六條ノ規定ニ基キテ府縣令ヲ發シタルトキ

第三十二條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ニ報告スヘシ

一 森林法第九條ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘ又ハ變更ヲ命シタルトキ

二 此ノ場合ニ於テ施業案ニ關スルトキハ其ノ施業案ヲ添附スヘシ

三 同法第十條第一項ノ規定ニ依リ施業ノ方法ヲ指定シタルトキ

四 此ノ場合ニ於テハ指定ヲ要スル理由ヲ具シ施業方法書ヲ添附スヘシ

三 同法第十條第二項、第三十三條又ハ第七十七條第一項

- ノ規定ニ依リ命令ヲ爲シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ森林法第七條ノ規定ニ依ル造林命令ニ關スルトキハ造林方法書ヲ添附スヘシ
- 同法第十一條第一項、第三十四條又ハ第七條第二項ノ規定ニ依リ執行シタル造林ヲ終了セルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ造林費ノ徴收ニ關スル事項ヲ具シ第十八號様式ニ準シテ作成シタル造林事業實行書ヲ添附スヘシ
- 第二號又ハ第三號ノ指定又ハ命令ヲ變更解除シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ詳具スヘシ
- 森林法第二十五條第一項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ詳具スヘシ
- 同法第四十條、第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ使用、變更又ハ除却ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議ニ應ジタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ使用、變更又ハ除却スヘキ物件、期間、時期、目的、方法等ニ關スル重要ナル事項ヲ具シ且必要ニ應シ事業計劃書又ハ圖面ヲ添附スヘシ
- 同法第五十五條、第五十七條又ハ第五十八條第三項ノ規定ニ依リ地方森林會ニ於テ裁決ヲ爲シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ裁決書ノ謄本ヲ添附スヘシ
- 森林組合ノ設立ヲ許可シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ組合員ノ數、組合員ノ所有スル森林面積等ヲ具シ且定款ノ寫ヲ添附スヘシ
- 同法第六十八條第三項ノ規定ニ依リ定款變更ノ認可ヲ與ヘタルトキ

- 此ノ場合ニ於テハ變更ニ係ル事項中著シキモノニ關スル理由ヲ具スヘシ
- 十一 森林法施行規則第三十八條ノ規定ニ依リ事業ノ計劃又ハ設計ヲ認可シタルトキ但シ輕微ナルモノヲ除ク此ノ場合ニ於テハ計劃又ハ設計ノ大要ヲ具シ又ハ必要ニ應シ計劃書若ハ設計書ヲ添附スヘシ
- 十二 森林法施行規則第四十一條第一號若ハ第四號ノ報告又ハ同條第三號中森林組合令第十六條第二號ノ事項ノ報告ヲ受ケタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ報告書寫ヲ添附スヘシ
- 十三 森林組合ノ合併ヲ認可シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ合併ヲ要スル理由ヲ具シ且合併契約書寫ヲ添附スヘシ
- 十四 森林法第七十二條第一號又ハ第二號ノ處分ヲ爲シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ詳具スヘシ
- 十五 森林組合ノ解散ノ届出ヲ受ケタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ解散ノ事由ヲ具スヘシ
- 十六 森林害蟲等蔓延シ若ハ蔓延ノ虞アルトキ又ハ森林法第八十一條第一項ノ規定ニ依リ森林害蟲等ノ驅除豫防ヲ命シ若ハ自ラ之ヲ行ヒタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ害蟲ノ名稱、方言、主ナル被害産物ノ種類、被害ノ狀況、驅除豫防ノ方法ニ關スル事項ヲ具スヘシ
- 附則
- 本令ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（明治四十一年一月一日ヨリ施行）
- （様式略）

森林法施行規則第一條ニ依ル

公園指定

昭和六年十月一日 農林省告示第二百九十三號

森林法施行規則第一條ニ依リ左ノ公園ヲ指定ス
熊本縣立大阿蘇公園
昭和九年五月一日 農林省告示第四百十七號

森林法施行規則第一條ニ依リ左ノ公園ヲ指定ス
新潟縣佐渡郡小木町立城山公園
昭和九年十一月一日 農林省告示第四百十二號

森林法施行規則第一條ニ依リ左ノ公園ヲ指定シ昭和十年二月十一日ヨリ之ヲ施行ス
岩手縣下閉伊郡宮古町立淨土ヶ濱公園
昭和十年二月九日 農林省告示第五十六號

改正森林法施行ニ付取扱方ノ件

今般改正森林法實施相成候ニ付テハ貴署所管事務ニ關スル
明治四十年十二月 林發第二七二號山林局長通牒

森林法施行規則第一條ニ依ル公園指定 改正森林法施行ニ付取扱方ノ件
國有地ノ上ニ存在スル部分林ニ對シ森林法適用ノ件
區域ヲ保安林編入ノ件

- 取扱方左記ノ通御承知相成度依命此段及通牒候也
- 一、國有林野ヲ保安林ニ編入セムトスルニ際シ其ノ施業方法ニ付地方廳ヨリ協議ヲ受ケ其ノ協議調ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ御上申相成度事
- 二、森林法第四十條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セムトスルトキ又ハ同法第五十八條ノ規定ニ依リ水流ニ於ケル他人ノ工作物ヲ使用シ變更シ又ハ除却セムトスルトキハ地方長官ニ協議前關係事項及事由ヲ具シ當局ニ御打合相成度事
- 三、森林組合ニ加入スルト否トヲ決定セムトスルトキハ關係事由ヲ具シ豫メ當局ニ御打合相成度事

御料地又ハ國有地ノ上ニ存在スル部分林ニ對シ森林法適用ノ件

明治四十年十二月二十六日 農商務省令第二十二號
御料地又ハ國有地ノ上ニ存在セル部分林ハ森林法第二十八條ニ依リ損害補償請求ノ場合ニ於テ造林者ノ有スル分收權ノ部分ニ限リ私有林ニ關スル規定ヲ適用スルノ外其ノ地籍御料ニ屬スルトキハ御料林ニ關スル規定ヲ適用シ其ノ地籍國ニ屬スルトキハ國有林ニ關スル規定ヲ適用ス
本令ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國有林野中治水上重要ナル區域ヲ保安林編入ノ件

大正三年七月十七日 林發第二四九四號
國有林野中治水上重要ナル 六五一

(山林局長ヨリ各大林區署長宛依命通牒) 本年四月十七日付山第五九六號ヲ以テ明治四十年十二月林發第二七一號通牒中第十號ヲ削除シタル旨及通牒置候處左記該當ノ國有林野中治水上重要ノ關係ヲ有スルモノハ可成利害關係者ノ申請又ハ地方長官ノ認定ヲ俟タス進ンテ相當調査ノ上保安林編入ノ手續取運ハレ度依命此段及通牒候也

- 一、民有保安林ニ接續シ又ハ其附近ニアル國有林野ニシテ保安關係重要ナルモノ
- 二、治水上ノ必要ニヨリ施業制限地ト爲シタルモノ
- 三、其他保安上ノ關係重大ニシテ保安林ニ編入スルヲ必要ト認メタルモノ

(山林局長ヨリ帝室林野管理局長宛依命申進)

本年四月十七日付山第五九六號ヲ以テ明治四十年十二月林發第二七一號通牒中第十號ヲ削除シタル旨申進置候處今同大林區署長ニ對シ別紙ノ通及通牒條御合置相成度尙ホ貴局ニアリテモ可成之ト同様ノ手續取運ハルル様致度依命此段申進候也 (別紙略ス)

國有林ニ對スル森林法適用方ノ件

明治四十一年六月 (各大林區署長及各府縣知事宛) 林第三四五四號 (山林局長依命通牒)

森林法第二十條第二十五條及第二十六條ハ國有林ニモ適用セラルヘキヤ否ヤニ關シ疑義ノ向モ有之候様開及候處右各

條項ハ主トシテ監督上ノ規定ニ屬シ國有林ニハ適用セラルヘキモノニアラス尤モ右ノ適用ナシトスルモ以テ國有林ハ其ノ經營上全然國土保安ヲ度外視シ得ルテフ趣意ニハ無之前記各條ノ趣旨ハ移シテ其經營上深ク考慮ヲ加フルヲ要スルハ勿論ノ義ニ有之候條此邊誤解無之様御取扱相成度依命此段及通牒候也

國有林野經營ニ關シ治水上必要ナル事項注意ノ件

明治四十四年六月 林第二八九二號山林局長通牒

政府ハ治水上必要ナル諸般ノ計劃ヲ立テ今後十八ヶ年ヲ期シ治山ノ實ヲ舉ケ依テ國土ノ安寧ヲ維持シ水災ノ慘害ヲ除カント期シツアルヲ以テ國有林野ノ經營ニ付テモ深ク留意スヘキ儀先般會同ノ際訓示相成リタルヲ以テ既ニ夫々改善ノ方法ヲ策シ相當計劃セラレツアルコトト信シ候得共尙特ニ左記事項ニ關シテハ周到ナル注意ヲ拂ヒ國土保安上些ノ遺憾ナキヲ期セラレ度

- 一 施業按編成ニ際シテハ保安林ナルト否トニ拘ラス治水其他國土保安ノ關係ヲ稽査シ最モ適切ナル方針ヲ定メラレ度
- 二 施業按編成未済林ノ斫伐及處分ニ付テハ豫定基案ニ往々不備ノ點アルヘキヲ以テ特ニ注意シ治水及國土保安ノ關係ヲ深ク顧慮相成度

三

連年接續シテ擴大ナル面積ヲ皆伐セルカ爲往々國土ノ保安ヲ害スヘキ虞アル箇所ナシトセサルヲ以テ可成大面積ノ斫伐跡地ヲ現出セシメサル様注意シ且木材ノ集積搬出等ニ當リテハ豫メ地盤ノ崩壞ヲ防止スルノ方法ヲ講セラレ度

四

施業按編成済箇所ト雖モ治水上必要ナルトキハ施業按ノ許ス範圍ニ於テ其實行ヲ加減シ尙案ノ一部ヲ變更スルニ非レハ保安の施業ヲ爲スニ適セサルモノハ相當調査ノ上適切ナル措置ヲ講セラレ度

五

伐採跡地ニ未立木地ノ造林ハ可成速ニ完了スヘク特ニ伐採跡地ニ付テハ搬出後直ニ造林ヲ實施シ得ル様計劃相成度

六

砂防設備ハ一層完成ヲ期シ特ニ治水ノ關係アルモノハ調査ノ上適當ノ施設相成度

七

森林土木事業上路線ノ選定ハ勿論法面ノ保護排水ノ設備不要土砂取除ノ適否ハ直ニ治水上其他國土ノ保安ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキモノニ付特ニ注意相成度

八

存廢區別ニ關シテハ治水上林業經營ヲ必須トスル地域ハ可成民有ニ歸屬セシメサル様留意相成度

九

森林法第二十條第二十五條及第二十六條ハ國有林ニ適用ナキモ右ハ勿論同一主旨ヲ以テ經營スヘキ管ナ

十

國有林野ニ於ケル開墾ハ一般ニ禁止又ハ制限ヲ爲ササルコトニ取扱ハレ居ルモ事業上開墾ヲ要スル場合ニハ特ニ治水其他國土保安ノ關係ヲ顧ミ必要ト認メタルトキハ適當ナル地盤保護工事ヲ施ス様處理相成度

國有林野經營ニ關シ治水上必要ナル事項注意ノ件 擇伐法ニ關スル件 國有林野經營上立木竹ヲ拂下タルモノハ森林所有者ニアラサル件

十一

林野ノ貸付使用並ニ豫約開墾ニ關シテハ保安林タルト否トニ拘ラス治水ノ關係ヲ調査シ支障ナキ場合ニ限り處分スル様取扱ハレ度

擇伐法ニ關スル件

明治四十一年九月十七日山發第八三二號 各府縣知事及各大林區署長宛山林局長通牒

舊森林法施行當時ニ在テハ保安林ノ擇伐方法ニ點狀、群狀若クハ列狀ノ區分ヲ附シ取扱來候處新法實施以後ハ總テ此等ノ區分ヲ認メス曩ノ群狀及列狀擇伐ニ該當スルモノハ局部ノ皆伐トシテ取扱フコトニ相成候條此段及通牒候也

國有林野經營上立木竹ヲ拂下タルモノハ森林所有者ニアラサル件

明治四十四年九月林第三三六三號 各大林區署長、各府縣知事宛山林局長依命通牒

國有林野ハ其經營上直接主務大臣ノ監督ノ下ニ公益上ノ關係ヲ稽査シ夫々適當ナル施業ヲ實行スルハ勿論其ノ立木竹ノ拂下ヲ爲スニ當リテモ亦此ノ趣旨ニ依據スルノ義ナルヲ以テ國有林内ノ立木竹ノ公共團體又ハ私人等ニ賣拂ヒタル場合其拂受人カ立木竹ノ伐採ヲ爲スハ恰モ國自ラ立木竹ノ伐採ヲ爲スト等シク公益上何等支障ヲ生セサルナルノミナラス此等立木竹拂受人ハ直接伐採ノ目的ヲ以テ立木竹ヲ買受ケタルニ過キスシテ森林法第二條ニ依リ森林所有者ト看做スヘキモノニアラサルヘク從テコレ等ノ場合ニ於テハ

之ヲ國有林ニ於ケル立木ノ伐採ニ準シ取扱フヲ至當ト認メ
法第二十條、第二十五條及第二十六條ノ規定ハ國有林野ニ
於テ立木竹ノ拂下ヲ爲シタル場合ニモ適用スヘキモノニア
ラスト省議決定シタルニ付了知相成度尙國有林野ニ於テ立
木竹以外ノ產物ノ拂下ヲ爲シタル場合モ前文同様了知相
成度
右依命通牒ス

不要存置林野ヲ保安林ニ
編入取扱方ノ件

明治四十一年三月
山第五三三號山林局長通牒

國有林野賣拂ニ關シ熊本大林區署長ヨリ別紙寫ノ通照會有
之候ニ付別紙寫ノ通り回答候條貴署ニ於テモ此ノ趣旨ニ依
リ御處理相成度此段申進候也
照會 (明治四十一年三月監第二四四二號)
國土保安ニ關スル國有林野ハ存置ノ見込ヲ以テ取調フヘク
其ノ利害ノ關係小ニシテ存置ヲ要セサルモノニ對シテハ賣
拂處分ヲナスモ差支有之間敷候處現在不要存置林野ニシテ
保安林トシテ制限ヲ附スルノ必要アル國有林野ニ對シテハ
保安林ニ編入ノ上賣拂ヲ行フヘキヤ或ハ其ノ儘賣拂ヲナシ
編入及補償ノ義ハ地方廳ノ取扱ニ任セ可然哉差懸リタル事
件有之候條至急何分ノ御回報相成度此段及照會候也
回答 (明治四十一年三月山第五三三號)
本月十八日付監第二四四二號ヲ以テ不要存置林野ヲ保安林
編入取扱方ノ件照會之趣了承右ハ前段ノ通り保安林ニ編入

ノ上賣拂ヲ爲スヘキ義ト承知相成度尙保安林タルヘキ事實
ハ正確ニ是カ調査ヲ盡シ他日賣拂ノ後保安林解除買得者ヲ
シテ不當ノ利益ヲ得セシムルカ如キコト無之様注意相成度
及回答候也

二 營林指導獎勵

民有林營林ノ指導ニ關スル件

昭和七年九月二十一日
林第四三三三號各營林局長宛農林次官通牒

今般營林局署官制中改正セラレ營林局署ハ一般ノ需要ニ應
ジ民有林(公有林、社寺有林及私有林ヲ謂フ)ニ對シ營林ノ
指導ヲ爲シ得ルコトト相成候處右ハ民間林業ノ實狀ニ鑑ミ
平素農山村ト緊密ナル聯繫ヲ保チ營林ノ實務ニ執掌シツツ
アル營林局署ガ地方廳ト協力シ實地ニ即シタル民有林營林
ノ指導ニ努ムルハ農山村ノ振興ニ資スル所尠カラズ最機宜
ヲ得タル措置ナリト認メタル次第ニ有之候條之ガ實施ニ當
リテハ左記事項ニ基キ管下營林署ニモ示達ノ上一層局署員
ヲ督勵シ最善ノ成果ヲ擧グル様特ニ留意相成度依命此段及
通牒候也
追テ地方長官ニ對シテハ別紙ノ通牒致置候條了知相成
度申添候

記

- 一 營林ノ指導ヲ爲スニ當リテハ常ニ地方廳ト密接ナル連
絡ヲ保チ隔意ナキ協調ヲ遂グルコト
- 二 營林局署ノ指導事務ノ範圍ハ左ノ標準ニ依ルコト但シ
特別ノ技術經驗ヲ要スル場合其ノ他必要ト認ムル場合
ハ營林局長ニ於テ機宜ノ措置ヲ爲スコトヲ得ルコト
營林局ニ於テ指導スヘキ事項
(イ) 施業計畫(施業案又ハ施業要領ノ編成又ハ檢訂等)ニ
民有林營林ノ指導ニ關スル件

關スル事項
(ロ) 土木(軌道、車馬道、索道其ノ他運搬設備ノ設計又
ハ工事)ニ關スル事項

營林署ニ於テ指導スヘキ事項
(イ) 造林(新植、人工又ハ天然下種、萌芽、補植、撫育、
保護設備、苗圃、砂防植栽等)ニ關スル事項

(ロ) 產物利用(主伐、間伐、造材、運材、製炭、副產物
ノ増殖等)ニ關スル事項

(ハ) 步道、木馬道其ノ他簡易ナル運搬設備ノ設計又ハ工
事ニ關スル事項

(ニ) 有害鳥獸又ハ病蟲害ノ驅除豫防ニ關スル事項
(ホ) 火災豫防施設ニ關スル事項

(ヘ) 林野ノ測量又ハ材積ノ測定ニ關スル事項
三 二以上ノ營林局又ハ二以上ノ營林署ノ管轄區域ニ互リ
テ指導スルコトヲ要スル場合ニ在リテハ關係局署間ニ
於テ連絡ヲ保ツコト

四 指導事務ノ整理及報告
(イ) 營林局長ハ營林局署ニ於ケル指導事務ノ狀況(府縣
別林野ノ種類別、指導事項別ニ其ノ件數、指導セル
民有林ノ面積其ノ他指導分量、所要經費及成績ノ概
要等)ヲ取纏メ毎年二期(前半年分ハ十月十五日迄
ニ、後半年分ハ四月十五日迄)農林大臣ニ報告スル
コト但シ昭和七年度分ハ昭和八年四月十五日迄ニ報
告スルコト

(ロ) 營林局長ハ毎月ノ指導事務狀況ヲ前項ニ準シ取纏メ
翌月五日迄ニ營林局長ニ報告スルコト

(別紙略、後掲)

同伴

昭和七年九月二十一日林第四三一三號
各府縣知事(北海道ヲ除ク)宛農林次官通牒

今般營林局署官制中改正セラレ營林局署モ一般ノ需要ニ應
ジ民有林(公有林、社寺有林及私有林ヲ謂フ)ニ對シ營林ノ
指導ヲ爲シ得ルコトト相成候處右ハ全國僻陬ノ農山村ニ至
ル迄其ノ職員ヲ配置シテ國有林野及公有林野官行造林ノ實
務ニ從事シツアル營林局署ヲシテ更ニ民有林ノ營林ニ關
シ實地ニ即シタル指導ヲ爲サシムルノ途ヲ開クハ貴官ノ管
掌事務ト相俟ツテ林業ヲ促進シ農山村ノ振興ニ資スル所尠
少ナラズ最適切ノ措置ト認メタル義ニ有之候條右御合ノ上
貴官下市町村並一般林業者ニ對シ本改正ノ趣旨周知方御配
慮相煩度依命此段及通牒候也
道テ營林局長ニ對シ別紙ノ通牒豫致置候條參照相成度申
添候(別紙略、前掲)

造林用種子拂下規則

昭和九年
農林省令第十五號

(前掲一九一頁)

三 農村工業

農村工業獎勵規則

昭和十年八月九日
農林省令第二十號

- 第一條 農林大臣ハ農村工業ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ毎年
度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス
- 第二條 獎勵金ハ左ニ掲グル道府縣其ノ他農林大臣ノ適當
ト認ムル團體ノ支出スル費用又ハ補助金ニ對シ之ヲ交付
ス
- 一 道府縣ニ於テ農村工業ノ獎勵ニ從事スル職員ヲ設置
スル爲要スル費用
- 二 産業組合其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル團體ノ農村
工業用器具機械建物又ハ工作物ノ設置並ニ技術習得
又ハ製品ノ販賣ニ關スル施設ニ要スル費用又ハ之ニ
對シ交付スル道府縣ノ補助金
- 三 農林大臣ノ適當ト認ムル全國ヲ區域トスル團體ノ農
村工業ニ關スル生産指導及販賣斡旋ノ爲ニ要スル費
用
- 第三條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ掲
グル書類ヲ添附シ毎年二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出
スベシ
- 一 事業計畫書
- 二 收支豫算書
- 補助金ニ對シ獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ前項ノ書
農村工業獎勵規則

- 類ノ外補助ニ關スル規程ヲ提出スベシ
- 第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者前條ノ書類ニ記載シタ
ル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ
認可ヲ受クベシ
- 第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ事業成績書及收支決
算書ヲ翌年六月三十日迄ニ農林大臣ニ提出スベシ
- 第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者獎勵金ノ全部ヲ當該年
度内ニ支出スルコト能ハザルトキハ第二條第一號及第三
號ノ獎勵金ニ付テハ其ノ殘額ヲ當該年度後ニ於テ同一ノ
事業ニ對シ支出スルコトヲ要シ同條第二號ノ獎勵金ニ付
テハ之ヲ事業ト共ニ當該年度後ニ繰越シ支出スルコトヲ
得
- 前項ノ規定ニ依リ獎勵金ヲ事業ト共ニ繰越シタルトキハ
翌年度四月十五日迄ニ農林大臣ニ之ヲ報告スベシ
- 第七條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當ス
ル場合ニ於テハ農林大臣ハ獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付
ヲ命ズルコトアルベシ
- 一 本則ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
- 三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ
- 四 支出額ガ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ
- 附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第三條中二月末日迄トアルハ昭和十年度ニ限り八月三十一
日迄トス

農村工業獎勵金交付申請書並報告書添附書類ニ關スル件

昭和十年九月二十五日更部第一〇四四號
各營林局長宛經濟更生部長山林局長通牒

貴管下山村ニ於ケル農村工業ノ獎勵ニ關シテハ昭和十年八月九日附十更部第一、〇四四號ヲ以テ通牒致候處經營主體ヨリ貴局經由ニテ農林大臣宛提出スル申請書並報告書ニ添附スベキ事業計畫、事業成績、收支豫算及收支決算ハ夫々別記ニ依リ作製セシメ正副貳通提出スル様御取計相成度此段及通牒候也

一、事業計畫書ニ記載スベキ事項

- (一) 農村工業ノ種類
 - (二) 施設地方名
 - (三) 施設地方ノ産業概況
 - (四) 當該施設計畫ノ概況
 - (イ) 原料取得ノ見込
 - (ロ) 所要勞力ト施設區域内餘剩勞力トノ關係
 - (ハ) 製品ノ種類及數量、價額ノ見込並販路ノ見込
 - (ニ) 事業經營ニ關スル收支ノ見込
 - (ホ) 其ノ他參考トナルベキ事項
 - (ヘ) 本獎勵金ヲ交付ヲ受ケントスル共同施設ノ内容
- 但シ(1)及(3)ノ施設ニシテ例示ノ事項ニ該當セザルモノニ付テハ左表ニ準據シ記載ノコト
- (1) 技術習得施設

短期ノ専門技術者設置又ハ招聘

技術者ヲシテ從事セシムベキ(指導セシムベキ)仕事概要

技術者ヲシテ從事セシムベキ(指導セシムベキ)仕事概要	期間	經費	國庫補助 豫定金額	備考

傳習生ノ派遣

傳習生ノ派遣	員數	期間	派遣先	經費	國庫補助 豫定金額	備考

傳習會又ハ講習會ノ開設

傳習會又ハ講習會ノ開設	傳習生又ハ講習生ノ人數	期間	經費	國庫補助 豫定金額	備考

(2) 共同設備

共同設備 建物 設置場所	建物 種類	構造 大要	棟數	坪數	經費	國庫補助 豫定金額	備考

計

(既設ノモノアル場合ハ備考欄ニ「既設」トシテ建物ノ種類、構造、棟數、坪數記載ノコト)
工作物並器具機械

種類	數量	經費	國庫補助 豫定金額	備考

(既設ノモノアル場合ハ備考欄ニ「既設」トシテ種類數量記載ノコト)
共同設備ニ付テハ建物及工作物並器具機械ノ平面見取圖(配置圖)添附ノコト
(3) 販賣施設

農村工業獎勵金交付申請書並報告書添附書類ニ關スル件

取引協議會ノ開催

取引協議會ノ開催	協議事項	協議方法	經費	國庫補助 豫定金額	備考

試賣又ハ即賣會ノ開設

試賣又ハ即賣會ノ開設	試賣又ハ即賣方法	經費	國庫補助 豫定金額	備考

(記載注意)右各表備考欄ニハ經費内譯詳細記入ノコト
(ト) 施設費並國庫補助豫定金額

施設別	經費	國庫補助 豫定金額	備考
技術習得施設			
共同設備			
販賣施設			

- (五) 經營主體ノ狀況
 - (イ) 經營主體名
 - (ロ) 所在地
 - (ハ) 區域
 - (ニ) 團體員數
 - (ホ) 事業執行ノ概況
- 二、事業成績報告書ニ記載スベキ事項
 - (一) 農村工業ノ種類
 - (二) 施設地方名
 - (三) 本施設ノ農家經濟並地方産業、經濟及社會上ニ及ボシタル影響
 - (四) 製品ノ種類及數量、價額、販賣數量、價額、販賣先
 - (五) 本獎勵金ヲ得テ實施シタル施設ノ狀況
- 本項ノ記載ハ「事業計畫書中(四)ノ(一)本獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル共同施設ノ内容」ノ順序様式ニ準據シ記載スルコト
- 三、收支豫算(決算)書式
 - 何年度收支豫算(決算)書

第 第 第	目 項 款	科 目		增 減	說 明
		(豫算額)	(前年度豫算額)		
.....
.....
.....

第 第 第	目 項 款	科 目		增 減	說 明
		(豫算額)	(前年度豫算額)		
.....
.....
.....

備考 説明欄ニハ豫算額(決算額)ノ内譯ヲ説明スルコト

四 森林警察

林野火入ニ關スル件

明治三十七年十一月 農商務省訓令第十四號

林野一タヒ火災ニ罹ルトキハ多年ノ經營モ一朝ニシテ烏有ニ歸シ多大ノ損失ヲ蒙ル場合尠カラス然ルニ尙未タ之レカ減滅ヲ見ルニ至ラサルハ斯業ノ爲ニ洵ニ遺憾ナリト謂フヘシ今ヤ冬季ニ向ヒ火災ニ對スル警戒ヲ加フヘキ必要ノ時期ニ莅メリ特ニ今春以來縣郡市町村又ハ各種學校ノ企劃ニ係ル戰時記念ノ造林大ニ勃興シ其他植林ニ着手スルモノ益多キヲ以テ之カ保護ヲ周到ニシク其ノ效果ヲ收メシムルハ又斯業獎勵上ノ一要務ナリトス仍テ自今一層火入及野火取締ヲ勵行シ且豫メ適切ナル豫防並消防ノ方法ヲ講シ適宜施設スル所アルヘシ

林野火入取締ノ件

明治三十七年十一月發第五三五號 各府縣知事宛山林局長通牒

今般林野火入及野火取締ニ關シ第十四號ヲ以テ訓令相成候處左記ノ事項ハ本件ニ關シ最モ重要ノモノト被認候ニ付右ニ基キ御施行追テ何分ノ儀報告相成様致度依命此段及通牒候也

- 一 一般ニ訓諭ヲ發スルコト
 - 二 警察官ヲ督勵シ火入及野火ノ取締ヲ勵行スルコト
- 林野火入ニ關スル件 林野火入取締ノ件 林野火入許可取扱方ノ件

- 三 被害ノ虞アル各市町村ニ林野消防方法ヲ設ケルコト
- 四 造林地ニ防火線ノ設備ヲ完全ナラシムルコト
- 五 造林地ノ手入刈拂ヲ實行スルコト
- 六 天然更新ヲナシ得ヘキ山野ニ火入禁止ヲ勸誘スルコト

林野火入許可取扱方ノ件

明治四十四年九月十八日林第四〇五二號 各府縣知事宛山林局長依命通牒

森林法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ貴府(縣)警察官吏カ火入ヲ許可シタル場合ニ於テ火入地カ帝室林野管理局又ハ林區署所管地ニ接近スルトキハ直ニ當該局署森林官吏ニ左記事項ヲ通知シ又貴府(縣)自ラ火入ヲ行フ場合モ之ニ準シ取扱相成度

- 一 火入箇所及面積
 - 一 火入ノ目的
 - 一 火入ノ日時
 - 一 火入者ノ住所及氏名
- 追テ大林區署長ニ對シテハ別紙ノ通り通牒シ帝室林野管理局ヨリハ協議ノ結果別紙ノ通り回答ヲ得タルニ依リ含ミ置カレ度
- (別紙) 通牒(大林區署長ヘ)

森林法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ貴署森林官吏カ火入ヲ許可シタル場合ニ於テ火入地カ帝室林野管理局所管地ニ

接近スルトキハ同局森林官吏ニ其ノ他ノ土地ニ接近スルトキハ警察官吏ニ直ニ左記事項ヲ通知シ貴署自ラ火入ヲ行フ場合モ之ニ準シ取扱相成度
右依命通牒ス

- 一 火入箇所及面積
- 一 火入ノ目的
- 一 火入ノ日時
- 一 火入者ノ住所及氏名

追テ書(略)

山林局長照會(明治四十四年八月二十八日)
森林法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ貴局森林官吏カ火入ヲ許可シタル場合ニ於テ火入地カ林區署所管地ニ接近スルトキハ同署森林官吏ニ其ノ他ノ土地ニ接近スルトキハ警察官吏ニ直ニ左記事項ヲ通知シ又貴局自ラ火入ヲ行フ場合モ之ニ準スル様致度ニ付テハ御異議ノ有無承知致度
右依命照會ス

記

- 一 火入箇所及面積
- 一 火入ノ目的
- 一 火入ノ日時
- 一 火入者ノ住所及氏名

追而本文ノ取扱振リニ對シ御異議無之ハ林區署森林官吏並ニ警察官吏ニ於テ火入ヲ許可シタル場合及林區署又ハ府縣自ラ火入ヲ行フ場合ニ於テモ亦本文ニ準シ取扱ハシムヘキ旨ニ付了知相成度
△ヘキ旨ニ付了知相成度
帝室林野管理局長官回答(明治四十四年九月十二日)
森林法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ當局森林官吏カ火入

ヲ許可シタル場合ニ於ケル取扱上ノ義ニ關シ客月二十八日林第四〇五二號御照會ノ趣了承右ハ當局ニ於テ別段異存無之候此段及回答候也

公有林野火入ノ件

明治四十三年十二月
林第五八一九號山林局長通牒

公有林野ニ於テハ開墾又ハ造林地拵等特種ノ事情アル土地ノ外火入ヲ爲サシメサル省議ニ有之左記ノ通府縣知事ニ訓示相成タルニ付森林法ニ依リ森林官吏ノ公有林野火入許可ノ場合ハ右趣旨ヲ體シ取扱相成度
右依命通牒ス

公有林野ニ於テ芝草採取ノ慣行アル地方ニ在リテハ今尙年々火入ヲ爲スノ弊風存スルモノアリ此弊習永ク行ハルルトキハ遂ニ地表ヲ敗殘シ恐ルヘキ國土ノ危害ヲ誘起シ或ハ火災ノ原因トナリ成林ノ障害ヲ爲ス等國土ノ安寧ヲ害シ又林業ヲ阻害スルコト尠ラサルニ依リ開墾及造林地拵等特種ノ事情アル土地ノ外ハ公有林野ニ於テ火入ヲ爲サシメサルノ方針ヲ取ラシムルコト

森林法ニ於ケル火入ト

放火トノ區別ノ件

大審院檢事照會(大正六年三月七日日記第一、〇六八號)
森林法ニ所謂火入(同法第七八條、第七九條)ト放火(同法第八九條)トハ權利ノ有無ニ因リ之ヲ區別スルヤ或ハ目的

ニ依リ之ヲ區別スルヤ或ハ他ニ特殊ノ標準アルヤ若シ權利ノ有無ニ因リ之ヲ區別スルトモハ同法第八九條第二項ノ自己ノ森林ノ放火ト放火ニ非サル火入トハ如何ナル標準ニ因リ之ヲ區別スルヤ日下繫屬中ノ森林法違反事件ニ付裁判所ノ參考ニ供スル爲メ貴局ノ御意見拜承致度此段及照會候也
山林局長回答(大正六年三月十六日山第三五九號)
三月七日付日記第一、〇六八號ヲ以テ森林法中火入ト放火トノ區別標準ノ件ニ關シ御照會ノ處或行爲カ火入ナリヤ否ヤハ其目的ニヨリ之ヲ區別スヘク即チ火入ハ例セハ造林地拵害蟲驅除等土地利用上ノ必要ニ基キ之ヲ行フモノヲ汎稱スル義ト思料致候此段及回答候也

森林火災取締方ニ關スル件

大正八年九月二十二日
司法省刑事局長刑甲第七二四號(刑事局長ヨリ檢事)
長檢事正ヘ通牒

森林火災ハ通常罹災ノ及フ所廣大ニシテ造林上一般ニ危懼ノ念ヲ懷カシムルコトアルヘキヲ以テ放火又ハ失火ノ事犯アル場合ニ於テハ嚴重ニ檢舉處罰スルヲ必要ト思考候放火ニ付テハ森林法ニ特別規定有之候ヘ共失火ニ付テハ其ノ規定ナキヲ以テ現今ニ於テハ刑法ニ依ルノ外ナキモ公共危險ノ點ニ付例ヘハ接續セル他人ノ山林ニ延燒ノ虞アリ消防夫ノ出動アリタル場合ノ如キハ其ノ條件存スルモノト認メ可然儀ト存候ニ付將來右ニ據リ適宜御處置相成度此段及通牒候也

失火ノ責任ニ關スル法律

明治三十二年三月八日
法律第四十號

森林法ニ於ケル火入ト放火トノ區別ノ件 森林火災取締方ニ關スル法律 司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件 六六三

民法第七百九條ノ規定ハ失火ノ場合ニハ之ヲ適用セス但シ失火者ニ重大ナル過失アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件

大正十二年十二月二十九日
勅令第五百二十八號

(改正) 昭和三年第三三八號、九年第一〇〇號

- 第一條 外務省ノ警察官ハ之ヲ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官トス
- 第二條 地方裁判所檢事局又ハ其ノ管内區裁判所檢事局勸務ノ書記又ハ雇員ニシテ檢事正ノ任命シタル者ハ其ノ局ニ於テ受理シタル事件ニ付書記ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、雇員ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ
- 第三條 監獄又ハ分監ノ長ハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ
- 第三條ノ二 警察官タル内務事務官及警務官補タル内務屬ハ特別高等警察事務又ハ外事警察事務ニ關係アル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ
- 第四條 左ニ掲ケル者ニシテ其ノ所屬長官其ノ官廳所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事正ト協議シテ任命シタルモ

- ノハ第一號乃至第八號ニ掲クル者ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、第九號乃至第十三號ニ掲クル者ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ
 - 一 帝室林野局ノ事務官、技師、事務官補、屬及技手
 - 二 獵場監守長
 - 三 監獄又ハ分監ノ長ヲサレサル典獄、典獄補及看守長
 - 四 國營獵區事務所長並營林局署勤務ノ事務官、技師、山林事務官、屬、技手及森林主事
 - 五 國有鐵道ノ驛長又ハ車掌監督タル鐵道局ノ副參事及書記
 - 六 北海道廳ノ營林區署勤務ノ技師並營林區署又ハ營林區分署勤務ノ屬、技手及森林主事
 - 七 公有林野ノ事務ヲ擔當スル北海道廳ノ地方農林主事、地方農林技師、農林主事補及農林技手
 - 八 狩獵取締ノ事務ヲ擔當スル廳府縣技手
 - 九 帝室林野局技手補
 - 十 獵場監守
 - 十一 看守
 - 十二 國有鐵道ノ助役又ハ車掌監督助手タル鐵道局書記
 - 十三 並國有鐵道ノ車掌タル鐵道局ノ書記、鐵道手及雇員
- 第五條** 前條ノ規定ニ依リ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ノ職務ノ範圍ハ左ニ掲クル罪ニ關スルモノニ限ル
- 一 前條第一號及第九號ニ掲クル者ニ在リテハ御料林野又ハ其ノ產物ニ關スル罪
 - 二 前條第二號及第十號ニ掲クル者ニ在リテハ御獵場ニ於ケル狩獵ニ關スル罪

- 三 前條第三號及第十一號ニ掲クル者ニ在リテハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪
 - 四 前條第四號ニ掲クル者ノ中國營獵區事務所長ニ在リテハ國營獵區ニ於ケル狩獵ニ關スル罪、其ノ他ノ者ニ在リテハ國有林野、部分林、公有林野官行造林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
 - 五 前條第五號及第十二號ニ掲クル者ニ在リテハ停車場又ハ列車ニ於ケル現行犯
 - 六 前條第六號ニ掲クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル國有林野、部分林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
 - 七 前條第七號ニ掲クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル公有林野、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
 - 八 前條第八號ニ掲クル者ニ在リテハ狩獵ニ關スル罪
 - 九 前條第十三號ニ掲クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル河川又ハ其ノ附屬物ニ關スル罪
- 第六條** 警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル犯罪ニ付テハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行ヒ司法警察吏ノ職務ハ町村吏員ニ準スヘキ者之ヲ行フ
- 警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制第六十八條ノ規定ニ依リ區長ヲ置ク地ニ於ケル犯罪ニ付テハ司法警察吏ノ職務ハ區長之ヲ行フ
- 第七條** 海船(沿海航路以上ノ航路ヲ航路定限トスル總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ノモノ)ノ船長ハ其ノ船内ニ於テ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法

警察官ノ職務ヲ行フ
前項ノ海船内ニ於ケル司法警察吏ノ職務ハ甲板部、機關部又ハ事務部ノ海員中其ノ各部ニ於テ職掌ノ上位ニ在ル者之ヲ行フ

附 則
本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

司法警察職務規範

大正十二年十二月
司法省刑事局刑事第一〇〇九二號訓令

司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者
司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者

司法警察職務規範別冊ノ通相定メ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ行フ
右訓令ス

(別冊)
司法警察職務規範

- 第一章 總則**
- 第一條** 司法警察ノ職ニ在ル者犯罪ノ捜査其ノ他ノ職務ヲ行フニハ法令ノ定ムル所ヲ恪守スルノ外本規範ニ遵由スヘシ
- 第二條** 司法警察ノ職務ヲ行フニハ法令ノ字句ニ拘泥スルコトナク其ノ精神ニ適合セムコトヲ期スヘシ
- 第三條** 司法警察ノ職ニ在ル者ハ外議ニ動カサレ私情ニ泥マス專ラ公明正大ヲ旨トシ非違ヲ匡正スルノ任務ヲ全ウセムコトヲ期スヘシ
- 第四條** 司法警察ノ職ニ在ル者ハ居常言行ヲ慎ミ廉潔公正

司法警察職務規範

- 世人ノ疑惑ヲ招カサルコトニ注意スヘシ
- 第五條** 司法警察ノ職ニ在ル者ハ平素社會ノ變遷人心ノ趨向ニ留意シ犯罪ニ關スル諸般ノ現象ヲ攷究シ其ノ職責ヲ盡スニ遺憾ナキコトヲ期スヘシ
- 第六條** 司法警察ノ職務ヲ行フニハ敏活ニシテ濶宜ヲ失ハス周密ニシテ遺漏ナキコトヲ期スヘシ
- 第七條** 司法警察ノ職務ヲ行フニハ冷靜ニシテ感情ニ走ラズ常ニ中正穩健ヲ旨トスヘシ
- 第八條** 司法警察ノ職務ヲ行フニハ道義ヲ尊ヒ人情ヲ重シ淳風良俗ヲ害セサルコトニ注意スヘシ
- 第九條** 司法警察ノ職務ヲ行フニハ秘密ヲ嚴守シテ捜査ノ障礙ト犯行ノ傳播トヲ防止シ且被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ
- 第十條** 司法警察ノ職ニ在ル者ハ互ニ連絡協調ヲ保チ共同一致ノ精神ヲ以テ事ニ從フヘシ
- 第十一條** 司法警察ノ職務ハ必要アル場合ニ於テハ執務時間ノ内外ヲ問ハス夜間又ハ休日ト雖之ヲ行フヘキモノトス
- 第十二條** 司法警察ノ職ニ在ル者他ノ司法警察ノ職ニ在ル者ヨリ其ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事項ニ付共助ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ニ應シ遲滞ナク處理スヘシ
- 第十三條** 司法警察ノ職務ハ共助ニ依リ事實發見ノ目的ヲ達スルニ不便ナルトキニ限り管轄區域外ニ於テ之ヲ行フコトヲ得
- 第十四條** 書類ヲ作成スルニハ文飾ヲ用キス簡明平易ヲ旨トシ眞實ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ
- 第十五條** 書類ヲ作成スルニハ法律ニ定メタルモノニ非スト雖年月日ヲ記載シテ署名捺印シ每葉ニ契印シ其ノ所屬

ノ官署ヲ表示スヘシ
文字ハ之ヲ改竄スヘカラス挿入削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲
シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ削除
シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲其ノ字體ヲ存スヘシ
第十六條 被疑者其ノ他ノ關係者ノ陳述ヲ錄取シタルトキ
ハ法律ニ定メタル書類ニ非スト雖之ヲ陳述者ニ讀聞カセ
又ハ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ
陳述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ趣旨ヲ記載スヘ
シ

書類ニハ陳述者ヲシテ任意ニ署名捺印セシムヘシ陳述者
署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記シ捺印スルコ
ト能ハサルトキハ花押又ハ拇印セシムヘシ
第十七條 司法警察ノ職ニ在ル者被疑者又ハ被害者ト親族
其ノ他ノ關係ニ因リ他ノ疑惑ヲ招クヘキ虞アルトキハ回
避スヘシ

第十八條 司法警察ノ職ニ在ル者其ノ職務ヲ行フニ當リ被
疑者其ノ他ノ關係者ノ求アルトキハ官氏名ヲ表示シタル
證票ヲ示スヘシ但シ警察官、憲兵ノ將校准士官下士、巡
査及憲兵卒制服ヲ著用スル場合ニ於テハ官氏名ヲ告グル
ヲ以テ足ル

第二章 捜査機關
第十九條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ檢事ノ指揮命令ニ從ヒ
捜査ノ事ニ膺ルヘシ
第二十條 警視總監、地方長官(東京府知事ヲ除ク)及憲兵
司令官ノ捜査ノ權ハ異常ノ場合ニ於テ之ヲ行フ例トス
此ノ場合ニ於テモ成ルヘク其ノ處分ヲ檢事ニ讓ルヘシ

第二十一條 司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ職務ノ範圍
ニ屬スル被疑事件ニシテ犯罪ノ性質、場所ノ關係又ハ其
又ハ條件ヲ定メテ之ヲ爲スヘキコトヲ命令スルコトヲ得
第二十七條 司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者犯罪アリト
思料スルトキハ直ニ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ
報告シテ指揮ヲ請フヘシ但シ豫メ捜査ノ命令アリタル場
合ハ必要ナル捜査ヲ爲シタル上遲滞ナク其ノ旨ヲ報告ス
ヘシ

第二十八條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者捜査其ノ他
ノ職務ニ付補助ヲ要スルトキハ警察官ハ巡査ヲ使用シ憲
兵ノ將校准士官下士ハ憲兵卒ヲ使用シ勅令ヲ以テ定メタ
ル司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ本來ノ職務ノ關係
ニ於テ下僚タルヘキ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ
使用スル例トス但シ他ノ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行
フ者ヲ使用スルノ必要アルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十九條 司法警察ノ職ニ在ル者管轄區域外ニ於テ捜査
其ノ他ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ成ル可ク其ノ地ノ司法
警察ノ職ニ在ル者ニ通知シ扞格齟齬ナキコトヲ期スヘシ
第三十條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者犯罪アリト思料
スルニ至リタル理由ノ如何ニ拘ラサルモノトス
新聞紙其ノ他ノ出版物ノ記事、匿名ノ申告又ハ風説ト雖
犯罪ニ關係アルモノハ之ヲ看過スルコトナク相當ノ根據
アルコトヲ認メタルトキハ捜査ニ著手スヘシ

第三十一條 司法警察官及其ノ職務ヲ行フ者左ニ掲グル犯
罪アリト思料スルトキハ速ニ之ヲ檢事ニ報告スヘシ
一 刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪
二 死刑又ハ無期徒刑ニ該ル罪
三 軍機ニ關スル重大ナル罪
四 高等官、同待遇者、有爵者、從四位、勳三等及功三

司法警察職務規範

ノ他ノ事情ニ因リ司法警察官其ノ職務ヲ行フニ不便ナル
場合ニ於テ捜査ヲ爲スヘキモノトス
前項ノ場合ニ於テハ捜査ニ著手シタル司法警察官ノ職務
ヲ行フ者ニ於テ捜査ヲ遂行スヘシ但シ必要アル場合ニ於
テハ司法警察官ノ援助ヲ求ムルコトヲ得
第二十二條 司法警察官ノ職務ヲ行フ者其ノ職務ノ範圍ニ
屬スル被疑事件ヲ司法警察官ニ先チ覺知シタルトキハ前
條ノ場合ニ非スト雖速ニ捜査ニ著手シタル上司法警察官
ニ通知スヘシ
前項ノ場合ニ於テ司法警察官職務ヲ行フニ至リタルトキ
ハ之ニ讓リ且必要ナル援助ヲ爲スヘシ

第二十三條 司法警察官司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ先チ
其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ヲ覺知シ第二十一條ノ
場合ニ該當スルトキハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上速
ニ司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ其ノ旨ヲ通知シテ捜査ヲ
委ネ且必要ナル援助ヲ爲スヘシ

第二十四條 司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者捜査ニ著手スル
ニ當リテハ其ノ事件職務ノ範圍ニ屬スルヤ否ニ付慎重ナ
ル注意ヲ爲スヘシ

第二十五條 通告處分ヲ認メタル犯罪事件ニ付テハ當該官
吏ノ告發アル迄ハ司法警察官吏ハ其ノ捜査ヲ當該官吏ニ
一任スヘシ但シ該當官吏ノ求アルトキハ必要ナル援助ヲ
爲スヘシ
司法警察ノ職ニ在ル者前項ノ犯罪事件アリト思料スルト
キハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上速ニ當該官吏ニ通知
スヘシ

第二十六條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ司法警察
吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ通常捜査ニ限り豫メ範圍

級以上ノ者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪
帝國議會、道會、府縣會及市會ノ議員ノ禁錮以上ノ
刑ニ該ル罪
辯護士ノ犯シタル罪
帝國議會、道會、府縣會及市會ノ議員ノ選舉ニ關ス
ル罪

八 勞働爭議及小作爭議ニ關スル重大ナル罪
九 治安警察法ニ違反スル重大ナル罪
十 新聞紙其ノ他ノ出版物ノ朝憲紊亂、秩序紊亂及風俗
壞亂ノ記事ニ關スル罪
十一 内外國ノ通貨偽造、變造及模造ニ關スル罪
十二 爆發物ニ關スル重大ナル罪
十三 公務員ノ職務ニ關スル重大ナル罪
十四 法人ノ役員ノ職務ニ關スル重大ナル罪
十五 無政府主義者、共產主義者其ノ他社會主義者ノ其
ノ主義ニ關スル罪

十六 各地方ニ連絡アル重大ナル罪
十七 外國人ノ犯シタル罪及外國人ニ對シ犯シタル重大
ナル罪
十八 公衆ノ耳目ヲ惹ク罪
十九 檢事ヨリ特ニ報告ヲ命シタル罪
前項ニ掲グル犯罪ニ付告發又ハ告發アリタルトキハ犯罪
アリト思料スルトキハ速ニ拘ラス速ニ檢事ニ報告スヘシ

第三十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ告發又ハ
告發アリタルトキハ犯罪地、被疑者ノ住所其ノ他管轄ヲ
定ムヘキ理由所管轄區域内ニ存セサル場合ト雖之ヲ受理
スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上遲滞

六六七

ナク之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ差出スヘシ
第三十三條 司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ告
訴、告發其ノ他犯罪ノ申告ニ關スル書面ヲ差出シタルト
キハ之ヲ受ケ速ニ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ送
付スヘシ

第三十四條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ犯罪
ニ關スル申告アリタル場合ニ於テハ其ノ名稱ノ如何ヲ問
ハス之ヲ受理シ實ニ從テ處理スヘシ

第三十五條 委任ニ因ル代理人ノ告訴ニ係ルトキハ委任狀
ヲ差出サシムヘシ告訴ノ取消ニ付亦同シ
本人又ハ委任ニ因ル代理人ニ非サル者ノ告訴ニ係ルトキ
ハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ差出サシムヘシ
姦通ノ罪ノ告訴ニ付テハ婚姻ノ解消又ハ離婚ノ訴ノ提起
ヲ證スル書面ヲ差出サシムヘシ

第三十六條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告
發ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ要件ニ欠缺アルトキハ成ル
ヘク之ヲ補正セシムヘシ

第三十七條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告
發ヲ受ケタル場合ニ於テハ成ルヘク犯罪ノ性質、方法、
日時、場所、被疑者又ハ關係者ノ住居、氏名其ノ他參考
ト爲ルヘキ事實ヲ申立テシメ之ヲ明ニスヘシ

第三十八條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴狀又ハ
告發狀ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ趣旨不明ナルトキ又ハ
本人ノ意思ニ適合セサルヘシト思料スルトキハ之カ取調
ヲ爲シタル上本人ヲシテ補正ノ爲書面ヲ差出サシメ若ハ
其ノ調書ヲ作ルヘシ

第三十九條 犯人ヲ指名シタル告訴又ハ告發ニ付テハ誣罔
ニ出ツルナキカ否及過實ノ申立ナキカ否ニ付特ニ注意ス
ル死體ヲ發見シタルトキハ速ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請
フヘシ

第四十條 司法警察ノ職ニ在ル者變死者又ハ變死ノ疑ア
ル場合ニ於テ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ檢
事ノ指揮ナシト雖急遽ヲ要スル搜查ヲ爲スヘシ但シ必要
アル場合ノ外原狀ヲ變更セサルコトニ注意スヘシ

第四十一條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者命令ニ因リ檢視
又ハ檢證ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ結果ヲ報告スヘシ但
シ檢事ヨリ豫メ檢視ト共ニ檢證ノ命令アリタルトキハ檢
證ヲ爲シタル上報告ヲ爲スヘシ

第四十二條 陸軍司法警察官又ハ海軍司法警察官ノ囑
託ニ因リ檢視ヲ爲シタル場合ニ於テ通常裁判所ノ管轄ニ
屬スル犯罪アリト思料スルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第四章 捜査ノ實行
第一節 通則

第四十八條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ公訴ノ起否及遂行ノ
資料ヲ蒐集保全シ竝犯人ノ所在ヲ緝晦スルコトヲ防クヲ
目的トシテ捜査ノ事ニ膺ルヘシ

第四十九條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ平素犯罪ノ趨勢、犯
罪ノ手段及罪證湮滅ノ方法其ノ他捜査ノ參考ト爲ルヘキ
資料ヲ調査シ事案アルニ當リ措置ヲ誤ルコトナキヲ期ス
ヘシ

第五十條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者犯罪アリト思
料スルトキハ檢事ヨリ別段ノ命令アリタル場合ノ外直ニ
捜査ニ著手スヘキモノトシ但シ告訴、告發又ハ自首ニ係
ル事件ニ付テハ第四十一條ノ規定ニ依ルヘシ

第五十一條 捜査ヲ爲スニハ巨惡ヲ逸セサルコトニ努メ苛
司法警察職務規範

第四十條 犯罪ニ關スル申告ヲ爲シタル者申告ヲ爲シタル
力爲後難ヲ畏ルルノ情況アルトキハ必要アル場合ノ外被
疑者其ノ他ノ關係者ニ申告者ノ氏名ヲ告グルコトヲ避ク
ヘシ

第四十一條 告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク必要
ナル捜査ヲ爲シタル上直ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢
事ニ送付シ指揮ヲ請フヘシ但シ書類及證據物ヲ送付シタ
ル後ニ於テ急遽ヲ要スル事項ヲ生シタルトキハ檢事ノ指
揮ナシト雖之カ處分ヲ爲スヘシ

第四十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告
發ニ付増減變更ノ申立ヲ受ケタルトキハ本人ヲシテ其ノ
趣旨ヲ記載シタル書面ヲ差出サシメ又ハ其ノ調書ヲ作ル
ヘシ

第四十三條 告訴狀又ハ告發狀ハ告訴又ハ告發ノ取消其ノ
他何等ノ事由アルモ之ヲ返付スヘカラス

第四十四條 告訴又ハ告發ノ取消ハ當該告訴又ハ告發ヲ受
ケタルニ非サル司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テ
モ之ヲ受理スヘシ

第四十五條 第三十一條第二項、第三十二條、第三十六條
乃至第三十八條及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ハ自
首ニ付テハ準用ス

第四十六條 自首ハ他人ヲシテ其ノ罪ヲ免レシムル爲自ラ
誣ヒ又ハ重キ罪ヲ避クルノ目的ヲ以テ故ラニ輕キ罪ヲ首
出スル等ノ場合ナシトセサルヲ以テ其ノ虛實ニ注意スヘ
シ

第五十二條 捜査ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲必要ナル限
度ニ於テ諸般ノ取調ヲ爲スヘシ但シ法律ニ特ニ定メタル
場合ノ外強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 捜査ハ穩健妥當ナル方法ニ依リ之ヲ行ヒ且被
疑者其ノ他ノ關係者ノ煩累ヲ少カラシムルコトニ注意ス
ヘシ

第五十四條 捜査ニ付テハ濫ニ被疑者其ノ他ノ關係者ノ隠
ヲ行フコトヲ避クヘシ

第五十五條 捜査ヲ爲スニ當リテハ濫ニ人心ヲ動搖セシメ
サルコトニ注意スヘシ

第五十六條 被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調フルニハ濫ニ法
律ノ成語其ノ他難解ノ語ヲ用キズ且平易簡明ヲ旨ト
シ容易ニ問ノ趣旨ヲ理解セシムルコトニ注意スヘシ

第五十七條 被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調フルニハ穩和ヲ
旨トシ其ノ年齢、境遇、性格、男女ノ別等ヲ斟酌シテ適
當ノ取扱ヲ爲シ其ノ言ハムト欲スル所ヲ盡サシムルコト
ニ注意スヘシ

第五十八條 捜査ヲ爲スニ當リテハ被疑者ニ付左ノ事項ヲ
明ニスヘシ

- 一 氏名、年齢、職業、本籍、住居及出生地
- 二 性格、經歷、境遇及素行
- 三 犯罪ノ原因、性質、方法、情狀、日時、場所、被害
ノ狀況及犯罪後ノ情況
- 四 前科ノ有無若前科アルトキハ其ノ罪名、刑期、刑期、
金額、裁判ヲ爲シタル廳名及其ノ年月日

取リタル場合ニ於テハ逮捕ノ事由ヲ聽取リ逮捕調書ヲ作成スヘシ但シ逮捕手續書ヲ徵シテ之ニ代フルコトヲ得
 司法警察ノ職ニ在ル者常人ヨリ現行犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ノ要領ヲ記載シタル逮捕顛末書ヲ作成スヘシ
 司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者常人ヨリ受取リタル現行犯人ヲ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ引致シタルトキハ速ニ逮捕顛末書ヲ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ差出スヘシ
第八十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ其ノ犯罪報告罪ニシテ告訴ナキトキハ速ニ告訴權者ニ就キ告訴ヲ爲スヤ否ヲ確ムヘシ
第八十三條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者刑事訴訟法第二百二十三條各號ノ場合ニ於テ勾引ヲ必要トスル事情アリト思料スルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ
 檢事ノ命令ニ因リ發スル勾引狀ニハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏名及命令ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ
第八十四條 被疑者ニ對スル訊問及被疑者ノ供述ハ即時ニ調書ニ記載スヘシ
第八十五條 證據物又ハ沒收スヘキ物ヲ所持スルノ疑アル場合ト雖湮滅ノ虞アルトキハ外成ルヘク搜索ヲ爲サス本入ヲシテ之ヲ差出サシムヘシ
第八十六條 押收又ハ搜索ヲ爲スニハ成ルヘク其ノ範圍ヲ廣クセサルコトニ注意スヘシ
第八十七條 軍事上秘密ヲ要スル場所ニ於テ押收、搜索又ハ檢證ヲ爲スノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十八條 賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラ
 ルルモノト認ムヘキ場所ノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ於テテ物ヲ搜索スルノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ但シ急迫ノ事情アリテ檢事ノ指揮ヲ待ツノ違ナキトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ速ニ搜索ノ結果ヲ檢事ニ報告スヘシ
第八十九條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ於テ押收、搜索又ハ檢證ヲ爲スニ當リ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ求アリタルトキハ搜索ニ妨ナキ限リ被疑事件ヲ告グヘシ
第九十條 押收又ハ搜索ハ特別ノ事情アル場合ノ外其ノ處分ヲ受クル者ノ業務ヲ妨ケ信用ヲ損シ其ノ他利益ヲ害スルコト多カルヘキ時刻ニ於テハ之ヲ行フコトヲ避クヘシ
 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ於テ日没前押收又ハ搜索ニ著手シ日没後其ノ處分ヲ繼續スル場合ニハ特ニ迅速ニ之ヲ結了スルコトニ注意スヘシ
第九十一條 刑事訴訟法第五十六條各號ノ場所ニ於テ日出前、日没後押收又ハ搜索ヲ爲ス場合ニ於テモ成ルヘク住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ求ムヘシ
 同條第二號ノ場所ニ於テ公開時間内押收又ハ搜索ニ著手シタルトキハ公開時間外ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得但シ迅速ニ之ヲ結了スルコトニ注意スヘシ
第九十二條 押收又ハ搜索ヲ爲スニハ適當ノ方ヲ用キ濫ニ建造物、器具等ヲ損壞スルコトナキヲ要ス
 押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リテハ書類其ノ他ノ物ノ紛亂セサルコトニ注意シ且其ノ處分ヲ終ヘタルトキハ成ルヘク原狀ニ復スヘシ

第九十三條 押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假押收ノ手續ヲ爲スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル報告書ヲ作り假押收ノ調書及押收物ト共ニ檢事ニ送付シ且其ノ犯罪ノ搜查ニ付機宜ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ
第九十四條 刑事訴訟法第六十四條第三項ニ依リ廢棄處分ヲ爲シ又ハ同法第六十五條ニ依リ賣却處分ヲ爲ス場合ニ於テハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ其ノ處分ヲ爲シタル後速ニ檢事ニ報告スヘシ
第九十五條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者檢事又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シテ其ノ職務ヲ行フ者ノ命令又ハ囑託ニ因リ押收ヲ爲シタルトキハ速ニ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ押收物ヲ送付スヘシ
 刑事訴訟法第六十四條第二項ニ依リ看守又ハ保管ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告スヘシ
 同條第三項ニ依リ廢棄處分ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告シテ指揮又ハ承諾ヲ受クヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ其ノ處分ヲ爲シタル後速ニ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告スヘシ
 同法第六十五條ニ依リ賣却處分ヲ爲スノ必要アリト思料シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告シテ其ノ處分ニ委ヌヘシ
第九十六條 第六十七條乃至第六十九條ノ規定ハ本節ノ押收ニ付之ヲ準用ス
第九十七條 檢證ノ處分ニ因リ原狀ヲ變更シタルトキハ成ルヘク舊態ニ復スヘシ

死體ノ解剖、墳墓ノ發掘又ハ貴重品ノ毀壞ヲ必要トスルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ檢事ノ命令ニ因リ變死者又ハ變死ノ疑アル死體ヲ檢證スル場合ニ於テ解剖ヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス
 死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テ遺族ナキモ近親アルトキハ成ルヘク之ニ通知スヘシ
第九十八條 證人ニハ主トシテ見聞其ノ他實驗ノ事實ヲ供述セシメ成ルヘク推測ノ事項ヲ供述セシムルコトヲ避クヘシ
第九十九條 證人ヲ被疑者又ハ他ノ證人ト對質セシムルニハ其ノ時機ニ注意シ且兩者間ノ關係ヲ顧慮シテ適當ナル發問ヲ爲シ眞實ノ供述ヲ爲サシムルコトヲ努ムヘシ
第一百條 證人ニ對スル訊問及證人ノ供述ハ即時ニ調書ニ記載スヘシ
第一百一條 證人ヲ過料ニ處シ又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキ處分ヲ裁判所ニ請求スルニハ其ノ裁判所ノ檢事ヲ經由シテ請求書ヲ差出スヘシ
第一百二條 鑑定ニ付死體ノ解剖又ハ貴重品ノ毀壞ヲ必要トシテ鑑定人ヨリ其ノ許可ヲ求メタルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ腐敗其ノ他ノ理由ニ因リ檢事ノ指揮アル迄其ノ物ヲ保存シ難キトキハ此ノ限ニ在ラス
 死體ヲ解剖スル場合ニ於テハ鑑定人ト共ニ禮意ヲ失ハサ
 ルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知シ遺族ナキモ近親アルトキハ成ルヘク之ニ通知スルノ處置ヲ執ルヘシ
第一百三條 第七十一條乃至第七十四條及第一百一條ノ規定ハ本節ノ鑑定ニ付之ヲ準用ス
第一百四條 第五章 令狀ノ執行
 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ノ指揮ヲ受ケ

ナルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ若其ノ手續遅延スルノ事情アルトキハ其ノ旨ヲ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ

第百四條 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ニ指定セラレタル者心神喪失ノ状態ニ在ルトキ又ハ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スル虞アルトキハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

前二項ノ規定ハ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者命令若ハ囑託ニ因リ勾引狀ヲ發シ又ハ命令ニ因リ逮捕狀ヲ發シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百五條 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ハ指揮ヲ受ケタル當該司法警察ノ職ニ在ル者ノミナラス其ノ官署ニ勤務スル他ノ司法警察ノ職ニ在ル者ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第百六條 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ニ指定セラレタル者管轄區域外ニ在ルトキハ其ノ地ヲ管轄スル司法警察官ニ勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ヲ送付シテ執行ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ命令若ハ囑託ヲ爲シタル官署又ハ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ

執行ノ求ヲ受ケタル司法警察官ハ所轄檢事ノ指揮アリタル場合ト同シク執行ノ手續ヲ爲シ之ニ關スル書類ヲ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ差出スヘシ

第百七條 司法警察官命令若ハ囑託ニ因リ發シタル勾引狀又ハ命令ニ因リ發シタル逮捕狀ヲ執行シタルトキハ其ノ原本ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ差出スヘシ

司法警察官出頭義務ヲ履行セサル證人ニ對シ自ラ發シタル勾引狀ヲ執行シタルトキハ其ノ原本ヲ調書ト共ニ檢事ニ送付スヘシ

ニ送付スヘシ

第一項ノ勾引狀又ハ逮捕狀ヲ執行スルコト能ハサルトキハ之ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ送付スヘシ若參考ト爲ルヘキ事項アルトキハ同時ニ報告スヘシ

第百八條 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ヲ執行スル場合ニ於テハ成ルヘク穩當ノ方法ヲ用キ必要ノ限度ヲ超エテ強制ヲ加ヘス且他人ヲシテ執行ヲ受ケタル者ナルコトヲ覺知セシメサルコトニ注意スヘシ

第百九條 裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事又ハ區裁判所判事ノ發シタル押收又ハ搜索ノ命令狀ハ之ヲ受ケタル當該司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ノミナラス其ノ官署ニ勤務スル他ノ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テモ之ヲ執行スルコトヲ得

第百十條 命令狀ニ因リ押收又ハ搜索ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ押收又ハ搜索ノ手續ノ顛末及參考ト爲ルヘキ事項ヲ調書ニ記載シ命令狀ト共ニ送付スヘシ

第六章 捜査事件ノ處理

第百十一條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付捜査ヲ終ヘタルトキハ捜査ノ端緒如何ヲ問ハス速ニ檢事ニ送致スヘシ但シ即決スヘキ事件ニシテ告訴、告發又ハ自首ニ係ラサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

被疑事件ヲ檢事ニ送致スルトキハ意見ヲ付シ且參考ト爲ルヘキ事項ヲ報告スヘシ捜査書類差押ヘ又ハ領置シタル物ハ意見書ト共ニ檢事ニ送付スヘシ

第百十二條 檢事ヨリ微罪トシテ豫メ指定シタル事件罪ト爲ラサルコト又ハ犯罪ノ嫌疑ナキコト明ナルニ至リタル

トキハ之ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要セス

第百十三條 犯罪事實極メテ輕微ニシテ處罰ノ必要ナキコト明白ナルトキハ事件ヲ檢事ニ送致セスシテ微罪處分ヲ爲スコトヲ得

微罪處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ檢事ニ報告スヘシ

第百十四條 告訴、告發若ハ自首ニ係ル事件又ハ檢事ノ送致ヲ命シタル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ檢事ニ送致スヘシ

第百十五條 被疑事件ノ送致後ト雖常ニ其ノ事件ヲ注意シ參考ト爲ルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第百十六條 被疑事件通常裁判所ノ管轄ニ屬セサルコト明ナルニ至リタルトキハ事件ヲ相當官署ニ送致スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ事件告訴、告發若ハ自首ニ係ルモノナルトキ又ハ第三十一條ニ依リ報告シタルモノナルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

第七章 少年ニ關スル特別

第百十七條 少年ノ事件ニ付テハ保護教養ヲ主トスルノ精神ヲ以テ事ニ膺ルヘシ

第百十八條 少年ノ被疑者ヲ取調フルニ當リテハ特ニ他人ノ耳目ニ觸レサルコトニ注意スヘシ

第百十九條 少年ノ被疑者ハ他ノ被疑者ト分離シ接觸セシメサルコトニ注意スヘシ

第百二十條 少年ノ被疑者ハ已ムコトヲ得サル場合ノ外拘束スヘカラス

第百二十一條 少年ヲ逮捕シ又ハ引致スル場合ニ於テハ其ノ方法及強制ヲ加フル限度ニ付特ニ慎重ノ注意ヲ爲スヘシ

第百二十二條 少年ニ對スル被疑事件ニ付テハ犯罪事實輕微ニシテ處罰ノ必要ナシト思料スル場合ト雖微罪處分ヲ爲サスシテ事件ヲ檢事ニ送致スヘシ

第百二十三條 少年ニ對スル刑事事件ハ捜査又ハ豫審ニ關スルモノノミナラス公判ニ付セラレタル事項ト雖特ニ秘密ヲ嚴守スヘシ少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項亦同シ

第八章 外國人ニ關スル特別

第百二十四條 外國人ニ關シ司法警察ノ職務ヲ行フニ當リテハ國際法及國際上ノ慣例ニ違背セサルコトニ注意スヘシ

第百二十五條 外交官ノ特權ヲ有スル者ニ對シテハ其ノ特權ヲ害スルノ虞アル行為ヲ爲ササルコトニ注意スヘシ外交官ノ特權ヲ有スル者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第百二十六條 大公使館、大公使ノ居宅、別荘又ハ其ノ宿泊スル場所ニ於テハ捜査其ノ他ノ處分ヲ爲スヘカラス

第百二十七條 重大ナル罪ヲ犯シタル者逃亡シテ前條ニ掲ケル場所ニ入りタル場合ニ於テ猶豫スヘカラサルトキハ大公使又ハ之ニ代ルヘキ權限アル者ノ許諾ヲ受ケ搜索ヲ爲スコトヲ得

第百二十八條 重大ナル罪ヲ犯シタル者帝國ノ領海ニ在ル外國軍艦ニ現在スル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ其ノ艦長ニ對シ任意ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得

第百二十九條 外國軍艦ニ屬スル軍人、準軍人其ノ軍艦ヲ離レ帝國内ニ於テ現ニ罪ヲ犯シ猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ逮捕ノ處分ヲ爲シタル上速ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第百三十條 任命國ノ國民タル帝國駐在ノ外國總領事、領

事、副領事、領事事務官及代理領事ニ對スル被疑事件ニ付テハ檢事ノ指揮アルニ非サレハ急速ヲ要スル處分ト雖之ヲ爲スコトヲ得ス但シ重大ナル罪ヲ犯シ猶豫スヘカラサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百一十條 帝國駐在ノ外國領事官ノ所有又ハ所持スル書類ニシテ職務ニ關係アルモノハ之ヲ檢閲シ又ハ差押フルコトヲ得ス

前項ノ領事官ノ事務所又ハ居宅ニ於テ搜查其ノ他ノ處分ヲ爲スノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ但シ急速ヲ要スル處分ハ此ノ限ニ在ラス

第三百十二條 帝國ノ領海ニ在ル外國船舶内ノ犯罪ニ付テハ左ノ場合ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フヘシ

一 帝國ノ陸上又ハ港内ノ安寧秩序ヲ害スルトキ

二 乗組員以外ノ者又ハ帝國臣民ニ關係アルトキ

前項ニ掲クル場合ノ外特ニ搜查ノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第三百十三條 帝國ノ領海ニ在ル外國船舶ノ航行ノ停止ヲ必要ナリト認ムルトキハ直ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第三百十四條 外國人口頭ヲ以テ告訴、告發、請求又ハ自首ヲ爲サムトスル場合ニ於テ國語ニ通セサルトキハ成ルヘク通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作成シタル調書ハ通事ニ依リ之ヲ本人ニ讀聞カセ通事及本人ヲシテ署名又ハ署名捺印セシムヘシ

第三百十五條 外國人ヨリ外國語ヲ以テ記載シタル告訴狀、告發狀其ノ他ノ書類ヲ提出シタルトキハ之ヲ受理シタル上成ルヘク譯文ヲ提出セシムヘシ

譯文ニハ譯者ヲシテ其ノ住居及職業ヲ記入シ署名捺印セシムヘシ

第三百十六條 被疑者外國人ナル場合ニ於テハ左ノ事項ヲモ明ニスヘシ

一 國籍

二 帝國ニ來リタル時期及目的

三 本國ヲ去リタル時期

四 外國ニ於テノ受刑ノ有無

五 家族ノ有無及其ノ住居

第三百十七條 被疑者其ノ他ノ關係者外國人ニシテ國語ニ通セサルトキハ通事ヲ用キテ取調ヲ爲シ其ノ調書ハ通事ニ依リ本人ニ讀聞カセ通事及本人ヲシテ署名又ハ署名捺印セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ本人其ノ必要トスル事項ヲ記載セムコトヲ求メタルトキハ之ヲ調書ノ末尾ニ記載セシムヘシ

第三百十八條 外國ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ知得タル事實ニシテ本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキ又ハ外國人其ノ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ供述ヲ爲サシムルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第三百十九條 外國人ニ對シテ發スル召喚狀、勾引狀又ハ逮捕狀ニハ成ルヘク譯文ヲ添附スヘシ

第三百二十條 外國人ニ對シ勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ成ルヘク其ノ國語ニ通スル者ヲシテ之ニ當ラシムヘシ

第三百二十一條 外國人ニ對シ押收調書若ハ押收目錄ノ謄本

若ハ抄本又ハ領置ニ關スル受領書ヲ交付スルトキハ成ルヘク之ニ譯文ヲ添附スヘシ

第三百二十二條 外國艦船乗組員ノ逮捕、留置又ハ逃亡犯罪人ニ關シ檢事ノ指揮ニ因リ取扱ヒタル事項ニ付テハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第三百二十三條 逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ檢事ノ發シタル逮捕狀、假逮捕狀ヲ執行スルニ當リ本人ノ携帶品ヲ差押ヘタルトキハ其ノ目錄ヲ作り本人ト共ニ檢事ニ引渡スヘシ

(備考) 本規範ニ於テ司法警察ノ職ニ在ル者ト稱スルハ司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ヲ謂フ

五 狩獵

狩獵法

大正七年四月四日
法律第三十二號

(改正) 大正一年第七四號

第一條 狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ハ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス
狩獵鳥獸ノ種類ハ主務大臣ノヲ定ム
主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムル
トキハ區域ヲ定メ其ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得
第二條 狩獵鳥類ノ雛及鳥類ノ卵ハ主務大臣ノ定ムルモ
ヲ除クノ外之ヲ捕獲又ハ採取スルコトヲ得ス
第三條 狩獵鳥獸ハ狩獵免許ヲ受クルニ非サレハ主務大臣
ノ定ムル銃器、網、鷄繩、簞、鉤又ハ罾ヲ使用シテ之ヲ
捕獲スルコトヲ得ス但シ柵、柵其ノ他ノ圍障アル邸宅地
域内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限ニ
在ラス
第四條 地方長官必要ト認ムルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受
ケ前條ノ規定ニ依ル獵具ノ使用以外ノ方法ヲ以テスル狩
獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得
第五條 狩獵免許ハ甲乙ノ二種トシ狩獵免狀ヲ下付ス
甲種狩獵免狀ハ銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ爲ス
者ニ、乙種狩獵免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ之
ヲ下付ス
狩獵免狀ノ有効期間ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日迄
トス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日迄

迄トス
主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムル
トキハ前項ノ期間内ニ於テ特ニ其ノ狩獵ノ期間ヲ限定ス
ルコトヲ得
前二項ノ期間内ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス
第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ
處セラレタル者ハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ
受クルコトヲ得ス
第七條 未成年者、白痴者又ハ瘋癲者ハ乙種狩獵免許ヲ受
クルコトヲ得ス
乙種狩獵免許ヲ受ケタル者白痴者又ハ瘋癲者ト爲リタル
トキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ
第八條 狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從
ヒ免許稅ヲ納ムヘシ
一 所得稅二百圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族 五十圓
二 所得稅ヲ納ムル者又ハ其ノ家族 三十圓
三 一 等及二 等以外ノ者 十五圓
前項ノ免許稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ
第九條 主務大臣又ハ地方長官ハ鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲又ハ
土地所有者ノ出願其ノ他ノ事由ニ因リ必要ト認ムル場合
ニ於テ十年以内ノ期間ヲ定メ禁獵區ヲ設クルコトヲ得
第十條 地方長官ハ危險豫防ノ爲其ノ必要ト認ムルトキ
ハ銃獵禁止區域ヲ設クルコトヲ得
第十一條 左ニ掲グル場所ニ於テハ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ
得ス
一 御獵場
二 禁獵區
三 公道

四 公園 五 社寺境内 六 墓地

第十二條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ事
由ニ因リ主務大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ
於テハ前條ノ規定ニ拘ラス鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵
ヲ採取スルコトヲ得
主務大臣又ハ地方長官前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ許可
證ヲ下付ス
第十三條 前條第一項ノ規定ニ依リ捕獲シタル鳥獸又ハ採
取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス
但シ警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第十四條 國、道府縣、郡又ハ市町村ハ命令ノ定ムル所ニ
依リ獵區ヲ設定スルコトヲ得
第十五條 爆發物、劇藥、毒藥、据銃又ハ危險ナル罾若ハ
陷阱ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス
第十六條 日出前若ハ日没後、市街其ノ他人家稠密ノ場所
若ハ衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル人
畜、建物、汽車、電車若ハ艦船ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ
得ス
第十七條 柵欄其ノ他ノ圍障又ハ作物アル土地ニ於テハ占
有者、共同狩獵地ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ノ承諾ヲ得
ルニ非サレハ狩獵又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸
ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得ス
第十八條 獵區ニ於テハ獵區設定者ノ承認ヲ得ルニ非サレ
ハ狩獵又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲
スコトヲ得ス
第十九條 狩獵免許ヲ受ケタル者又ハ第十二條第一項ノ許
狩獵法

可ヲ受ケタル者鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取セムト
スルトキハ狩獵免狀又ハ許可證ヲ携帯スヘシ
警察官吏、憲兵、森林官吏又ハ市町村長ハ前項ノ規定ニ
依リ携帯スヘキ狩獵免狀若ハ許可證又ハ捕獲シタル鳥獸
若ハ採取シタル鳥類ノ卵ヲ検査スルコトヲ得
第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ捕
獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ
讓受クルコトヲ得ス
第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當アル者ハ五百圓以下ノ罰
金ニ處ス
一 第三條、第十一條、第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ
違反シタル者
二 詐欺ノ行爲ヲ以テ狩獵免許又ハ第十二條第一項ノ許
可ヲ受ケタル者
第三條又ハ第十五條ノ規定ニ違反スル犯罪ノ用ニ供シタ
ル物件及其ノ犯罪ニ因リテ得タル獵獲物ニシテ犯人ノ所
有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收ス
第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰
金ニ處ス但シ第十七條ノ規定ニ違反シタル罪ハ占有者又
ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
一 第一條第一項、第二條、第五條第五項、第十三條、
第十七條、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ違反シタ
ル者
二 第一條第三項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタ
ル者
三 銃獵禁止區域ニ於テ銃獵ヲ爲シタル者
四 正當ノ事由ナクシテ第十九條第二項ノ規定ニ依ル檢
査ヲ拒ミタル者

第二十五條 獵區ヲ設定セムトスル者ハ入獵規程ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

- 一 獵區ノ名稱
- 二 獵區ト爲サムトスル土地ノ地目別面積、水面ノ面積及其ノ面積三百町歩ニ滿タサルトキハ其ノ事由
- 三 獵區ノ存續期間
- 四 獵區ト爲サムトスル區域ニ於ケル過去一年ノ季節別鳥獸棲息狀況及其ノ以前ニ於ケル概況
- 五 一狩獵期間當ノ月別狩獵者(甲、乙種別)及捕獲鳥獸(種別)見込數
- 六 鳥獸ノ保護蕃殖ヲ爲スヤ否ヤノ別及之ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ方法
- 七 獵區内ニ棲息スル鳥獸ニ因ル損害ノ補償ニ關スル事項
- 八 獵區設定ニ要スル費用及一年當收支概算
- 九 第二十二條第二項但書ノ規定ニ依ル承認料ヲ納付セシムルモノニ在リテハ其ノ事由
- 十 管理者又ハ巡守ヲ置クヤ否ヤノ別及之ヲ置クモノニ在リテハ其ノ員數

前項ノ書面ニハ獵區ノ區域及位置ヲ示ス圖面、第十八條ノ同意ヲ證スル書面並獵區設定ニ關スル決議ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

獵區設定者第一項第三號、第六號又ハ第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第二十六條 入獵規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 事務所ノ位置
- 二 獵區ノ區域

- 三 第二十四條ノ規定ニ依ル制限
- 四 入獵申込ノ手續
- 五 第十九條ノ規定ニ依ル抽籤ノ方法
- 六 入獵承認ノ通知方法
- 七 第二十二條ノ規定ニ依ル承認料及其ノ納付ノ方法
- 八 承認證ノ交付、携帶及提示ニ關スル事項
- 九 案内者又ハ勢子ヲ置クモノニ在リテハ之ニ關スル事項
- 十 入獵者、其ノ從者、獵區管理者、巡守、案内者又ハ勢子ニ徽章ヲ佩用セシムルモノニ在リテハ其ノ旨及鑵形
- 十一 退獵ノ手續
- 十二 入獵規定違反者ニ對スル處置

獵區設定者前項第二號、第三號、第五號、第七號、第九號又ハ第十二號ノ事項ヲ變更シ又ハ新ニ設ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前條第一項第二號、第四號、第五號、第八號及第二項ノ規定ハ第一項第二號ノ事項ヲ變更セムトスル場合ニ於ケル認可ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 第十六條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請セムトスルトキハ更新ノ期間ヲ定メ申請書ニ第十八條ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第二十八條 入獵規程ヲ變更シタルトキハ第二十六條第二項ニ掲ケル事項ニ關スルモノヲ除クノ外遑滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ツヘシ第二十五條第一項第一號又ハ第十號ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十九條 農林大臣獵區ノ設定又ハ其ノ存續期間ノ更新ノ認可ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ告示スヘシ告示シタル事項ニ付變更ヲ生シタルトキ亦同シ

- 一 獵區ノ名稱
- 二 事務所ノ位置
- 三 獵區ノ區域
- 四 獵區ノ存續期間
- 五 承認料
- 六 狩獵ニ關スル制限

第三十條 獵區設定者ハ其ノ獵區ニ管理者又ハ巡守ヲ置クコトヲ得

獵區設定者管理者又ハ巡守ヲ置キタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ農林大臣ニ届出テ且證票ヲ携帶セシムヘシ

第三十一條 獵區管理者又ハ巡守ハ何時ニテモ獵區内ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スル者ニ對シ第二十一條ノ承認證ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第三十二條 獵區設定者ハ獵區ノ區域ヲ表示スル爲必要ナル標識ヲ設ケヘシ

第三十三條 獵區設定者ハ前年四月十六日ヨリ其ノ年四月十五日迄ノ間ニ於ケル獵區ノ成績ヲ様式第一號及第二號ニ依リ毎年四月三十日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第三十四條 獵區設定者ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間狩獵ノ停止ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期間ヲ變更セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前二項ノ認可ヲ爲シタルトキハ農林大臣ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十三條 獵區設定者獵區ヲ廢止セムトスルトキハ廢止ノ

日ヨリ三十日前ニ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ農林大臣ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十四條 農林大臣必要ト認ムルトキハ獵區設定者ニ對シ獵區設定ノ認可ヲ取消シ第二十五條第一項第三號、第六號、第七號、第十號ノ事項又ハ入獵規程ノ變更、有害鳥獸ノ驅除、一定ノ期間ノ狩獵ノ停止ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

農林大臣獵區設定ノ認可ヲ取消シ又ハ狩獵ノ停止ヲ命ジタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十五條 第九條第一項、第十一條又ハ第十一條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第三十六條 本則ニ依リ農林大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第三十七條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附則

第三十八條 本則ハ狩獵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條 共同狩獵地ノ免許期間ノ更新ヲ申請セムトスル者ハ其ノ更新ノ期間ヲ定メ申請書ニ區域内ノ土地所有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第四十條 共同狩獵地ニ付テハ前條ノ外仍從前ノ例ニ依ル

第四十一條 禁獵區及銃獵禁止區域ノ木標又ハ制札ニシテ本則施行前設ケタルモノハ本則ニ依リ之ヲ設ケタルモノト看做ス

附則 (大正十四年農林省令第二十四號)

本令ハ大正十四年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條第

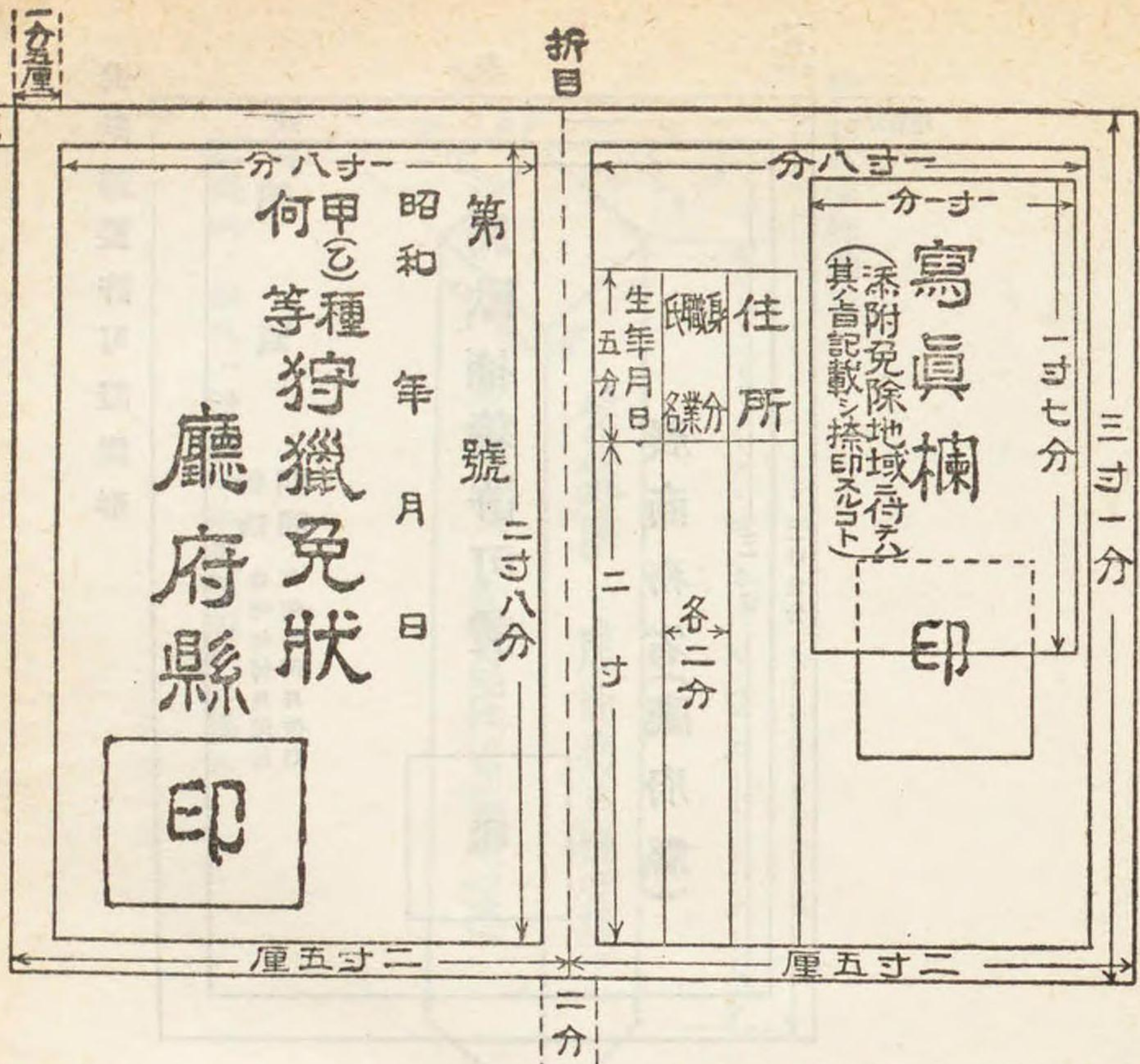
一號中剝拔銃身ノ空氣銃ニ關スル規定ハ大正十九年四月十五日(昭和五年四月十五日)迄、第十一條ノ二ノ規定ハ大正十四年十一月三十日迄之ヲ適用セズ
 飼鳥ノ賣買ヲ業トスル者第十一條ノ二ニ掲ケル鳥類ヲ飼養スルトキハ同條ノ規定ニ依ル受渡簿ニ其ノ鳥類ノ大正十四年十一月三十日現在ノ種類別員數ヲ記載スヘシ
 本令施行ノ際現ニ存スル獵區ノ設定者ハ大正十四年十二月十五日迄ニ入獵規程及第二十五條第一項第七號ノ事項ヲ定ムルモノニ在リテハ之ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 獵區ニ於ケル狩獵ノ制限ニシテ本令施行ノ際現ニ效力ヲ有スルモノハ入獵規程ニ付前項ノ認可アル迄仍其ノ效力ヲ有ス
 (様式別冊三九)

引拔銃身ノ空氣銃ニ關スル件

昭和五年十一月十五日 農林省令第八號

昭和五年農林省令第七號ハ引拔銃身ノ空氣銃ニシテ昭和六年一月十五日迄ニ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ヨリ既製品タルノ證明ヲ受ケタルモノニ付テハ昭和八年四月十五日迄之ヲ適用セズ
 前項ノ規定ニ依リ證明ヲ受ケタル空氣銃ニハ其ノ銃床ノ部分ニ別記様式ニ依ル烙印ヲ押捺ス
 附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 別記

狩獵免狀雛形(甲種ハ綠色、乙種ハ白色)



引拔銃身ノ空氣銃ニ關スル件 狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證、禁獵區ノ木標又ハ制札、銃獵禁止區域ノ制札及獵區管理者又ハ巡守ノ携帶スヘキ證票雛形



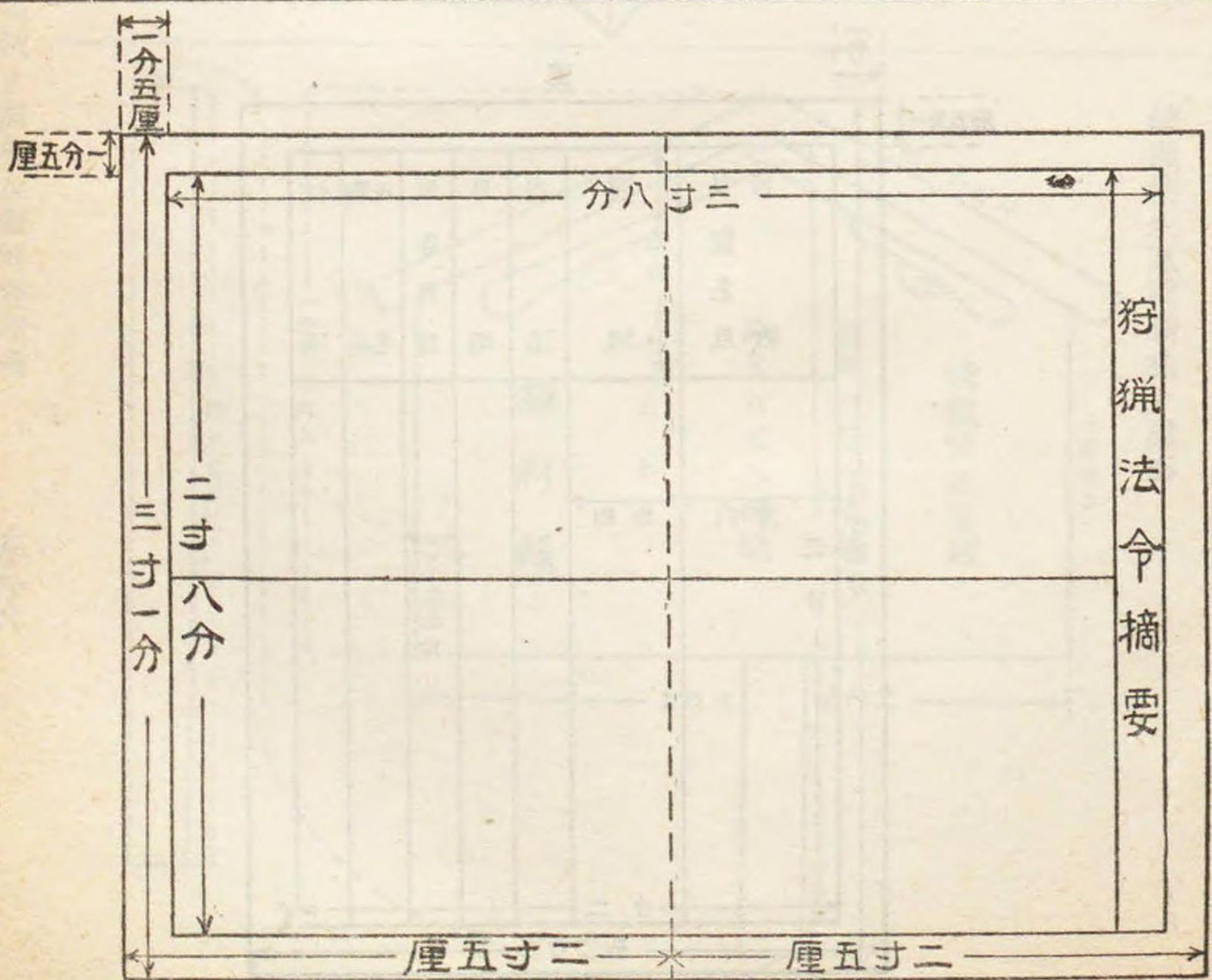
備考
 「道府縣」トアル箇所ニハ當該道府縣名(東京府ニ在リテハ警視廳)ヲ表示スルコト

狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證、禁獵區ノ木標又ハ制札、銃獵禁止區域ノ制札及獵區管理者又ハ巡守ノ携帶スヘキ證票雛形

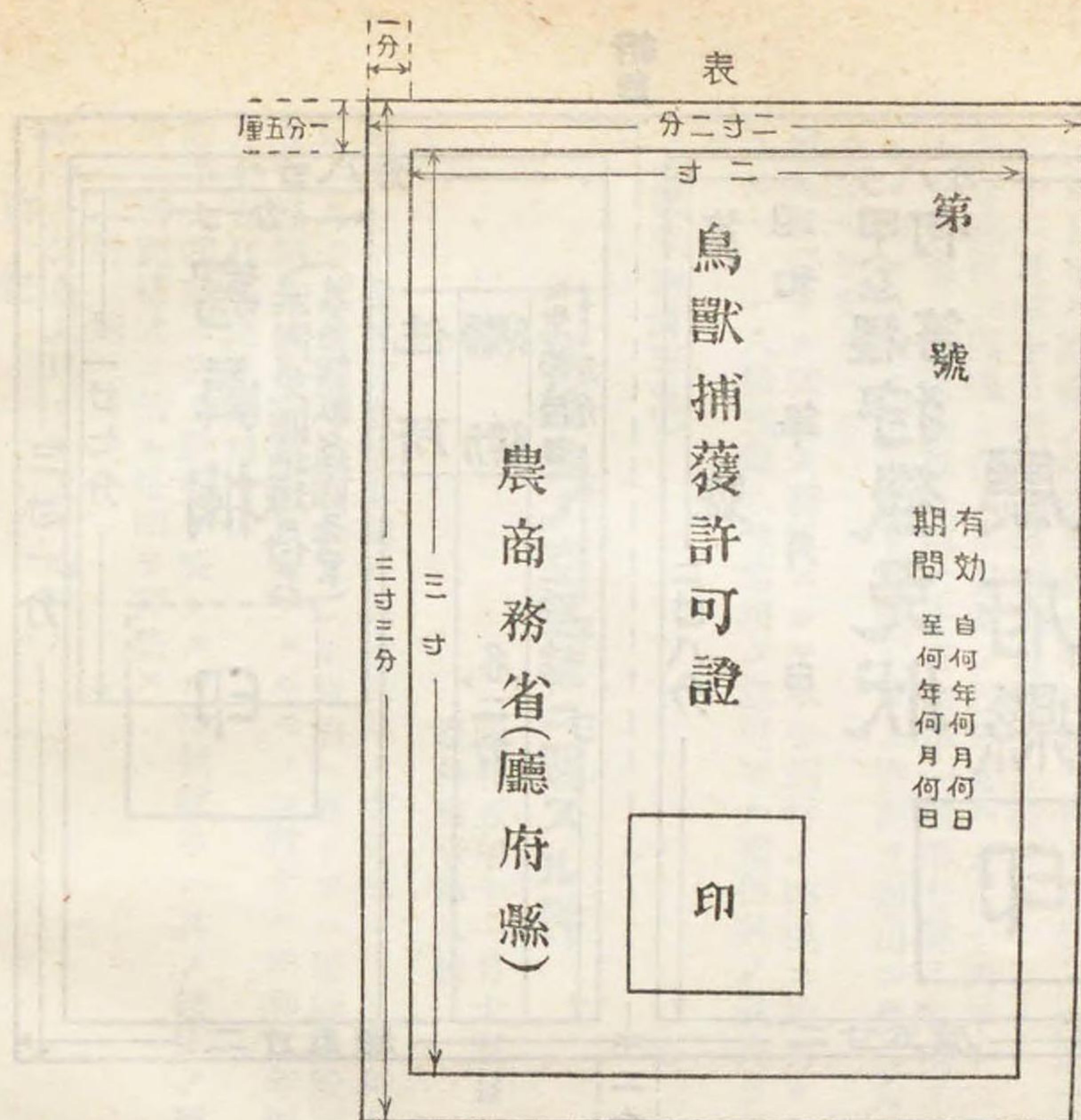
大正八年八月十八日 農商務省告示第二百二十號

(改正) 大正十年三月三日農商務省告示第三三號、昭和三年七月二日農林省告示第二四〇號

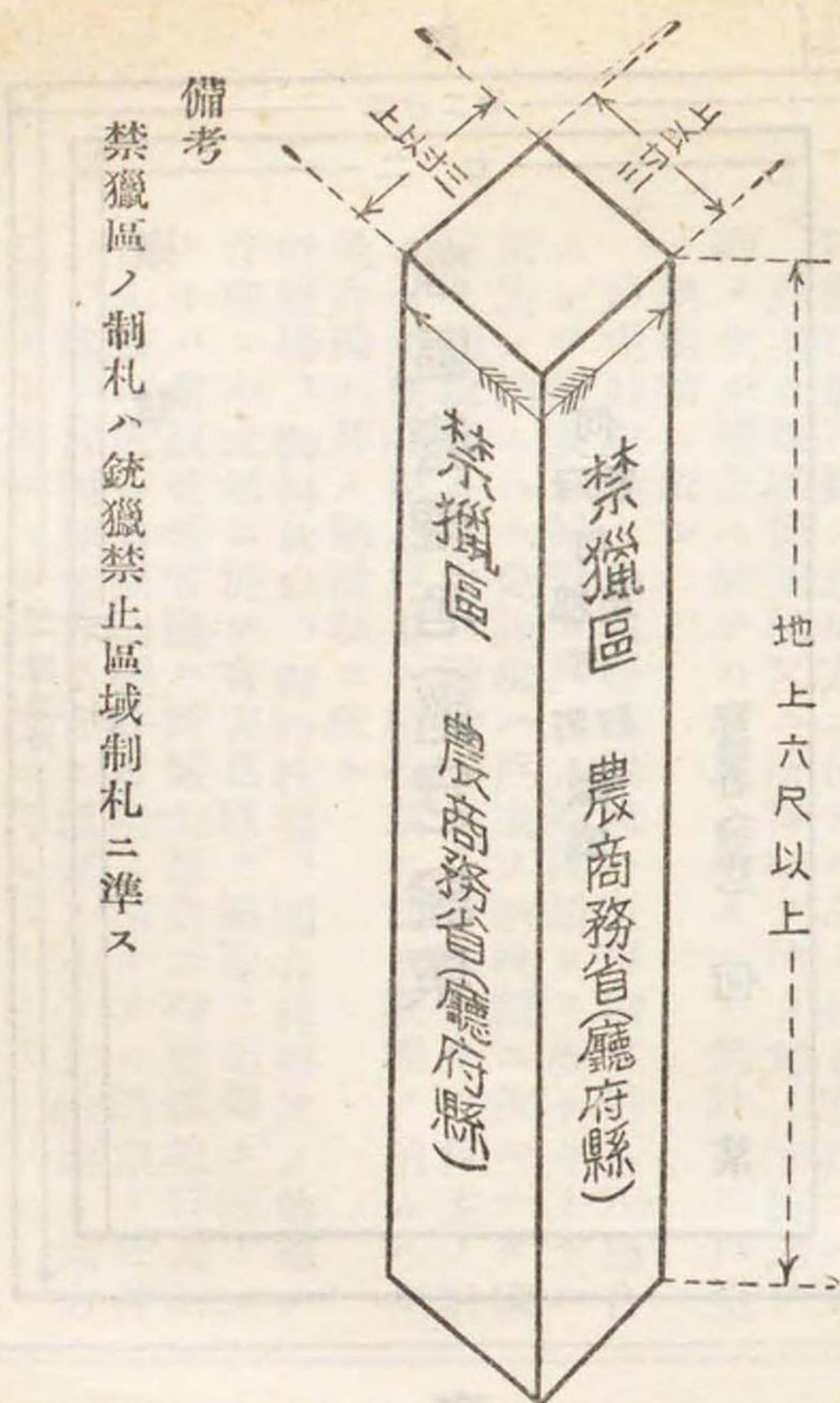
狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證、禁獵區ノ木標又ハ制札、銃獵禁止區域ノ制札及獵區管理者又ハ巡守ノ携帶スヘキ證票ノ雛形左ノ通定ス



鳥獸捕獲許可證雛形

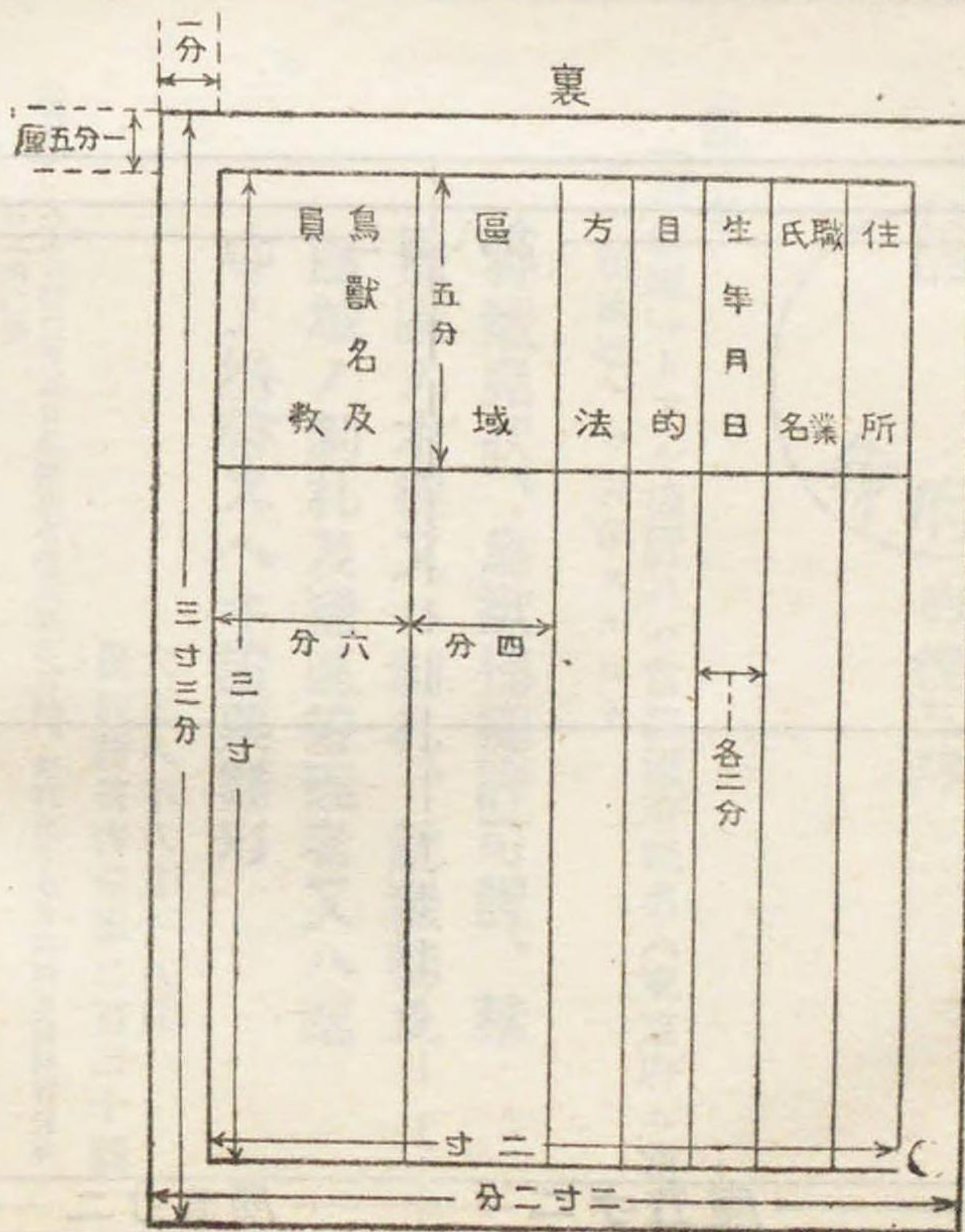
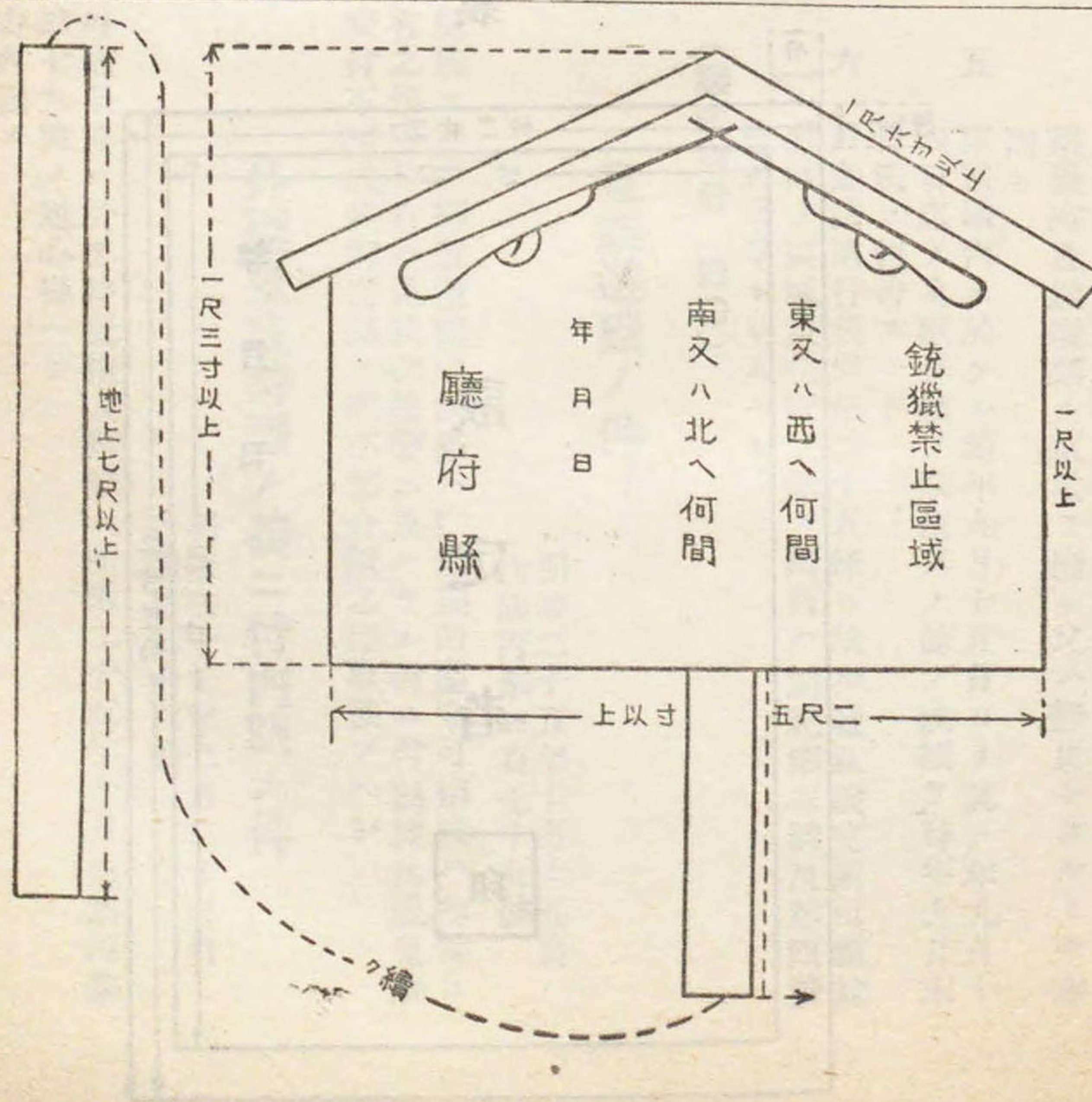


禁獵區木標雛形



狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證、禁獵區ノ木標又ハ制札、銃獵禁止區域ノ制札及獵區管理者又ハ巡守ノ携帶スヘキ證票雛形

銃獵禁止區域制札ノ雛形



獵區管理者(巡守)證票雛形

表

分二寸二 寸二 三寸三分 三寸

號 號

獵區管理者(巡守)證票

何府何郡何町獵區

何縣何市何村獵區

管理者(巡守) 何 某

一分 厘五分

裏

分二寸二 寸二 三寸三分 三寸

年月日

設定者

印

一分 厘五分

狩獵法施行ニ關スル内訓ノ件

大正八年農第一〇四〇三號 北海道廳 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)宛内訓

狩獵法施行ニ付テハ左ノ通心得ヘシ

農商務大臣

- 大正八年九月六日
- 狩獵法第八條ノ適用方ニ付テハ左ノ如ク取扱フヘシ
 - 戸主カ地租營業稅又ハ所得稅ヲ納メ其ノ家族之ヲ納メサル場合ニ於テハ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ戸主ノ納稅額ニ依ル
 - 戸主並家族カ地租營業稅又ハ所得稅ヲ納ムル場合ニシテ家族ノ納稅カ戸主ノ納稅額ヨリ少キトキハ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ戸主ノ納稅額ニ依ルヘク家族ノ納稅額カ戸主ノ納稅額ヨリ多キトキハ戸主ノ納ムヘキ免許稅ハ戸主ノ納稅額ニ依リ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ其ノ納稅額ニ依ル
 - 御獵場、御料林野、御料牧場、國有林野其ノ他國ノ管理スル土地ニ於テ有害鳥獸ノ驅除ヲ必要ト認ムルトキハ當該管理官廳ハ所屬公務員ニ狩獵法施行規則第七條ニ依ル鳥獸捕獲許可證ニ準シタル證票ヲ交付シ、其ノ旨關係地方長官ニ通牒スヘク右證票ハ地方長官ノ下附スヘキ許可證ニ代ルモノトス
 - 狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ下付シタルトキハ第一號及第二號様式ニ依リ前年四月十六日ヨリ其ノ年四月十五日迄ニ於ケル報告書ヲ調製シ毎年五月末日迄ニ之ヲ差出スヘシ

狩獵法施行ニ關スル内訓ノ件 皇族遊獵ノ件 外國皇族狩獵ノ義ニ付内訓ノ件

- 禁獵區及銃獵禁止區域ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク其ノ理由、區域及存續期間ヲ報告スヘシ
- 禁獵區及銃獵禁止區域ヲ廢シ又ハ變更シタルトキ亦同シ
- 禁獵區内ニ於ケル前年九月十五日ヨリ其ノ年九月十日迄ニ報告スヘシ
- 狩獵法施行規則第二十五條ニ依ル獵區設定認可願並獵區ノ區域及位置ヲ示ス圖面ハ別記第三號及第四號様式ニ準セシムヘシ

皇族遊獵ノ件

明治二十五年十月十五日 内訓丙第三百七十九號

皇族ニ於テ御遊獵相成候節ハ狩獵規則遵守可相成ハ勿論ニ有之候得共右ノ免狀御携帶ニ及ハサル義ニ付別段狩獵免狀交付不相成候御出獵ノ際不都合無之様取扱フヘシ

外國皇族狩獵ノ義ニ付内訓ノ件

明治三十七年二月二十三日 内訓農第十六號

外國皇族ニ於テ狩獵相成候節ハ明治二十五年十月内訓丙第三七九號ノ通心得ヘシ

帝國ニ駐在スル外國ノ大使、公使、領事官等ニ關スル狩獵免許ノ件

大正八年十月十八日 內訓農第一一八六八號

帝國ニ駐在スル外國大使、公使、領事官及其ノ廳附屬ノ外國官吏ハ一般外國人ト同シク免許稅ヲ納付シテ狩獵免狀ヲ受クヘキモノトシテ取扱フヘシ

密獵取締ニ關スル件

明治四十三年十月四日 農發第一四五一三號農務局長通牒

狩獵取締ニ付テハ曩ニ屢依命通牒ノ次第モ有之候處依然密獵ヲ爲ス者尠カラサル哉ノ聞ヘアリ近年野生鳥類著シク減少シ農林業上被害頗ル恐ルヘキモノアリ加フルニ狩獵免許稅ノ減額ニ伴ヒ狩獵者ノ數ヲ增加スヘキヲ以テ此際一層取締ヲ嚴ニスルト同時ニ密獵取締ニ付テ御配意相成様致度之方取締方法ハ種々アルヘキモ左記事項御參考ニ申添候條地方ノ狀況ニ應シ適宜有效ナル方法ヲ講シ取締上遺憾ナキヲ期セラレ度依命右通牒ス

- 一 獵期開始前及雄、鶴雉解禁前ニ於テ特ニ周到ナル注意ヲ爲スコト
- 一 野生鳥類特ニ保護鳥ニ關シテ其ノ習性及效益等ヲ周知セシメ愛護ノ念ヲ惹起シテ之カ保護蕃殖ノ途ヲ講

大正八年二月二十七日農第二二一〇號 各地方長官宛(東京府ハ警視總監宛)農務局長通牒

改正狩獵法ハ明年度ヨリ施行ノ見込ヲ以テ目下之ニ要スル經費豫算本期議會ニ提出相成候處右豫算確定ノ上ハ狩獵ニ關スル取締及鳥獸保護増殖ニ關スル指導獎勵其ノ他狩獵法施行ノ事務ニ從事セシムル爲貴縣ニ技手一人新設セラレハキ管ニ有之右官吏ハ任命後直ニ講習ノ爲當省ニ招集ノ見込ニ有之候條年度始早ニ於テモ任命シ得ル様人選ヲ了シ置カレ度尙右ハ動物學ニ關スル知識ヲ具有シ且成ルヘク狩獵ニ經驗アル者ノ中ヨリ選定ヲ要シ候義ハ申迄モ無之候モ新規ノ施設ニ付御豫選ノ上ハ內議相成候様致度此段依命及內牒候也

狩獵事務ヲ擔當スル技手任用ニ關スル件

大正十年六月七日農第八三九七號 各地方長官宛(東京府ハ警視總監宛トス)農務局長通牒

狩獵事務ニ從事スル技手任用ニ付テハ大正八年二月二十七日附農第二一〇號ヲ以テ依命通牒ノ次第モ有之候處近時新ニ任用相成候者中ニハ資格不充分ノ者モ有之哉ニ被存候條爾今動物學ニ關スル智識ヲ具有シ且可成狩獵ニ經驗ヲ有スル者ヨリ選任相成様致度此段及通牒候也

狩獵事務ヲ擔當スル技手任用ニ關スル件

- 一 スルコト
- 一 製業者、食用野生鳥商、西洋料理其ノ他割烹店等ニ付鳥類ノ取引先ニ注意スルコト
- 一 戶口調査ノ際銃器若ハ其ノ他ノ獵具ヲ所持スルヤ否ヲ視察シ其ノ之ヲ有スル者ニ付其ノ舉動ヲ注意スルコト
- 一 銃砲火藥類ノ販賣ニ關シ注意スルコト

牛馬商免許、狩獵免狀ノ下付及家畜市場仲立業者ノ認可ニ關シ通牒ノ件

大正元年九月十九日 農發九六五號各地方長官宛農務局長依命通牒

左記事項ニ關スル事務ヲ内部委任ノ方法ニ依リ郡市役所又ハ警察官署ヲシテ取扱ハシメ居ル地方有之事務簡捷上頗ル便宜ノ處置ト被存候條自今右ノ方法ニ依リ郡市役所又ハ警察署ヲシテ處理セシメラレ可然

- 一 牛馬商免許鑑札ノ下付、再渡、書換及返納
- 二 家畜市場仲立業者ノ認可
- 三 狩獵免狀ノ下付及之ニ關スル事項

狩獵事務ヲ擔當スル技手任用ニ關スル件

狩獵事務ヲ擔當スル技手任用ニ關スル件

大正十三年十一月二十八日農第一〇三〇〇號 各地方長官宛(東京府ハ警視總監宛)農務局長通牒

狩獵ニ關スル事務ヲ擔當スル技手ノ任用ニ關シテハ大正八年農第二一〇號依命通牒並同十年農第八三九七號通牒ノ次第モ有之特別ノ智識經驗ヲ有スル者ヲ任用スル趣旨ヲ以テ從來當省ニ於テ講習其ノ他ノ訓練ヲ講シ來リ候處近時新ニ任用相成候者中ニハ資格不充分ナル者有之哉ニ存セラレ候ニ付テハ此際人選ニ付テハ熟ト御考慮相成度尙今後新ニ御任用ノ際ハ豫メ當該者ノ履歷書御送付ノ上一應內議相成様致度依命此段及通牒候也

狩獵事務ヲ擔當スル技手任用ニ關スル件

昭和七年三月八日畜第二八五七號 各地方長官宛(東京府ハ警視總監宛)畜產局長通牒

狩獵ニ關スル事務ヲ擔當スル技手ノ職務ハ狩獵ノ取締、野生鳥獸保護施設ノ實施及鳥獸類ノ農林水産業上ニ與フル害益調査等特別ノ智識經驗ヲ要スル義ニ有之曩ニ狩獵ニ關スル事務ヲ擔當スル技手任用ニ關スル大正八年農第二一〇號依命通牒、同十年農第八三九七號通牒及同十三年農第一〇三〇〇號依命通牒ノ次第モ有之趣旨ニ基キタルモノニ有之候モ近時新ニ任用相成候者ノ中ニハ資格不充分ナル者有之哉ニ被存候ニ付テハ爾今新ニ御任用ノ際ハ農學校又ハ之ト

ニ於テ獵區ノ設定、其ノ區域ノ變更又ハ存續期間ノ變更若ハ更新ヲ爲サントスルトキ前項ノ場合ニ於テハ其ノ獵區ノ名稱、區域、地積及存續期間ヲ明示スルコト

- 三 左ノ場合ニ於テハ農林省ヨリ内務省ニ通知スルコト
イ 禁獵區又ハ鳥獸捕獲禁止區域若ハ制限區域(狩獵法第一條第三項)ノ設定ヲ爲シタルトキ
ロ 狩獵法施行規則第三十二條ノ三ノ規定ニ依ル認可ヲ爲シタルトキ
ハ 狩獵法施行規則第三十三條ノ規定ニ依ル獵區廢止ノ届出アリタルトキ
ニ 狩獵法施行規則第三十四條ノ規定ニ依リ命令又ハ處分ヲ爲シタルトキ
ホ 國營獵區ヲ廢止シタルトキ
四 左ノ場合ニ於テハ地方長官ハ農林省ニ稟伺シ農林省ヨリ内務省ニ協議スルコト
禁獵區又ハ銃獵禁止區域ノ廢止又ハ其ノ區域若ハ存續期間ノ變更ヲ爲サントスルトキ
五 左ノ場合ニ於テハ地方長官ハ農林省ニ稟伺シ農林省ヨリ内務省ニ通知スルコト
禁獵區又ハ銃獵禁止區域ノ設定ヲ爲サントスルトキ

鳥獸捕獲許可ニ關スル件

昭和四年十一月二日畜局第五四八九號
各地方長官宛(東京府ハ警視總監宛)畜産局長通牒
飼養ヲ目的トスル鳥獸ノ捕獲許可ハ狩獵法施行規則第七條第一項前段ニ依リ地方長官限リ處理スルコトト相成居候處

狩獵法令違反及銃器使用ニ依ル狩獵ニ因リ生シタル過失殺傷調ノ件

昭和二年一月二十日畜局第二四四號
各地方長官宛(東京府ハ警視總監宛)畜産局長照會
(改正) 昭和十一年六月十二日出第二二三號
大正十三年四月十六日ヨリ同十四年四月十五日迄及同十四年四月十六日ヨリ同十五年四月十五日迄ノ兩年度ニ於ケル狩獵法及同法施行規則違反事件及銃器使用ニ依ル狩獵ニ因リ生シタル過失殺傷事件各年別ニ左記様式ニ依リ至急調査報告相成度此段及照會候也
追テ次年度以降ニ於テモ右ニ準シ毎年七月末日現在ヲ以テ八月二十日限リ報告相成度申添候
(様式別冊 四一)

狩獵統計報告ニ關スル件

昭和六年十一月九日畜局第六〇三〇號
各地方長官宛(東京府ハ警視總監宛)畜産局長通牒
狩獵法施行規則第三十二條ノ二ノ規定ニ依ル獵區成績、大正八年内訓農第一〇四〇三號ニ依ル狩獵免狀及鳥獸捕獲許可證下付報告書、大正十五年四月二十一日附一五農局第八〇六號通牒ニ依ル狩獵免許者ニ依ル鳥獸捕獲數調及昭和二年一月二十日附二畜局第二四四號照會ニ依ル狩獵法令違反及銃器使用ニ依ル狩獵ニ因リ生シタル過失殺傷調等ハ從來之ヲ一括シ毎年狩獵統計ヲ編纂致居候處明年度ヨリハ狩獵期前ニ編纂ノ上之ヲ其ノ年ノ獵期ニ於ケル一般ノ參考資料

狩獵法令違反及銃器使用ニ依ル狩獵ニ因リ生シタル過失殺傷調ノ件
狩獵統計報告ニ關スル件

今後愛玩以外ノ目的ヲ以テ飼養スルモノノ捕獲許可ニ付テハ豫メ願書御送付ノ上一應御協議相成様致度此段及通牒候也

狩獵免許者ニ依ル鳥獸捕獲數調ノ件

大正十五年四月二十一日農局第八〇六號
各地方長官宛(東京府ハ警視總監宛)農務局長通牒
客年十月農林省令第二十四號ニ依リ狩獵法施行規則第十一條中改正ノ結果狩獵免狀ノ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ返納ニ際シ捕獲シタル鳥獸ノ道府縣別種別數ヲ届出ツヘキコトト相成候ニ付テハ左記様式ニ依ル報告書ヲ調製シ毎年五月末日迄ニ提出相成度此段及通牒候也

何年度狩獵免許者ニ依ル鳥獸捕獲報告書(廳府縣名)
何縣(道府)ニ於テ捕獲シタル分

Table with 4 columns: 鳥獸ノ種類, 數, 賦類ノ種類, 數

備考
(一) 鳥類記載ノ順序ハ狩獵法施行規則第一條ノ配列順位ニ據ルコト
(二) 他府縣等ニ於テ捕獲シタルモノアルトキハ道府縣毎ニ用紙ヲ別ニシテ調製スルコト

ト致度候條右各種統計ハ必ス所定ノ期日迄ニ報告又ハ報告セシメラレ度從テ狩獵法令違反及銃器使用ニ依ル狩獵ニ因リ生シタル過失殺傷調ノ件ハ報告期日等ヲ左記(第一號)ノ通變更シ取扱相成度尙獵區成績表中開獵日數、開獵回數、申込者數及入獵者數ノ表示方ハ往々解釋ヲ異ニスルモノ有之候條爾今左記(第二號以下)ニ依リ報告セシメラレ度此段及通牒候也

- 一 毎年四月十六日ヨリ翌年四月十五日迄ノモノヲ爾今毎年五月十五日現在ヲ以テ六月十日限リ報告相成度而シテ之カ爲未決件數多數ト可相成見込ナルモ右各未決件數ハ翌年度ノ報告ニ之カ處分ヲ朱書ヲ以テ各相當欄ノ左側ニ記載相成度
二 開獵日數トハ狩獵者カ入獵スルト否トニ拘ラス入獵シ得ル日數即チ入獵規程ニ規定スル狩獵日ノ日數トス
(例)
イ 狩獵日ヲ狩獵期間中ノ毎日曜日ニ制限シタル場合ハ狩獵期間中ノ各日曜日ヲ一日トシ其ノ總數ヲ記載セシメラレ度
ロ 狩獵日ヲ狩獵期間中ノ毎土曜日及日曜日ニ制限シ一狩獵日又ハ二日間連續スル狩獵日或ハ一狩獵日ヲ認メス二日間連續スル狩獵日ノミヲ以テ一承認期間トスル場合ハ狩獵期間中ノ土曜日及日曜日ヲ各一日トシ其ノ總數ヲ記載セシメラレ度
三 開獵回數トハ狩獵者カ入獵スルト否トニ拘ラス二日間以上連續ヲ以テ一承認期間トスル場合ハ之ヲ一回トシ其ノ他ノ場合ハ一日一回トシテ計算ス

雉ノ人工蕃殖成績ニ關スル件

昭和五年四月二十四日畜局第二六五七號
各地方長官宛(東京府ハ警視總監宛)畜産局長通牒
狩獵事務參考ニ供度候條昭和四年度ニ於ケル雉ノ人工蕃殖
成績左記様式ニ依リ至急報告相成度此段及通牒候也
追而次年度以降ニ於テモ右ニ準シ毎年二月末日迄ニ報告
相成度申添候

Table with columns: 種類ノ類, 雄雌ノ雌雄別數, 産卵數, 抱卵數, 孵化數, 成育數, 成雄ノ處置, 備考

狩獵鳥獸棲息概況ニ關スル件

昭和五年十月三日畜局第五七七〇號
各地方長官宛(東京府ハ警視總監宛)畜産局長照會
狩獵事務參考上必要ニ付貴管下ニ於ケル本年度ノキジ其ノ
他狩獵鳥獸ノ渡來蕃殖及棲息概況並最モ主要ナル獵場ニ於
ケル(其ノ獵場ノ主要鳥獸ヲ特記スルコト)右概況(説明
ハ前年度ト比較ノコト)本月二十日限り報告相成度此段及
照會候也
追而次年度ニ於テモ右ニ準シ毎年九月二十日限り報告相
成度申添候

鳥獸愛護思想普及ニ關スル
映畫貸付ノ件

昭和六年九月十四日畜局第五〇五〇號
各地方長官宛(東京府ハ警視總監宛)畜産局長通牒
狩獵講習會、講演會或ハ狩獵團體ノ總會等ノ開催ヲ機トシ
一般ニ鳥獸愛護思想ノ普及向上ニ資スル目的ヲ以テ當省備
付ノ活動寫眞ヲ貸付致候處右貸付ハ從來道府縣其ノ他ノ公
共團體又ハ之ニ準スヘキ法人ニ限レルモ自今道府縣(北海
道ニ在リテハ支廳)ヲ區域トスル狩獵團體ニ對シテモ左記
條件ニ依リ貸付ノ見込ニ有之候條借受希望ノ際ハ其ノ申請
書ヲ貴官經由ノ上提出セシメラルル様御取計相成度此段及
通牒候也
追而借受希望ノ向ハ使用期間、場所並借受理由ヲ記載セ
ル申請書ニ別記様式ノ請書ヲ添附シ使用期間一ヶ月前途
ニ到着スル様提出セシメラレ度申添候

- 一、貸付 日期 五日以内(特別ノ理由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス)
- 一、貸付卷數及名稱 一〇卷以内(特別ノ理由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス 豫メ借受映畫ノ名稱及卷數ハ照會ノコト)
- 一、運 搬 申請者負擔
- 一、報 告 映畫返送ノ際ハ使用シタル回数ヲ映畫ノ種類別ニ報告スルコト
- 一、天災又ハ不可抗力ニ依ラスシテ亡失又ハ毀損シタル場合ニハ相當價格ノ辨償ヲ命スルコトアルヘキコト

獵友會調查方ニ關スル件

昭和三年九月二十二日三畜局第四二二一號
各地方長官宛(東京府ハ警視總監宛)畜産局長照會
貴管下獵友會及聯合獵友會ニ於ケル左記事項承知致度候條
各獵友會別ニ用紙ヲ異ニシ調製報告相成度此段及照會候也
追而爾今獵友會ノ設立、廢止有之候際ハ其ノ都度報告相
成度申添候

請書様式
請書
借受品名稱 員數 米數 價 格
二、借受期間 自昭和 年 月 日 至昭和 年 月 日
但シ借受期間中ト雖御省ノ都合ニ依リ何時ニテモ返還スヘキコト
右之通今般本 ニテ借受候ニ付テハ天災又ハ不可抗力ニ依ラスシテ亡失毀損シタル場合相當價格ノ辨償ヲ命セラレタルトキハ無異儀履行可致依テ請書差出候也
昭和 年 月 日
何々會
右代表者 何々
農林大臣官房文書課長 殿 某 團

鳥獸愛護思想普及ニ關スル映畫貸付ノ件

獵友會調查方ニ關スル件

狩獵免許稅徵收等ニ關スル件

(大正十三年八月八日農局第八五五號
大藏省主稅局長宛 農務局長照會)
狩獵免許稅徵收等ノ件ニ關シ靜岡縣警察部長ヨリ當局農政課長宛別紙寫ノ通照會有之候ニ付爲參考左記事項ニ對スル

- 一 會ノ名稱
 - 二 事務所ノ位置
 - 三 區域
 - 四 組織
 - 五 維持ノ方法
 - 六 主ナル事業
 - 七 會員ノ數
 - 八 會長ノ職業氏名
 - 九 會費一人一ヶ月(或ハ一ヶ月)
 - 十 組織セル年月日
- 備考 聯合獵友會ノ支部或ハ支會ナルニ於テハ其ノ旨備考欄ニ附記相成度

貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

(一) 官廳ノ過失ニ因リ狩獵法第八條ノ免許等級ヲ誤リ下級免狀ヲ下付シタル場合ニ於テ其ノ免許税ノ不足額ヲ追徴スルハ聊カ酷ニ失スル様被認モ之ヲ追徴スヘキモノナリヤ否ヤ若シ之ヲ追徴スルモノトセハ狩獵免許税ノ如ク收入印紙ヲ以テ納付スル租税ノ強制徴收ハ如何ナル手續ニ依ルヘキモノナリヤ、國稅徵收法ノ適用アリヤ

(二) 官廳ノ過失ニ因リ狩獵法第八條ノ免許等級ヲ誤リ上級免狀ヲ下付シタル場合ニ於テハ狩獵免許税ノ超過額ハ之ヲ拂戻スヲ至當ト認ムルモ收入印紙ヲ以テ納付シタル租税ノ拂戻ハ如何ナル手續ニ依ルヘキモノナリヤ

(別紙寫省略)

(大正十三年十月一日藏第一二二二五號)

農務局長宛 大藏省主稅局長回答)

八月八日附農局第八五五號ヲ以テ御照會相成候首題ノ件了承右ハ左記ノ通取扱フヘキモノト被存候ニ付此段及回答候也

一 第一項ハ印紙ヲ追徴スヘキモノトス而シテ之ニ對シテハ國稅徵收法ノ適用ナキモノナルヲ以テ納稅者カ其ノ追納ヲ肯セサルトキハ他ニ強制徵收ノ途ナキモノトス
二 第二項ハ納稅者カ任意ニ超過シタルモノニアラサル限リ現金ニテ納入シタルトキト同様ニ取扱ヒ納額ハ之ヲ還付スヘキモノトス 以上

ニ關シテハ所得稅ノ納否又ハ其ノ額ノ差異ニ拘泥スルコトナク處理シ得ルモノナリヤ
右二項ニ關シ聊カ疑義相生シ候條此段及同候也
(乙號)

(昭和二年十二月二十六日畜局第四一〇〇號)

岐阜縣知事宛畜產局長回答)
十一月二十八日附保第一二六三二號ヲ以テ首題ノ件照會相成候處左記ノ通御了知相成度此段及回答候也

一 大正十三年靜岡縣知事ヨリ之ニ類似スル疑義ニ關スル照會ニ對シ大藏省ト協議ノ上「上級免狀ヲ下付シタル場合ニ於テ納稅者カ任意ニ過貼シタルモノナルトキハ過貼額ハ之ヲ還付セス否ラサル場合ニ於テハ現金ニテ納入シタル場合ト同様ニ取扱過額納額ハ之ヲ還付スヘキモノトス」ト回答シタルコトアリ本件ニ關シテモ右趣意ニ依リ過貼額ハ之ヲ還付シ狩獵免狀ハ相當免狀ニ書換交付スヘキモノトス
二 下級免狀ヲ受ケヘキ者ニシテ上級免狀下付ノ願出ヲ爲スモ狩獵法第八條ノ規定ニ依リ納稅額ニ依リ相當免狀ヲ下付スヘキモノトス但シ納稅額不明ノ場合一等免狀ヲ受ケムトスル者ニ對シテハ此ノ限ニアラス

狩獵免許稅下戻ニ關スル件

(昭和四年八月二十三日保發第八七三七號)

畜產局長宛 宮城縣知事照會)

管下仙臺市東八番町二十四番地内藤正夫ハ父正彦カ所得稅九圓四十六錢ヲ納ムルモノナルニ依リ昭和三年十月十五日乙種狩獵免許ヲ受クルニ際シ二等狩獵免狀ノ交付ヲ受ケタ

狩獵免狀下付ニ關スル件 狩獵免許稅下戻ニ關スル件

狩獵免狀下付ニ關スル件

昭和二年十二月二十六日畜局第四一〇〇號
各地方官宛(東京府ハ警視總監宛、岐阜及靜岡ヲ除ク) 畜產局長通牒

首題ノ件ニ關シ岐阜縣知事ヨリ別紙(甲號)ノ通照會有之候ニ付(乙號)ノ通回答致候參考迄此段及通牒候也
(甲號)

(昭和二年十一月二十八日保第一二六三二號)

農林大臣宛岐阜縣知事照會)

本籍岐阜縣武儀郡關町住所同上平民戶主料理屋業高木房吉ナルモノ昭和二年五月二十六日關稅務署ニテ千二百二十圓ノ所得額決定ヲ與ヘタルニ對シ不服ノ爲メ之レカ再調査申請中ノ處同年十月三十一日同人ハ甲種二等免狀下付願ヲ爲シタリ同願書ニハ所得稅十圓ヲ納ムル者ナル旨記載アリ尙所得稅同額ヲ納ムル旨關町長ノ證明書ヲ添附シアリテ願書面等ニ不備ノ點無キヲ以テ同日甲種二等狩獵免狀ヲ下付シタリ然ル後同年十一月十八日關稅務署ヨリ所得額誤謬ニ依リ所得稅取消ノ通知ヲ受ケタルヲ以テ同月二十二日狩獵免許稅三十圓ノ内十五圓ヲ還付ト免狀ノ等級書換ヲ申出テ免狀ハ其儘使用セシムヘキモノナリヤ又ハ狩獵免許稅ハ全部之ヲ還付シ二等免狀下付ヲ取消シ更ニ手續ヲ爲サシムルモノナリヤ或ハ十五圓ヲ還付シ三等免狀ヲ受ケヘキモノナリヤ尙所得稅ヲ納メス當然三等免狀ヲ受ケヘキ者カ一等又ハ二等ノ免狀ヲ受ケタキ旨ヲ特記シ狩獵免狀下付ヲ願出テシ場合ニ一等又ハ二等免狀ヲ下付スル等上級免狀ノ下付

ル處其ノ後昭和四年四月十五日ニ至リ仙臺稅務署ニ於テ前記正彦ニ對シ納稅資格ナキニ誤ツテ課稅シタル趣ヲ以テ之ヲ取消シ本稅及附加稅ノ下戻ヲ爲シタルニ依リ今同本人ヨリ既納シタル二等免狀ハ當然三等免狀タルヘキモノナリトノ理由ヲ以テ過額納分十五圓ヲ下戻相成度旨ノ申出有之候就テハ昭和二年十二月二十六日畜局第四一〇〇號御通牒ノ次第モ有之候得共收入印紙ハ既ニ消印済ナルノミナラス目下免狀下付ヲ取扱ハサル時期ニテ差向右超過額還付ノ便法無之狀況ニ付テハ之カ處理ニ關シ何分ノ御指示相成度

(昭和四年八月三十日畜局第四〇九九號)

宮城縣知事宛畜產局長回答)

八月二十三日附保發第八七三七號ヲ以テ首題ノ件照會相成候處右ハ諸拂戻金支拂要求ノ例ニ依リ處理相成度此段及回答候也

外國人ニ對スル狩獵免狀下付ニ關スル件

(大正十五年九月三日保發第三九七號)

畜產局長宛警視總監照會)

在留外國人ニ對シ狩獵免狀ヲ下付スルニ際シテハ狩獵法第八條及同法施行規則第五條ニ依リ納稅額證明ノ不完全ナルモノニ付テハ免狀ヲ否認スルカ若クハ一等免狀ヲ受ケシメサルヘカラサル性質ノモノト被思料候得共事實上本籍地ニ於ケル納稅額證明書ヲ得ルニ困難ナル外國人ニ對シテハ一等免狀ヲ申請セサル限リ該證明書ヲ提出ヲ強要セサルヘカニ對シテハ其ノ國ノ大使又ハ領事等ノ證明書ヲ以テ之ニ

代ルヘキモノト見做シ取扱フヲ妥當ト被思料候得共他府縣トノ關係モ有之何分ノ御指示相成度此段及照會候也
追テ住所地ニ於ケル納稅額證明書ハ從來ノ通添附セシムルモノニ付申添候
(大正十五年十月九日畜局第二二六九號
警視總監宛畜產局長回答)

九月三日附保第三九七號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ處狩獵法第八條ノ所得稅トハ所得稅法ニ依ルモノノ儀ニ有之隨テ同法施行規則第五條ノ規定ニ依ル稅額ノ證明書ハ外國人ニ在リテハ本邦ニ於ケル納稅額證明書ヲ添附スルヲ以テ足ル儀ニ付御了知相成度此段及回答候也

狩獵疑義ニ關スル件

(大正十四年十一月十七日保發第六八四八號
農務局長宛鹿兒島縣知事照會)

縣下熊毛郡屋久島ニ於テハ從來括リ毘ヲ以テ鹿ヲ捕獲致居候處過般狩獵法施行規則改正ノ結果牝鹿ハ之ヲ捕獲シ能ハサルニ至リタルモ偶々括異ニ牝鹿ノ掛ル場合如何ニ處置スヘキモノナルヲ取締上疑義有之候條何分ノ御指揮相成度右及御照會候也
(大正十四年十二月二十六日農務第二一六七號
鹿兒島縣知事宛農務局長回答)

十一月十七日附保發第六八四八號ヲ以テ括異使用ニ依ル鹿捕獲ニ關スル疑義ノ件照會ノ處總テ獵具ハ非狩獵鳥獸ヲ捕獲スル目的ヲ以テ之ヲ使用スルコトヲ得サルハ勿論之ヲ捕獲スルニ至ルヤモ知レズト豫想セラルル場合ニ於テモ之ヲ使用シ得サルモノニ付鹿ノ捕獲ニ括異ヲ使用シ得ル場合ハ大體左記ノ通御了知相成度此段及回答候也

一 括異力之ニ掛リタル牝鹿ニ傷害ヲ與フルコトナキモノニシテ直ニ之ヲ追放スル場合
二 括異力之ニ掛リタル牝鹿ニ傷害ヲ與フル程度ノモノナルモ其ノ掛ラサル様適當ナル方法ヲシテ使用スル場合

有害鳥獸驅除ニ關スル件

大正八年九月六日農務第一〇四〇三號
大林區署長宛農務局長山林局長通牒

狩獵法第十二條第一項ニ依ル有害鳥獸ノ驅除ニ付今般別紙寫ノ通り内訓致候ニ付テハ所屬公務員ニ交付スヘキ證票ハ大正八年八月十八日農務省告示第二百二十號ニ規定シタル鳥獸捕獲許可證ニ準シ調製相成度尙右ニ依リ有害鳥獸ノ驅除ヲ終了シタルトキハ狩獵法施行規則第十一條第二項ノ事項ヲ直ニ當省ニ報告相成度依命此段及通牒候也
追テ右ニ依リ有害鳥獸ノ驅除ニ從事スヘキ公務員ハ狩獵法其ノ他關係規則遵守可相成ハ勿論ニ有之候得共當該官廳ハ其ノ從事者ニ對シ監督ヲ嚴重ニシ取締上遺憾ナキヲ期セラレ度此段申添候
(別紙寫)

御獵場、御料林野、御料牧場、國有林野其ノ他國ノ管理スル土地ニ於テ有害鳥獸ノ驅除ヲ必要ト認ムルトキハ當該管理官廳ハ所屬公務員ニ狩獵法施行規則第七條ニ依ル鳥獸捕獲許可證ニ準シタル證票ヲ交付シ其ノ旨關係地方長官ニ通牒スヘク右證票ハ地方長官ノ下付スヘキ許可證ニ代用スヘキモノトス

有害鳥獸驅除及獵區設定ニ關スル件

大正八年九月二十九日
山第一四六六號山林局長通牒

國有林野ニ於ケル有害鳥獸ノ驅除及獵區設定ノ場合ハ左記事項留意ノ上施行相成度此段及通牒候也
追テ獵區設定ニ關スル經費ハ當分配賦ノ見込無之候條御諒知相成度申添候

- 一、有害鳥獸驅除ノ期間ハ驅除ヲ要スル場所又ハ鳥獸ノ種類ニ依リ一定スルヲ得サルヘキモ一箇年ヲ通シテ一期間ト爲スガ如キハ穩當ナラサルニ付大體六箇月ヨリ多カラザル範圍ニ於テ相當トスル期間ヲ指定シ許可相成度
- 二、國有林野及產物管理規程第三十八條ハ九月六日付農務第一〇、四〇三號内訓(同日附通牒參照)ニ依リ自然消滅ニ歸シタルモ同第三十九條以下ノ規程ハ嚴重ニ勵行ノ上遺漏ナキヲ期セラレ度
- 三、獵區設定ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ニ協議ノ上別紙願書式ニ準シテ申請書ヲ作製シ直接本省ヘ進達相成度
- 四、獵區管理ニ關スル規程ヲ定ムトスルトキハ前項ノ申請書ニ其ノ草案ヲ添附相成度
- 五、狩獵法及同施行規則ニ依リ本省ヘ進達ノ書類ハ揮テ本局ヲ經由スルコトニ處理相成度

(様式略)

有害鳥獸驅除ニ關スル件 有害鳥獸驅除及獵區設定ニ關スル件 國有林野有害鳥

國有林野有害鳥獸ノ種類認定方ニ關スル件

大正八年十一月七日
山第一五八四號山林局長通牒

國有林ニ於テ驅除ヲ必要トスル有害鳥獸ノ種類ノ認定方ニ關シ別紙甲號東京大林區署長ノ照會ニ對シ乙號ノ通り回答候條右了知ノ上相當處理相成度此段及通牒候也
(甲號)

林第五、〇六七號
大正八年十月十六日

東京大林區署長

農務局長殿
山林局長殿

有害鳥獸驅除ニ關スル件
狩獵法及施行規則改正ノ結果曩ニ御通牒ニ依リ國有林野ニ於ケル有害鳥獸驅除證下附ノ權能ハ大林區署長ニ委任セラレ之カ下附ヲ爲シタルトキハ關係府縣知事ニ通告スヘキコトト相成候處捕獲ヲ許可シタル鳥獸ノ種類ニ對シ異議ヲ挾ム府縣アリ然ルニ右有害鳥獸ノ種類認定ハ許可證下付ノ權能ト共ニ大林區署長ニ委任セラレタルモノト思料致候得共施行規則第一、二條ニ認メラレタル鳥獸ノ種類ト否トヲ問ハス府縣知事ニ對シ其種類ニ關シ承認又ハ協定ヲ要スル筋合ニ可有之ヤ差掛リ居リ候件有之候間至急何分ノ御意見承知致度右及照會候也
追テ當署ニ於テハ其種類及期間等施行規則第一條及二條ニ準シ取扱フヘキ方針ニ有之候間申添候

(乙號)
山第一、五八四號
大正八年十一月七日

山林局長
農務局長

東京大林區署長殿
十月十六日付林第五、〇六七號ヲ以テ有害鳥獸驅除ノ件ニ關シ照會ノ趣了承驅除ヲ必要トスル鳥獸ノ種類ハ許可證下付者ニ於テ當然認定スヘキ義ニ有之候條了知相成度此段及回答候也
追テ驅除鳥獸ノ種類ハ明治四十五年五月山第五三〇號通牒ノ範圍内ニ於テ加害ノ甚シキモノヲ限リ驅除セシムルコトニ處理相成度申添候也

有害鳥獸ノ驅除取締方ニ關スル件

大正九年一月二十一日
山第九七號山林局長通牒

有害鳥獸驅除ニ關スル取締方ニ付テハ從來屢々通牒ニ及ビ置候處近時地方ニヨリテハ驅除證ノ交付濫ニ失スルノ趣ニテ本局ニ申報シ來ル向モ有之斯クテハ改正狩獵法ニ依リ地方長官ノ承認ヲ不要驅除セシムルコトニ相成シ精神ニ鑑ミルモ遺憾不抄候條爾今一層驅除地域、鳥獸ノ種類期間ニ對スル指定ヲ嚴守セシメ苟モ違背者ヲ出スカキコト無之様致度此段及通牒候也
追テ林野巡守又ハ苗圃定夫ニ驅除ヲ命スルハ當該保護區員若シテハ其ノ他ノ署員ノミニテハ效果ヲ全ウシ得ザル場合ニ限ル様處理相成度併セテ申牒候也

國有林野有害鳥獸種類限定ノ件

大正十年十一月二十五日
九山第一六七三號山林局長通牒

國有林野ニ於テ驅除ヲ要スル有害鳥獸ノ種類限定ノ件ニ關シ客年十月二十六日付本號照會ニ依リ夫夫御回答ヲ得調査ノ結果左記ノ通り決定候條自今右ノ主旨ヲ以テ驅除セシメラレ度此段及通牒候也
追テ林野巡守若ハ苗圃定夫等ニ對シテハ必要以外ニ驅除證交付ノ嫌アルヲ注意方本省ニ申出ツル地方廳モ有之候間如斯非難ヲ受ケサル様致度申添候也

驅除鳥獸ノ種類

- 一、驅除鳥獸ノ種類
樞鳥、鴉、雉、五位鶯、雀、鳩、鴨、鷓鴣、鶯、河原鶉、鵝、鵪鶉、黑鶉、金翅雀、鵲、白、熊、猪、兔、鼯鼠、栗鼠、貓、土龍鼠、野鼠
- 二、前項以外ノ鳥獸ヲ驅除スルノ必要アルトキハ其ノ驅除ヲ要スル都度本局ニ事由ヲ詳具シ協議相成度
- 三、驅除セシムヘキ鳥獸ノ種類ハ驅除ヲ要スル場所及驅除者ニ依リ一様ナラサルヘキニ付各適當ノ部分ニ制限スル様處理相成度

府縣市町村等ガ獵區設定申請ノ場合協議方ノ件

大正十一年七月二十六日
山第九八號山林局長通牒

府縣市町村等カ狩獵法ノ規定ニ依リ獵區設定申請ノ場合其ノ主要區域タル民有地ト共ニ國有林野ヲモ獵區トスル目的ヲ以テ承認方申出タルトキハ許可決定前事由ヲ詳具シ協議越相成度此段及通牒候也

有害鳥獸捕獲報告ニ關スル件

昭和五年
山第五五八號山林局長通牒

大正八年九月農第一〇四〇三號ニ基キ報告相成居リ候有害鳥獸捕獲報告ハ昭和五年分ヨリ別紙様式ニヨリ毎年五月末日迄ニ報告相成度此段及通牒候也
追而最近報告後本年四月十五日迄ノ分ニ付テハ可成右様式ニ準シ報告相成様致度尙大正八年七月山第一〇四九號通牒國有林野一班資料様式第十號有害鳥獸捕獲調ハ昭和四年限り之ヲ廢止ノ事ニ御承知相成度申添候
(様式別冊 四二)

銃砲火藥類取締法

明治四十三年四月十三日
法律第五十三號

(改正) 大正六年第二號、二年第二號
第一條 銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ハ其ノ營業者又ハ行政官廳ノ許可若ハ委託ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ理化學上ノ實驗、鳥獸ノ捕獲及驅除、射的練習等ノ用ニ供スル火藥類ニ付命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第二條 火藥、爆藥ノ製造ハ帝國國民又ハ帝國國民ノミヲ

國有林野有害鳥獸種類限定ノ件 府縣市町村等ガ獵區設定申請ノ場合協議方ノ件
銃砲火藥類取締法 七〇七

第三條

銃砲、火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營ムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケヘシ但シ製造業者カ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス
相續ニ依リ前項ノ營業ヲ繼續スル場合ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者ハ銃砲製造業者ト看做シ火藥類ノ變形又ハ修理ノ業ヲ營ム者ハ火藥類製造業者ト看做ス

第四條

行政官廳ハ銃砲販賣業者及火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ヲ設ケルコトヲ得
製造業者及行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ委託額以上ノ同種類ノ火藥類ヲ製造スル者ニシテ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ販賣業ヲ兼ヌルモノハ前項ノ定員ニ算入セス

第五條

銃砲、火藥類ノ製造、變形、修理又ハ販賣ニ關シ許可ヲ受ケタル者行政官廳ニ於テ指定シタル期間内ニ其ノ事業ヲ開始セス若ハ事業開始後一年以上其ノ事業ヲ休止シタルトキ又ハ法令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得
第六條 軍用銃砲、火藥類ノ讓渡又ハ讓受ハ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ製造業若ハ販賣ノ業ヲ營ム

者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 銃砲、火藥類ハ之ヲ行商シ又ハ市場若ハ露店其ノ他屋外ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條 銃砲、火藥類ノ輸出ハ其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 銃砲、火藥類ノ輸入ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者若ハ其ノ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ銃砲、火藥類ノ製造所、貯藏所其ノ他銃砲、火藥類ヲ收藏スルノ疑アル場所ニ臨檢シ又ハ銃砲、火藥類及之ヲ收藏スルノ疑アル物件若ハ營業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

行政官廳ハ危濫豫防ノ爲銃砲、火藥類ノ製造所若ハ火藥類ノ貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ火藥類ニ關シ若ハ其ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 行政官廳ハ保安上、軍事上又ハ外交上必要アリト認ムル場合ニ於テ銃砲、火藥類ノ輸出若ハ輸入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十二條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ銃砲、火藥類ノ授受、運搬、携帶ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ行政官廳ハ銃砲、火藥類ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

第十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ

一 定ム

本法ノ適用ヲ受ケヘキ銃砲、火藥類ノ範圍及新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥類ノ範圍

二 銃砲、火藥類ノ取引、授受、使用、運搬、貯藏其ノ他ノ取扱

三 銃砲、火藥類ノ取扱人及火藥類ノ作業主任者ニ關スル事項

四 銃砲、火藥類製造所及火藥類貯藏所ニ關スル事項

五 火藥類ヲ要スル工事又ハ工業ニ關スル事項

第十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ全部又ハ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銃砲、火藥類ニ非サル他ノ武器又ハ爆發物物品ニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

本法ノ一部ヲ適用スルノ必要ナシト認ムル銃砲、火藥類ニ關シテハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條 第一條、第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ、許可ヲ受ケスシテ第三條ノ營業ヲ爲シ又ハ第五條若ハ第十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ未遂罪ヲ罰ス

第十七條 第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第十條第一項若ハ第十三條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執行ニ際シ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタ

銃砲火藥類取締法施行規則

明治四十四年三月十一日 勅令第十六號

(改正) 大正六年第一八四號、一二年第一七六號

ル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業又ハ事業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條 前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十三條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

刑法施行法第二十五條第一項中第一號ヲ削リ以下各號順次繰上ケ

爆發物取締罰則ハ本法ノ爲其ノ效力ヲ妨ケララルコトナシ

(明治四十四年勅令第十五號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行)

附則 (大正十一年法律第二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(大正十二年勅令第七十五號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行)

第一條 銃砲火藥類取締法ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用銃砲及非軍用銃砲ヲ謂フ

軍用銃砲トハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ軍用銃砲トシテ指定シタル銃砲及千米突以上ノ距離ニ有效ニ彈著スヘキ裝置ヲ有シ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供シ得ヘキ銃砲ヲ謂ヒ非軍用銃砲トハ其ノ他ノ銃砲ヲ謂フ

第二條 銃砲火藥類取締法ニ於テ火藥類ト稱スルハ左ニ掲クル火藥、爆發及火工品ヲ謂フ

一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥、硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥又ハ硝化纖維素トナイトログリセリントノ結合物ヲ主トスル無煙火藥ノ類

二 爆發 雷酸鹽、雷汞、起爆ノ用途ニ供スル窒化物ノ類 窒化鉛 其ノ他ノ起爆劑、ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥 各種ダイナマイトノ類、硝酸鹽、鹽素酸鹽若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥又ハ爆發ノ用途ニ供スル棉火藥、芳香系列ノ硝化物 ナイトロベンジン、ナイトロホル、ピクリン酸及テトラナ 及之ヲ主トスル混和イトロメチールアニリンノ類

三 火工品 實包、空包、藥筒、藥包、彈藥筒、火藥若ハ爆發藥ヲ裝填シタル彈丸若ハ水雷、雷管、信管、爆

管、門管、緩燃導火線 一尺ノ燃燒時間十秒、速燃導火線又ハ煙火其ノ他火藥若ハ爆藥ヲ使用シタル火工品但シ玩具用普通火工品ヲ除ク

第二條ノ二 新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

- 一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥又ハ硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥
- 二 爆藥 雷酸鹽、雷汞、ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥各種ダイナ、硝酸アンモニア若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥、爆發ノ用途ニ供スル棉火藥、芳香系列ノ硝化物サリン、ナイトロトリユオール、ピクリン酸及テトラナイト、及之ヲ主トスル混和物又ハロメチールアニリンノ類
- 三 火工品全部
- 第二條ノ三 左ニ掲クル場合ニ於テハ行政官廳ノ許可ハ之ヲ受クルコトヲ要セス
 - 一 理化學上ノ實驗トシテ少量ノ火藥類ヲ製造、變形又ハ修理スル場合
 - 二 乙種狩獵免狀ノ下付ヲ受ケタル者又ハ學術研究若ハ有害鳥獸驅除ノ爲銃器ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲スルノ場合

許可ヲ受ケタル者其ノ所要ノ銃用實包一日百箇以內ヲ製造スル場合
三 有害鳥獸威嚇ノ爲銃用空包發射ノ許可ヲ受ケタル者其ノ所要ノ銃用空包一日百箇以內ヲ製造スル場合
四 射的ノ練習又ハ競技ノ爲成年者タル練習者、競技者又ハ射的場ノ職員カ射的場內ニ於テ練習者又ハ競技者一人ニ付其ノ所要ノ非軍用銃用實包又ハ狹窄射擊用銃用實包一日三十箇以內ヲ製造スル場合

五 學校ノ發火演習ニ際シ其ノ職員カ校內ニ於テ學生又ハ生徒一人ニ付其ノ所要ノ銃用空包三十箇以內ヲ製造スル場合
六 學校ノ運動會又ハ競技會ニ際シ其ノ職員カ校內ニ於テ其ノ所要ノ信號用ノ銃用空包二百箇以內ヲ製造スル場合

第三條 銃砲火藥類取締法又ハ本令ニ於テ軍用火藥類ト稱スルハ專ラ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂ヒ普通火藥類ト稱スルハ其ノ他ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂フ

- 第四條 銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ニ付行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者ハ事業開始前製造スヘキ銃砲又ハ製造若ハ變形修理スヘキ火藥類ノ種類、數量、委託ノ年月日、委託ノ條件及委託官廳名ヲ其ノ官廳ノ證明書ヲ添付シテ作業地廳府縣長官ニ届出ツヘシ
- 第五條 軍用銃砲又ハ火藥若ハ爆藥 煙火原料用火藥ノ製造ノ許可ハ作業地廳府縣長官ヲ經由シ陸軍ノ用ニ供スル銃砲火藥類ニ付テハ內務大臣及陸軍大臣ニ、海軍ノ用ニ供スル銃砲火藥類ニ付テハ內務大臣及海軍大臣ニ、其ノ他ノ火藥類ニ付テハ內務大臣ニ之ヲ申請スヘシ

第六條 非軍用銃砲ノ製造、煙火原料用火藥若ハ爆藥ノ製造、火藥若ハ爆藥ノ變形修理又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ許可ハ作業地廳府縣長官ニ、銃砲火藥類ノ販賣營業ノ許可ハ營業地廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

第七條 行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ銃砲火藥類ヲ製造又ハ變形修理スル者ハ其ノ事業ニ要スル設備ニ付許可ヲ爲シタル行政官廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル廳府縣長官ノ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス其ノ變更ニ付亦同シ

第八條 銃砲火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ委託スル場合ニ於テハ委託行政官廳ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ定ムルモノノ外取締上必要ナル設備又ハ事項ヲ命スルコトヲ得

第九條 前項ノ設備ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十條 第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ檢査ヲ受ケタル設備又ハ許可ノ條件トシテ若ハ第八條ノ規定ニ依リ命令セラレタル事項ヲ變更セムトスル者ハ許可又ハ委託ヲ爲シタル行政官廳ノ許可ヲ受ケヘシ

第十一條 銃砲火藥類取締法第三條ノ規定ニ依リ火藥類販賣業者ニ與フル許可ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ニ關スル各種ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得
乙種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ヲ輸入シ之ヲ官廳又ハ火藥類販賣業者ニ賣渡ス外火藥類ニ關スル銃砲火藥類取締法施行規則

第十二條 銃砲販賣業者及前條ノ火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ハ內務大臣之ヲ定ム

第十三條 火藥類販賣業者ハ火藥庫ヲ備フルコトヲ要ス

第十四條 火藥類販賣業者ノ火藥類取扱ハ火藥類取扱免狀ヲ有スル者之ニ任スルコトヲ要ス一年間二千貫以上ノ火藥又ハ千貫以上ノ爆藥ヲ消費スル者ニ付亦同シ

第十五條 前項ノ規定ハ火藥及爆藥ヲ共ニ消費スル場合ニ於テハ爆藥一貫ヲ火藥二貫ト看做シ合算シタル數量ニ付之ヲ適用シ消費ノ場所二箇以上アル場合ニ於テハ各消費場所ニ付之ヲ適用ス

第十六條 火藥類取扱免狀ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第十七條 火藥類ノ作業主任者ヲ置クコトヲ要ス

第十八條 火藥類讓渡ノ許可ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

火藥類讓渡ノ許可ハ消費地廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ但シ消費地定マラス若ハ二箇所以上ニ互リ又ハ銃砲火藥類取締法施行區域外ニ係ル場合ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

第十九條 左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓受ニ付テハ內務大臣ノ定メタル場合ニ限リ前條ノ區分ニ依リ警察官署ニ之ヲ申請スルコトヲ得

- 一 火藥 三貫以內
- 二 爆藥 一貫三百匁以內

三 工業用雷管 二千箇以內
 四 信管 千箇以內
 五 爆管 千箇以內
 六 門管 千箇以內
 七 導火線 五百間以內
 第十八條 軍用銃砲又ハ左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓受ノ許可ハ所轄警察官署ニ之ヲ申請スヘシ
 一 火藥 一貫三百匁以內
 二 銃用實包 千箇以內
 三 銃用空包 千箇以內
 四 銃用實包又ハ銃用空包ニ要スル雷管又ハ雷管附藥莖
 第十九條 前條ノ許可ハ二月間其ノ效力ヲ有ス
 前二條ノ許可ハ許可ヲ爲シタル行政官廳取締上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得
 前二條ノ規定ニ依ル讓受ノ許可ハ讓受ヲ要スル事由ノ消滅ニ依リ其ノ效力ヲ失フ
 第二十條 軍用銃砲又ハ火藥類ノ讓渡ハ公賣又ハ競賣法若ハ民事訴訟法ニ依ル競賣ノ場合ニ於テハ許可ヲ要セサルモノトス
 第二十一條 鑛業法ニ依リ鑛物ノ試掘若ハ探掘ヲ爲ス者又ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火藥類消費ノ許可ヲ受ケタル者カ其ノ消費スル火藥類ヲ讓受ケル場合ニ於テハ第十七條各號ノ火藥類ニ限リ、狩獵免許ヲ受ケタル者カ其ノ消費スル火藥類ヲ讓受ケル場合ニ於テハ第十八條各號ノ火藥類ニ限リ行政官廳ノ許可ヲ要セサルモノトス
 第二十二條 火藥類ハ左ニ掲ケル者カ其ノ火藥類ヲ所持スル場合ノ外之ヲ所持スルコトヲ得ス

一 火藥類販賣業者
 二 火藥類製造業者又ハ委託若ハ許可ヲ受ケ火藥類ノ製造若ハ變形修理ヲ爲ス者
 三 第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ火藥類讓受ノ許可ヲ受ケタル者
 四 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケシテ火藥類ヲ讓受ケタル者
 五 第二十三條ノ規定ニ依リ火藥類ノ輸入又ハ輸出ノ許可ヲ受ケタル者
 六 運送業者
 七 相續又ハ遺贈ニ因リ火藥類ノ所有權ヲ取得シタル者
 八 法人ノ合併ニ因リ火藥類ノ所有權ヲ取得シタル者
 九 前各號ニ掲ケル者ノ家族又ハ從業者
 火藥類ヲ所持スル者廢業、許可ヲ取消其ノ他ノ事由ニ因リ前項各號ニ該當セサルニ至リタルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ讓渡其ノ他必要ナル處分ヲ爲スヘシ
 前二項ノ規定ハ第十八條各號ノ火藥類ニ之ヲ適用セス
 第二十三條 銃砲火藥類取締法第八條ノ許可ハ輸出港、同法第九條ノ許可ハ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ
 前項ノ許可ハ軍用銃砲及軍用火藥類ニ付テハ輸出港又ハ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ヲ經由シ陸軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及陸軍大臣ニ、海軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及海軍大臣ニ之ヲ申請スヘシ
 第二十四條 前條ノ許可ハ一年間其ノ效力ヲ有ス但シ許可ヲ爲シタル行政官廳取締上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得
 第二十五條 輸入又ハ讓受ノ許可ヲ受ケタル火藥類ハ其ノ

許可ヲ爲シタル行政官廳、第二十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケシテ讓受ケタル火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ他ノ用途ニ充ツルコトヲ得ス
 第二十六條 銃砲火藥類取締法第十一條ノ規定ニ依リ銃砲火藥類ノ輸出若ハ輸入ノ禁止又ハ制限ハ内務大臣之ヲ行フ但シ陸軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及陸軍大臣、海軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及海軍大臣之ヲ行フ
 第二十七條 火藥類ハ第十八條各號ノ一ニ該當スルモノ及左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外火藥庫又ハ倉庫以外ノ場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス
 一 土工其ノ他一時ノ事業ニ要スル火藥類ヲ其ノ事業中假貯藏所ニ貯藏スル場合
 二 一月以內ニ完了スヘキ土工其ノ他ノ事業ニ要スル火藥類ニシテ第十七條各號ノ一ニ該當スルモノヲ其ノ事業中十日以內ヲ限リ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ其ノ指定シタル安全ノ場所ニ貯藏スル場合
 三 火藥ヲ裝填セサル雷管附藥莖ヲ安全ナル場所ニ貯藏スル場合
 第二十八條 火藥類貯藏所ニ貯藏スル火藥類ハ左ノ數量ヲ超過スルコトヲ得ス

銃用空包	二千萬箇	三萬箇	千萬箇
銃用雷管	五千萬箇	十萬箇	五百萬箇
工業用雷管	三百萬箇	一萬箇	三十萬箇
信管、爆管、門管	無制限	三萬箇	無制限

前項ニ掲ケサル火工品ハ其ノ原料タル火藥又ハ爆藥ノ數量ニ依リ前項ノ規定ヲ適用ス但シ雷管附藥莖及導火線ハ此ノ限ニ在ラス
 第二十九條 内務大臣ハ安全ナル位置ニ於テ特別ノ設備ヲ爲シタル火藥庫ニ付危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ノ數量ヲ超過スル火藥類ノ貯藏ヲ許可スルコトヲ得
 第三十條 火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニ存置シ得ヘキ火藥類ノ數量ハ其ノ設備ニ應シ製造若ハ變形修理ヲ委託若ハ許可シ又ハ其ノ營業ヲ許可シタル行政官廳之ヲ指定ス
 第三十一條 火藥類ハ内務大臣ノ定ムル區別ニ依リ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ之ヲ貯藏スヘシ但シ倉庫ニ在リテハ不燃質物ヲ以テ造リタル隔壁ニ依リ遮斷スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
 第三十二條 火藥類貯藏所ノ新設ハ所在地廳府縣長官ノ許可ヲ受ケヘシ其ノ増築、改築、修繕又ハ模様替ノ工事ヲ爲ストキ亦同シ
 第三十三條 第二十八條ノ規定ニ依リ火藥類貯藏所ニ貯藏

火藥類ノ種類	火藥庫	倉庫	假貯藏所
火藥	一萬貫	十二貫	五千貫
爆藥	五千貫	三貫	二千五百貫
銃用實包	二千萬箇	三萬箇	千萬箇

銃砲火藥類取締法施行規則

スルコトヲ得ヘキ最大數量ノ火藥類ノ貯藏ニ付テハ倉庫ヲ除クノ外其ノ外壁ヨリ左ノ距離ヲ保有スヘシ

- 一 宮城、離宮、御用邸又ハ神宮ヘ二十町以上
- 二 皇陵、社寺、學校、公園、電氣瓦斯若ハ石油ノ工場、電力若ハ火力ヲ使用スル工場、發火質物件ヲ蓄積スル場所、鐵道、軌道、汽船ノ常航路若ハ繫留所又ハ市街地ヘ四町以上
- 三 宅地、國道、縣道、電線、瓦斯ノ傳導管、火ヲ取扱フ場所、蓄積シタル燃焼物其ノ他内務大臣ノ指定シタル箇所ヘ五十間以上

前項ノ距離ハ貯藏數量ノ増減ニ從ヒ貯藏數量ノ平方根ニ比例シテ之ヲ増減ス但シ各距離ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

倉庫ハ其ノ外壁ノ周圍ニ一間以上ノ空地ヲ保有スヘシ但シ貯藏數量ヲ減少シ特ニ廳府縣長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハコノ限ニ在ラス

廳府縣長官ハ必要ト認ムルトキハ假貯藏所ニ付第一項及第二項ノ規定ニ依ル距離以上ニ於テ特ニ其ノ距離ヲ指定スルコトヲ得

火藥類貯藏所相互ノ距離ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第三十四條 内務大臣ハ天然又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他土地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ニ定ムル距離ノ減少ヲ許可スルコトヲ得

第三十五條 第二十九條及前條ノ許可ハ狀況ノ變更ニ依リ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第三十六條 第二十八條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ同時ニ之ヲ運搬スルコトヲ得ス

第三十七條 火藥類ハ他ノ物件ト混包シ又ハ變裝若ハ假裝シテ之ヲ所持、運搬又ハ託送スルコトヲ得ス

前項ノ物件ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官ニ之ヲ届出ツヘシ

第三十八條 地盤又ハ物件ヲ砂砕スルノ目的ヲ以テ火藥又ハ爆藥ヲ使用セムトスル者ハ使用地警察官署ノ許可ヲ受ケヘシ但シ内務大臣カ特ニ定メタル場合又ハ鑛業法ニ依ル鑛物ノ試掘若ハ探掘ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ職務又ハ銃砲ニ關スル營業ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ之ヲ授受、運搬又ハ携帯スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ニ之ヲ準用ス

第四十條 拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ業務又ハ修學ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外未成年者之ヲ所持シ又ハ未成年者ヲシテ之ヲ所持セシムルコトヲ得ス

第四十一條 前項ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他ノ武器ニ之ヲ準用ス

之ヲ爲シ又ハ未成年者、白痴者若ハ瘋癲者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ス但シ第十八條各號ノ火藥類ニ付テハ十五歳以上ノ者ニ限り之ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十二條 營業者ハ許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類又ハ第三十九條ノ武器ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ讓受ニ付許可ヲ要セサル場合及銃砲火藥類取締法施行區域外ニ居住スル者ニシテ當該行政官廳ニ依リ移入ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シ銃砲火藥類ヲ移出讓渡スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 試驗ノ結果不良品ト認定セラレタル火藥類ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ所持者ニ於テ直ニ必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第四十四條 第十一條乃至第十五條、第二十二條、第二十七條、第二十九條及第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ緩燃導火線ニ之ヲ適用セス

銃砲火藥類取締法第六條、第八條及第九條並本令第十一條乃至第十五條、第二十二條、第二十七條乃至第二十九條及第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ煙火及遞信大臣カ船舶備付用ノ爲特ニ指定シタル煙火類似ノ火工品ニ之ヲ適用セス

緩燃導火線及煙火ニ付必要ナル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第二項ノ船舶備付用火工品ニ付必要ナル規定ハ遞信大臣之ヲ定ム

第四十五條 第七條、第八條第二項、第十條第一項、第十三條、第十四條、第十五條ノ二第一項、第二十二條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十六條、第三十七條第一項、第三十八條、第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違反シタル者、第三十三條ノ規定ニ違反シタル者並本令ニ基キテ發スル内務大臣ノ命令ノ規定ニ適合セサル火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十七條 第四條又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十八條 銃砲火藥類取締法第十條乃至第十三條及第十四條乃至第十八條ノ規定ハ銃砲火藥類ニ非サル他ノ武器及爆發質物品ニ之ヲ準用ス

第四十九條 公賣又ハ競賣法若ハ民事訴訟法ニ依ル競賣ヲ爲ス者ハ銃砲火藥類取締法及本令ノ適用ニ付テハ之ヲ讓渡人ト看做ス

第五十條 左ノ事項ハ内務大臣之ヲ定ム但シ鐵道ニ依ル輸送ニ關スル事項ハ鐵道大臣、郵便及船舶ニ依ル輸送及船舶ニ於ケル常用火藥類ノ貯藏ニ關スル事項ハ遞信大臣之ヲ定ム

- 一 火藥類ノ貯藏、收納、荷造其ノ他ノ取扱ノ方法及制限
- 二 第四十三條ノ規定ニ依ル火藥類試驗及不良品處置方法
- 三 火藥類運搬ノ方法及制限
- 四 火藥類作業所及火藥類貯藏所ノ設備
- 五 火藥類作業所及火藥類貯藏所ニ於テ遵守スヘキ事項

第五十一條 前條ノ規定ニ依ル命令ハ鑛業法第七十一條ノ規定ニ依リ農商務大臣ノ發スル命令ノ效力ヲ妨グルコトナシ

附則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條及第十四條ノ規定ハ仍ニ二年間之ヲ適用セス

本令施行前火藥商又ハ甲種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ甲種火藥類販賣業者、輸入及卸賣ノ營業ニ限り許可ヲ受ケタル者又ハ乙種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ乙種火藥類販賣

業者トシテ各其ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
本令施行ノ際本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ適
合セサル火藥類貯藏所ハ所在地廳府縣長官ノ指定シタル期
間ニ於テ之ヲ改造スヘシ

六 國立公園、史蹟名勝、天然紀念物

國立公園法

昭和六年四月一日
法律第三十六號

第一條 國立公園ハ國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ區域ヲ定
メ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 本法ニ於テ國立公園計畫ト稱スルハ國立公園ノ保
護又ハ利用ニ關スル統制及施設ノ計畫ヲ謂ヒ國立公園事
業ト稱スルハ國立公園計畫ニ基キ執行スベキ事業ニシテ
道路、廣場、苑地、運動場、野營場、宿舍其ノ他命令ヲ
以テ指定スル施設ニ關スルモノヲ謂フ

第三條 國立公園計畫及國立公園事業ハ國立公園委員會ノ
意見ヲ聽キ主務大臣之ヲ決定ス

第四條 國立公園事業ハ行政官廳之ヲ執行ス
主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ公共團體ヲシテ
國立公園事業ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得
行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ主務大臣ノ特許ヲ受ケ國立公園事業ノ一部ヲ執行スル
コトヲ得

第五條 國立公園事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ
執行スル場合ニ在リテハ國庫、公共團體ヲシテ之ヲ執行
セシムル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政官廳又ハ公
共團體ニ非ザル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ
負擔トス
行政官廳國立公園事業ヲ執行スル場合ニ於テ主務大臣特

國立公園法

別ノ事由アリト認ムルトキハ其ノ執行ニ要スル費用ノ一
部ヲ公共團體ヲシテ負擔セシムルコトヲ得
行政官廳ニ非ザル者國立公園事業ヲ執行スル場合ニ於テ
國庫ハ其ノ費用ノ一部ヲ補助スルコトヲ得

第六條 國立公園事業ノ執行ニ依リ生ジタル施設ハ其ノ事
業ヲ執行シタル者之ヲ管理ス
主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ公共團體ヲ指定
シテ行政官廳ノ執行スル國立公園事業ニ依リ生ジタル施
設ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得
前二項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ管理者ヲ定メタル場合ニ
ハ之ヲ適用セズ

第一項及第二項ノ規定ニ依ル管理ノ費用ハ行政官廳之ヲ
管理スル場合ニ在リテハ國庫、公共團體之ヲ管理スル場
合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政官廳又ハ公共團體ニ非
ザル者之ヲ管理スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

第七條 行政官廳又ハ公共團體ノ管理スル國立公園ノ施設
ニ付占用又ハ使用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者ハ占用料
又ハ使用料ヲ徵收スルコトヲ得但シ前條第三項ノ規定ノ
適用アル場合ヲ除ク
前項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ徵收金ハ國稅徵收法ノ例ニ
依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ
次ガモノトス

第八條 主務大臣ハ國立公園ノ風致維持ヲ爲スル國立公園計畫
ニ基キ其ノ區域内ニ特別地域ヲ指定スルコトヲ得
特別地域内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲サ
トスル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許
可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
一 工作物ノ新築、改築又ハ増築

二 水面ノ埋立又ハ干拓
 三 鑛物ノ試掘若ハ探掘、砂鑛ノ採取又ハ土石ノ探掘
 四 木竹ノ伐採
 五 廣告物、看板其ノ他之ニ關スル物件ノ設置
 特別地域内ノ山林ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地租其ノ他ノ公課ヲ免除スルコトヲ得

第九條 主務大臣ハ國立公園ノ保護又ハ利用ノ爲必要アリト認ムルトキハ其ノ區域内ニ於テ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限シ又ハ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止セラレ又ハ措置ヲ命ゼラレタルガ爲損害ヲ被リタル私人ニ對シテハ通常生ズベキ損害ニ限リ國庫之ヲ補償ス
 勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫ハ第一項ノ規定ニ依リ一定ノ行爲ヲ著シク制限セラレタル爲損害ヲ被リタル私人ニ對シ其ノ損害ヲ補償スルコトヲ得
 前二項ノ規定ニ依ル補償金額ハ主務大臣之ヲ決定ス其ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ズ

第十條 主務大臣ハ第八條第二項ノ規定、同條同項ノ許可ニ附シタル條件又ハ前條第一項ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 國立公園ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障礙物ヲ除却スルコトヲ得但シ行政官廳ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者及占有者ニ通知スベシ

(昭和六年勅令第二百四十一號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

國立公園法施行令

昭和六年九月十九日勅令第二百四十二號

第一條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケントスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ具シ内務大臣ニ申請スベシ
 一 起業目論見書
 二 一般平面圖
 三 施設ノ創設ニ關スル經費概算書
 四 施設ノ經營ニ關スル收支概算書
 五 其ノ他内務大臣ニ於テ必要ト認ムル書類又ハ圖面

第二條 内務大臣ハ國立公園事業ノ特許ニ關シ圖面計畫上其ノ他公益上必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第三條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ指定スル期間内ニ施設ノ供用ヲ開始スベシ
 内務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ前項ノ期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第四條 内務大臣ハ國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者ニ對シ期間ヲ指定シ工事施行ノ認可ヲ申請セシムルコトヲ得前項ノ工事施行ノ認可申請書ハ左ノ書類及圖面ヲ添附スベシ
 一 工事設計書
 二 工事設計圖
 三 工事費豫算書
 四 特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ會社設立

國立公園法施行令

第一項ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ同項但書ノ場合ヲ除ク外其ノ行爲ヲ爲シタル者之ヲ補償スベシ
 前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ許可ヲ爲シタル地方長官之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ對シテ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ズ
 第一項但書ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ國庫之ヲ補償ス

第九條 第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 國立公園委員會ノ組織及權限ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得
 本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ズ

第十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタルトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 第八條第二項ノ規定、同條同項ノ許可ニ附シタル條件又ハ第九條第一項ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十六條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登記ノ附則

第一項ノ認可ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ指定スル期間内ニ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムベシ
 前條第二項ノ規定ハ第一項及前項ノ期間ノ伸長ニ之ヲ準用ス

第五條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者第一條又ハ前條第二項ノ規定ニ依ル書類又ハ圖面ニ記載セル事項ヲ變更セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

第六條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ其ノ特許ヲ受ケタル者法人ナル場合ニ於テ總會ノ決議又ハ總社員ノ同意ニ因リ解散ニ付亦同シ

第七條 國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ノ讓渡ニ付テハ内務大臣ノ許可ヲ受ケベシ
 國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ノ會社合併ニ因リ承繼ニ付テハ合併前内務大臣ノ許可ヲ受ケベシ
 國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ相續人ハ其ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ヲ承繼ス

第八條 内務大臣ハ國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者ニ對シ事業ノ狀況ニ關シ検査ヲ爲シ、報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第九條 左ノ場合ニ於テハ國立公園事業ノ特許ハ當該範圍ニ付其ノ效力ヲ失フ
 一 特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ施設ノ供用開始期間内(工事施行ノ認可ヲ申請セシムル場合ニ在リテハ其ノ認可申請期間内)ニ會社設立ノ登記ヲ爲サザルトキ

- 二 工事施行ノ認可申請期間内ニ其ノ認可ヲ申請セザルトキ
- 三 工事施行ノ認可申請ニ對シ不認可ノ處分アリタルトキ
- 四 事業ノ全部又ハ一部ニ付廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ
- 五 事業ヲ營ム法人解散シタルトキ
- 第十條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分又ハ特許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトヲ得
- 第十一條 前二條ノ規定ニ依リ國立公園事業ノ特許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ内務大臣ハ特許ヲ受ケタル者ニ對シ原狀回復其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得
- 第十二條 内務大臣ハ國立公園事業ノ執行ヲ命セラレタル公共團體ニ對シ工事施行ノ認可ヲ申請セシムルコトヲ得
- 第十四條 第一項ノ認可申請書ニ添附シタル書類又ハ圖面ニ記載セラル事項ヲ變更セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クベシ
- 第十三條 行政官廳國立公園事業ヲ執行セントスルトキハ内務大臣ニ協議ヲ爲スベシ
- 第十四條 左ニ掲グル國立公園區域内ノ國有地ハ之ヲ内務大臣ノ管理ニ移スベシ
- 一 國有林野中國立公園ノ施設ノ敷地及其ノ附屬地ヲ包含スル集團施設地區並ニ國立公園事業上必要ナル自動車道路ノ敷地
- 二 不要存置國有林野ニ屬スル土地ニシテ國立公園計畫上重要ナルモノ但シ部分林、保管林、委託林、豫約開

國立公園法施行規則

昭和六年九月十九日 內務省令第二十五號

- 三 前二號ニ掲グルモノノ外雜種財產タル土地但シ所管大臣ニ於テ管理スルヲ必要トスル特別ノ事由アルモノヲ除ク
- 四 營林財產及雜種財產ヲ除クノ外國立公園計畫上重要ナル土地ニシテ内務大臣ノ管理ニ屬セシムルヲ適當トスルモノ
- 前項ノ土地ハ内務大臣所管大臣ト協議シテ之ヲ定ム
- 前二項ノ規定ハ國有財產法施行令第三條ノ規定ノ適用ヲ妨グズ
- 第十五條 行政官廳ニ非ザル者ノ管理スル國立公園ノ施設ニ付テハ其ノ管理者管理方法ヲ定メ遲滞ナク内務大臣ニ届出ツベシ其ノ管理方法ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 内務大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ管理方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得
- 第十六條 國立公園法第八條又ハ第九條ノ規定ニ基キ内務大臣ノ許可ヲ受クベキ行爲ヲ行政廳ニ於テ爲サントスルトキハ内務大臣ニ協議ヲ爲スベシ
- 國立公園法第九條ノ規定ニ基キ内務大臣ニ届出ヲ爲スベキ行爲ヲ行政廳ニ於テ爲サントスルトキハ内務大臣ニ通知スベシ

本令ハ國立公園法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(改正) 昭和八年第二七號

- 第一條 內務大臣國立公園ノ指定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示ス其ノ區域ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第二條 左ノ施設ハ國立公園法第二條ノ規定ニ依リ之ヲ指定ス
 - 一 自動車、車庫、自動車道其ノ他自動車ニ關スル運輸施設、航空機、格納庫、飛行場其ノ他航空機ニ關スル運輸施設、船舶、埠頭、棧橋其ノ他船舶ニ關スル水道、下水道、汚物處分施設、醫療救急施設、公衆浴場、水泳場及釣魚場
 - 二 博物館、植物園、動物園及水族館
 - 三 造林施設及養魚施設
 - 四 砂防施設及防火施設
- 第三條 內務大臣國立公園計畫又ハ國立公園事業ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ其ノ要領ヲ告示ス其ノ計畫又ハ事業ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第四條 國立公園事業ノ特許申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ
 - 一 會社發起人ニ在リテハ定款
 - 二 會社ニ在リテハ定款及會社登記ノ謄本並ニ國立公園事業ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ總社員ノ同意書ノ謄本
 - 三 會社以外ノ法人ニ在リテハ定款、寄附行爲又ハ規約及法人登記ノ謄本並ニ總會ノ決議錄ノ謄本
 - 四 組合ニ在リテハ其ノ契約書ノ謄本及國立公園事業ニ關スル總組合員ノ同意書ノ謄本
- 第五條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

國立公園法施行規則

- 一 起業ノ種類
- 二 起業ノ目的
- 三 起業資金ノ總額及其ノ出資方法
- 四 施設ノ位置及規模ノ概要
- 五 工事ヲ施行スル場合ニ在リテハ工事ノ概要及工事施行期間
- 六 施設ノ經營期間
- 第六條 一般平面圖ハ起業ノ種類ニ從ヒ縮尺五萬分一乃至千分一ノ平面圖トシ施設ノ位置及其ノ附近地ノ現況ヲ記載スベシ
- 第七條 施設ノ創設ニ關スル經費概算書ニハ其ノ總額ヲ測量費、監督費、用地費、土工費、建物費、設備費、總係費、豫備費等ノ各項ニ分チ數量、單價及金額ヲ記載スベシ
- 第八條 施設ノ經營ニ關スル收支概算書ニハ收入及支出ノ總額、内課並ニ其ノ計算ノ基ヲ示シ且起業資金ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スベシ
- 第九條 工事設計書ニハ工事設計ノ要領、工事施行ノ順序、方法其ノ他工事ノ實施ニ關シ必要ナル事項ヲ記載スベシ
- 第十條 工事設計圖ハ工事ノ種類ニ從ヒ平面圖、側面圖、斷面圖、構造圖又ハ意匠配色圖ニ分チ縮尺二千五百分一以上トス
- 平面圖ハ一般平面圖ヲ補足スルモノタルベク平面圖、側面圖及斷面圖ニハ工事ノ施行ニ依リ附近地ニ變化ヲ及ボス程度ヲ併セ記載スベシ
- 第十一條 工事費豫算書ニハ第七條記載ノ各項ヲ目ニ分チ各其ノ數量、單價、金額及内譯ヲ示スベシ
- 第十二條 國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ノ

讓渡ノ許可申請書ニハ當事者連署シ左ノ書類ヲ添附スベシ

- 一 讓渡契約書ノ謄本
- 二 讓受人ガ會社發起人ナル場合ニ於テハ定款讓渡人又ハ讓受人ガ法人ナル場合ニ於テハ讓渡ニ關スル總會ノ決議録又ハ總社員ノ同意書ノ謄本、組合ナル場合ニ於テハ讓渡ニ關スル總組合員ノ同意書ノ謄本
- 三 讓受人ガ國立公園事業ノ經營者ニ非ザル法人ナル場合ニ於テハ定款、寄附行爲又ハ規約及法人登記ノ謄本、組合ナル場合ニ於テハ其ノ契約書ノ謄本
- 四 前條ノ規定ハ國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ノ會社合併ニ因ル承繼ニ之ヲ準用ス

第十四條 國立公園事業ヲ營ム法人ノ解散ノ許可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且解散ニ關スル總會ノ決議録又ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附スベシ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク之ヲ內務大臣ニ届出ヅベシ

- 一 工事ニ著手シ又ハ之ヲ竣功セシメタルトキ
- 二 施設ノ供用ヲ開始シタルトキ
- 三 會社設立ノ登記ヲ爲シタルトキ (工事施行ノ認可ヲ申請セシムル場合ヲ除ク)

國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ヲ讓渡終了シタルトキハ遲滞ナク當事者連署ノ上之ヲ內務大臣ニ届出ヅベシ 國立公園事業ヲ營ム會社ノ合併終了シタルトキ亦同シ

相續ニ因リ國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ヲ承繼シタル者ハ戶籍謄本ヲ添へ遲滞ナク之ヲ內務大臣ニ届出ヅベシ

二届出ヅベシ

第十六條 內務大臣特別地域ノ指定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示ス其ノ地域ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十七條 國立公園法第八條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ具シ內務大臣ニ申請スベシ

- 一 設計書又ハ施行方法書
- 二 行爲ノ種類ニ從ヒ設計又ハ施行方法ノ表示ニ必要ナル圖面
- 三 行爲ノ種類
- 四 行爲ノ目的
- 五 行爲ノ種類ニ從ヒ工作物 (廣告物、看板其ノ他之ニ關スル物件ヲ含ム) ノ設計又ハ行爲ノ施行方法
- 六 著手及完了ノ期日

第十八條 左ニ掲グル行爲ハ國立公園法第八條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケルコトヲ要セズ

- 一 井溝、井堰、水樋、水車、風車、水槽等ノ新築、改築又ハ増築
- 二 門、生垣、圍牆、圍舍、禽舍等ノ新築、改築又ハ増築
- 三 社寺境内地又ハ墓地ニ於ケル鳥居、燈籠、墓碑等ノ新築、改築又ハ増築
- 四 炭竈、炭燒小屋、伐木小屋、造林小屋、畜舍、納屋、肥料溜等ニシテ公道其ノ他公衆ノ自由ニ出入シ得ル

場所ヨリ二十メートル以上ノ距離ヲ有スルモノノ新築、改築又ハ増築

- 一 釣、篋、網納屋、漁具干場等ノ新築、改築又ハ増築
- 二 工事用假工作物 (宿舍ヲ除ク) ノ新築、改築又ハ増築
- 三 宅地内ニ於ケル土石ノ採掘
- 四 地貌ノ變化ヲ來サザル土石ノ採掘
- 五 宅地内ニ於ケル木竹ノ伐採
- 六 自家用ノ爲ニスル木竹ノ擇伐 (塊狀擇伐ヲ除ク)
- 七 桑、茶、楮、三椏、杞柳、桐、果樹其ノ他農業用栽培木竹ノ伐採
- 八 枯損木竹又ハ危險木竹ノ伐採
- 九 森林保育ノ爲ニスル刈、蔓切又ハ間伐
- 十 牧野改良ノ爲ニスル荆棘、灌木等ノ除去
- 十一 軒下ニ於ケル廣告物、看板其ノ他之ニ關スル物件ノ設置
- 十二 非常災害ノ爲必要ナル應急處置
- 十三 施業計畫ニ付豫メ內務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ施業計畫ニ基ク行爲
- 十四 特別地域指定ノ際ニ著手セル行爲
- 十五 特別地域内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ其ノ行爲ノ日ヨリ十四日以前ニ內務大臣ニ届出ヅベシ
- 十六 開墾其ノ他土地ノ形質ノ變更
- 十七 木竹ノ植栽
- 十八 家畜ノ放牧

第二十條 左ニ掲グル行爲ハ前條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スコトヲ要セズ

國立公園法施行規則

- 一 土地ノ掘鑿、切取、盛土等土地ノ形質ノ變更ニシテ地貌ノ變化ヲ來サザルモノ
- 二 宅地内ニ於ケル木竹ノ植栽
- 三 農業用栽培木竹ノ植栽
- 四 現存木竹ト同一種類ノ木竹ノ植栽
- 五 施業計畫ヲ豫メ內務大臣ニ届出タルトキハ其ノ施業計畫ニ基ク行爲
- 六 特別地域指定ノ際ニ著手セル行爲

第二十一條 國立公園法第八條第一項ノ規定ニ依リ特別地域ニ指定セラレザル國立公園内ノ地域ハ之ヲ普通地域トス

普通地域内ニ於テ國立公園法第八條第二項各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ其ノ行爲ノ日ヨリ十四日以前ニ內務大臣ニ届出ヅベシ

第二十二條 普通地域内ト雖モ內務大臣ノ指定スル地域内ニ於テハ左ニ掲グル行爲ヲ除クノ外前條第二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スコトヲ要セズ

- 一 左ノ工作物ノ新築、改築又ハ増築
 - (イ) 常時三十人以上ノ職工ヲ使用シ又ハ常時使用スル原動機馬力數ノ合計五ヲ超過スル工場
 - (ロ) 惡臭ヲ發散シ、有害物 (動植物ニ對シ有害ナルモノヲ含ム) ヲ排泄シ又ハ危險物ヲ取扱フ工場、倉庫其ノ他ノモノ
 - (ハ) 水力發電所又ハ出力百五十キロワットアンペア以上ヲ有スル變電所
- (三) 道路、橋梁、鐵道、軌道、索道其ノ他ノ交通運輸施設

水面ノ埋立又ハ干拓

雜纂 國立公園、史蹟名勝天然紀念物

- 三 鑛物ノ試掘若ハ探掘又ハ石材ノ探掘
 - 四 廣告物其ノ他之ニ關スル物件ノ設置
 - 第二十二條 左ニ掲グル行爲ハ第二十一條第二項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要セズ
 - 一 第十八條第一號乃至第十六號各號ノ一ニ該當スル行爲
 - 二 施業計畫ヲ豫メ内務大臣ニ届出タルトキハ其ノ施業計畫ニ基ケ行爲
 - 三 國立公園指定ノ際既ニ著手セル行爲
 - 第二十三條 第十九條又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ依ル届出書ニハ設計書又ハ施行方法書ヲ添付スベシ
 - 第十七條第二項ノ規定ハ前項ノ設計書又ハ施行方法書ニ之ヲ準用ス
 - 第一項ノ設計書又ハ施行方法書ニ記載セル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ行爲ノ日ヨリ十四日以前ニ内務大臣ニ届出ヅベシ
 - 第二十四條 國立公園法第十一條第一項ノ行爲ヲ爲ス者ハ地方長官ノ許可證、同條同項但書ノ行爲ヲ爲ス當該吏員ハ其ノ證票ヲ携帶シ關係者ノ請求アリタルトキハ之ヲ示スベシ
 - 第二十五條 國立公園法第十一條第四項ノ規定ニ依ル裁定ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書(正副二通)ヲ地方長官ニ提出スベシ
 - 一 申請人及相手方ノ氏名、住所又ハ名稱、所在地
 - 二 請求ノ内容及理由
- 地方長官申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ其ノ指定スル期間内ニ答辯書ヲ差出サシムベシ
指定ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サザルトキハ地方長官ハ申

請書ノミニ依リテ裁定ヲ爲スコトヲ得副本ノ送付ヲ爲スコト能ハザルトキ亦同シ

第二十六條 裁定書ニハ理由ヲ附シ地方長官之ヲ當事者雙方ニ送付スベシ
裁定書ノ送付ヲ爲スコト能ハザルトキハ地方ノ公示式ニ依リ之ヲ告示スベシ
前項ノ告示アリタル後七日ヲ經過シタルトキハ裁定書ノ送付アリタルモノト看做ス

第二十七條 國立公園法、國立公園法施行令又ハ本則ノ規定ニ依リ内務大臣ニ提出スル書類ハ地方長官ヲ經由スベシ但シ二府縣以上ニ關スル事項ニ付テハ關係地方長官ノ一ヲ經由シ別ニ其ノ副本ヲ他ノ關係地方長官ニ提出スベシ

附則
本則ハ國立公園法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國立公園指定告示

雲仙	中部分岳	七二五
霧島	阿蘇	七二九
瀬戸内海	十和田	七四八
阿寒	富士箱根	七四九
大雲山	吉野熊野	七五三
日光	大雪山	七六四

雲仙國立公園

昭和九年三月十六日
内務省告示第百三十三號

國立公園法第一條ノ規定ニ依リ左ノ通區域ヲ定メ雲仙國立公園ヲ指定ス其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ内務省及長崎縣廳、其ノ町村分圖ハ左記町村役場ニ備付ケ縦覽ニ供ス

長崎縣南高來郡島原町、杉谷村、三會村、大三東村、湯江村、多比良村、土黒村、神代村、西郷村、守山村、山田村、千々石町、小濱町、北串山村、南串山村、北有馬村、西有家町、有家町、堂崎村、布津村、深江村、安中村

一、雲仙國立公園區域

長崎縣南高來郡島原町字六本松道上及眉山ノ全部
同 縣同 郡杉谷村

山寺名
宇馬渡、燒野、燒野下及弓弦ノ全部
宇土名
字入道山及鳥越山ノ全部
原名
字肥賀太郎、根振、栗山、小路及矢櫃ノ全部
平ノ山ノ一部

同 縣同 郡三會村

木崎名
字八町步及黒仁田ノ全部
尾揚ノ一部

寺中名
字三町步ノ全部

同 縣同 郡大三東村

國立公園指定告示

大字大野

小字東畔田、上畔田、西畔田、外山、八町分、中畔田、長迫及東新園ノ全部

同 縣同 郡湯江村

久原名
字横道ノ全部

同 縣同 郡多比良村

金山名
字カゴメ石、上カゴメ石、漁洗川及山頭ノ全部

同 縣同 郡土黒村

八斗木名
字西ノ山、白嶽、鍋ヶ倉、有無、上原、奥上原及平石ノ全部

同 縣同 郡神代村

上古賀名
字上古賀免場及三岳ノ全部

山ノ上名
字山ノ上免場、忠駄及奥山ノ全部

片田名
字西原ノ全部

同 縣同 郡西郷村

東木場名
字岩戸、岩戸河内、向平及東原ノ一部

同 縣同 郡山田村

川床名
字上仁田ノ全部

中尾ノ一部

同 縣同 郡千々石町

木場名
字荊水、桑ノ木原、菅口、杖ノ口、茅場、立石、下
宇津路、上宇津路、杉峯、下清水、上清水、小玉、
鳥屋平、一ツ辻、羽山、船倉、三代佐谷、小迫、
上高野、下茅場、茶ノ木高野、上通山、下通山、
中ノ口及千々石岳ノ全部
榎殿及白木原ノ一部

小倉名

字大堀、上大堀、洞石、坂下、釜床、通目、堀、深
迫、西平及坂上ノ全部

上嶺名

字中島、岡東田、上岩穴口、岩下、松尾、中越、宇
土、岡東、上畔畑、下畔畑、啓岩、返迫、赤岩、
岡東迫、上返迫、中嶽、慶輪山、交合平、平石、
古屋敷、淵葛根、二度迫、赤岩山、梨子ノ木平、
梨子ノ木、平床、鏡石、立石、蔭平、投嵐、葉山、
下ノ松、蔭淵葛根、上中島、平畑、田代、段林、
中峯、藤川、挽地平、障子平、甚左衛平、耳取、
合屋平、屋敷山、内構、野取、野取原、大平及細
リノ全部

同 縣同 郡小濱町

北野名溫泉
字茶園、野隅、加持川、鐘ヶ淵、上茶園、滯山、矢
岳、別所、芳原、湯ノ里、絹笠、札ノ原、櫻橋、
小地獄、寶原及池ノ原ノ全部
北野名
字立堀及水ノ出ノ全部

上木指名

字上笹ノ辻及霧盛嶽ノ全部
觀音平、猿岩及流ノ合ノ一部
北本村名
字扇平ノ全部
南本村名
字廣河原ノ全部

同 縣同 郡北串山村

木場名
字霧森嶽、霧森平、笹野原、上流合、下流合、西笹
野原、太鼓石、笹谷、辻原、四面谷、拔ノ口原、
小田山、拔ノ口谷、櫻石及筒原谷ノ全部

畑名

字長谷、下諏訪池、上諏訪池、諏訪野及岩上ノ全部
大返ノ一部

大龜名

字久保口、南谷南、原山東、原山西及諏訪之原ノ全
部

山川池尻、山川池ノ内、山川南、床西及西下ノ一
部

同 縣同 郡南串山村

荒牧名

字破石原、諏訪野原、井手ノ上南新山、井手ノ上北
新山、井手ノ原、井手ノ原先及出ノ上前山ノ全部
小牟田原ノ一部

同 縣同 郡北有馬村

西正寺名
字遊之谷、廣島、庄左原、茶屋谷及水出口ノ全部

折木名
字左谷、水谷、笹谷、陣ノ谷及横道ノ一部

坂上下谷

字新田、上新田、平ノ黒、新池、椎木谷、左近谷、
山郷、中釘山、釘山、上釘山、下水口、上水口、
水口、論所原及下論所原ノ全部
上矢代、原山、東原山及金比良谷ノ一部

同 縣同 郡西有家町

見岳名
字伊良ヶ迫、上伊良ヶ迫、芋釜谷、後谷、山石原、
猿岩及權現ノ全部

慈恩寺名

字方原、膳棚及上權現ノ全部

長野名

字段ノ平、横谷、中島、五十目平、牛谷、山ノ上、
塔之坂、田原、西峠、前峠及立石原ノ全部

同 縣同 郡有家町

尾上名

字野松、檜木谷、谷頭、三枚田、俵石、野松平、谷
水、重石、矮狗之谷、湯河内原、方原、急路、内
野、藤平、上湯河内、下湯河内、泉水、井堰口及
鮎歸ノ全部
大窪ノ一部

同 縣同 郡堂崎村

原尾名
字亂ノ石ノ全部

國公立園指定告示

同 縣同 郡布津村

坂下名

字平石、船石原、新園及西天ヶ瀬ノ全部

同 縣同 郡深江村

大野木場名
字權現脇、空戸、大渡、萬仙平及垂水ノ全部

田中名
野頭及池平ノ一部

古江名
字烏丸ノ一部

字平石、植松、船石谷、内嵐、元峰、上石打、孫部
平、下石打、宮松、民在掛ヶ、一ノ谷、水ノ出口、
小川、柳平、松尾、松尾尻、洗出シ、赤木場、植
ノ山、登リ野、清水河、下ノ山、座木、座木頭、
洗切リ、鳥越、上江川、川向、堂家、前平、八ノ
平、櫻谷、上八ノ久保、尖石、烏帽子松、下八ノ
久保、高平原、塔ノ坂頭、高平、山ノ樹、辨當場、
灣及廣高野ノ全部

同 縣同 郡安中村

中木場名

字六本松西、新山川原、仁田ノ坂、善塔岩、ガラノ
木、崩山、坂上、柳谷、善法林、北新切、上新切、
堀切、横山下、仁田道上、崩際、上小像、紙山、
高平上、伊賀倉、洗出、岩下、龜ノ瀬、上貝野、
貝野、丸山及小平ノ全部
椿原、猪山、新切、燒野及赤松谷ノ一部

國有林島原事業區

一林班、二林班、自五林班至十六林班、自十九林班至

雜纂 國立公園、史蹟名勝天然紀念物

五十一林班及自五十三林班至六十三林班ノ全部
三林班、四林班及五十二林班ノ一部
(以上長崎縣南高來郡島原町、杉谷村、三會村、大三東村、湯江村、多比良村、土黑村、西郷村、守山村、山田村、千々石町、小濱町、北串山村、北有馬村、西有家町、有家町、堂崎村、布津村、深江村及安中村地内)

霧嶋國立公園

昭和九年三月十六日
内務省告示第百三十四號

國立公園法第一條ノ規定ニ依リ左ノ通區域ヲ定メ霧嶋國立公園ヲ指定ス其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ内務省、其ノ縣分圖ハ宮崎縣廳及鹿兒島縣廳、其ノ町村分圖ハ左記町村役場ニ備付ケ縱覽ニ供ス

宮崎縣北諸縣郡西嶽村

同 縣西諸縣郡小林町、高原村、飯野村、加久藤村

同 鹿兒島縣始良郡栗野町、牧園村、東襲山村

一、霧嶋國立公園區域

宮崎縣北諸縣郡西嶽村

字荒襲、戸ノ口、北ノ久保、横尾、芋搦及片添ノ一部

同 縣西諸縣郡高原村

大字蒲幸田

同 小字狹野、下狹野、小手原、板川、越平及下持合ノ一部

同 縣同 郡飯野村

大字末永

小字白鳥ノ全部

同 縣同 郡加久藤村

大字東長江浦

同 小字尾八重野ノ一部

同 鹿兒島縣始良郡栗野町

大字木場

同 小字湯之宇都、留ケ尾、下黒木、尾敷段及日添ノ全部

同 縣同 郡牧園村

大字三體堂

同 小字鉦投、關平及手洗ノ全部

同 大字萬膳

同 小字大良谷ノ全部

同 大字下中津川

同 小字硫黃谷、榮之尾及丸尾ノ全部

同 縣同 郡東襲山村

大字田口

同 小字霧嶋山、宮之原、戸崎、東多羅及大脇ノ全部

同 仁田原、上梅北、泉水、梅北尻、鉢池、永池及十文字ノ一部

同 國有林高原事業區

自一林班至二十二林班、自二十四林班至二十八林班、三十一林班及自三十四林班至四十五林班ノ全部

同 二十三林班ノ一部

同 白鳥事業區

自十七林班至二十二林班及三十五林班ノ全部

同 自六林班至八林班、自十林班至十三林班、十五林班、

同 十六林班及三十九林班ノ一部

同 霧嶋事業區

二十三林班、自二十五林班至四十二林班、四十四林班、四十五林班、四十九林班、五十一林班、五十三林班及八十二林班ノ全部

同 加治木事業區

自四十二林班至四十五林班及五十四林班ノ全部

同 西霧嶋事業區ノ全部

(以上宮崎縣、北諸縣郡西嶽村、西諸縣郡小林町、高原村、飯野村、加久藤村、鹿兒島縣始良郡栗野町、牧園村及東襲山村地内)

瀬戸内海國立公園

昭和九年三月十六日
内務省告示第百三十五號

國立公園法第一條ノ規定ニ依リ左ノ通區域ヲ定メ瀬戸内海國立公園ヲ指定ス其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ内務省、其ノ縣分圖ハ岡山縣廳、廣島縣廳及香川縣廳、其ノ市町村分圖ハ左記市役所及町村役場ニ備付ケ縱覽ニ供ス

岡山縣邑久郡牛窓町

同 縣兒島郡下津井町、本莊村、莊内村、胸上村、山田村、日比町、琴浦町

同 縣淺口郡玉島町、黒崎村

同 縣小田郡神ノ島外村、北木島村、眞鍋島村

同 廣島縣沼隈郡千年村、鞆町、走島村

同 香川縣丸龜市

同 縣木田郡牟禮村、庵治村、古高松村、屋島町

同 縣小豆郡土庄町、草壁町、池田町、淵崎村、大鐸村、

國立公園指定告示

同 安田村、福田村、大部村、四海村、豐島村

同 縣香川郡下笠居村、雌雄島村、直島村

同 縣綾歌郡玉越村

同 縣仲多度郡白方村、與島村、本島村、廣島村、高見島村、佐柳島村

同 縣三豐郡莊内村、栗島村

一、瀬戸内海國立公園區域

岡山縣邑久郡牛窓町

字端小島、中小島、黒島、荒崎、小屋谷、御堂西上、御堂、御堂池上、御堂西池上、御堂西辻、御堂池下、嶋前、嶋前上、松山、松山池上、松山ノ上、蟹燒堂、尾越、中ノ上、城ヶ鼻、尾越上、女松谷、沓拔上、女松山、清水西上、清水谷、清水上、打越、打越西、大沓拔、沓拔、打越道南、打越南、大沓拔上、森宮、森宮南、森宮後、森宮裏、森脇、立石、立石下、立石濱、立石西、東開、清水池上、清水谷上、清水池、清水下池、清水、五五江、尾臺上、尾臺、尾臺池脇、尾臺南、明星谷、矢ノ浦、赤崩、孫九郎谷、油屋谷、岩下シ、水浦、柿ノ浦、網代崎、長持石、小崎、黃島、青島及鼠島ノ全部

同 縣兒島郡下津井町

大字下津井

同 小字釜島、平田川、松島、六口島、柳谷、上濃地島、太濃地島、細濃地島、イザ口濃地島、大約島及小杓島ノ全部

同 大字田之浦

同 小字鷺羽山及明神段岸ノ全部

雜纂 國立公園、史蹟名勝天然紀念物

東谷、谷、谷明神、段岸、明神西、竹ノ後、石ノ塔及東坂ノ一部

大字大島

小字ヒンクシ山、文右衛門谷、戎谷、八茂木、久須見、大濱及正覺院ノ全部

陣屋、岡見、幸神、疫神、ヒエ田及ゴヲボレノ一部

同 縣同 郡本莊村

大字通生

小字葛島ノ全部

大字鹽生

小字高島ノ全部

同 縣同 郡莊内村

大字瀧

小字乘越、長尾池、馬ノ子池、切レ池ノ一部

大字白尾

小字屏風西手、薄谷、峰ノ王子、犬岩、屏風東手、屏風ノ下及カケノハチノ全部

脇ノ米、谷ノ王子ノ一部

同 縣同 郡胸上村

大字胸上

小字芦ノ浦、若ノ浦奥、西ノ奥、西前山、東前山、川向、惣ノ奥、中筋、宮山、中山、宮後、東上リ、

北山、上戸尻、水落谷上、水落谷下、東戸尻、西戸尻、筏島、石筏及蛭子島ノ全部

同 縣同 郡山田村

大字沼

小字清水、田ノ浦、名地浦、丸山、出崎ノ内、小伏

浦、船越、竹ノ浦及灰田ノ全部

大字後閑

小字胡磨ノ浦、牛ヶ浦及長崎ノ全部

大瀨平及鳥屋谷ノ一部

同 縣同 郡日比町

大字日比

小字大槌島ノ全部

大字澁川

小字下道及矢出ノ全部

場ヶ谷、上道、休場及山田口ノ一部

同 縣同 郡琴浦町

大字引網

小字引溜、火ノ尾、牛登、小坂、小坂奥、嶽山、豎

場島及祖父祖母ノ全部

カタカタ、見通田、馬登、戸妻及山崎ノ一部

同 縣同 郡玉島町

大字乙島

小字下水島ノ全部

大字柏島

小字水島ノ全部

同 縣同 郡黒崎村

字下水島、大柄杓島及小柄杓島ノ全部

同 縣同 郡小田郡神ノ島外村

大字白石島、高島及飛島ノ全部

同 縣同 郡北木島村

字金風呂ノ一部

同 縣同 郡眞鍋島村ノ全部

廣島縣沼隈郡千年村

大字能登原

小字海後西側、阿伏兔山、坂ノ谷、鞆路東側及鯛掛

山ノ全部

室間東側、室間西側、海後東側、明神、畑谷、横

立及向迫ノ一部

同 縣同 郡鞆町

大字後地

小字躑躅島、仙醉、内小垣、田ノ浦、彦浦、小松浦、

大松浦、大浦、三山尻、下加美島、皇后島、玉津

島、津輕島、清水ノ全部

大明神、後山、龜霧、栗山、高戸、山ノ神及室濱

ノ一部

同 縣同 郡走島村ノ全部

香川縣丸龜市

土居及下金倉ノ一部

同 縣同 郡牟禮村

大字牟禮

小字八栗ノ全部

北山田、落合及源氏ノ一部

大字大町

小字役戸及金山ノ一部

同 縣同 郡庵治村

字島島及芹谷ノ全部

同 縣同 郡古高松村

大字古高松

小字齋田ノ一部

國立公園指定告示

同 縣同 郡屋島町

大字西湯元

小字長崎ノ全部

谷東、浦生、丸山及飛石ノ一部

大字東湯元

小字馬床ノ全部

尾上、山王、山畑及馬場東ノ一部

大字屋島

小字宮ノ窪、女向羅、網寄場、別場、間家、善太林、

北石場、南石場、山下、山鹿、鯨崎、立石、四通、

次信、開、龜虎、檀ノ浦、尾越、無量壽、大久保、

明神、經塚、矢倉、小谷、不喰梨、南坂、冷岸、

屋島峯、峯大谷、北峯、谷合、大谷、北屋倉、尾

釣及小向羅ノ全部

同 縣同 郡土庄町

字餘島、小豆島及アラ島ノ全部

同 縣同 郡草壁町

大字上村

小字佛ヶ瀧、越惠谷、高瀬、猪ノ谷、不動、カンカ

ヶ、忠六、サルガ粒、嶮岨山、櫻尾及青木ノ全部

大字片城

小字嶮岨山、平野、辨瀧及大石地藏瀧ノ全部

同 縣同 郡池田町

大字中山

小字嶮岨山ノ一部

同 縣同 郡淵崎村

大字淵崎

小字宮ノ下、與九郎前及與九郎山ノ全部
 小入部、與九郎谷、宮ノ下濱及森田ノ一部
 同 縣同 郡大鐸村
 大字肥土山
 小字嶮岨山ノ一部
 同 縣同 郡安田村
 大字安田
 小字城ノ前ノ全部
 嶮岨山ノ一部
 同 縣同 郡福田村
 大字福田
 小字嶮岨山ノ一部
 同 縣同 郡大部村
 大字大部
 小字野島及辨天島ノ全部
 嶮岨山、スリ及野口ノ一部
 大字小部
 小字嶮岨山及小島ノ全部
 同 縣同 郡四海村
 大字小江
 小字千振島及沖ノ島ノ全部
 大字伊喜末
 小字小豐島、小豐島東山、小豐島西山、小豐島入道
 ヶ浦、葛島、葛島白浦及葛島木權行ノ全部
 同 縣同 郡豐島村
 大字家浦
 小字段山、神庄、中山、堂床、増田、星崎、神子ヶ
 濱、柚、中玉、甲崎及水ヶ浦ノ全部

大字甲生
 小字中摺、小長サ、床島、高岩及保子ヶ崎ノ全部
 大字唐櫃
 小字榮山、山神、神山、檀山、鱒濱、黒石、稻塚及
 濱田ノ全部
 濱田ノ一部
 同 縣同 郡香川郡下笠居村
 字龜水及川窪ノ一部
 同 縣同 郡雄雄島村ノ全部
 同 縣同 郡直島村
 字桃山、坪ノ奥、姫宮、積浦、姫泊、琴反地、倉浦、
 横坊、揚島、串山、荒神島、葛島、鷹島、牛ヶ首
 島、喜兵衛島、屏風ヶ浦、ヤスノ島、京ノ上藤島、
 局島、向島、小向、大福浦、井島、尾高島、柏島
 及家島ノ全部
 高田浦、神子持、京ノ山、立石、地藏山及追出ノ
 一部
 同 縣同 郡王越村
 大字乃生
 小字西鼻、西脇、飛地、濱分及大越ノ一部
 大字木澤
 小字大越及北山ノ一部
 同 縣同 郡多度郡白方村
 大字東白方
 小字龜笠ノ全部
 同 縣同 郡與島村
 大字櫃石、岩黒、瀬居及砂彌ノ全部
 大字與島

小字羽佐島、鍋島、三ツ子島及二面島ノ全部
 東方及西方ノ一部
 同 縣同 郡本島村ノ全部
 同 縣同 郡廣島村
 大字廣島茂浦、廣島市井浦、廣島立石浦及手島ノ全
 部
 大字廣島青木浦
 小字北部及東部ノ一部
 大字廣島江ノ浦
 小字鳴子、平石、大戸、宮ノ上、西ノ手、東ノ手、
 竹ノ浦及羽節岩ノ全部
 釜ノ越ノ一部
 同 縣同 郡高見島村ノ全部
 同 縣同 郡佐柳島村ノ全部
 同 縣同 郡三豐郡莊内村
 大字生里
 小字三及豎石崎、猿濱ノ全部
 大字箱
 小字下磯、蛸ノ浦及關ノ浦ノ全部
 同 縣同 郡栗島村ノ全部
 同 縣同 郡栗島村ノ全部
 國有林岡山事業區
 八十二林班ノ全部
 同 福山事業區
 九十一林班及九十二林班ノ全部
 同 高松事業區
 自二十三林班至二十七林班ノ全部
 三十八林班及三十九林班ノ一部
 (以上岡山縣兒島郡下津井町、廣島縣沼隈郡千年村、
 國立公園指定告示

額町、香川縣木田郡庵治村、屋島町及香川郡下笠居
 村(地内)
 岡山縣邑久郡裳掛村大字福谷小字稻鼻地内稻鼻ト同縣同
 郡朝日村大字西片岡小字飯盛地内飯盛岩ノ間ノ海岸線、
 同飯盛岩ト同縣兒島郡小串村大字小串小字東米崎地内米
 崎ヲ結ブ線、同米崎ト廣島縣沼隈郡千年村大字能登原小
 字阿伏兔山地内阿伏兔崎ノ間ノ海岸線、同阿伏兔崎ト香
 川縣三豐郡莊内村大字生里小字三崎地内三崎ヲ結ブ線、
 同三崎ト同縣大川郡小田村字楡ノ木地内馬齒岬ノ間ノ海
 岸線、同馬齒岬ト同縣小豆郡坂手村大字大角地内大角崎ヲ
 結ブ線、同大角崎ト同縣同郡福田村大字吉田小字金ヶ崎
 地内金ヶ崎ノ間ノ海岸線及同金ヶ崎ト岡山縣邑久郡裳掛
 村大字福谷小字稻鼻地内稻鼻ヲ結ブ線ニ依リテ圍マレタ
 ル海面
 阿寒國立公園
 昭和九年十二月四日
 內務省告示第五百六十七號
 國立公園法第一條ノ規定ニ依リ左ノ通區域ヲ定メ阿寒國立
 公園ヲ指定ス其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ內務省及北海道
 廳、其ノ町村分圖ハ左記町村役場ニ備付ケ縱覽ニ供ス
 北海道網走郡美幌町、津別村
 同川上郡弟子屈村、標茶村
 同阿寒郡香辛村
 同白糠郡白糠村
 同足寄郡足寄村
 一、阿寒國立公園區域
 北海道川上郡弟子屈村

大宇屈斜路村

小宇跡佐登、川湯、仁伏、屈斜路、サツテキナイ、トモシリ、ポント、オサツバ、エントコマツブ、ウランコシ及トイコエノ全部
美留和ノ一部
阿寒郡舌辛村

同

大宇屈別、シアンヌ、オクルンベ及阿寒湖畔ノ全部

同

御料林屈斜路事業區

自一區劃班至九十九區劃班及百十二區劃班ノ全部

同

御料林屈斜路事業區

自九區劃班至十六區劃班及自十九區劃班至七十六區劃班ノ全部

同

摩周事業區

自一區劃班至四十五區劃班、自五十三區劃班至六十區劃班及自六十四區劃班至七十二區劃班ノ全部

(以上上川郡弟子屈村地内)

同

御料林標準事業區

自百四十二林班至百五十二林班、百五十五林班、百六十三林班及百六十四林班ノ全部

同

屈斜路事業區

自二十二林班、二十五林班、二十七林班、二十八林班及二十九林班ノ一部

同

釧木禽事業區

二十二林班、二十四林班、三十一林班、三十二林班、

四十六林班、四十七林班、五十一林班、六十四林班、六十六林班及七十五林班ノ一部

同

阿寒事業區

自八十二林班至百三十四林班ノ全部

同

足寄事業區

五十五林班、五十六林班、六十七林班、六十八林班、七十四林班、七十六林班、百一林班及百二林班ノ全部

同

白糠事業區

七十三林班、七十五林班、九十四林班、百林班及百五林班ノ一部

同

白糠事業區

百十三林班、百四十三林班及百四十四林班ノ一部

(以上網走郡美幌町、津別村、川上郡弟子屈村、標茶村、阿寒郡舌辛村、白糠郡白糠村及足寄郡足寄村地内)

大雪山國立公園

昭和九年十二月四日
内務省告示第五百六十八號

國立公園法第一條ノ規定ニヨリ左ノ通區域ヲ定メ大雪山國立公園ヲ指定ス其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ内務省及北海道廳、其ノ町村分圖ハ左記町村役場ニ備付ケ縦覽ニ供ス

北海道石狩國上川郡美瑛村、東川村、上川村
北空知郡上富良野村、富良野町、南富良野村
同十勝國上川郡新得町
同河東郡士幌村、鹿追村、上士幌村

一、大雪山國立公園區域

北海道石狩國上川郡上川村

宇層雲峽ノ全部

河東郡上士幌村

宇糠平ノ全部

御料林美瑛事業區

自一區劃班至十三區劃班、二十五區劃班、四十五區劃班、四十六區劃班、自六十九區劃班至八十九區劃班及九十四區劃班ノ全部

六十七區劃班ノ一部

(以上石狩國上川郡美瑛村及東川村地内)

國有林双雲別保安林ノ全部

愛別第二事業區

自五十五林班至六十三林班、六十八林班、六十九林班、自七十一林班至七十五林班、八十林班及八十八林班ノ全部

二十三林班、二十七林班、二十九林班、三十一林班、七十林班及七十六林班ノ一部

上富良野事業區

自三林班至三十七林班、自三十九林班至四十六林班及自五十林班至五十九林班ノ全部

四十九林班ノ一部

富良野第二事業區

自四十林班至四十四林班、四十九林班、五十林班、五十二林班及五十三林班ノ全部

十勝上川事業區

八十六林班、自九十四林班至百四十一林班、自百四十六林班至百五十一林班及自百五十四林班至二百二十六林班ノ全部

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

國立公園指定告示

然別事業區

自十林班至八十林班ノ全部

音更事業區

自一林班至百六十二林班ノ全部

(以上石狩國上川郡美瑛村、上川村、空知郡上富良野村、富良野町、南富良野村、十勝國上川郡新得町、河東郡士幌村、鹿追村及上士幌村地内)

地方費林愛別事業區

二十六林班ノ一部

安足間事業區

二十四林班及二十五林班ノ全部

大雪山事業區

自三林班至二十林班ノ全部

(以上石狩國上川郡東川村及上川村地内)

日光國立公園

昭和九年十二月四日
内務省告示第五百六十九號

國立公園法第一條ノ規定ニ依リ左ノ通區域ヲ定メ日光國立公園ヲ指定ス其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ内務省、其ノ縣分圖ハ新潟縣廳、群馬縣廳、栃木縣廳及福島縣廳、其ノ町村分圖ハ左記町村役場ニ備付ケ縦覽ニ供ス

新潟縣北魚沼郡湯ノ谷村

群馬縣利根郡片品村

栃木縣上都賀郡今市町、日光町

同縣鹽谷郡栗山村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

同縣南會津郡檜枝岐村

一、日光國立公園區域

- 群馬縣利根郡片品村
- 大字東小川
- 小字菅沼及根子ノ全部
- 加羅倉及仁下又ノ一部
- 大字戸倉
- 小字笠ヶ嶽、至佛山、大烏帽子、小烏帽子、八海山、景鶴山、中ノ原、尾瀬沼、中ノ岐、一ノ瀬及根羽澤ノ全部
- 金井澤、船ヶ原及車澤ノ一部
- 栃木縣上都賀郡今市町
- 大字瀨尾
- 小字山ヶツ、カヤ久保、袴腰、白カバ臺、丁ス、大々カトヤ及スグチノ全部
- 長峰ノ一部
- 同 縣同 郡日光町
- 大字久次良、清瀧及細尾ノ全部
- 大字日光
- 小字向山鳴蟲山、大黒山、南谷、下川原、西谷、下河原、板挽町、四軒町、天神前、含満、向原、井戸ヶ入、向菩提梵王山、草倉澤、上ノ代、内笹大久保梨子ノ木澤、大久保、新澤、菩提、藤ノ木、篠合、寂光、兒子ヶ墓、山内、中山、恒例山、安養園、御堂、御堂山、新宮、行者堂、瀧ノ尾、佛岩、東山、本宮、本宮下、御旅所、外山原、鳥ヶ久保、下五葉、姥ヶ腹、烏帽子トヤ、氷岩、上五葉、不動岩、摺白岩、天狗澤、小米タイラ、釜ヶ澤、中鈴、二重岩、三重岩、歸ル澤、赤那キ日向、

- 如峰山、唐澤、若澤、小眞名子、大眞名子、志津、野州原、二荒山、歌ヶ濱、中宮祠、太田和、寒澤、太郎山、湯元、温泉、檜木平、白根山、五色沼、前白根山、千手、五大尊、上野鳥及寺ヶ崎ノ全部
- 丸山、星ノ宿、善如寺谷、大工町、本町、大門内、蓮花石、原町、袋町、花石町、根通及慈眼堂ノ一部
- 大字所野
- 小字白ヶ石、横手、小日向、犬母ヶ澤、五葉ヶ平、上景、ミセコ、内ノ外山、三十日、中ノ澤、ス、キ原、須原、立石、駒買、美濃原、篠鳥屋、バラ、細丸飛、釜ヶ平、高原立、手万澤、霧降、ムグリヤ、板持、マカキカロ、丸飛、用水端、花見鳥屋、上ノ鳥屋、カサマツ、コマカイ、ブンゴバタ、カラストヤ及長峰ノ全部
- 愛宕山ノ一部
- 福島縣南會津郡檜枝岐村
- 字燧ヶ岳ノ一部
- 御料林日光事業區ノ全部
- (栃木縣上都賀郡日光町地内)
- 國有林山口事業區
- 六十二I林班、六十二II林班及六十三林班ノ全部
- 四十七林班ノ一部
- 只見事業區
- 同 一林班及二林班ノ全部
- 同 宇都宮事業區
- 同 自十三林班至十八林班ノ全部
- 同 鬼怒川事業區

- 百十五林班、百十六林班及自百二十六林班至百二十八林班ノ全部
- 百二十五林班ノ一部
- 同 東入事業區
- 同 七十八林班ノ全部
- 北魚沼事業區
- 同 七十六林班及七十七林班ノ全部
- 細尾國有林、麻カラ澤國有林及仁下又國有林ノ全部
- (以上新潟縣北魚沼郡湯ノ谷村、群馬縣利根郡片品村、栃木縣上都賀郡今市町、日光町、鹽谷郡栗山村及福島縣南會津郡檜枝岐村地内)

- 同 縣下新川郡片貝谷村、内山村、愛本村
- 一、中部山岳國立公園區域
- 新潟縣西頸城郡小瀧村
- 大字大所
- 小字杉ノ平及高草連ノ一部
- 大字小瀧
- 小字長トガノ一部
- 岐阜縣大野郡丹生川村
- 大字池ノ俣
- 小字土樋、カンバ尾及池之原ノ全部
- 大字岩井谷
- 小字細豊、シヤダシ、横手、スリバチ及乗鞍嶽ノ全部

中部山岳國立公園

昭和九年十二月四日 内務省告示第五百七十號

國立公園法第一條ノ規定ニ依リ左ノ通區域ヲ定メ中部山岳國立公園ヲ指定ス其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ内務省、其ノ縣分圖ハ新潟縣廳、岐阜縣廳、長野縣廳及富山縣廳、其ノ町村分圖ハ左記町村役場ニ備付ケ縱覽ニ供ス

新潟縣西頸城郡小瀧村

岐阜縣益田郡朝日村、高根村

同 縣大野郡丹生川村

同 縣吉城郡阿曾布村、上賣村

長野縣南安曇郡安曇村、鳥川村、西穂高村、有明村

同 縣北安曇郡常盤村、平村、神城村、北城村、南小谷村、北小谷村

富山縣上新川郡大山村

同 縣中新川郡白萩村、立山村

- 同 縣吉城郡上賣村
- 大字平湯ノ全部
- 大字神坂
- 小字小鍋谷、巾平、上鍋谷及下鍋谷ノ全部
- 小字申尾
- 大字栗尾、岩ヶ平、クロ谷及フカ谷ノ全部
- 大字一重ヶ根
- 小字丸ニウノ全部
- 長野縣南安曇郡安曇村
- 字高山、高原、蛭窪、大樋、湯川渡、小梨平、白骨、白船温泉、湯道下、ガンゲ、源右エ門澤及作幸山ノ全部
- 同 縣同 郡有明村
- 地獄谷及湯道ノ一部

同 字中房天上、中房、中房温泉及中房信濃坂ノ全部
 同 縣北安曇郡平村
 同 字湯平、新湯屋、舊湯屋、五倫湯屋及カナツホノ湯ノ全部
 同 縣同 郡北城村
 同 字西山ノ一部
 同 縣同 郡南小谷村
 大字千國
 小字西山、ツガ大池平山、カマ池平山、ウチバタケ山、赤倉大峰山、九瀬川平山、ハンノ木ハラ、日向萱場、朴ノ木平丸山、朴ノ木平、小屋場澤及クゴ池ノ全部
 富山縣上新川郡大山村
 大字有峰
 小字黒部谷割ノ全部
 眞川谷割ノ一部
 同 縣中新川郡白萩村
 大字伊折
 小字與左エ門、戸ヶ倉、田倉、赤谷、アノド、大ナクラ、青砂、大出シ、三良左エ門、横尾、東出見、西芹見、木綿原、白髮幅、深谷、水上谷、丸出シ、西大谷、我鬼ヶ堂、堀ノ内、赤カレ、一本トロ、東小糸谷、板取、前安、霞谷、ヘタ谷、コシヤツ、産春、一ノ谷、コツト及大谷ノ全部
 同 縣同 郡立山村
 字立山ノ全部
 大字芦峯寺
 小字大目及雜穀ノ全部

丸山ノ一部
 御料林阿多野事業區
 二十四區劃班、三十四區劃班及自四十二區劃班至四十四區劃班ノ全部
 (以上岐阜縣益田郡朝日村及高根村地内)
 國有林高瀬川事業區
 自七林班至十三林班、自二十林班至二十七林班、自三十五林班至六十五林班、自七十六林班至八十林班、八十八林班及八十九林班ノ全部
 同 姫川事業區
 自三十二林班至四十四林班及自四十六林班至四十九林班ノ全部
 同 烏川事業區
 自一林班至十七林班、自十九林班至二十五林班、三十九林班及四十林班ノ全部
 同 安曇事業區
 自二十二林班至四十一林班、七十四林班、自七十八林班至百四十四林班、自百四十二林班至百五十四林班及自百六十四林班至百六十六林班ノ全部
 同 高山事業區
 自六十一林班至六十八林班ノ全部
 同 六十林班ノ一部
 同 船津事業區
 自六十五林班至七十八林班及自百三林班至百五林班ノ全部
 同 立山事業區
 自一林班至六林班、自八林班至十七林班、自二十一林班至二十五林班及自四十四林班至六十九林班ノ全部

同 部

黒部事業區
 六林班、自十五林班至四十林班、自四十四林班至四十七林班及四十九林班ノ全部
 七林班及四十八林班ノ一部
 (以上新潟縣西頸城郡小瀧村、岐阜縣大野郡丹生川村、吉城郡阿曾布村、上寶村、長野縣南安曇郡安曇村、烏川村、西穂高村、有明村、北安曇郡常盤村、平村、神城村、北城村、南小谷村、北小谷村、富山縣上新川郡大山村、中新川郡白萩村、立山村、下新川郡片貝谷村、内山村及愛本村地内)

阿蘇國立公園

昭和九年十二月四日
 内務省告示第五百七十一號

國立公園法第一條ノ規定ニ依リ左ノ通區域ヲ定メ阿蘇國立公園ヲ指定ス其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ内務省、其ノ縣分圖ハ大分縣廳、熊本縣廳、其ノ町村分圖ハ左記町村役場ニ備付ケ縦覽ニ供ス
 大分縣直入郡白丹村、久住町、都野村、長湯村、阿蘇野村
 同 縣同 郡長湯村
 大字長湯
 字西三尾、山小屋、西河内山、中三尾及河内ノ全部
 同 縣同 郡阿蘇野村
 大字阿蘇野
 字西大原、大原及野々戸ノ全部
 同 縣同 郡飯田村
 大字飯田
 字湯澤、中村上野、上野、泉水、川内及西ノ小池ノ全部
 同 縣同 郡中野村
 大字中野
 字湯澤、中村上野、上野、泉水、川内及西ノ小池ノ全部
 同 縣同 郡中野村
 大字中野
 字湯澤、中村上野、上野、泉水、川内及西ノ小池ノ全部
 同 縣同 郡中野村
 大字中野
 字湯澤、中村上野、上野、泉水、川内及西ノ小池ノ全部

國立公園指定告示

雜纂 國立公園、史蹟名勝天然紀念物

舟ノ隈、石ノ塔及大嶽ノ一部
 同 縣同 郡南山田村
 大字町田
 熊本縣菊池郡北合志村
 大字麓
 小字錢龜及十三部ノ全部
 同 縣同 郡平眞城村
 大字眞木
 小字東野ノ一部
 大字古城
 小字四番東原ノ一部
 同 縣同 郡瀨田村
 大字瀨田
 小字瀨田裏ノ全部
 大字立野ノ全部
 同 縣阿蘇郡宮地町、坂梨村、黒川村、永水村、尾ヶ石村及内牧町ノ全部
 同 縣同 郡山田村
 大字山田
 字畑ヶ田、上濱、追田、小野田前、佛供田、池添、野々中、西大津水、水深、七ッ江、沼ノ本、尻深、竹ノ脇、平原、西村、西川、下畑、畑中、小西、東畑、永尾、前田、前無田、笹川、中塚、栢ノ木、今古閑、水掛、長迫、小牧、不動塚、原ノ口、川島、片平田、尾曲、筒井ノ本、戸石ヶ平、鷲ノ石及鳥越ノ全部
 藏床、平ダヒラ及端邊ノ一部

大字小野田、小倉、小池、黒流町及今町ノ全部
 同 縣同 郡中通村及古城村ノ全部
 同 縣同 郡南小國村
 大字満願寺
 小字瀨ノ本、北瀨ノ本、松ヶ迫、山鳥川、蛇崩、米ノ尾、斧隠及芋切ノ全部
 赤谷及火焼輪智ノ一部
 同 縣同 郡北小國村
 大字上田
 字淨念、逢四郎、蛭石、力ラ谷、走り場、モミキ、上ノ原、湯田山、合志、豊ヶ鼻及子群ノ全部
 大字西里
 大字山際、上茸居木及耳切ノ全部
 大字北里
 大字源太園ノ一部
 同 縣同 郡産山村
 大字田尻
 小字北西小坪、下小柏及上小柏ノ全部
 中釜蓋、上勝負園、勝負園、蓬木原、曲谷及鶴字土ノ一部
 同 縣同 郡波野村
 大字中江
 小字猫嶽ノ全部
 大字新波野
 小字田鶴山、北田鶴山、井川谷、南釜割及本久保ノ全部
 長谷ノ一部
 同 縣同 郡高森町、色見村、白水村、久木野村及長陽

村ノ全部
 同 縣同 郡錦野村
 大字外牧
 小字上畑、中畑及下畑ノ全部
 國有林大津事業區
 十六林班、十七林班及自十九林班至二十八林班ノ全部
 同 郡
 菊池事業區
 自一林班至十九林班ノ全部
 同 郡
 森事業區
 自一林班至十二林班及自三十六林班至三十九林班ノ全部
 同 郡
 四十一林班ノ一部
 大分事業區
 自四十六林班至五十一林班ノ全部
 同 郡
 竹田事業區
 自六十一林班至六十九林班ノ全部
 (以上大分縣直入郡久住町、都野村、阿蘇野村、玖珠郡飯田村、南山田村、熊本縣菊池郡水源村、阿蘇郡内牧町、南小國村、北小國村、久木野村及錦野村地内)
 阿蘇國立公園區域中國立公園法施行規則第二十一條ノ二ノ規定ニ依ル地區ヲ左ノ通指定ス
 熊本縣菊池郡瀨田村
 大字立野
 國立公園指定告示

同 縣同 郡坂梨村
 小字赤瀨、北赤瀨、赤瀨ノ上、坂ノ上、本村、古村、立石、辨差川、法立及西赤瀨ノ全部
 道ノ上、三ッ石、宮内、舞堂、東新所、新所、西新所、北法立、馬立及羆子ノ一部
 同 縣阿蘇郡宮地町
 小字一ノ坪、ヶ瀨田、長田、九門、筒川、木村、火渡、雀島、駒立、笠園、勇子、添町、二反田、石田、池田、六田、金能田、陳ノ町、鹽井川、神樂田、高島、白土、的場、白粉原、野中田、一本木、金丸、寺島、水口、西池田、高田、泉、横田、西田、鹽塚、大町、御米田、林田、堂園、道北、平田、桐子、福寄、宮園、井島、北平田、井尻、池尻、今村、至極、今宿、石塚、西長者ヶ久保、西平原、下高城口、西油町、東石塚、南油町、東油町、山下、西古神、南古神、東古神、萬五郎、北保、東長者ヶ久保、南長者ヶ久保、長者ヶ久保、小中尾、北小中尾、東小中尾、上小中尾、西小中尾、上平原、東平原、保土平、北平原、中平原、南平原、上務崎、中務崎、下務崎、西務崎、北小堀、東小堀、西小堀、北水ノ本、南水ノ本、上高城口、東吾妻屋、中吾妻屋、北吾妻屋及西吾妻屋ノ全部
 同 縣同 郡坂梨村
 小字西雄子町、西養田、宮ノ前、鶴、南原中、雄子町、新屋敷、宮ノ脇、野林、原中、東雄子町、養田、産ノ平、神上、北原中、切土井、平保ノ木、

古閑畑、駄原、薄田、福原、東八反田、古閑、高床、北駄原、平口、八反田、八千場、北樫ノ木、金能田、馬場下、北水ノ本、小森、柿ノ木、福岡、端塚、樫木、門ノ町、大嶋、南豆塚、新土手、芝原、水ノ本、横藏、高柳、長者久保、鳥廻及北豆塚ノ全部

大字北坂梨ノ全部

大字西町

小字南上ノ原、上ノ原、外町、上井鳥、下井鳥、上至極、下至極、板橋、下町下、上町下、上西町、下西町、西瀬戸口、東瀬戸口、梶師、土手ノ内、北中ノ原、北荷内原、南荷内原、南中ノ原、北松ノ木、南松ノ木、西松ノ木、下長尾、上長尾、收ノ内及新上長尾ノ全部

大字藏原

小字諸田、大平田、桑田、金ヶ端、金鉢、砂塚、向原、木ノ本、下無田、上無田、下西濱、上西濱、東濱、園田、花園、西畑、向田、踊山、西菩提寺、東菩提寺、東岩狩、西岩狩、下大久保、上大久保、保、茅車、中菩提寺及上岩狩ノ全部

大字黒川

小字澁川鶴、澁川、踊山、鶴、上鶴、上油田、下油田、上芥川、下荷川、岩狩、小敷岩、萱車、東竹鶴、西竹鶴、收ノ口、原ノ上、西大門、東大門、

同

大字車歸

小字村下、池田、下道下、下道上、下ノ平、境松、瀧下、畑邊、瀧下間鍋、湯ノ本、坂下、大道下、成川、坂下西、田口、堤本、中町、男淵、橋ノ本、井手口、戸下、井川下及上ノ畑ノ全部

大字赤水

小字湯田、塚本、小堤、南砂間、南赤水、本赤水、藏床、北田、築堀、管切、高木、湧上、山西、平前、大無田、宮山、宮ノ本、水溜、本宮ノ前、馬隠、大久保、船成、天神山、古宮道、弦卷山、下出口、元宮ノ上、西坂ノ下、大堀、一町八段、小割前、山色見、西船成、無田、無田上、乘越、松ノ本及高築間ノ全部

大字永草

小字東明神山、西明神山、上原、浦田、橋口、松山、下前田、中前田、上前田、北前田、南前田、朝日田、下田代、下井手下、上井手下、下積原、中積原、上積原、上積浦、中積浦、下積浦、上尾崎、中尾崎、下尾崎、堀、市ノ川、岩倉、不動石、東小無田、下鬚搔、中鬚搔及上鬚搔ノ全部

國立公園指定告示

古閑、東中原、小次郎淵、東村上、西村上、野々中、原口、西中原、堂床、天神尾、山下、葎漕川、塔ノ本、筒井原、前田、居屋敷、田代ノ下、高柳、上淵間、三十六、西淵間、下淵間、黒戸川、中川原、新井手、西濱、成川、西上成川、東上成川、中北塚、揚場、西北塚、黒川、上堀ノ口、園田、中堀ノ口、下堀ノ口、上黒戸川、菅荷塚、東黒戸川、西黒戸川、前平、日向、鷺ノ木、寒地、灰塚尻、西灰塚、中灰塚、東灰塚、上鬼島、下鬼島、年ノ神、東白水、走り落、西白水、松ノ本、善應寺、横道、西ノ山、宇土原、西原、東大戸、大戸、堀ノ山、尾ノ山、涌口、川原、年山、葎引川原、英屋坂、東田ノ上、土井ノ内、東前無田、西前無田、西田ノ上、東水洗、西水洗、火床、上火床、中火床、下火床、西大無田、東大無田、社家田、東中無田、下中無田、中無田、上中無田、西中無田、西下中無田、下口ノ森、中口ノ森、上口ノ森、立石、西立石、東立石、子安川原、横井ノ本、下年山、大坂、湯道、花原、都山、飛畑及西小安川原ノ全部

大字竹原

小字宮ノ本、足原、水口、原ノ川、村下、丸林、西竹原、東竹原、上ノ原、下荷内原、上荷内原、長尾、嶽道、東高塚、下高塚、西高塚及牧ノ下ノ全部

大字乙姫

小字口ノ森下、口ノ森上、無田、中川原上、東無田上、東無田中、東無田下、中川原下、葎漕川、上

同 縣同 郡尾ヶ石村

小字上尾崎、下田代、中田代、上田代、明神山、東田代、下草原山、中草原山、上草原山、萱原、小野原、東畑、池田、小屋畑、下ノ無田、上ノ無田、宇土、小無田、原田、雛川、四ツ枝、市ノ原、流瀧石、下山、荒山、笹塚、中無田、中原、下ノ原、廣瀬、甲賀、上甲賀、西山崎、上山崎、中山崎及山崎ノ全部

大字跡ヶ瀬

小字南上向、中上向、北上向、鳥崎、幸賀、前田、赤池、大橋、南石ノ前、北石ノ前、炭附、流、花ノ木獨活及鳥越ノ全部

大字的石

小字下柳林、上柳林、殿塚、黒岩、高木、下鶴、崩引、割田、上崩引、寺ノ上、北、櫛、竹ノ下、前田、渡上リ、向ノ原、飛渡、頭無、上濱利、濱利、市ノ川、檜山、鬚搔及西ノ平ノ全部

同 縣同 郡内牧町

大字内牧ノ全部
大字湯浦
小字穴田、北穴田、南石原、南新井手、柿島、北新井手、西石原、東石原、中須、内田、貳反田、密江、原ノ上、原ノ前及中島ノ全部
大字西湯浦

小白川、城前、中尾、城ノ後、町下、町前、町後、東免ノ下、西免ノ下、中原、保手ヶ谷、水口、壹丁畑、大免、大久保、岳道、上ノ原、山下、東免、中免、角場、境川、黒石、免ノ上、古河原、積下、大山、上積、小道、晝峰及七駄刈ノ全部

大字白川

小字前田、下鶴、河原寺下、濱ノ尾下、河原寺、町上、西原、中原、柳ノ前、古柳、西柳、柳ノ上、上古閑、吐合、南大平、東大平、西大平、西晝峯、東晝峯、岩ノ上、東晝山、西晝山、池ノ久保、長尾羽根、楮ヶ追、阿蘇、上楮ヶ追、上池ノ久保、西阿蘇、東阿蘇、上千原、千原、下千原、尾崎、横道下、下楮ヶ追、西中原、眞武士、東中原、上追良原、追良原、妙才、女辻、出口、宮ノ前、西上ノ原、中上ノ原、東上ノ原、門河原、上桑鶴、下桑鶴、南門河原、谷相、谷向、下小久保、谷相ノ上、北小久保、上小久保及中小久保ノ全部

大字兩併

小字前田、鶴、井川上、東井川上、西岩井、西中郷、中郷、東岩井、南御手水、中御手水、北御手水、御手水、上御手水、東中ノ原、西中ノ原、東中郷、西御櫃、御櫃、東山下、山下、西山、長尾野、古陣、田中、陣内、野田、宮園、御所園、蓬來園、辛川、原口、小坪、西中原、北ノ原、東中原、中原、北下原、尾迫、西豆塚、北豆塚、東豆塚、豆塚、南豆塚、上ノ原、四十狩、岸下、幅、樋口、濱ノ尾、二本松、寺山、東山、松ヶ鼻、長谷尾及

猪還ノ全部
宇土口、星ヶ峯及嶽下ノ一部

大字一關

小字東原、西原、畠中、小白川、無田、桶池、土井ノ内、浦田、川端、土取、義園、高木、下原、上原、西水入、水入、蟻塚、大久保、柿ノ子、徳力、舞塚、一ノ坂、門野、笹原、松山、池ノ窪及横道下ノ全部

大字中松

堂園及棚畠ノ一部
小字高木、二本木前、尾ノ上、下松崎、上松崎、上松田、南松田、北松田、上西田、下西田、泉、南金間、西金間、北金間、東金間、川地、杉本、下石田、上石田、上葉山、下葉山、六地藏、松ノ木、小園、西地、中園、別所、竹ノ倉、下水口、上水口、壇城、大正寺、尻無、峯東、道ノ上、横山、中東原、上東原、東原、下原、下西原、上西原、横道下、東古閑原、西古閑原、下奥戸、中奥戸、前山平、舟緒、下舟方、上舟方、東宇土、下堂ノ内、上一ノ坂、下一ノ坂、上車鶴、中車鶴、下車鶴、西宇土及岩下ノ全部

大字河陰

小字東立石、立石、東入左内、松ノ本、入左内、東大石、崩ノ内、西大石、阿彌陀堂、濱ノ尾鶴、猶須原、古閑鶴、上川原、原口、東ノ切、西ノ切、境目、久木野田、川鶴、室町、堂ノ前、御領水、上奥戸、上堂ノ内、水口及中原ノ一部

同 縣同 郡久木野村

大字下野

小字錢瓶原、追込、塚本、山田、牧ノ内、泉水、村下、男淵、稻揚田、御狩場、御狩塚、勢子塚、追出、堤下、狩鞍、南撰、山下、下野、袋ヶ藏、引張、上馬水及御馬水ノ全部

大字長野

小字本田、山ノ内、嶽大道、鶴ノ谷、長藪、梅ノ木、追、方野、上方野、山上、大境、陣内、花立、上中、大平、表ヶ追、苜追、湯大道、山中、月ノ田、鶴、中江ノ前、堀切、下中、山下、鳥越、中方野、今市、大石川原、尾野、二龍野、山ノ口、深ヶ谷、上ノ久保、湯尻、尾田、峯ノ前、西田、花ノ木、尻無、大蛇ヶ谷及上ノ園ノ全部

大字河陽

小字前田、迫田、屋敷田、蛇迫谷、野田、横田、局田、宮寺鶴、免田、百田、登屋ノ尾、水入、竹ノ上、蛇迫、小澤津、躰塚、宮ノ前、宮ノ上、豆塚、大戸、大久保、二本松、湯阪、駒比、長塚、古閑上、打保儀、尾小森、仁連森、塩井元、中家鶴、鶴前、竹田、正傳寺、嘉勢、嘉勢ノ上、下西原、中西原、上西原、鉢冠、萩ノ尾、湯無田、一ノ川、一ノ峯、二ノ峯、平田、土井下、内屋敷、東原、上川原、石水、狐塚、丈ノ上、田ノ口、鎌田、皆込、冠出、角田、川原、宮田、西谷、山下鶴、村下、道下、東所原、西所原、若林、夏草、堀切、上所原、坂ノ上、千足、東千足、栢木、知和野、上牧、下牧、西牧、松畑、村上、東鶴、西鶴、尾道、古閑坂、堀ノ口、佛久保、假屋ノ上、北小倉

同 縣同 郡長陽村

國立公園指定告示

大字久石

小字中山、一ノ小石、二ノ小石、三ノ小石、四ノ小石、陳林、二陳林、五ノ小石、六ノ小石、七ノ小石、一ノ烏竹、二ノ烏竹、三ノ烏竹、保木ノ上、山下、東一丁田、上駄原、二ノ上駄原、一ノ駄原、二ノ駄原、西一丁田、三ノ駄原、四ノ駄原、一大岩下、二大岩下、三大岩下、四大岩下、本田、御陳鶴、左敷、西左敷、田崎鶴、御米田、上大川原、長迫、二長迫、柏木谷、二柏木谷、小無田鶴、桑原鶴、一ノ山ノ上、二ノ山ノ上、三ノ山ノ上、一ノ中原、二ノ中原、一ノ平原、二ノ平原、丸葉山、二ノ丸葉山、三ノ丸葉山、四ノ丸葉山、一ノ小野、二ノ小野、一大平原、二大平原、三大平原、井手ノ磧、柳原、尾ノ廻、八ノ久保、善次坊及今山ノ全部

山、南小倉山、湯道、桑木迫、小迫、水溜、光石、七足、上水溜、上小迫、穴迫、玉來、北濁川、濁川、上烏小塚、下烏小塚、中野、下迫、間地野、鉢久保、田坪、井手上、初瀬、道下、高野、日ヶ暮、水口、錢瓶、橋場、小日野、炭竈、大野、小中野、木落、扇平、大保、葛原、船畑、鈴畑、鋤崎、仁戸内、北久保、山下、油ノ下、油田、立山、山久保、袋ヶ藏、萩ノ久保及猪解ノ全部、假屋、山ノ神及山添ノ一部

同 縣同 郡錦野村
大字外牧
小字下畑ノ全部
上畑及中畑ノ一部

十和田國立公園

昭和十一年二月一日
內務省告示第三十一號

國立公園法第一條ノ規定ニ依リ左ノ通區域ヲ定メ十和田國立公園ヲ指定ス其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ內務省、其ノ縣分圖ハ青森縣廳及秋田縣廳、其ノ町村分圖ハ左記町村役場ニ備付ケ縱覽ニ供ス
青森縣東津輕郡荒川村、橫内村、濱館村
同縣南津輕郡竹館村
同縣上北郡十和田村
秋田縣鹿角郡小坂町、大湯町、七瀧村
一、十和田國立公園區域
青森縣東津輕郡荒川村
大字荒川

同 小字寒水澤及筒井ノ一部
同 縣同 郡橫内村
大字橫内
同 小字八重菊ノ一部
同 縣同 郡濱館村
大字駒込
同 小字深澤ノ一部
同 縣南津輕郡竹館村
大字切明
同 小字上井戸ノ一部
同 縣上北郡十和田村
大字奧瀬
同 小字十和田、萬ノ湯、猿倉及谷地ノ全部
大字法量
同 小字燒山ノ一部
同 大字法量
同 小字燒山ノ一部
同 大字法量

同 大字法量
同 小字燒山ノ一部
同 大字法量
同 小字燒山ノ一部
同 大字法量
同 小字燒山ノ一部
同 大字法量

秋田縣鹿角郡七瀧村
大字上向
小字十和田元山、十和田鉛山及十和田銀山澤ノ全部
國有林八甲田事業區
自一林班至三林班、自十四林班至二十林班、二十二林班、自三十林班至三十二林班、三十六林班、自四十四林班至四十六林班、自五十二林班至五十四林班、五十九林班、六十林班、七十四林班及七十五林班ノ全部
四林班、二十一林班、二十六林班、二十八林班、四十二林班、自四十八林班至五十林班、六十一林班及

同 六十二林班ノ一部
同 黑石事業區

同 六十九林班、七十林班、自七十八林班至八十四林班、九十一林班及九十三林班ノ全部、六十五林班、六十六林班、六十八林班、七十一林班、七十二林班、自七十五林班至七十七林班、自八十六林班至八十九林班、九十五林班及九十六林班ノ一部
同 十和田事業區

同 五十一林班、五十四林班、自五十七林班至百十七林班、百十九林班、百二十林班、百二十六林班、百三十三林班、百四十八林班、百五十四林班ノ全部
同 三十二林班、三十三林班、四十六林班、四十九林班、五十林班、五十二林班、五十三林班、五十五林班、五十六林班、百十八林班、百二十七林班及百二十八林班ノ一部
同 大湯事業區

同 自三十二林班至三十六林班、三十八林班及四十林班ノ一部
同 小坂事業區
同 十五林班、二十林班及自二十六林班至二十八林班ノ一部
同 青森縣上北郡十和田村大字奧瀬小字十和田地内不要存置國有林ノ全部

同 (以上青森縣東津輕郡荒川村、橫内村、濱館村、南津輕郡竹館村、上北郡十和田村、秋田縣鹿角郡小坂町、大湯町及七瀧村地内)

國立公園指定告示

富士箱根國立公園

昭和十一年二月一日
內務省告示第三十二號

國立公園法第一條ノ規定ニ依リ左ノ通區域ヲ定メ富士箱根國立公園ヲ指定ス其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ內務省、其ノ縣分圖ハ山梨縣廳、靜岡縣廳及神奈川縣廳、其ノ町村分圖ハ左記町村役場ニ備付ケ縱覽ニ供ス
山梨縣南都留郡中野村、忍野村、福地村、西桂村、船津村、小立村、勝山村、大嵐村、鳴澤村、長濱村、大石村、河口村、西湖村
同縣西八代郡上九一色村、古關村
同縣西八代郡上井出村、白糸村、北山村、富士根村、大淵村、吉永村
同縣駿東郡須山村、印野村、玉穗村、須走村、富士岡村
同縣駿東郡下郡足柄村、湯本町、溫泉村、宮城野村、神奈川縣足柄下郡足柄村、湯本町、溫泉村、宮城野村、仙石原村、箱根町、元箱根村、蘆ノ湯村、早川村
一、富士箱根國立公園區域
山梨縣南都留郡中野村
大字平野ノ全部
大字山中
同 小字山中
同 重郎淵、寺屋敷、築地鼻、三本木道下、三本木、山神戶、諏訪堀、南大道端、鶴塚、三本木道上、土手外、東姥ヶ懷、西姥ヶ懷、土手内、外久良、堂ノ前、北島、藤塚、杏木道下、萩塚、見通道下、出口道下、沖新畑、新畑、栗木林、梁尻、大久保及大池ノ全部

雜纂 國立公園、史蹟名勝天然紀念物

同

梨ヶ原ノ一部
縣同 郡忍野村

大字内野
小字上村ノ一部

大字忍草
小字李ノ木、梨ヶ原中道、法印塚、六本松、鐘山及城ヶ腰ノ一部

同

大字松山
小字茨原、西ノ原、澤畑、中ノ原、熊穴、下水ノ入及上水ノ入ノ全部

大字上吉田
橋詰、松原崎、出口及背戸丸尾ノ一部

小字諏訪森、二本松、諏訪上、立石、下リ山堀向、唐松入、一本松、下リ山、熊穴、中ノ原、團子石、西ノ原、劍丸尾、鳥居木前、儘、細尾

野、小御岳下、富士山北向、河原、中島、遊境下、間山、鈴原下、大隅山及雁ノ穴ノ全部

諏訪ノ内、堰林、大和ヶ原、駕籠坂上、尾笠木、屋ビツ及儘下ノ一部

大字新屋

小字上鍛冶屋作、儘下及泉水ノ全部

六本松、下鍛冶屋作、中鍛冶屋作及東鍛冶屋作ノ一部

同

縣同 郡西桂村

大字上暮地
小字檀持山ノ全部

敷見ノ一部

大字下暮地
小字壹ツ石、内ウ子、俵石、東ノ澤、木山及大船ノ全部

縣同 郡船津村ノ全部

縣同 郡小立村ノ内大字小立小字嶋原ノ一部ヲ除ク

縣同 郡勝山村ノ全部

縣同 郡大嵐村ノ全部

縣同 郡鳴澤村ノ全部

縣同 郡長濱村ノ全部

縣同 郡大石村ノ全部

縣同 郡河口村ノ全部

縣同 郡西湖村ノ全部

縣同 郡西八代郡上九一色村

縣同 郡大石村ノ全部

縣同 郡古關村

大字中ノ倉

大字川尻ノ全部

大字釜額

小字川尻ノ全部

小字川尻ノ全部

大字根原、麓、人穴及猪之頭ノ全部

大字上井出

小字寺久保、瀧元、樋場、田通、乗越、芝山、間遠、大根畑、見返、熊柏木、東安原、西安原、小俣澤、西ノ平、大將的場、八枚畑、棚脇、沼ノ平、西安平、東見返、相野、ホサ下、出

同

縣同 郡白糸村

大字内野
小字平山、上野、野田原、坂下、一本木、大堰及堰戸ノ全部

大字佐折
小字狂入、鎌方釣、奥佐折、主水釣、坂ノ澤及大助ノ全部

島神棚ノ一部

大字原
小字平山、白糸及中藪ノ全部

神棚及藪ヶ谷戸ノ一部

同

縣同 郡北山村

大字山宮
小字馬返及長坂ノ全部

二子山ノ一部

同

大字北山
小字檜塚及白塚ノ全部

東鞍骨、赤焼及角木澤ノ一部

縣同 郡富士根村
大字粟倉
小字大坂、榊嵐、親不知、三本杉及水平ノ全部

札打場、庭床、落平、山ノ神戸及大荒間ノ一部

國立公園指定告示

同

縣同 郡大淵村

大字大淵
小字洲岳、鶴芝下、横道下及丸火東ノ一部

縣同 郡吉永村

大字桑崎

小字杉山ノ全部

日ヲ見ズ、境塚及板小屋ノ一部

縣同 郡須山村

大字須走

小字立山、西之砂、稻荷尾、櫻尾、北原、大林、陳取塚、虎杖窪、上眞土、下眞土、相ノ尾、下原、土橋及八瀬尾ノ全部

セドコンスガウト、七ツ尾、矢彈山、七ツ尾ノ内梨木平、石山、大尾根、梨木平、御登口、日向、瀧ノ澤、屏風澤、中ノ澤、柳澤、一ノ澤及西澤ノ一部

縣同 郡富士岡村

大字神山

小字丸嶽落合ノ一部

二子山御料地ノ一部

神奈川縣足柄下郡足柄村

大字久野

小字山畔澤及蛇喰澤ノ全部

同

丸塚南及塔ノ峰西ノ一部

縣同 郡湯本町

大字塔ノ澤、湯本茶屋、畑宿及須雲川ノ全部

大字湯本

小字前田、後山、神明町、仲町、上町、湯場、湯坂山、白石下、茶ノ花、白石山、三枚橋及城山ノ全部

山崎ノ一部

縣同 郡溫泉村

大字大平台ノ全部

大字底倉

小字東街道、堂ヶ島、大東、底倉、石原、上ノ山、蛇骨、一本松、下鷹ノ巢、新林、上鷹ノ巢、笹塚、箕作澤、四面塔、小涌谷、上中尾、下中尾、家ノ向及川窪ノ全部

北畑ノ一部

縣同 郡宮城野村

小字大東、オツツバ、小東、上山、外窪、山路、上、下河原、向、峯、入妻、白井下、上河原、新田、木賀、瀬戸山、北畑、地獄澤、新林、山神、マシキ、水ノ出口、南長尾、早雲山、川向、向山、板里、暗ミ、大涌澤、稽古場、萩山、長尾、モミノ尾、明神ヶ嶽、ツガ尾、寺尾、イヤ下、夏焼、舟久保、四ツ尾、坂下、日影平、明星ヶ嶽、大平、山畔澤、抱石、日影山、ヘギ石、台、直路、猪石及井戸久保ノ全部

二ノ平及強羅ノ一部

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同 縣同 郡仙石原村

小字土橋、釜淵、押出、澤向、下向、前田、上山、中筋、上向、小屋苜、太郎平、出戸、押廻、横道、辻、ズミノ中、唐澤、明神、下唐澤、柳ノ木、明神原、水上澤、湯場、高塚、湯澤、菅ノ澤、大原、東馬道、川向、元湯場、品ノ木、牛坂、鮎丸、卯花尾、アキビ澤、入道塚、笹尾、平尾、眺石、太郎澤、太郎嶽、檜場平、采女立間、直路、金時山、金山、菅原、枝尾、中丸、杓子山、片平、長尾、六郎兵衛、台ヶ嶽、大澤向、俵石、大井平及水土野ノ全部

イタリ及小塚山ノ一部

同 縣同 郡箱根町

小字小田原町、三嶋町、若川町、畑引山、向坂、男駒山、大溜、大窪、澤入、七洞、壁取、鼠殺、屏風流、吾妻嶽、ドンキン、行者越、大場山、傘ビンカ、唐澤、登澤、石垣岩、猿立、木立、澤口、御馬冷場、孫助山、鞍掛山、野馬池、風越、境木及畑引山ノ全部

新谷町ノ一部

同 縣同 郡元箱根村

小字三ツ谷、吾妻ノ森、御殿、坂下、ゴウド、大芝、八町、二子裾通、防ヶ澤、和田ノ角、上蛸川、堤灯山、大峰、駒ヶ岳、神宮山、大涌谷、冠ヶ岳、大涌谷、本宮山、湯ノ花澤、蛸川、蛸川、禪月山、駿河津峠及萬字ヶ池ノ全部

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

國立公園法第一條ノ規定ニ依リ左ノ通區域ヲ定メ吉野熊野國立公園ヲ指定ス其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ内務省、其ノ縣分圖ハ奈良縣廳、三重縣廳及和歌山縣廳、其ノ市町村

國立公園指定告示

昭和十一年二月三十一日

内務省告示第三十三號

吉野熊野國立公園

箱根町、元箱根村地

神奈川縣足柄下郡仙石原村、

箱根町、元箱根村地

愛鷹事業區

五五區劃班ノ一部

(靜岡縣駿東郡須山村地内)

箱根事業區ノ全部

箱根事業區ノ全部

御料林富士事業區

自一區劃班至二〇一區劃班及二六四區劃班ノ全部

二〇二區劃班、二〇七區劃班、自二二六區劃班至二二八區劃班及二六五區劃班ノ一部

(以上靜岡縣富士郡上井出村、北山村、富士根村、大淵村、同縣駿東郡須山村、印野村、玉穗村、須走村地内)

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

分圖ハ左記市役所及町村役場ニ備付ケ縦覽ニ供ス

奈良縣吉野郡吉野町、天川村、大塔村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村

三重縣多氣郡大杉谷村

同縣南牟婁郡木ノ本町、有井村、神志山村、市木村、阿田和村、井田村、鶴殿村、御船村、上川村、入鹿村、西山村、神川村

和歌山縣西牟婁郡串本町

同縣新宮市

同縣東牟婁郡宇久井村、那智町、勝浦町、色川村、下太田村、下里町、太地町、田原村、古座町、西向村、大島村、高田村、三津ノ村、請川村、敷屋村、本宮村、四村、九重村、玉置口村、北山村

一、吉野熊野國立公園區域

平、大師井戸、大正寺、中尾、赤阪門之辻、アチラガ谷、土器場、尾花瀬、尾花堂ヤシキ、福特ケ尾、笹藪地、梅ノ木坂、源六向、岩倉、ツルベ、角平地、四郎兵衛地、蛇場、要花向、源平地、蛇塚、ウラ池、クコニ谷、裏ノ下向ヒ、稻荷、天飛天、天火天、藤左エ門地、池ノ谷口、アセボガ尾、池ノ谷、クラガリ谷、ツガ岩屋、西行尾、西行谷、苔清水、庚申堂、登リ尾、檜木尾、大谷カクシ谷、大谷、大谷長尾、高露、大谷中尾、大谷辻西、大谷辻、蛇ヶ谷、眞ノ原、カシヤ谷、蛇ヶ原、櫻峠、カクシ峠、冷水、サガノ峯、イラコ谷、室ノ木、地獄谷、千本横手、セミ阪、狐塚谷、小松谷、石峯、藥師、長峯、峯藥師、藥屋浦、茶ヤノウラ、峯ヶ崎、石塚、扇ヶ谷、葛原、千本、オソノヲ、ヲサキ、峯ノヨセ、井戸谷、大橋、中ノコシ、ヲバナ、明神谷、千本口ノ上、チンベ、セキヤ、トリドセキヤ、山ノ井、尾花平、中井谷、寶泉坊、兒子淵、冷シ水、北畑、ヨセヒラ、ケトガ峯、フタゴ山、コクヤ谷、葛蒲谷、舟岡山、狐ヶ尾、大尾、コクヤ田、ビシヤカケ、向山、尾上、土橋、下町、奥ノ坊、御所畑、又ノ尾、十一坊、カマトギ、八王寺、西ノ尾、寶城寺裏、特福坊裏、寶藏院裏、細井谷、稻荷町、南谷、丸山、南谷向山、土居尻、彌宜尾、冷水道下、冷水道ノ上、石橋、木伐谷、カシノ木、高岩、筒井谷、南院谷、南尻、杉ノ谷、竹ノ院内、アツヤ谷、

下乗谷、上町、中町、櫻ノ尾、花瀬、文珠山田、テツツリ天、大平笠松、ヒバリガ峯、地藏野尾向山、田井谷、大平、花見塚、地藏野尾向ヒ、田原、泉湯谷、泉湯谷北受、泉湯谷西受、泉湯辻、木ノケ尾、木ノケ外畑、外藪、勝手前、市場町、東南院ヤシキ、金剛、金剛裏、金剛院前、東室、宮坂、東院、山内町、大湯谷、小山、福知院、相叶、五所平地、クルミ坂、湯ヶ谷、大平受、大平西受、コノ山、大台ヶ森、小判井戸、金ヶ谷、花山、井戸崎、千珠院、梅木谷、一ツ橋、谷尻、峯ノ的場、的場、奥谷尻、兩師、藥師、大溝、雲井、上千本、大川、市場裏、南院西、木戸ノ阪、岩井谷、日野尾、宮ノ下、高室、宮坂町、東院裏、東院町、西藤、土藏、下宮、アコタカサノコ、コタカサコ、アンメタニ、出合、吉野カラシ、サイモタ、カシノ木、鼻ノセ垣内、一ツ地藏、赤坂、清瀧、大正田、西ノ峯、西山、カラスガ谷、西畑、椿井戸、塔ノ庭、西ノ谷、ヒハノ尾、天王真、千珠院平、大門、平、戒、日高、風呂ノ谷、小路、丈六、石橋冷水、汁谷及堂阪ノ全部、赤岩、高瀧、下高瀧、ツクシ谷及塔ノ尾ノ一部

大字左曾

小字エノ田、ツクシ谷、クロガラス、間谷、ドマ

大字丹治

同

大字橋屋
小字鳥ノ奥及西念ノ一部
小字竹谷ノ一部
縣同 郡天川村
大字洞川

小字一ノセ茶屋、洞辻茶屋、一ノセ番木ヤ、一ノセ花賣場、大峯山行者堂、ゲマタ、一ノセシネ谷、一ノセマキ尾谷、一ノセ鐘掛谷、追川山、大コグチヤケ山尾、神童子ヒソノ尾、神童子、笹谷、ノゾキ谷、五番關、一ノセ谷、大峯山、神童子ノ内小笹、今宿及蛇原ノ全部、岩谷峯及カンカケノ一部

同

大字北角
小字峯中、河坪及布引ノ全部
大字坪ノ内
塩坪、地峯及シフク山ノ一部
小字チヨウセンノ全部
縣同 郡大塔村
大字篠原

同

小字蛭谷、洞井、天上倉、日裏山、細尾谷、シゴク谷、シンセ、フタギヤ、アトヨミ及大峯中ノ全部
トッポリ尾ノ一部
縣同 郡十津川村
大字旭
小字宇無ノ川及元峯中ノ全部
大字内原
小字舊峯中赤井谷ノ全部

國立公園指定告示

大字神下

小字イラノサコ道下、小和田カミ、小和田ウヘ、浦ノ谷、不吞谷、堂ノ岡、カラ谷、岡ノ上、良玄谷、カキゾト、ヤブ、ヲウツ、家ノウヘ、チブノモト、ウラノダニ、シミズノサコ、店ノサコ、神又ヤシキ、北垣内、北畑、西向キ、向ヘ、家ノシタ、岡本、岡ノシタ、家ノシモ、大道ノシモ、ミチシタ、南キク、大道シモウヘ、大道シタ、ミチ上、水クミミチシタ、家ノカミ道シタ、今瀧、谷ノ上、今ダキ中畑、家ノカミ道上、今タキノ上、水汲道ウヘ、大田ノウヘ、田上シモ、岡田、大谷、大谷下道下、大谷下平、杓子、立花サコ、大森ノシモ、東ノ下山、コウツノ木瀬肩、立花、ナガナミ、焼入谷、板瀬瀬、市松釜、市松釜下測、市松釜ノウヘ、一本松小岡、釜鉢ノウヘ、引キ付ケノウヘ、大治郎釜ウヘ、平畑カミ、平畑、清吉釜、大ザレノシタ、清吉釜シタシモ、コヲハサマ、中瀧ノカミ岡、大ザレ、大ザレノシモ、奥谷道上、溝ノ上、山神カミ、奥谷上平、釣樋ノシタ、山神谷、中瀧ノ上、中瀧岩ノカミ、中瀧、掛口、堀ノ根、中瀧ノシタ、僧屋敷、樋道下、木挽和田、石シヨ和田、溝下、堀ノウヘ、樋ノ上、市路、新田岡ウヘ、田ノ上、東サコ、田ノ邊、家ノ上、カミ東垣内道上、カミ東垣内道上、小岡、道ノ上、浦東垣内道上、浦東、中垣内、サコ、中、サコ向、畑尻、畑ノシタ、上西垣内、上

國立公園、史蹟名勝天然紀念物

西、家ノ西平、田中ノキシ、田中垣内、田中
ネキ、田中、辻本垣内、辻本、角畑、南ノウ
へ、南、南垣内、溝ウへ、浦東垣内、杉ノ内、
木戸口、廣野、岡山、若松畑ノ下、杉ノ内垣
内、道辻、田中シモウへ、吉田垣内、吉田、
古ヤシキシタ、岡ノ垣内、家ノ前、植田垣
内、大道上、吉田屋垣内、吉田屋、中井、中井
垣内、カミ向ヒ、ネキ、中切、植田、中西、浦
植田ノシタ、家ノカミ、中井シタ、稗畑、浦
西垣内、浦西、浦西岸、水口、水口シタ、下
西垣内、下西垣内道ウへ、溝ウへ、浦地垣内
道下、下西垣内道下、浦地、家ノ下、道前、
隱居地、青石ノウへ、山口、下田戸、店ノウ
へ、植田店、幸エ店、柚立、谷ノシタ、家
ノ前、上地、山口垣内、家ノシタ小岡、家ノ
カミ平、上地畑下、大道垣内、大道、道下、
廣ノ坂、庚申下、木戸場ノウへ、家ノカミ、
ヒシノ谷、ヒシノ谷尻、小川ノ口、清兵衛屋
敷、秋葉ノ下、畑尻、揚場、クロトコ、燈台
松、ドンボウノ岡、道辻下、本道シタ、椿谷
道上、椿谷道下、ネジマツ、古野上、巳ノ助
山、清水谷シタ、古野、古野谷、古釜場細谷、
ミヨガ、ミヨガノ下細谷、カシスミノオカ、
水道及道下ノ全部
大森、イラノサコ、店ノサコウへ及水汲ミ道
上ノ一部
同 縣同 郡下北山村
大字上池原

小字乙枝、向乙枝、堀才、上小川渡、上川渡、下
川渡、細利、上池平、上ノ平、池ノ坂、向札
場、池ノ坂カミ、サキシマ、栃木サコ、高畑、
涉ノ場、ヲキノサコ、森岡ノ瀬戸、長ヒケ、
下川渡佐古瀬戸、家ノ瀬戸、溝ノ上、廻溝ノ
上、廻溝、大クダシ、小又出合、池川小又出
合、ヲツヤ淵、サル岩ヤ、池川小ダワ、ザレ
コダハ、ザレ、ウイ平、塩カキ坪、栃山和田、
ツリバシ、大アチ、ハザマ、手ノセナカ、
元崩、神山、ウへ神山、シタ神山惣谷、畑木
ヤ谷ノシモ、奥神山、水木、畑木ヤ道、畑木
ヤ、高尾、トフヨフ、奥佐田山倉本、佐田山、
口佐田山、大淵、門佐、尾輪切、鰻島、栗原、
上川渡瀬戸、上川渡水口瀬戸、上平瀬戸、掛
詰、カマノ本、カケツメ、ドロノウへ、アチ
クミ、カヅラ谷、下カヅラ谷、尾井、ヨアリ
水、梅木佐古、松尾、野々木、佐田ノ坂野本、
ガマノ谷、小ナヤ倉、小ナキヤ倉、丸瀬横手、
タテツリ、惣谷、月ノ瀬、暮石、大瀬出合、
出合、ウトウ、細淵、丸瀬、乙枝ノ向、山ツ
口、藥師堂ノシモ、ヲトシ田ノウへ、鳥渡ヲキ
坂、鳥渡、鳥渡奥大榎山、大榎山、鶴口、水呑鶴
口、瀬戸、藥師堂ノセ戸、上川原ウへ、横瀧、ア
シヤ谷、表谷、佐田ノ川出合、丁子口、ナメダ、
片淵、向ヲトシ、ムクノ木、ヲトシ和田ノ上、
カリヲキバ、又ノ本、ウトフ、カミヤナセ、
ナナセ、シモヤナセ、小口野、小川原、瀧川、
クロドウ、瀧川カマノ谷、黒川、柏ノ木、柏

同

縣同 郡下北山村
大字上池原

同

大字前鬼ノ全部
縣同 郡上北山村
大字河合
小字白川又ノ全部
大字西原

射場、横山、洪リ谷、峯ホラ追、トウダ尾、
アマタギ、ナメ川口、ナカンダ、瀧谷、八七
八、ガマ谷、谷ノ口、ランシヤ峯、クドウ谷、
中谷、シルミ谷、論所尾、白口谷、無事谷、
村ノ木追、瀧ノ畑、日浦山、ナメラ谷、清朗
ノ尾、火燒場向、中ツ谷、シユシヤ峯、奥ノ
向、奈免倉、大豆尾、中ノ又陰地、白倉谷、
宿谷、生ノ處、追ノ尻、笹ノ岩屋谷、アシ谷、
追畑、奥七人山、惠山谷、惠山向畑、阪本、
惠山坂、惠山平、惠山彌五郎作り、ハコギ尾、
中又口ザレ、フド平、中ノ又口、ワサビ、山
口ノ前、ハウソ尾、新田、奥ノ峯九分山、高
橋尾、奥ノ峯、後郷谷、赤倉山、今西谷、サ
カハシ谷、船木ヤ追、向新田、鳥屋倉、西ノ
横手、向谷、向ノ田、天々瀬谷、ヲフシ野、
向谷峯、天々瀬谷中ツ、大瀧ノ峯、天々瀬中
ツ、船ヤタワ、留山、栃山、山本ノ上、ウへ
谷、谷、谷道、射場ノシタ、栃木藪、一門山、
大石浦、家ノシタ、辻ノシタ、大浦谷、大浦、
水合阪、宮ノ阪、奈々追、辻本ノ上、バヤ倉、
奈々追峯、栃山ノ上、宮ノ尾、クラハシ、小
クルミ追、シモノ峯、日浦峯、射場ノ上、又

大字下池原ノ全部
大字池峯
小字土頭、ヒビヤ、戸手、ネガイリ、水溜、丈六、
池峯、楠屋、山伏平、辻堂、ホシ籠及下タ谷
ノ全部
大字下桑原
小字小井、大小井、山桃、川口、川口ノシモ、太
谷、小ヤナセ、キトロ、小口、宮ノ谷、ヤケ
ベ、田ノウへ、小口ノ上、小口ノカミキシヤ
ヤシキ高、小口カミ高、川口ノ上、川口ノ上
浦古瀬、浦古瀬、摺川、ハザマ、ケンヤ谷、
眞砂瀬、白ラクラ、小坂、宇井ノ平、中山、
ヒロセ、アラシリ、アラギ、大小井ノ向、大
谷瀧ノ上、大谷地藏シタ、桑谷、アラシク、
大岳、久保谷、本谷、大谷、打越、小井ノ後、
平山、平山ノ上、平山ノ下、植村瀬戸、植村
ノ後、朴ノ木砦、大瀧、瀬ノ谷、岩ノ口、丸
山、小井坂ヒシ、土倉、フルコヲ、和田ノ高、
ワダ、ワダノウへ、コバシノタカ、ツユノ木
谷、長谷平、露木谷、大渡、太棍山、大風山、
津風、ノアキ及小口向ノヒノ全部
瀬戸ノ瀬、カハノキ及小井坂ノ一部

國立公園指定告示

同

縣同 郡神川村

大字神ノ上

比、前ノ向イ、日裏田ノ坪、日裏田ノ上へ、イノ岡、田ノ上ノ向イ、栃ノ坪、ウツ田ノ坪、ヲウツ田ノ上、更田ノ上へ、更田、下ノ坪、仲ノ山、向野、宮ノ向イ、矢倉山宮ノ向イ、和田ノ下モ角石ノ上へ、和田ノ下モ角石ノ上、小西山、乙乘向キ、瀧ノ日裏、ソヲノツ、大淵ノ上、存嶋、大倉山、平瀨、古田、平瀨佐古、木津呂山、佐古ノトヲ、風呂谷、和田、里山、大佐古ノ内、上ノ平、大洞山、家ノ上、海平、猿倉及柳瀨ノ全部

大字花知

小字蜂ノ巢、女栗岩、檜ヤヅロ、須和谷、黒星、橋ノ奥、上田、芝ノ上、岡ノ上、段ノ庭、家ノ回り、メクノ平、中村坪、福山ノ上、森村ノ上、山田ノ上、平ノ坪、家ノ上、下ノ芝、古田、小代、風ノ宮、新田ノ上、新田及ナメヲ谷ノ全部

大字大井

小字大川原、船戸向、大井、向交、奥坪、大田井谷ノ一部

大字井關

小字シモ北地、下モ濱田及東濱ノ一部

大字市野々

小字烏帽子石、平瀨、藤川、平石、九十郎畑、小谷、水呑、蹄形石、大谷、暗谷大溪流、鬼杉谷、普賢池、飛瀧、大戸平右側、大戸平左側、向山、姥ヶ懐、瀧原、伏拜、宮脇、西中地、稗岸、上奥野、下奥野、宮下、大戸平、平石、東中地、上野際、下野際、上畑谷、下畑谷、北多富氣、備前平、下向山、中向山、上向山、鎮守山、新客、南谷、荷馬ヶ野及杉谷ノ全部

大字橋ノ川

小字ヨバズノ坂、濱田及丑越ノ全部

大字二河

小字ユリノ内、汐入、川口横浦、高洲及大浦ノ全部

大字湯川

小字笹ノ子、甫子浦、越瀨、福井、平見、向芝、在ノ内及橋ノ本ノ全部

縣同

宇櫻谷、尻谷、午頭切場、磯ノ湯、老翁谷、赤嶋、祭渡山、狼煙山、草後島、吞取、鶴島、中島、關船山、日和山及辨天島ノ全部

國立公園指定告示

同

縣新宮市

字大濱ノ全部
左指ヶ鼻、上本町及相筋ノ一部
三輪崎

字孔嶋及鈴嶋ノ全部
東高森及及松原添ノ一部

佐野

字秋津野、下地、中地及上地ノ一部

縣東牟婁郡宇久井村
大字宇久井
小字蛭子上野及御殿場ノ全部

寺前、里、中芝、出見世及殿和田ノ一部

大字鍛冶谷口ノ一部

小字駿田、西ノ坪、松本、小碓、大碓及承仕谷ノ全部

藥師谷、川口、須崎、堀切、木戸浦、中須道ノ下、橋ノ本及シモ墓前ノ一部

大字濱ノ宮

同

縣同 郡色川村

大字南平野
小字花折、元山、妙法山、瀨田、中會、不動坂及瀨ノ全部

岡ノ本、平ノ山、大裕、三石、扇山、東谷、田ノ奥、竹藪及大栗須ノ一部

大字小阪
小字瀨ノ奥及清水ノ全部

大戸、亥ノ子屋敷、瀨、峯ノ畑、瀧尻、阪ノ谷、小栗須終及畑ノ一部

縣同 郡下太田村

大字市屋
小字大浦及中ノ浦ノ全部

縣同 郡下里町

大字下里
小字名無及東平見ノ一部

大字粉白
小字市雨、懷山及玉ノ浦ノ全部

大字浦神

小字寒風、水ノ浦、大浦、釜床、起ノ浦、釜床平、大浦平、耳ノ浦、田代、耳洞ノ谷、寒風打越、富倉之平、富倉ノ枝谷、橋立ノ濱、橋立中ノ谷詰、集リ畑平、大平、集リ畑打越、畑ノ洞、狼煙谷、牛倉、傳白谷、鬼宿、玉ノ浦、岩屋、松ノ本、唐立及濃瀨ノ全部

雜纂 國立公園、史蹟名勝天然紀念物

同

縣同 郡太地町

大字太地
小字向山、小長井、東大長井、常渡、西大長井、夏山、鷲峰、網代崎及山添ノ全部
下河立、西地、安ヶ平見、海士浦、大平見、中平見、先平見、通谷、南通谷、北通谷、田ノ尻谷、神浦、髭無及水尻ノ一部
大字森浦
小字三軒屋、久保、小網代、汐入、掛、明神、本浦及牛越ノ全部
下地ノ一部

同

縣同 郡田原町

大字下田原
小字山谷及荒船ノ全部
寶嶋、ヘクサビ、五平及東向ノ一部

同

縣同 郡古座町

大字古座
小字鎌ヶ谷及九龍島ノ全部
ドウメキ及南ノ一部

同

大字津荷
小字東ノ一部

同

縣同 郡西向村

大字姫
小字サク畑及ゴウラノ一部

同

縣同 郡大島村
小字金山、松山、權現島、通夜島及苗我島ノ全部
大猪喰、猪喰、打越、田代、炭釜、山口、櫛

同

大字須江
小字赤崎、瀧頭及通夜島ノ全部
川ノ奥、濱須賀、白野、中峯、大井サダ、ナキノ谷及一ツ松ノ一部

同

大字櫻野
小字アシカミ、大森、ヲシカ谷、ノダカ、葛カ峪、黒山、下鼻、尾崎、三ノシタ、北ヲサキ、マハナ、南ヲサキ、穴ス、キ、高森及前ノハナノ全部
ヲシガモツ、棹取平三、ホリコシ、ヲガシノ、堀ノ谷、上ノアシロ、タカス及トラガハラノ一部

同

縣同 郡高田村

大字高田
小字白見ノ全部

同

大字相賀
小字冷丸、コサガノ、平見、田地、田地越、西ノ畑、向イ、大山、平峪、小向、小砂、古河及サ、谷ノ全部

同

大字南檜杖
小字尼嶋、奥柿谷、柿谷、上ノ街道、三田、竹ノ前、丸岡、芝田、コケ及瀧下シノ全部

同

縣同 郡三津ノ村
小字尾頭、杉ヨ、尾志古谷、治葉谷、寺風呂谷、丸山、浦地、上村及池ノ内ノ全部

同

縣同 郡本宮村ノ全部

同

縣同 郡四村
大字渡瀬ノ全部

同

大字湯ノ峯
小字峠谷、玉石、カシ田、堂ノ後口、瀧ノ奥、温水、垣内、小阪、檜岡、寺田、松葉、アヒチ、平野、大谷、玉石向イ及久保野口ノ全部

同

縣同 郡九重村
小字大平、大裕、辨財天、ホソキ、中岡、奥越山、新田、不動谷、大和田、坂頭、相須坂、カウ田尾、浦地、ホコエ、和田及浦コシノ全部

同

大字相須及宮井ノ全部
大字四瀧
小字萩打天水、萩打、奴田手、高野原、相須、谷口、上無、丸尾、前通、石ノ本、上野地、下垣内、礪ノ本、橋ノ本及下居地ノ全部

同

縣同 郡北山村
小字相須、峰田、平田、六水、鹹谷、津越、湯ノ谷奥、湯ノ谷、上里、中洲、仲里、猪飼、梅木、堀及里ノ峰ノ全部

同

大字小松
小字下モダキ、上ミ小松及下モ小松ノ全部

大字田長ノ全部
大字能城山本

同

小字高野、畑野嶋山、西ノ峯、植ノ山、下平瀬、市谷、イヤノ奥、垣ノ内、落久保、能城ノ久保、中瀬、浦地、村奥、上エ地、早セ田、畑谷、田ノ尻、輪ノ内、平島、奈古根、水溜、尾コノ地、瀬戸畑、大川邊、下久保、津本前、下地及竹ノ前ノ全部

同

縣同 郡請川村
大字請川
小字伊豆田、早田、清水、柿、折付、表、下地及千石ノ全部

同

大字大津荷
小字茶ヶ谷、矢倉及下津呂ノ全部

同

大字耳打ノ全部
大字皆瀬川
小字川湯向イ、川湯、相須及平野ノ全部

同

縣同 郡敷屋村
大字西敷屋
小字鎗谷ノ奥、鎗谷ノ道側、鎗谷地域地、鎗谷口、上地、小口、竹谷口、鶴ノ苔、竹谷及竹谷ノ奥ノ全部

同

大字東敷屋
小字枯木谷、下モヶ谷、下モ地、上地、大嶋、下清水、上清水及高地ノ全部

同

大字小津荷ノ全部
大字高山
小字中尾及居地ノ全部

同

國立公園指定告示

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

大字竹原
小字筏戸、東本、上ミ地、中地、下地、里山、上
エ地、寺ノ上エ、檜原、下檜原、小杉山及相
須ノ全部
大字七色
小字田戸ノ谷、シダ島、大川向、井ノ奥、瀧ノ畑、
田井ノ元坪、高砂、大和田、神田坪、上地平、
里ノ上、瀨ノ上平、瀨ノ上、下地平、西ノ浦、
奥森、長老平、不動谷、コシケ谷、地藏ノ元
及倉元ノ全部
市老谷ノ一部

大字下尾井
小字高盛、木屋ノ上エ、木屋、片ノケ、前久保、下
前久保、久保利、森本、浦地、西久保、上地、
中地、下地、岡崎、在所上、細津呂、栗須谷、
上小瀨、上小瀨ノ上、下小瀨ノ上、中小瀨、
下小瀨及西峰ノ全部
御料林大杉谷事業區
自十二區劃班至八十五區劃班ノ全部
(以上三重縣多氣郡大杉谷村地内)
國有林奈良事業區
自六十九林班至七十七林班ノ全部
(以上奈良縣吉野郡天川村地内)

同 熊野事業區
七十三林班、自八十七林班至九十二林班、九十四林
班、九十六林班、九十八林班、九十九林班及百一林班
ノ全部
七十四林班、九十三林班、九十五林班、九十七林班

及百林班ノ一部
妙法山國有林ノ全部及下熊野國有林ノ一部
(以上三重縣南牟婁郡有井村、神志山村、市木村、阿
田和村、井田村及鷺殿村、和歌山縣新宮市、東牟婁
郡高田村、敷屋村、本宮村、那智町及色川村地内)

大山國立公園

昭和十一年二月一日
内務省告示第三十四號

國立公園法第一條ノ規定ニ依リ左ノ通區域ヲ定メ大山國立
公園ヲ指定ス其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ内務省及鳥取縣
廳、其ノ町村分圖ハ左記町村役場ニ備付ケ縱覽ニ供ス
鳥取縣東伯郡山守村、古布庄村、以西村、安田村、上中
山村

同 縣西伯郡大山村、名和村、逢坂村
同 縣日野郡米澤村、八郷村、溝口町、日光村
一、大山國立公園區域
鳥取縣東伯郡山守村
大字野添

同 縣同 郡古布庄村
大字三本木
同 縣同 郡古布庄村
大字野井倉
字村木ノ全部
字山川谷西平、山川谷東平ノ一部

同 縣同 郡以西村
大字山川

同 字船上山、勝田ヶ川頭西平、勝田ヶ川頭東平、
大谷河原ノ全部
精進川頭西平、おいこ谷ノ一部
大字大父
字大山家ノ全部
三ノ谷ノ一部
縣同 郡安田村
大字尾張
字はつたい、高平、中ノ袋、土矢倉ノ全部

同 縣同 郡上中山村
大字羽田井
字遠茶原、古畑、下イノコ堀、上イノコ堀、下
鳥井平ル、上鳥井平ル、大流、大休ノ全部
萩原、大谷ノ一部
縣西伯郡大山村
大字大山

同 字中門院谷、立ノ坂下、博勞座、西明院谷、南
光院谷、鞍布袋、大谷曾根、立ノ坂上、呼瀧
山、上ノ原、豪圓山、上横手ノ全部
大字豊房
字尾原、清水原、前鋸拔、鋸拔、草谷原、馬越
背、小平ルノ全部
古前ノ一部
大字前

同 字倉井、下高瀧、上高瀧、高瀧中ノ子、牛王段、
イノコカヤ段、下河原、川床、上河原ノ全部
大字飯戸
字大野、三人佛、向原、原野、寺床ノ全部
國立公園指定告示

同 縣日野郡米澤村
大字御机
字大平原、鏡ヶ成、木谷、奥長尾ノ全部
瓜菜澤、古池ノ一部

同 縣同 郡名和村
大字加茂
字ヨコロノ全部
縣同 郡逢坂村
大字松河原
字松尾ノ峯、逢坂横手ノ一部
大字殿河内
字池ノ峯ノ一部
大字高橋
字上駄床ノ全部
駄床ノ一部
縣日野郡米澤村
大字御机
字大平原、鏡ヶ成、木谷、奥長尾ノ全部
瓜菜澤、古池ノ一部

同 縣同 郡以西村
大字山川

同 縣同 郡古布庄村
大字野井倉
字村木ノ全部
字山川谷西平、山川谷東平ノ一部

同 縣同 郡名和村
大字加茂
字ヨコロノ全部
縣同 郡逢坂村
大字松河原
字松尾ノ峯、逢坂横手ノ一部
大字殿河内
字池ノ峯ノ一部
大字高橋
字上駄床ノ全部
駄床ノ一部
縣日野郡米澤村
大字御机
字大平原、鏡ヶ成、木谷、奥長尾ノ全部
瓜菜澤、古池ノ一部

同 縣同 郡以西村
大字山川

同 縣同 郡古布庄村
大字野井倉
字村木ノ全部
字山川谷西平、山川谷東平ノ一部

同 縣同 郡八郷村

大字丸山 字山王、大中島、小原、釜ヶ谷ノ全部

大字小林 字横手又木ノ全部

同 縣同 郡溝口町

大字金屋谷 字構谷原ノ全部

水無原、榑水原ノ一部

大字岩立 字榑水原ノ一部

同 縣同 郡日光村

大字大内 字榑水原二、大平、龍馬、足谷、奥見出、高谷、

狼谷、高所ノ全部

榑水原一、水頭、芝山、上大内、王ノ上ノ一部

大字福兼 字末鎌平玉原ノ全部

末鎌河原平、末鎌大成、末鎌柳原、福永野田

打原、福永假屋原、福永石畑ヶ、山王河原ノ一部

大字吉原 字笛吹、大林、高背、論手、神堀、小舞野、狼

谷、柳原、大成、河原比良、隱谷、小黒目、七ヒラ、池ノヒラ、邪樂塔、中原ノ全部

猪野牧、高操ノ一部

大字大河原

字大平、巖鏡、鍵掛、長尾ノ全部

國有林大山事業區 自六十一林班至九十八林班及自百林班至百七林班ノ全部

九十九林班及百八林班ノ一部

(以上鳥取縣東伯郡山守村、古布庄村、以西村、上中山村、西伯郡逢坂村、大山村、日野郡八郷村、溝口町、米澤村地内)

國立公園法ノ運用ニ關スル件

(昭和六年十二月二十二日林第四一〇號内務次官宛農林次官回答)

昭和六年十月十六日附發衛第一一九號ヲ以テ國立公園法運用ノ件ニ關シ御照會ノ趣了承當省ニ於テモ右ニ異存無之此段及回答候也

追テ御照會第二號中「協議」トアルハ貴省及當省各係員ニ於テ内議濟ノ通リ「協議」ハ通知」ヲ意味スルモノトシテ處理致度爲念此段申添候

(昭和六年十月十六日内務省發衛第一一九號農林次官宛内務次官照會)

本月一日國立公園法施行セラレ候ニ付同法ノ運用ニ際シテハ國立公園調査會ノ取極メノ趣旨ニ基キ左記ノ通處理致度候條此段及照會候

一、國立公園ノ指定及計畫(地域、地區ノ設定、森林取扱上必要ナル施設ノ計畫ヲ含ム)ニシテ其ノ區域内ノ國有林野ニ關係アルモノニ付テハ國立公園委員會ニ附議

- スル以前ニ於テ豫メ農林省ニ協議スルコト尙之ニ依リテ農林省ニ於テ國立公園區域内ノ國有林野ニ關スル施設案ヲ編成スルハ改訂シタルトキハ其ノ實施前内務省ニ通知スルコト其ノ後ニ於テ國立公園計畫ニ影響ヲ及ボスカ如キ施設案ノ編成又ハ改訂ヲ爲サントスルトキハ豫メ内務省ニ協議スルコト
- 行政廳内務大臣ニ協議ヲ爲スコトヲ要スル行爲ト雖モ前號ノ施設案ニ基キ營林局署ノ爲ス行爲ハ特ニ規定ノ運用上其ノ協議ノ手續ヲ要セサルモノトシテ取扱フコト
- 三、國立公園法施行令第十四條ニ依リ内務大臣ノ管理ニ移リタル國有地以外ノ國有林野ニ於ケル國立公園事業ニシテ森林經營ノ目的ニ合致スル事業及其ノ管理ハ農林省之ヲ行フコト
- 四、前各號ハ國立公園區域内ノ國有地ニシテ國有林野以外ノ農林省所管ノ國營地ニ之ヲ準用スルコト
- 五、國立公園區域内ノ國有林野ヲ處分セントスルトキハ豫メ内務省ニ協議スルコト
- 六、國立公園區域内ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ爲サントスルトキハ豫メ地方廳官ヲシテ内務省ニ稟伺セシムルコト

風景保護ニ關スル件

昭和七年十二月二十四日 林第五一七五號山林局長通牒

標記ノ件ニ關シ別紙甲號寫ノ通内務省ヨリ照會アリ之ニ對シ當省ヨリ別紙乙號寫ノ通回答致置候處國立公園候補地内國立公園法ノ運用ニ關スル件 風景保護ニ關スル件

ノ國有林野ノ處分ニ關シテハ豫メ當省ト御打合相成度此段及通牒候也

追而別紙甲號寫ニ記載アル「客年十月十六日附内務省發衛第一一九號照會」ハ本年二月八日林第四一〇號ヲ以テ其ノ寫送附シアルニ付御參照相成度申添候

(乙號) 林第五一七五號

昭和七年十二月二十四日

農林次官

内務次官 殿

風景保護ニ關スル件

十月二十六日附内務省發衛第一一二號ヲ以テ標記ノ件ニ付御照會相成候處候補地内ノ風景ノ保護ニ付テハ當省ニ於テモ充分留意致シ居ル次第ニ有之且保安林ノ編入解除ニ付テハ今般關係地方長官ニ對シ別紙寫ノ通牒致シ一層取扱ノ慎重ヲ期スルコトニ致候ニ付指定ニ至ル迄ノ間ニ於テ客年十月十六日附内務省發衛第一一九號照會事項中第五、第六ニ準シ取扱フノ要ハ無之義ニ思料セラレ候條右御諒相成度此段及回答候也

(甲號)

内務省發衛第一一二號

昭和七年十月二十六日

内務次官

農林次官 殿

風景保護ニ關スル件照會

今般國立公園委員會ニ於テ別紙十二國立公園候補地ヲ國立